

685 M45 V.4

PL Minamoto, Tomoari 685 Komeiroku

East Asia

#### PLEASE DO NOT REMOVE CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY



Digitized by the Internet Archive in 2011 with funding from University of Toronto



PL 685-M45 V.4



#### 小木類

無古木 五 加

閉美 炭湛

はたつもり 山茶科

加知乃岐\* こきのこ 穀樹

葬華 ○木綿
○本綿
○本綿

**补**須三毛知乃木 水腦

沼美久須利

和多い比木天蓼 10

黑もむし

宇久比須乃以比亦 目\*

常山

次左木海州学

雲實

海州常山

波末介礼

崖椒

夏はしの木

通計十九種

木部

小木類

11111

古名錄木部卷第三十四

源 伴存撰

小木類

漢名 五加草本

今名 ウコギ

無古木聚鈔 x废者愈。每一葉下生兰一刺了,三四月開。白花、結『細青子、至『六月』漸黑色、根若』·荊根、皮黄黑、肉白骨堅硬 證顯本草曰、五加皮、圖經曰、春生、苗、茎葉俱青、作、叢,赤莖、又似。藤蔓、高三五尺、上有。黑刺、葉生五叉、作

一名 無古岐,天文写本倭名抄〇倭名 鈔曰、五加、和名無古木 年古岐 赤、和名牟古岐 宇己支 類編天文写本倭名抄○倭名 年古岐 本草和名曰、五 宇己支 本草 集註

五加工芸各三斤。相摸國 芸茄玉云各一斤。下總國、芸茄一斤。近江國、宝茄四斤三兩。美濃國、芸茄玉云 式卷第三十七日、典蘧寮。諸國進年料雜藥、伊勢國、玉茄十六斤六兩、尾張國、岦茄皮云云各七斤。參河國、

· 五元云、各十斤。出雲國國土部日 大原郡 所在草木、 五茄 各廿斤。周防國、五加四兩。紀伊國、岦茄云云各三斤。讃岐國、

形狀

支乃《乃加汉。五月七月探季 本草類編日、五加皮。和字己

形人参葉二似テ深綠色 春嫩葉簇リ生ズ。五加へ灌生ノ茎丈二至ル、室ニ刺アリ 十月探根、隆干、三四月開白化結子〇本草啓蒙日 五加葉へ五葉一帯ニノ鋸齒アリ、

### 沼美久須利倭名類 聚鈔 漢名 枸杞草本 今名

三五尺作。叢、六月七月生。小紅紫花、隨便"結。實、形微長如。雲核 證類本草曰、圖經曰、枸杞。春生、苗、葉如弓石榴葉,而軟薄、共莖幹高 一名

奴美久須禰

奴美久須祢 日、枸杞、和名 久上 沼美久須利·俗晉久古 久一 人己○岷江入楚曰、桃園、在所一条北大宮西一冬 大宮西一冬 大宮西一冬 大宮西一冬 大宮西一冬 大宮西一冬 大宮西一冬 大宮西一冬 久己〇岷江入楚日、桃園、在所一冬北大宮西一条

下總國、枸杞五五各十斤。常陸國、枸杞十四斤。近江國、枸杞十三斤三兩。美濃國、枸杞五五各五斤。信濃國 枸杞云云各十斤。相摸國 當時枸祀町與 面中許、世尊寺南、 集註 枸杞十八斤。武蔵國、枸杞十斤。安房國、枸祀二斤 年料雜藥。攝津國、枸杞六斤。河內國、枸杞十斤。尾張國、枸杞廿斤。甲斐國、 延喜式卷第三十七日、典藥登。十二月晦日供殖藥樣。枸杞五二各四兩、諸國進 兩。上總國、枸杞云云各十斤。

蓮ノ類ヒ、橘神菊枸杞等也ト云云。安房國風土記曰、平群都貢枸杞、石井貢枸杞、加賀國風土記曰、加賀郡 枸杞廿斤。下野國、枸杞二斤八兩。備中國、枸杞云云各一斤。 讃岐國 枸杞十斤。 塵添壒囊抄曰、長命ノ藥ハ

實枸杞。百寮訓要抄日、典樂寮、此 寮は薬園あり、茶園枸祀園あり

形狀

〇本草啓蒙日、枸杞二種アリ、一種唐グコハ、葉大ニノ刺少 シ、質圓ニメ大ナリ。一種オニグコ、自生多シ。葉小ニメ

木部 小木類

木二刺多少、實

門美 倭名類 小ク長メ味苦シ

漢名 莢 蒾 草 本

今名 ガマスミ

並、四々相對、而色赤。今按、陳藏器本草云、莢蒾皮堪、爲、索、生。北土山林間 證類本草曰、莢蒾。唐本注云:葉似,木槿,及似,檢作,小樹、其子如,溲疏、兩々相 一名 門彌武喜

ねりそ 藁珥草日、ねりそ、草木を結かづらの様の物也。木之。又云、ねぢて結を云共云り。 只ねぢて 結ものくかづらを云と。これは世俗にもいふ鯨。八雲御抄日、わりそ、草木などいふ、かづらの

と。木也 やうなる物 集註 延喜式卷第二十四日、主計上。凡中男一人鹼作物、云云開云油各三合, 南海道阿波國、中男作物、閇弥油。西海道、肥前國、中男作物、閇弥油

今案

アリ。深緑色ニノ織アリ、雨對ス。大サ二寸許。夏月枝稍二花ヲ開ク、小ニメ五瓣白色、数百簇リ、傘ノ如 ミノ木 ガマズミ氏云。本草啓蒙日、ガマズミ、山野二多シ。小木二メ高サ丈許二過ズ。葉ハ形圓、鋸跛

ソト云、テッハ請ヲ縛スル藤蔓ノコナリ。コノ木柔靱ニメ其代リニ用ユベシ。因テ名ク 0 後質ヲ結ブ、大サ赤小豆ノ如シ。秋後赤ク熟ノ美シ。木皮製ニメ折レ難ン、故ニ一名子

爾須三毛知乃木優治類

漢名

水臘樹

小物理 今名

イボタノキ

ン似:多青、至、多落葉、又一種也 物理小藏日、江南有二水腦樹、則不 一名 爾須美毛知乃木等等學是不知名抄公倭名鈔日、使。

ねすもちの木でるねずもちのひく人ありと脳べきよか 枕草紙 藻塩草目、棟。かた山のおどろにま

> 形狀 人なみくなるべきさま 枕草紙日、ねづもちの木、

モ女真二似タリ。四月二自花ヲ開ク。冬ハ葉ヲツ、張随厚シ、味苦シ。民俗ハ名ヲヨメノツドラト云 にもあられど、薬のいみじうこまかに、ちいっきがおかしきなり〇大和本草目、コ子ズミモチ、葉モ花

はたつもり 堀河院 百门

> 減名 山茶科 本草

今名 レウブ

港總經珠書○堀河院次郎百首日、おく山のくさかくれなるはたつもりしられぬこひにまどふころ哉 政荒本草曰、山茶科。科焦高四五尺、枝梗灰白色、葉似,皂莢葉,而團、又似,槐葉,團、 四五獎紅生一處

一名一令法 よりも木のめる春のほたつもり時きにけりと人で暮れ〇はたつもりつもりし雪もきえめ 藻塩草日、令法。しられぬにかさなる山のはたつもりはたつもり行つみぞかなしき〇今

二似テ高シ。共業六七枚、枝ノサキニ一所二圓ニ連生スル事ツ、ジノ如シ山茶料、共葉ヨド川ツ、ジニ似テ、葉ノサキトガル、木を枝モヨド川ツ、ジ ははるめきにけり〇ねやいらぬと山のはるのはたつもり葉にのみ出て人にしらる」 ればしづがすさびにわかなつむらん〇言と人一わか葉つむらんはたつもりと山よ今 形狀

木部 小木類

### 黑もむしゆ 草 今名

クロモジ

集註 藁堀草日、黒木作黒もむしゆと云木 こ。但只かはつきたるを云と云く

形狀

○大和本草日、黑モジ、山中ニ生ズ、篠ノ葉ニ似 テ、葉二大小ノ異アリ、冬葉落ソ、皮黒クラ香氣

本草座襲口、クロモジ、小木ナリ。高サ六七尺、皮淡緑ニノ黒斑アリ、香氣多シ。葉ハ綱長タシテ堅ク、何樹 アリ、一月小黃花一所二多クアツマリ閉ク、秋霞ノル、エノ寶ノ大ノ朝シ、肉ニ油アリ、ダブノ寶二似タリッ

開ク、三五簇生ス、淡黄色玉鷺ニメ小シ 葉二似タリ、春初未必葉生ゼザル先二花ヲ

# しきのこ。年中宝

淡名未計

今名

ツクバネ

○前梁維要抄日、小野宮差圖。母屋立二階厨子 双一云、西厨子上唇班子萬一双、次唇藥萬一刻

集註

年中定例記曰、正月十一目云、御所の御み やげは、ときいたこきのこ、包貝巴下、御臺

像へも同前 藤波家禮日 出納家ニミセ物ノクジ、小物クジ リ両對、。夏月枝稍二花ヲ開ノ四灣、大サ三分許、際緑色、後實ヲ結ブ、黄豆ノ大サノ如シ、上ニ四ツノ細 長葉ツキテ、正月女兒玩ブ所ノハゴノ形ノ如シ、故ニツクバチト名ク、鹽藏シ貯テ食用トス、味罷實ノ如シ トテ、コギイタ、コギノコタマ、ブリく、ノクジラモトル 形狀 ○本草啓蒙日、ツクバチハ諸州高山 =多シ、葉ハ水蠟樹葉=似テ、末尖

### 漢名 木天蓼草木 今名 マク トピ

發類本草日、木天蓼。唐本注云、作,藤蔓、葉似、柘花白 如。蜜滸、無。定形、中瓤似、茄子、味辛、噉、之以當。薑參、 子

一名 和太々非 倭名頻聚鈔日、太天 和名和太本非。

字如何 ヒト云ハ臣言也 和名和多次比 本草和名日、木天藝。 シマタ・ 集註 和太太備延喜末太、比 延喜式卷第三十九日、內膳司。 料雜菜。和太太備二斗。料塩二升 漬年 太草 類編 形狀

マタ、 本草類編日、木天藝一和末 Ł 太太比。三四月間、花、五月 塵添遊羹抄日、辛\* ヲマタ、ビト云ハ、文

ズ、葉へ塞ニ互生ス、夏葉間ニ花アリ、四月末ニ至レバ梢導自色粉ヲ塗ガ如シ、多ニ至テ葉脱ス り、中子茄子ノゴトシ、又扁牛實アリ、中ニ子ナシ、一藤ノ内ニ宮兩形アリ、木天藝八山谷ニ多シ、苗藤蔓ァ 探、子〇大和本草目、マタ、ピ、四五月二白花ヲヒラク、梅花二似タリ、實へ棗ノ如ッ小尖シリ、丙ニデア ス、竇室間ノ如シ、葉ツル梅モドキノ葉ニ似テ、細長タ櫻葉ノ如シ。徼ニ軟ナル絲毛葉脉ニ生

### 加"知乃岐 本草 漢名

敗荒

今名

カウゾ

生者也。一種皮白紫長霞小似。覆盆子、其木不、能、高大、、俗謂、扁穀、所謂楮也。 楮皮宜、紙、穀皮料宜、爲。萬 通雅日、穀一日構、扁髮謂...之構、其高大皮駁、實如 過過 一熟則紅。 磯日、幽州謂、構爲、穀桑、書所云桑穀並

木部 小木坦

三十四

帳、本则極言 格實之征 一名 加知 倭名類聚鈔曰、穀。和名加知。本草和名曰 和名加知乃岐〇柠。字典曰、唐韻、集韻竝同楮 一一行實。 加知乃支革

かうぞ 古今署開集卷第二十日、五六日をへて數百の猿あつまりからぞの皮をおふて來りて、 僧の前にならべおきたり。この僧これを取て、料紙にすかせて、やがて經を書奉る

木杪也。太平記三十一日、梶ノ葉ノ紋書タパ旗共。吾妻鏡卷第一日、爰只今夢想著梶葉文直垂云云。塵添 文明写本下學集曰、佛。此字末》檢》得:蓋倭字鹹。又呼,爲。舟、楫。字典曰、梶。集韻、類篇竝武裴切、音尾

價棉實下素素。大舟二、價絕繁質。同卷第四日、梶之聲爲乍。同卷第七日、梶音高之素素。梶之音曾、紫鏡壒鸞抄曰、幕紋事。 桒景 縣 漢 萬張集卷第三日、遊、船繭波、梶棹毛素素。 傍來舟者、竿梶母素素。大舟爾,

土記曰、洪蓬物者、楊柳黄楮 爲鳴云云。餘界之。英禮國風 加知乃木等鏡 可頭乃木 萬葉集第十四日、相摸國歌。 利乃、和平可鷄夜麻能、可頭乃木能、

和少川 豆佐镧母、可豆佐可受等母。按三平家物語曰、忠清はにげの馬にぞ乗にける上総しりがひかけてか 可顕木巻ニ、勝ノ木トスル説アリ、不、確一加頭乃木ハ、古注ニ製樹トス、此也。古語拾遺曰、天富

所、生、故謂之結城郡。古語、職謂之、總、也、今爲上總、下總二國 素和者、七夕之風流、下學集三、梶 命更求,沃壤、拳。往東土、橋:殖麻愛、近麻所、生、故謂、之總、國、景木 上月七日乞功原事、置。撒薬一枚一ト觀コレバ、様ハヒサキト 世俗七月七日以。此,葉、書、詩歌・献・二星。 ト云ハ、カギノ葉也〇正 スル ○樣 雲圖抄目、七月七日乞功樂, ナルベ 事。斜差樣葉。按江家 シ。尺素往來ニ、製葉、上

字通日、橡同、樣、機不一種、結實者名、栩、其實爲。機、如一荔核一有之尖、蒂有了子 包工共年蔵、仁如、老蓮肉。・卽ドングリ也。字典日、樣。 晋象、栩實、橡或作、樣

延喜式卷第

書籍。凡造、紙者穀皮云云各一斤。凡造、紙云云長功日養。穀皮三斤五兩。同卷第二十四日,主計上。凡中男 一人輸作物。穀皮三斤二兩、筑前國、中男作物、穀皮。筑後國、中男作物、穀皮。豐後國、中男作物、穀皮。美濃

夕には、あすのためとて、それがしなにがしの山よ峯よとものして、梶の葉とりにやり。藻塩草日、梶。か 物語日、あきのはつかぜふきぬれば、ほしあひの空をながめつく、あまの戸わたるかぢの葉に、おもふ事か くこゝろなれや。年中定例記曰、七月七日、梶の七葉に御詠あそばされ候也。歌林四季物語曰、六日といる 在草木、椿。飯石郡、所在草木、楮。和泉國風土記曰、日根郡、貫楮。駿河國風土記曰、安弁郡、藿楮。平家 **闽風土記曰、渥美郡、出緒脩竹等。森鄉、出松柏梅格。出雲國風土記曰、神門郡、所在草木、格。仁多郡、所** 

きりの薬も用るなり 用るなり。又かぢの葉 ちの七葉。なゝつとはいはず、なゝはと也。大草相傳之聞書曰、いかだのすしほは、つゆのはをむすびて 〇加知乃支美 齊 漢名 今名 カヂノキ

本草日、楮實。 亦名三穀實 一名 加地乃木彌 弥○接著ハハゴロモ草也 新撰字鏡日、蓍實。加地乃木 形狀

○かちのきの花 所歌合

近江御息所歌合日、かぢの

本草類

一三九

探實日干、葉皮莖白汁皆用之 楷實。和加知乃支美、八九月

ゆく舟 とはさらに波ぞたちける のかちの 木のはな 〇相富 團 養國

漢名 楮樹皮 本草綱目 楮附方

今名

白木綿 萬葉集第六日、淡海之海、白木綿花爾、浪立波。釋日本紀日、木綿者壓剝、两、成 也。自有二木綿之樹、其皮爲之。 寶基本記日、木綿、謂以以製木7作4日和幣以

紀島施 行號 共必 7 1 ▶此。則木龍八杜仰ニュ和蘆不許、又別有:木綿、回遊枝花ニメ木ワタ也。和産ナシ ルナド |云云。日本ニシラユフナド歌譚。是"云トモジ無ニヤ。今八木綿ニナゾラヘテ、白紙シデニ切り、||赫二 其多。不上可<u>且</u> 木綿。 紀日、三年夏六月、是月、國內巫覡等折。取枝葉、縣 7 二 言塵集門、 フカク ·聽〇本草綱月日、杜仲、共,皮中 ル 上云と智ハセルニヤ。紙モ木ノ皮ニテスク物ナレバ、通ヒテ用モ非ン無ン由。日本書 木綿とはゆ 5. 事之。 應流壒嚢抄日、木綿ト書テ 石一般絲一如為 掛本縣、何、大臣度、橋之時、爭、陳、神語入微之說。 、故曰二木綿。觀六 ユ 7 小讀 歌 = ^ 集註 シ テノ心ニッヨ 美譽國風 土記日、 付

牛嶋巫、霏-- 霽神祭、凡、木綿融各六斤。同卷第三日、霹靂神祭。木綿八兩、麻泗斤其滗物者、木綿紙等。 延喜式卷第一日、四時祭上、社一百九十八所。 座別木綿二兩 十三日、中宮職 宫。木總脈各十三斤。同卷第五日、獨宮。被料。木綿脈各四斤。 凡二月上申日、奉三奉日祭、木 治一行。 同卷第十四日、縫殿賽 同卷第七日、踐祚大学祭。本綿二南。 縫殿神一座 源五朝。 百 卷第四日、 末綿大八兩。同 同卷第二日、 伊勢太神 同卷第

別五兩。三嶋木綿四十枚。別四枚。暢頭草木綿二十枚。別二枚、已上藤十所料。鎌色絲、木綿大二斤八兩、別卷第十五、內藏築。 春日祭:安觀木綿八斤。奉川祭。安觀木綿大八斤。奉『諸陵』幣,式雜色綵木綿大二斤二兩。

安應木 枚。別四枚、鴨頭草、木綿十四枚。別二枚。已上墓七所料。賦役令曰、其調副物、正丁一人、東木綿十二兩、 四兩。安藝木綿大十五兩。別一兩二分。已上陵十所雜》料。舞色終不綿二斤三兩。別五兩。三嶋木綿二十八四兩。安藝木綿大十五兩。別一兩二分。已上陵十所雜》料。舞色終不綿二斤三兩。別五兩。三嶋木綿二十八

綿四兩 ○多人 按三、古事祀曰、故、喩、而言、之。。萬葉集第十五曰、多久夫須脈、新羅邊伊鰤須。同多人 按三、古事祀曰、多久夫須脈。又曰、栲繩之于磐繩打延、鱧日本紀曰、紫衾、新羅國。私

郡たの観い此り則然ハユフニ充タリの 鄉之中、梼樹多。生、、常収。梼皮、以、造、綿木、、因、日 。柚富、郷。 古語拾遺曰、 穀、木、所、生、 故謂:之。結城 第十三日、白栲乃、袖振。所見津云云。石村山丹、白栲、、鹽。有雲者。豊後國風土記曰、連見郡補富、鄉、此 栲へ和産無いと、カデト

ス

ルハ誤

波末尔禮 也。爾雅、楊山樓。註、亦類、漆樹。 本草 和名 漢名 美華 疏俗語曰、櫄樗栲漆相似如 草 今名

コガンピ

之。黄荒花、其圖小珠花成、簇生、恐即此荑花也 本草綱月日、按蘇頌圖經言、絳州所、上芫花、黄色謂。

一名 按三延喜式圖書賽。凡造紙者、穀皮 斐皮各一斤。浩"上紙各三十張。民

明也。紫羅ハカンピニ非ズジ上紙ヲ浩トアルハ、鳥ノ子紙、薄綾等ヲ造ル也。斐皮ヲ以テ色紙ヲ浩ル部式ニ斐紙ト云、醫心方ニ羌華、和名加尔比ト云ヲ以テミレバ、斐皮へ即加尔比ニシテ、薨華ナル事

末仁禮 本草和名日、薨華。和名波末介礼 倭名類聚鈔日、薨華。 和名波末仁礼。

小木類

集註

**隂干。延喜式卷第十三日、圖書寮。凡造紙** 本草類編曰、蕘花。和波末仁礼、六月採花

·崇、斐脉二百斤。· 圖卷第二十四日、主計上。凡中男一人輸作物。 斐紙[闕三斤。 聖前國、中男作物、斐皮。日向 1.1 百九十張界。同卷第二十三日、民部下。年料別貢雜物 著建皮五雨造 色紙二十張,凡造,紙長功日煮,建,皮三斤五兩、攤一斤二兩、截三斤五兩、舂八兩、 **斐紙麻二百斤。阿波國、斐紙縣** 一百斤。潛被國、斐紙麻一百斤。伊豫國 丹波図 斐紙麻一百斤。備後國 斐紙師一百斤 、斐紙麻二百斤。周防 太宰府、裴紙二千 成、紙

凡皮紙精皮六十斤、仍入 絕數竹廳 四十斤 國、中男作物、變紙〇按、天工開物日、造。皮紙。

形狀

前薩摩日向其他該州ニ産スの小樹ナリ、高サ 〇本草啓蒙日、黄花ノコガンビハ長門局防筑

子、紫花ヨリ小ニシテ黄色、又一種自花ノ斃花アリ、コガンビト云フ。大和河内播牌近江其餘諸州ニ多シ。 二、阿尺、枝蛮對生ス。葉へ光花二似テ薄ク、毛ナシ。秋二至り枝梢ゴトニ小枝ヲ對生シ、花ヲ開ク。 四瓣筒

許、花々形丁香ニ似テ白色、芫花ヨリ小シ、内ニ黄藤 小木ナリの 高サー二尺、核熊叢生ス。芫花葉=似テ互生シ繁密ナリ。六七月枝梢ニ花穗ヲナスコー二寸 アリー 其根至テ長ク靱ナリ、皮茶褐色、内へ白シ。コノ

根皮、及黄芫花根皮ヲ用テ紙ヲ製ス、鳥于紙 · 走許、又小木ナルモアリ。葉五生ス、形コガンピョリ騰クラ、臺荊葉ノ如ニシテ白毛アリ、四月蒸梢ニ花 が対 シ 又一種紙=造ルガンピト云木アリ。 山中ニ生ズ、高サ

小シ。简ハ白色、鶯ハ黄ナリ。コレ亦黄芫花ノ一種ナリ ヲ問タ、數多々聚生ヲ聽ヲナサズ。花形モ亦丁香ニ似

漢名

小藥 草 本

今名

コガネヱンジュ

加波字須支々波多。本草正譌曰、小黄蘗、俗ニメギト云、根黄ナリ。山人眼病ヲ治ス、故ニ名ツク 證類本草日、陳藏器本草云·小蘗如石楹·皮黄子赤如枸杞·子兩頭尖·人剉枝以染黄○本草類編日、小蘗。

集註 一延喜式卷第二十七曰、典藥寮。諸國進 年料雜藥。山城國、云云小蘗各六斤

**連十兩古文錢一百龍腦麝** 香、右各入テ合テ煎ス

形狀

〇小 藤八山谷二生ズ、大者丈許、小者二二尺、素サハイハラニ似名答六斤 | 附方 | 膜 目 ラ治ス 朝医抄日、九龍膏菊月木トな。 諸國進

ヲナス、後實 結プ。南天子ノ如ク熱テ赤シ、木皮白灰色、鹿皮ヲ去バ黄色也 リ、一針也。サハイバラニハ三針アリ、春五瓣、歪ノ大サナル白花ヲ開、梅花状 り、薬亦サハイバラニ似テ。鋸齒ナク、石榴葉ノ如ク、葉ノ本ニ刺ア

久佐木 聚鈔 漢名 海州常山草

今名クサギ

八月有人化、紅白色、子碧色似江山楝子三而小 證類本草曰、常川圖經曰、海州出。者、葉似 林葉、

一名 夜末宇豆木 佐木、一云夜末宇豆木乃 倭名鈔日、蜀漆。和名久

夜末宇豆岐天文写本山宇豆支新撰字鏡日、恒山の出字豆支、蜀染の山宇 山宇豆

伎 計 久佐支 新編 也末宇川支 同 久佐岐 佐岐、一名也末宇都岐乃波 佐歧、一名也末宇都岐乃波 也末字

木部 小木類

都岐趾上 夜万字都幾 凝塩草口、蜀漆。夜万字都 くさき **藁塩草目、恒** 山、くさき 御山ウッギ

とより、くさぎのこうのこと一ちゃう、錦の袋に入たる琵琶一めん取よせ、琴を御まれ人にとて、北のかた以。久佐本 灰三升、採。御牛氣和『合一甕』口方稱『黑貴』、「其一甕不』和、是辨『白貴。 菱經記曰、平泉長吏のも 明月祀日、置喜元年九月八日、心葬房送草 樹等、分殿之云五御山ウツギ云云等也 集註 延喜式卷第四十日,造酒司。新華會自黑二酒粉。 云云十月上旬。撰:古日,始釀、十日內罪云云

に参ら せける 形狀 サギハ樹大ナル者丈餘ニ至ル、葉雨對シ、初生紫ヲ帶、長ノ綠色也。形、楸、葉ニ似テ圓本草類編日、蜀漆。和久佐支、又云、也末宇川支、五月採葉隆干、八月有花、紅白色〇ク

五鷺白色驀赤色ニメ美也。花後間實ご結テ南天子ノ如シ。初緑色、熟テ碧色也 ク、末実、温幽アリ、断へ見氣アリ。秋月枝頭ニ想ヲナシ顛桐花ノ如キ花アリ。

宇久比須乃以比禰 本草 漢名 常山 今名 コクサギ

證顯本草曰、唐本注云、常田、華似、著俠長、紫陽兩葉相當、三月生三白 花一青藤、五月精、檀、青霞三子詩、房、生山谷間、高渚不、湯三三四尺 一名一字久伊須乃以比

天文写本和名鈔○楼名鈔曰、何山。和名字久比須乃以比称、一云久佐木乃称。本草和名曰、恆山。和 名久佐蔵、一名字久比須乃以比称。浚ニ常由ハコクサギ也、久佐綾ハ海州常田也 本草啓蒙二王

ヲ質トスペシト云リ Ш 只コク サギノ根 集註 延喜式卷第三十十日、典藥寮。諸國進年料雜藥。伊勢國、恒山十 斤。丹波國、云云恒山各八斤。駿河國風土記曰、鳥渡郡產常山 形狀

山コクサギ、小木ニメ高五六尺、或二三尺、又丈餘ナル者アリの形梔子葉ニ似テ薄ク、大ナリ。又若夷ニ似 山。樹高不過 サギ、八月ニ根ヲ採ル、クサギハ木也。今小クサギト云草也。葉ハ楠ノ葉ニ似テ基臭シ。大和本草日、営本草類編日、常山。和久佐支、又云宇久比須乃伊比称、八月採根豫于、三月生白苓〇脩治纂要臼、常山、コク テ光アリテ、切レバ臭氣甚シ、三月葉間ニー二寸許 。數尺、其枝繁茂有。惡臭、其花細小青白色不之美、其葉有之光、與。臘梅,相似。本草常蒙日

波末佐八介本草 漢名

種ヲ出シ、花ヲ簇生ス、大サ三分許、四瓣淡黄色ナリ

雲實革本

今名 ジャゲツイバラ

三寸許狀如。肥皂莢、、內有、子五六粒、正如,鷦夏、、兩頭微尖、有,黃黑斑紋、厚啜白仁、咬」之極壓重有。脾氣 本草綱目曰、雲寶。此草山原甚多、赤ゝ中空有之刺、高者如、墓、其葉如、槐、三月聞、黄花、彙然。、滿、枝、羨長

一名しやつげついはらか傳 抄 波末佐佐計本草類編〇本草和名曰、雲寶。和名波末 佐了介。倭名類聚鈔日、 經實 和名波末

佐佐 末佐佐計、十月探暴乾 本草類編日、雲寶。和波

形狀 小而不」高、恰如」蹇而覃延ス、ハリ多シ、三月開 〇大和本草片、雲寶 葉如一槐、其、實族似心色角、其樹

木部 小木類

黄花

一云保

## 夏はしの木九槐 九韓記日、殿上の小庭には、夏はしの木といふ木をなんらへていける。 ちいさくて、たけたかくな 漢名未詳 今名

ハゲノキ

けいる 木にか らぬ木の、核さしいみじくおかしけなるにてなんいける。夏は、燈爐をは、入れいける時は、その 形狀 〇ナッハゼ、川中陽地ニ多シ。小樹、高サ一二尺、大ナル者五六尺ニ及ブ、葉互生ノ、ス ノ木ニ似て細蔵アリテ紅紫ヲ帶、夏薬間小穂ヲ出シ、小白花ヲ開、後寶ョ結テ椒日ノ如

シ。夢兀田、冬 至テ準落

保倉木聚鈔

遊名 **這椒** 

今名

イヌザンセウ

香、而子灰色不、黑無、光、野人用、炒、鶴暢食 本草綱目曰、崖椒。此即俗名、野椒、也。不。 甚 一名 以多知波之加美 優名鈔日、臺椒。 名以多知波之加美、 延喜式卷第

槾椒

二十四日、

曾木 物、云云楼椒油、各五合 主計上、凡中男一人能作 以多知保之加美、天文写本 受权 赋役令日、共調副物、正 後首紀 等粮,麥灣町。云、寶曾紀一 楞延喜武卷第五日、齎宮。 造偏難物。楊榑十五村 保曾支新撰

つかきねには

保曾支 伊太知枡 椒。即消反、保曾木泰椒ハサ字鏡日、泰椒。伊太知析、文鹿椒。

今案 式ニ載ル曼椒油 憂椒、 和產未詳。 ハ崖椒油ニメ、

油ヲ搾リ用ヒシ也。福田方ニ、日本ノ吳茱萸ト云物不、可、用、之。或ハホ イヌザ 散木集日 ンセウ也。 かきねに、いたちはしかみとい 今モ参州遠州ニテ崖椒ヲホ ソキト云、古言ノ残レル也、其實椒目 ソキノミ之の 目ノ如ニメ油多 ト云、 即崖椒 9 1 實 此

いたちはしかみはえてけり。つくつねずもちのきょこゝろしてさけ ふもの」おほるをみて、隆源阿闍梨。 集註

延喜式卷

豐後國、中男作

物、槾椒油。備中國、中男作物、槾椒油 日、主計上。伊勢國 中男作物、槾椒 油 。阿波國、中男作物、嫚椒油 。参河國、中男作物、槾椒油。但馬國、中男作物 。筑後國、中男作物、槾椒油 一、槾椒油。美作國、中男作 第二十四

國,進一中男作物雜、油。 物、機椒油。同卷第三十六日、主殿紫。領魂料。機椒油二升四合。季料投椒油 中男一人機椒油五合。 十二月晦夜供云奉《光內裹井大極殿豐樂殿武德殿 一斗六升 寮別八升·凡量·収諸 一醮料等雜

斗六升六合 物、槾椒油七 形狀 亦相似テ香氣ナク、臭氣アリ。 崖、椒へ山 野ニ多シ、樹大ナル 花七宗椒 ハ肱ノ如シ 似タリの 、小ナル者多シ、形状泰椒 實ヲ結ブコ秦椒ニ似テ、臭氣 似夕 リ、薬

アリ。 ル 内二仁アリ、脂多シの 子へ黑色、日ヲ經 テ黑皮脱 ホソキ ノ油即此也 メ灰色ト ナ

小不類

古名錄木部卷第三十

79

一三七七

# 古名錄木部卷第三十五目錄

猿沿 発津羅

古発こと

白榛の木

雜木類

妻梨木 佐\*\* わくらは

山胡椒

ツマナンノ

都萬麻 奈美くぬ木 多年本\*

斗之木 山良の木 久万 波自加弥

見つ・し をかたまの木

於保支利 柳木 吳曳木 鳥。柴

捻

一三八

異木類

夜光木 次字

通計六種別有品附錄

柱花開

埋木 陰砂 ○長柄縮柱的

雜木類 異木類

木部

# 古名錄木部卷第三十五

源 伴存撰

雜木類

H 藻塩

めつら藁温

漢名不詳

今名 イヌホウ

今案 袖かな。トミユ。今越前大野郡一ノ瀬村牛ガ首村ノ方言ニ、犬ホウ 藁塩草目、朝露のもるやまかげのしためつらめづらしげなくぬるい

ラズ、諸本、下二生ズ、下メヅラト云二台セリの葉大ニメヌル、袖ト云二符ス ノ木ヲヌヅラト呼、イヌホウハ薬的州厚朴ノ如々大ニヲ鋸窓アリの樹ハ大木トナ

古死、草草 遊塩

一名こめく

淡名不詳

今名 コベメザクラ

藻塩草日、こめくつ、秋ふかき山の夕霧こ めくにをのれるいろやまづかくるらん 集註

> ハサワウツギ又、コメん 四條流庖丁書日、筯云云木

スペシ ヲ本ト 傘形ヲナス、五瓣白色、開後實ヲ結プ。秋ニ至テ大サ胡頻子ノ如ン、熟シテ赤シ。小兒こめ (へへ)今モ紀泉ノ山人コメん(~ト呼、コビメザクラ也 化ハコデマリノ化ノ如ク、

或ハ扶移ノ葉ニ似タリ。秋ニ至テ色黄ニ變ジ落探食。松岡翁ノ一家言ニ、ウシグミト云、葉ハ櫻

猿滑 藻温 草

漢名不詳

今名

サルスベリ 百日紅 同名異物

州龍神ニテアカポト云、叉サルスベリト云地モアリ。樹へ丈餘ニ至テ、樹皮赤松ノ肌ニ似gリ。 藁塩草日、足引の山のかけぢのさるなめりそへらかにてもよをわたらばや。此木深山 ニアリ、紀

又百日紅ノ肌ノ如シ、皮脱シ落ル。葉互生ノナツツバキノ葉ニ似テ薄シ。花 亦ナツッバキニ同メ小也。白色五出ニメ茶ノ花ノ如シ。五六月ニ開、葉冬落

## 白榛の木岩遺

前につきたつ、忽に枝葉をなす、これ白榛の木也云、皮鯖の杖の木三十四年がさきまでは、葉は青 宇治拾遺日、又いはく、鯖をうる翁杖をもちて鯖をになふ云を件の杖の木、大佛殿の内、東回廊

くてさかへたり。その後なを枯木にてたて りしが、此たび平家の炎上にやけおはりめ

木部 雜木類

**安梨木** 萬葉

集註

然。稱"妻梨木乎、手折可佐寒萬葉集第十日、黄葉之、丹穂日者繁"、

奈美くぬ木 藁塩 集註

くめ木〇釣道、和産不詳 藻塩草日、柏樟根。奈美

わくらは『塵

集註 按ニワクラハハ、木ノ名ニ非ズ、今ワクラハト云木アリ。山中陽地ニ多シ。大和本草ニ、一種別ニ 言腹集日、櫻の紅葉などの時ならぬを、わくら葉と云事も世俗にいへり。それもまれなる心臓。

ヒサ、キト云小樹アリ。低小了養生心是亦称二似タリ。葉へ称 ョリ小薄シ。其嫩葉、鮮紅如火、其色甚好可、玩、ト云者卽此也

都萬麻 集

津間く 藁塩草日、津間~「神さぶるいそのつまゝのねやをはらしふかくやひとを下にしのぼ ん「夜と」もになみのゆふこそかけつらめ神さびわたるいそのつま」に「としへた

のうへに心してゆけまさごちやねはふ津間るに動そつまづく る酸のつま」のしのびわもあらはれぬらん彼のゆき」についそ

集註

琦/見。巖上樹/歌一首樹名都

延而、年撰有之、神佐備爾家里 酸上之、都萬麻乎見。者、根乎

今案 シ、一名イソチベミ 小嶋、奥州ウソリ山、紀州海士郡深山村夷海巖礒上ニ根延ト云ヲ以テ考レバ、郡漢麻ハ磯ムマベナルベ

小ニタ、ムマメノ如シの葉繁ク著多不凋、花モ粉二相似タリ 崎、同友嶋、四國、九州海岩ノ上ニ多々叢生ス、形状称ニ同ノ葉

佐宿木潭塩

石 され木。藁塩草日、され木の花、山の されきのされしよなく

さなき 藁塩草日。谷ふかき山のさなき、さねき同事

と。青山となにとそたてれをのづから續の

多年木風土記

さなきの。ひ

かげのさなき

離木類

出雲國風土記曰、意字郡栗島、有土椎 松多年木小竹。羽嶋有:多年木

鳥柴雪塵 漢名 山胡椒草本

今名

タンバノ木

破上謂:所在有之之、似:制思:粒大如!黑豆 證類本草日、山胡椒。味辛大熱無毒、主心腹痛中冷 一块色黑

一名 鳥付柴河海 と柴電

此大付と云を馬樊共、と柴共、と付栗共云、同事也 但本は何にてもあれ、鳥付たる木をは・しばとよぶ。五節といふは、霜月の中の卯日、其後はくぬぎにも 按、大和本草二、タブノ木方士ニョリ、ダマトモ、タモトモ云ハ、天竺祚ニノ・ヤブ肉桂也。與山 たもむの木、武家調味故質日、武の鳥菜と云は、

是物也 胡起回首

息本付也

7 17

集註

小鳥ノ等、田物等貴人へ被、懸一御目、候作法へ、難、載候。或ハ山鳥懸。田緒、田物 三光院殿禮節曰、鳥紫ノ義、其木不。相定之候。雖然下心之故實多候。鳥紫ノ鳥、

キ。トリツケシバ。タマスキ <sup>無</sup>ッタンハ <sup>5</sup>新山野ニ多シ、小木ナリ。葉ハ縄長ニメ尖リ、厚クヌ互生ス、夏て、 表裸に毛おひたり。是を鳥付紫といふ〇本草等蒙円、山胡椒。ヤマカウバシ。トツナギ。トリッケノ 子細候、不過之記之 題山緒之時二段賞翫ノ 形狀 言願集日、鳥柴は、薬のあつくて、多枯れる不落薬へ。黄薬なり。河 海沙日、付鳥枝の事、此高七尺五寸、普通の和木より葉せばく圓くし

葉間ニ小花ヲ開キ後實ヲ結フ、形落霸紅 實ノ如ニノ、熟スレバ色黑ク味辛シ。ソ 似タリ。木ヲ折レバ香氣アリ。按二鳥柴ハ其葉クロモジニ似テ短シ、冬葉枯テ樹枝ニ莆テ残レリ ノ形味供ニ 畢澄茄

## 久万波自加彌 穿鏡

今案 シヤウ州ト出 オホザンシヤウ州大悲学鏡口、椒 久万波自加弥、熊ハ其大ナ 熊野ニテ、熊ダラト云ヲ以テミレバ、久万波自加弥八食茶 ルヲ云、能ザ、、能カシ、 皆其例也 今食茱萸ラ、ク マザン

y丈餘ニ至り、葉亦大ニy胡桃/如シ 英ナルベシ。食茱萸ハ椒/類至テ大ニ

吳曳木日本靈

集註 日本靈異記曰、亦

斗之木 常陸國

地神、次妹大斗乃辨神古事記曰、次『意富斗能

集註

北櫟柴、鷄頭樹斗之本、往々森々、自成。山林、常陸國風土記曰、行方郡云云其地謂。之陽野。野

木部 姓木類

三三五

## 山良の木間集

の葉をなげ給の本すなはち其木葉の落る所や其所にさだめて云、著聞集日、行基菩薩有馬の温泉にむかひ給ふに云、東にむかひて木

**椒木** 葉塩

くまのム浦によめり

柳和泉図

之款。字典、秧。字註曰、證文飾也。ূ篇、香也正字通曰、柳興梁通。字與曰、證文、鑄也。淮南謂

集註

社 根郡、貢柴村伽猪市場國風土記日、日

於保支利新機

正字通曰、様。今人以·小木」虧·天木上·爲、稅 字飾曰、樣。於保支利〇字與曰、俄。 音快、海城也。

## をかたまの木草塩

てる物なれば、世間の緒も緒にてつらぬきて、ちらさぬにそへて云なるべし 藻塩草日、いのちをたまのをと云は、玉はたましゐなれば、命はたましゐをたも

集註

木の名とはみゆされ共、ちかき世にさる木ありと云人なし。或は云をかだまの木とは、年木とて正月の初 に、吉日をもてきずなき木を取て、本の枝をきりて、末に葉をのこす。家門によせかけて立ること云と私云、

瀧にうかび出るあはをかたまのきゆとみつらむ。をか玉の木松也。 帝御たん生あつて三日と云時、父御對 と。文字には置歳木,かやうに書侍りける。古今切紙次第日、あはをかたまの木と云事、みよし野ゝ芳野ゝ るに、そのそばにわりきをたてそへたるに、來年の月の數、墨をひいてたてける、それををか玉の木といふ をかたまの木は、則口傳あり。古今三ヶ大事の内へ。和歌深秘抄曰、をか玉の木は、大晦日に門松をたてけ

御しん物有て、此鈴をふりたて、神樂うたひ社へ神を入奉る、此极をおか玉の木と云事、蚩尤と云鬼のまな める、をかだまの木のえだに、金の鈴を付ると云事、神のやしろ浩宮の時、こがねの鈴を松に付て、七ヶ日の よつぎのみかど不繁昌には、此木そのま」ながる」、又さかえ有べきには、たちまちあわときゆるへ。延喜 のみかど、あまりに御いせるの有を見て、あわをかたまのきゆとみつらん。此御いわるのいみじきほとよ のかわる時、よし野川に、ともへが瀧と云秀有、これへちよくしをもつて、御まぼりの木をながさるゝ也。 而有、内裏の丑刁へなびきたる松の枝を、四寸四方にきりて、七曜のほしをいれ、御守にかけさせ奉ふ、御代

木部 維木類

に諸人安縣之。その目の玉をまねて金のすどや付也 こを松に売き、帝しつけんし給ひしより、神のをだやか

たるはあやまりと。神靈を外へらつすときなど、其神昊の鏡、榊につゝみて、らやくしくさゝげてゆく、是 今案 事、すべて榊の叟とばかりこゝろえ 南嶺遺稿日、歌に御賀玉の木とよむ

るかたを鏡葉と号す。それへそなへものをする要之。おかだまといふ説につけて、玉をつけたる樹なりと 御賀玉の樹といふ。玉は魂の学のこゝろにて、神の御魂をいはひこめたる義にて、別して其鶴の正面にな 、ふ説はとるに足らず、と或公卿の御話ありしを、侍座して聞侍りし。おかだまの木は、ことに和歌の上に

てならひ事之。今接ずるに、右の説のごとくなれば、御賞といふは今俗に神躰をいはひ込たるといふ、その ナシノ鏡ノミナリヤ、榊ヶ御賀上ノ木ト云モ、御神体ノ鏡ニ御タマヲ掛テ祀ル名ニへ非ズヤ〇今世ニヲガ いはふといふ心なるべし。宮川日記曰、予論ノ曰、然ラバソノカミ内宮バカリノは、何ヲ祭リタルヤ、御魂 タマノ木ト呼者テリ、四時不」凋、欄高サ二丈許ニモ至ル、枝四方ニ出、蓋ノ如シ、舊樹皮灰色、新枝綠色、葉

後房ョナシ實ョ結ブ、無惠子殼ニ似タリ。後開テ内ニ紅子三粒アリ、葉ヲ斷バ香氣アリ、此木古ヨリヲガ 五生ス。ユズリ葉ニ似テ短ク薄ク硬ク深緑色、春葉間ニ小枝出、花ヲ開ク、春草花ニ似テ白色紅ヲ帶ブ、花

者ニ非ズ タマト云ル

稳作庭

雅、還味。棯棗註、還味短味也 按、品字箋日、棯。棗之異名。爾

作庭記日、北後にをかあるを玄武とす、もしそ の岳なければ、松三本をうゑて玄武の代とす

### 見つゝしの花 近江御息所

集註 みつくしのばなんこひしきおりはあまたすぐれど 近江御息所歌合日、見つ」しの花一きみをおもふ心に

土シキミ頓佐

土權 抄質医

附方

頓医抄日、白禿治ス、土 シキミヲ煎ヲ洗ベシ

附録○そなれ松藁塩 集註 うたむ日ぞなき。山家集日、あら礒の波にそなれてはふ松はみ 藁塩草日、すまのうらのなぎさにたてるそなれ松しづ枝は彼の

さごのゐるぞ便なりける。金總和歌集日、みさきといふ處へまかれりし道に、磯邊の恐、と しふりにけるを見てよめる「磯の松幾久さにか成ねらんいたく木高き風の音哉。餘畧之(うなわ

つと 月壬子、韶、人祖为意能意赐兄事養治專乃如久續日本紀卷第四日、元明天皇慶雲四年秋七

集証

都のつと日、つかのらへに松の木あす た生ならべるを、うなる松とはこれに

木部

離木類

に、馬震欲と書て、うなゐまつとはよみ侍り。馬露は馬のたてがみのごとく、さきをするどにつきたるつか や、とあはれなり。頭書云、源氏物語まぼろしの卷に、うなひ松におほえたる、とあり。花鳥餘情云、文選

をうなる松とはいへり。餘界之をいふなり。そのつかに生たる松

### 異木類

# 柿の木の文字等物

なくて、横川の長吏に法印といひける人に見せたりければ、上西門院、おりふし御社に御こもり有けるに、 柿の木の有けるを、切てたかんとて、いちのきれをわりたりける中に、くろみの有けるが、文字に似たりけ るを、あやしと思ひて、坊主にみせたりければ、南無阿弥陀佛と云文字にて有ける。ふしぎ抔もいふばかり 上天大國、四字、挺出半指如,支節、書法似。顏眞卿 群芳譜日、英宗治平元年、杭州南新縣民栋,柿木、中有: 集註 今物語日、ひえの山よかはに住ける僧 のもとに、小法師の有けるが、坊の前に

納りけるを、我所にこそをくべけれとて、いきどをり申けるとなん。砂石集日、遠州ニ蓮養房トイフ山寺法

持て参って、御覽ぜさせければ、とらせ玉ひて、後白川院にまいらせさせ玉ひてけり。蓮花王院の宝藏に

師、前耧ニ柿ノ木ヲウヘテ、年來變シケルガ、他界ノ後、弟子ノ僧コノ木ヲ切テ、湯木ニセントテワリテ見

ソ、木ノ中ニワレドモへ一同躰ニテ有ケリ。是モ執心有ケルニヤ ルニ、文字ノ勢ニオバカリニテ、建養房ト文字有、黑木ノゴトク

附錄 川戲、瑞木、木中析有」文、日 湧幢小品日、瑞木、洪武元年臨

有"四字、日紹熙五年、如是者二、既而明年改元紹凞、果五年而光宗崩、元天曆已巳平江萬戶府搆。正衙、解" 太平字、神宗經寧十年八月、連州言抽、木有、文、曰王帝萬天下太平、政和二年十月、安州武義縣木根有、文、 年、合州漢初縣上青穆木、中有、文、日大連宋三字、太平與國六年、溫州瑞安縣民張度經、木五片、皆有二天下 乃裴上之司天監徐鴻曰、丙申之年有。石氏王言。此、地。也後石敬瑭起。并州二、果。在三丙申歳,宋太祖建燧五 藏: 秘閣、梁開平二年、李思玄攻、潞州營,于"壺口,伐、木爲、柵、破,一大木、中有。朱書六字、曰天十四載石進、 有" 古樹、伐以爲、薪、 木理自然有"法天德三字、唐大曆中成都民郭遠伐、薪得" 一枝理成"字、 曰天下太平、 詔 天下平、質白而文玄、當有、文處木理、隨畫順成無,錯迂,者、考。之前代徃徃有、之一齊永明九年秣陵安加寺 日萬宋年歲、紹興十四年、慶州民盟-熱屋柱、木理有。五字、日天下太平時、淳凞十六年七月、晋陵縣民折薪、中

木、中有::三字、日天下趙、其木文二尺圍其字青半解楊州半留眞州 巨木、中分有::天下太平之王六字、其大如斗元已膚宋矣、眞州樵人折:

# 雷乃不女留木等類

震燒木

本草綱自曰、霹靂木。此雷所、擊之木也〇字鏡曰、靂雳、同、理衞力狄二反、雷乃不女紹木。天文写本和名鈔 漢名

日、霹靂。辟歷二音、和名加美止岐。萬葉集第十三日、霹靂之,日香天之。日本演異記曰、霹靂。二字可美

異木類

激而爲。霆、遇有一搏擊一而農蕩尤甚者、則霹靂矣。名物效曰、楊雄云、霹靂列破吐之火施之鞭。 止歧乃。 明月記 日、治承四年四月十九日、雷鳴先三陰之後、霹靂猛烈。品字箋日 、陽爲:隂迫、而成、雷、雷過 正字通日、霹。

響、一作劈歷。皆字別義同。又王充論衡曰、圌画之工圖、皆之狀、如『蓮皷形』又圖:一人,若"力士、謂"之。實 披席切、音降。霹靂、迅雷。 **爾雅託、雷之急激者曰:霹靂。蔡邕封事、辟歷數發。** 張衡西京賦、磷雕激而增

辟歷破亡之是也。霹雳俗字也 公、左手引連鼓、右手椎 之 春秋震 夷伯之胸 謂 衙註一日雷神名誤

集註

是年、 日本書紀卷第二十二日。推古天皇二十六年、 遣:河邊臣於安鑿,國:令、造、船、

至

山瓦納材、便得好材以名 多祭三幣帛一造 人夫一分人伐。則大雨雷電之、爰河邊臣際之劍曰、雷神無之犯。人夫、當之傷。我身一而仰待之之、 將收 時有之人日、霹靂木也、不之可之伐。河邊臣日、其雖三雷神、豈道:皇命一耶、

供了養大和國城上郡長谷寺、其佛木者、自己近江國高嶋郡三尾前山、流出霹靂木也。同廿四裡書曰、延喜十八 日、承和三年秋七月戊子、雷雨殊。切、入皆變伏、至。于夜分、震。7朱雀、柳櫚。同卷第七日雊。十餘幪鏖。不、得、犯。河邊臣、即化一少魚,以挟、樹枝、即取、魚焚、之、淺脩。理其舶。 續 - 鏖於監物、前柳樹、往還人体・子樹下、一男虗死、一女傷、脛、一童縷存、一女無、羔。 續日本後紀卷第五 扶桑略記第日 承和五年八月

年申刘宗震落。入於東寺僧房乾方、制。柱三本。同廿八日、萬壽四年五月廿四日、大雨雷電、豊樂院觀德堂之 問題一折馬。 · 百練抄卷第十三日、嘉祿二年正月廿八日、天隂雷鳴、如"盛夏、冒落。日吉八玉子」蹴■翌

乙巳、雷落一平野社東林、職一製稿倒一了 樹木」云云。 同卷第十四日 、嘉禎 三年六月

#### 夜光木

白">如"臺花一、追」之可。以"燭"物、以"素藝」貯>水投之、水光澄澈、雨露日遠則光漸减突 寒北小鈔曰、夜光木生。絕樂山間。、積歲而朽、月黑有、光遇益甚、移。躍。殿上,通體皆明

集註

家の前なる梅木夜へ光りけり 昔攝津國富原と云断に翁ありけり、

今案

アル物へ皆夜有ゝ光、山茶木朽レバ夜光ルト云、扁柏ヲ土志惟銀日、中容見『火光」者朽木也。大和本草二、陰濕ノ氣

ル青光アリ、濕氣去レバ無い光

二入ルフ數年ニメ出ストキハ夜

漢名

今名 ウモレギ

土中,之物。抑或倒,入泥沙,之物、本以備,太恭人,送,終"太恭人,以二十年前已作、櫬歳加、漆光緻可、爨、 入"泥沙中、爲"土氣、所、遊、土木之性已相浹、故作、棺亦歷、久不、壤、余在。鎭安、甞得"一具、但未、知"生"於 入言资肉。其中「隔」宿不」敗、是以作」。棺埋。入土地。、屍千年不」、腐。又有二一種、則深山中大樹、年久自死倒 色微黑、質理似『篆薄』而有ゝ絲、劈』其端。可『目ゝ根抄。至ゞ頗『不ら斷也。臉『其眞僞』、以『此木』作『小匣』、暑日色微黑、質理似『篆薄』而有ゝ絲、劈』其端。可『目ゝ根抄』、至「斷也。 臉『其眞僞』、以『此木』 之知,也。將『出。爲『人用、則枝或透『出土、否則人過』其上、足步有』容察、檃、知。其、下有言。此、木,矣。其 簷骤雜記曰、密響中有□一種陰桫\其木橫生□土中。 不」見□天日。有□枝無b葉、在□泥沙、下。自生自長、世莫□

異木類

一三四三

背易余擬出以自用云 而此具僅厚三寸許、遂不 名 埋れ木 河原之.坪木之、不可點 事等不有君太平記〇萬葉集第七日、貸跪持、弓削之

集註

坬 遊

上野入道ニ預ラレケレ 草曰、名取川 奥州埋れ木。 バ、運動へ具足シ泰。長途ノ旅ニサスラヒ給、名取川ヲ過サセ給トテ、上人ノ歌ヲ讀 太平記第二日、元德二年七月十三日云云圓觀上人計 ラバ選流 等ヲ宥テ結城

給フで 水材今 称。埋木二、土人取、之、或用。器物、或燒而用香爐、世人是賞。埋木灰、 陸奥のうき名取川流れ來て沈みやはてん瀬るの埋木 ○吳羽觀迹志日、

> 附錄 〇長柄

橋柱 文德實錄卷第五日、仁壽三年十月、攝津國奏言、長柄三國 橋墨斷總、人馬不上通、請,推己堀江川、置二隻船、以通上濟渡、許上之 、兩河、頭年

> 集註 明月記日、元久元 年七月十六日、愛

是經御物也。終草紙日、加久夜長刀帶節信八數奇,者也、始于逢二能四二六、相互二有之感、能因云、今日見參 殿、午時御共参御所、末時許品御、各應召參入、置哥了、依仰護師如例、ながらの橋橋柱木云、木被作文豪

ノ引出物三可」見トテ、自三麼中二錦、小袋ラ取出ス、其中二錐 之時 節クツナリ云 云。康宮祀曰、嘉吉三年四月二日、參伏見嚴、有御讀宮御方被語仰下云、昨日彼庄下 二錐屑一筋アリ、示っ云で、是 1 吾重暂也 長柄、橋

リ四見あり侍

あり。長久の名ある橋も帯はてめ、わが戀ほいきだ緣なしとよめる心なり。一は、ふりはてぬれば又造義 もありとなりで 長柄橋変、古今序注開書分拜顯注密勘等也。古今序、ながらの橋もつくるなりとよめるは、霊と造との二義 に造らる」よし國史に見えたれば、弘仁よりして伊勢が時分まで百年の内なり。 又ふりめる物はながらの橋と我となりけりともよめり。 ふりたス事と云智殿 ふりむると可讃低如何、 弘仁三年

ともみラず。密勘の注ニハ、子負たる女をとらへて、人柱にたてたりと云可今程猿樂なとの能 然て弘仁は新造蝦、修造蝦、不可弁之由も見えたり。又古老傳二、人柱たてられたりともみゆ。 最初の事 ニハ男を人

橋云く。古今著聞集第五日、長柄橋の橋柱にて作たる文臺は、俊惠庆師が本よりつたはりて、後鳥初院の 柱にたてられけりともみゆ。凡長柄橋の中古の歌仙も在所をば慥。不知云くわたの邊のあたりにかけたる

なり〇更級日記日、昔下つさの國にまの、長といふ人住けり。引ぬのも千むら万むらをらせ、さらさせけ 御時、御會などに取出されけり。一院御會に彼影の前にて、其文櫜にて和歌披講せらるなどいと興有こと によったてり。人く一哥よいを聞て、心のうちに、くちもせぬ此川ばしら残らずば昔の跡をいかでしらま るが家の跡とて、深き川を船にてわたる。むかしの門のは しらのまだ残りたるとて、おほきなる柱、川の中

水二、蓋晉平平之故梁也。物在、水能持久而不、敗也し。水經註曰、汾水中凡有二三十,柱、柱徑。五尺、裁與

## 柱。花開,吾妻

觚賸曰、陝州絲鏡集何貢上家築堂初成、堂之東偏即置。貢士、臥楊、每。聞。堂有。膊膊 麞、如ゝ是數夕、最起視 黄、相去各二尺許、遠近觀者雲集、三花累月乃萎。 咫開錄日 ゝ之、忽於堂梁之中拆縫。生ゝ花、其色紅赤、大。如。紅牡丹、鮮艷奪>目、関夕其左右復生 二花、而差小 白、逢鄉試年於「揭曉前」左邊愈黃色盛發者文多中式、右邊淡白色化盛發者武多中式、若其年文武脫榜則 水西城內文廟兩廳前有二古柱二本、開花時 黄

鈴下儀仗生,華、如蓮垂、五六日而萎落、此木失,其性、子寶以爲狂華生枯木。 灤陽消夏錄曰、武清王體**坨曹氏** 有葉無化、展試展驗、故應試者見、有。花發、無、不。欣欣得、意焉。集異志日 、晉元帝大興四年、王敦在武昌、

許、尚是枯木以上乃漸青、太失人曹氏甥也、小時親見之、成日、瑞也、外祖雪峯先生日、物之反常者爲妖、何瑞 廳柱忽生牡丹,一紫一碧、瓣中脈絡如金絲、花葉蕨紅、越七八日乃萎落、其根從柱而出,紋理相連、近柱二寸

之有、後曹氏亦式微。集事淵海曰、蕭紀殿柱生化。南史武陵王紀,宇世詢梁武帝第八子也,初紀將僧 號紙擁不一內纏椅殿柱纏節生花、共鳌四十有六、鑑騰可愛、狀似尚花、識者曰、王敦妖花非佳事也

於。柱根、花開。仍可之行。天地災變、鬼氣等祭、之由、相州分、申給之 吾妻鏡卷第二十日、建曆二年四月六日、將軍家御病惱。而小御所、東面

附錄

○中右記五十日、大治

木中毎酉時煙出、以人可被質撿由言寺中之云云被遺息約、定是非吉事歟。愚案、ゆふされば野にも山にも 七十七恠異天下之行、從去年多比皆懸枝葉枯院御年 . 木成黃葉也〇明月記日、建仁三年四月十日、此 四ケ 日北野舊

たつけぶり数よりこ

蕃木類

沉沉香 白担白檀 赤木 花櫚 伽羅 松根 伽南香 蘭花結

寸門多羅

まなはん

ちやうして香

占唐。儋塘香

佐曾羅

加"。 蘇合 也 心 也 仁

龍腦 安息香

木部

落木類

善知 檀香

紫檀

羅國 せんかう 羅例香 棧香

鷓鴣斑

しやせつ

白木香

楓香脂

一三四七

杜通仲

四十種

返魂香

附

古名錄卷第三十六

源 伴存撰

以一所、載者、錄之 此,條國史及。日本諸書二

漢名

櫚木 草本

> 今名 クハリン

今案 東西洋考、蘇木、註二、一統志"日、一名多那、俗"名、紅木一、日本ニテモ古工赤木ト云へ、蘇方本ヲモ 用ヒシトミユ、然ドモ新ر樂記ニ、唐物、赤木紫檀蘇方ト出、然則赤木紫檀蘇芳三物タル可證、延

紫紅微香、其文有。鬼面,者可之變、以《多》如『經濟一、又名』花經、老者文绛曲、樹者文直、其節花圓量如、錢大 喜內藏式ニ、蘇芳、小八斤五兩。民部式ニ、赤木、南嶋所進ト云、最二物ニ分テリ○廣東新語曰、花櫚者色

木、蓬崖州昌化陵水、紫紅色、與,降眞香,相似有,微香 小相錯、堅理密緻價尤重。廣東通志曰、按、瓊州志云、花梨

くわりんのぼん又くわりんの卓なんどのうへにをく云る し、ちやわんのくわびんを、ちやわんの豪にすへべからず。

一名

花りんだりんの卓ををくべ 仙傳抄日、をしいたに

果李木 集日、果李木 女明写本下學 花憐木 盛衰

木部 蔣木與

記卷第三十六日、只今鳥帽子親ノ引出物トテ 花鱗木ノ管ニ、白金筒ノ金入タル刀ニ云 玉 花梨木、源平盛襄記卷第卅一日、云云青山 又此琵琶ノ浩様云云花梨木ノ頭同天首。 ト名ヲツケキの

丹木雲圖抄日、季御腳 花利 人事記曰、仁安三年十二月、大世會悠紀所注 進御物目錄事云云淺硯筥一合在花利筆臺

延喜式卷第十二日、內記。王位記者云 云赤木軸云 云凡五位以上位記料云云赤木云 同卷第十五日、內藏

宝 x每年十二月充元行之。同卷第二十三日、民部下。年料別貢雜物。太宰府、赤木、南嶋所、進、其數裔、得。 吾妻鏡卷第九日、基衡建立之先金堂宝玉繼』紫檀赤木、盡兰萬寶、交。衆色。江家次第卷第二日、大臣大饗云

自餘大饗;用。赤木、黑柿机樣器等。康平記曰、康平五年四月廿二日、今日有任大將專云云中少將上達部赤 木、前臂院三條殿移御云、赤木机十六前。台記別記曰、長承四年二月八日、大納言殿令、任、右大將、給御裝 木机。類聚離要抄曰、母屋大饗、赤木机、尊座前。內大臣殿廂大爨云、赤木机。平大饗、尊者前机。 東儀、東三条殿云~。次將座赤木机八前、折白絹面、有』寶廳、上達部座同机十二前、有『寶廳面等。 明月記

御硯也と申、果而有之、御Ւ云、。源平盛襄記卷第卅七日、忠度へ赤木ノ管ニ銀ノ筒金卷タル刀ヲ拔儲テ 日、天福元年六月三日、去春御視日六木作と出、何物乎由被仰、申云・蓋上伏赤木。 無文無螺鈿。其裏蔣繪

|座シケレバ。|曾我物語日、ふところよりあかぎのつかに、どうがね入たるかたな一こしとりいだし、はこわ **らに社とらせけれ。東宮御書始部類記曰、赤木八角軸、頭有』花形、螺鈿入青玉≒≒。養經記曰、赤木のつか** 

増ラ不」可」用。根本ハ鏑籐ヲ卷張アリ。今ノ庖丁ヲバトリ皮ニテ卷ナリ。然バアイ皮成ベシ の刀にたみたるあいぎさしそへ。四條流向丁書曰、庖丁刀ノ事、柄へ赤木、亦へ朴ヲ可ゝ用、努々

形狀

トス。花紋ナキ者へ下品ナリ。本草綱目曰、櫚木、木性堅。紫紅色、亦有『花紋」者謂「之。花櫚木、可」作『器 〇本草啓蒙日、櫚木、其木理緻密ニメ堅シ、色紫檀ノ如シ。又微紅ヲ帶ル者アリ。木理ニ花紋アルヲ上品

善短 倭名類 作二花梨一誤矣 11扇骨諸物、俗

漢名

栴檀

皆來、自。海舶。 廣東通志曰、登羅山疏、旃檀出。外國,〇正字通曰、赤檀紫檀白檀總名。 旃檀。 廣東新語曰、資南亦產檀香、皮堅而黃者黃檀、白者白檀、皮腐而色紫者紫檀、皆有、香、而白檀信、勝與、紫檀、 本草綱月日、

外舶、檀香爲。前檀、番日、眞檀、質紫檀出、緞盤國、雲南人呼爲、勝沉香、卽赤檀也 檀、善木也。故字從,寬、善也。通雅曰、紫檀卽赤檀、紫檀皆出。韻南、來、自。

ん 栴檀香木 铁桑略記○倭名鈔日、栴檀 唐照云栴檀、 梁塵愚案抄日、双六の盤に用ると。按二せんばんは柟盤也。字典曰、枏、晋冉、或、作、神、俗 俗云善短。內典云、赤者謂。之,牛頭栴檀 さんたの木 たの木のゆしのきのば 催馬樂日、せんばんさん

木部 蔣木類 作い補非。月字註曰、音染。冉字註曰、音染、即香楠ニュ和産ナシ。さんたの木は即旃檀木也

集註

尺之梅潤。榮花物語本の雫日、栴檀沉水にしみかへり云く。同音樂日、ゐんのうち、せんだんぢんすいのか 日本書紀日、天智天皇十年多十月、是月、天皇遣,使奉『旃檀香云云於法興寺姊』、扶桑略記並八曰、纏刻,去

ほれり にみちか

上佛樂師

漢名 白檀 T

> 今名 ビヤクダン

びやくたんしてつくりまつりた 價、皮腐色繁者為二紫順、並堅重清香白檀尤良 香譜曰、皮質色黃者語。黃檀、皮潔色自者為自 梁花物語煙の後日、白だんの御ほとけ、三尺ばかりにて、いと 一名
ひやくたん
源氏物語鈴虫日、 あみだ佛

阿加 一日、類系離裏抄日、黒方へ五同三半灘エ云一分同小半端エ云白旦九朱云~鳥方云云白旦大一分 まま 地方云、白旦大一廟云、又 敗半翻云、白旦一分梅花ノ方半翻云、白旦一分一朱余三半

る、こまやかにうつくしげなり

白たん

うつくしらおはします。上佛薬師御修法記曰、名香 流白起

卿自旦五升、餘界之 薫集類抄日、 内典云、梅思白謂之, 白品 白栴檀 小右記目、會然永延元年八月十八日、奏請以以愛宕山一号。 不豪山。建二一伽藍一号"大清凉寺」安自向顧釋伽像1○登

羅山疏曰、元嘉末增城有人於 酷烈、共間枯條數尺接而双之乃白銅纜也。 世義曰 白旃檀非不馥鳥 見一大樹、農養數畝三丈餘間辛芳 白檀香木 朝野群載日、多以: 黄金。附一入唐便大

双云云白檀香十兩、麝香十兩、薰陸六兩云、。 御井、得。白檀香木、浩·千手觀音菩薩。 類聚雜夢抄日 新猿樂記曰、唐 一物白檀 唐順 源平盛衰 名り、又此琵琶 州 ノ造像エエ 日、青山 }-

白心ノフク 3/ ユニ云云 集註 像二躰仁壽殿、令"權僧正寬空開眼供養、夫天經四年件堂持佛已燒亡、仍造 年 中行支秘抄日、仁壽殿觀音樂事。 御記云、 應和二年六月十八日中刻、安是置

、造。類聚離要抄日、香ノ唐櫃一双云、白檀香十兩、已上色々以"色紙」 之酌。白亶以上檀觀音像二疊、佛殿;如如田安『覺聖觀音』也。以"白檀」奉』浩『高七寸梵天帝釈』,寸、依 上。中右記曰、中央間安置白檀三尺普賢像。 像 更有 。供養儀。仁和寺記曰、永保二年安置白檀六寸甕師 吾妻鏡卷第四十日、建長二年七月十五日、故二位家御本尊白檀 山槐祀曰、治禾四年十二月三日、奉供養白 三色紙 之納。白檀以了子一削八、春節同 一延歷仁海勘文 奉

木にてつくれる、一搩手牛の意なり云 檀千手親音、廿四日於新院有御佛供養、饗師白檀三尺被立厨子。延德御八譜記曰、御齋曾の本尊とて、白檀 3 帝王編年記曰、治承元年十一月九日、五辻騫院御順、高野山蓮華

乘院供養、白檀 天王像。 同廿四裡書曰、延長八年七月廿一日、於、延齊寺被、造 釈迦一躰矣。扶桑略記 十二日、寬平二年四月八日 五五先日仰。梵釋寺僧神惠。彫一造白鹽四 一始日檀五大章、高五寸。同十七日、奉、造

白檀阿弥陁佛像一躰、觀音勢至菩薩像各一躰。同廿九日、供養口檀釈 兵範記日、仁安元年九月六日、御 **冰事、桓敗白檀** 念珠懸銀枝

黄蘗。薫集類抄曰、白緻はかたくて黄なるをよきにす、わかき木はやはらかにてかろくぞある。

福田方日、白檀香別=研テ使へ、火ヲ忌ベシ。其色へ支子ノ色ニメ白ミマジ

形狀 本草類編日、 質白

南山來之, 檀香從海 檀狀如

らはかは

三元三

少しけづりすていつくべ

Lo

本トスでラ

したん、築花

漢名 紫檀草

格古要論曰、紫檀木、出。交趾廣西湖廣、性堅、新者色紅、濱者色紫、有。耀爪紋、新者以、水浸、之,能染、物。 香錄日、皮在而色黃渚謂。之。黃檀。皮腐而色紫者謂。之。紫檀。氣味大率相類、而紫者差勝○新猿樂記日、

十四日、清和天皇宣觀九年冬十月四日已已云云直飯卒云云五年到,大唐、達工上都、逢,能彈」琵琶 求得。"、元吉事也。但合二可或程木也。適以得之、若實夢數、仍爲,後日驗、竊以注、之 唐物紫檀。都記曰、寬治二年八月九日、去夜夢想相知人云、紫檀求二得心中、思二琵琶糟料

壽二年十一月御元服式云云峴苫一合、有瓦硯紫檀筆豪同管筆二云云。宇津保物語俊蔭日、上達部御子たち 年十一月十七日、內裹燒亡。或記云、炎上之間累代御物多紛失、牙御笏紫檀御脇息玄上等也。人車記曰、久 郎4天示明年聘禮旣"畢",解言讀"帰之鄉"[臨2別"劉二郎設」祖筵;贈,紫檀紫藤琵琶各一面。 百練抄曰、天元五

おんしたんなどをさまざまおかしきさまにつくしたり。同哥合日、ぢんしたんを、かうらんにし。同御清裳 かなるを、わざとならぬ御ねんずに、御をびしどけなくかけて。同本の雫日、きやうばこは、したんをもて、 の御まへは、したんのつくえに、あやのおもてまいらせり。榮花物語初花日、したんの御デゞのちゐさや 、ろくのたまをあやもんにいれて、こがねのすぢをゝきくちにせさせ給へり。同殿上の花見日、かゝみ

繪合曰、左はしたんのはこ。同若蒅曰、したんのはこひとよろひに、からの本どもも、こゝのさらのほむな 日、御まへの物などすべてぢんすわらしたんのをしきに、しろがねこがねの御さらどもを云く。源氏物語

といれて。同やどりぎ日、じんしたん、しろがねこがねなど、みちくへのさいくども、いとおほくめしさぶ らはせ給へば。又曰、したんのたかつき。古今著聞集卷第六曰、大宮石相府薨去の後七々忌はてゝ、人々分

さむき時もひかれければ云く。同第十二日、元興寺といふ琵琶左右なき名物へ。紫檀のこう、ふと紋ほそ 散しけるに、大納言宗後卿ひとり旧居にとゞまり居て、心ぼそく思はれけるにや云ゝ紫檀の甲の比巴を能 衡平泉館。但當..于坤角..有:.一字倉廩,.s..s.令>見>之給,沉紫檀以下唐木厨子、數脚在>之。慈惠遺告曰、念 **絃あひかなひて、晉勢4有て自出度比巴にてぞ侍ける。吾妻鏡卷第九曰、文治五年八月廿二日、著三御于泰** 

緊雜要抄日、雞萬云云水精槌柄ノ長二寸五分紫檀 珠白檀紫檀。東宮御書始部類記曰、紫檀八角軸。類

形狀

火ヲ忌ペシ、紅紫色ノ者ヲ上トス 福田方日、紫檀香別ニ研テ末トナス、

附方 臂腫 水左記曰、承保四年閏十二月一日、從去廿七 日左方臂腫、令見雅忠朝臣之處磨紫檀付

倭名類

漢名 沉香 革

廣東新語沉香註曰、香曰沉香者、歷年千百、樹朽香堅、色黑而味辛、微"間"白班」如"鍼銳"綱"末之"入>水、即 沉者生結也。 黎人於『香樹』伐。其、曲幹斜枝、作。斧口,以承。雨露、歲久香礙入,水、亦沉而色不。甚潤澤,者

二三五五

獨立上 熟脫者次,之、聚星線之土、黃者次之 死結也 香絲口、沉香云云香之大聚生結者

に之 一名 ちん 海氏物語若菜日、ちんのおしきよつ。倭結者

洗水香木、水〇扶桑略記ニモ流水香ト出セリ、和漢通者也 釋日本紀日、沉水、私記日、愚寶繁二他書了為二洗水香 沈のはた番い頭人は、三

又白、榾。枸榾木名、又榾相篤短木、即俗。呼,柴 云ものたきすざびたるが火のもとによりて。品字箋百、榾棚、樹外之総結、處也、宋詩曾似。流爐爆、榾棚。 沈のほた百両充。 室町殿行陸記口、御引物 沈のほた。永享行幸記日、沈のほた一〇吉野詣記日、ほたと 総緒·也'五雜組日、道邊樹有"骨體」何意日天使"其然"

リ、光経三下品、伊須真丈羞記日、沈のほたとあるは、沈のわろきを云。按三、古書三沈のほたトアルハ、沈 ノポタト 云 的道灣樹有三骨間一者車機傷~~~~ 云清テリ、泉下也。薛丁引香ト名ケテ、燒香トシ、或八就二作。大和太草曰、一種犯ノホタト云ア 書東便裁曰、榾相短木根也一通雅曰、梅根爲:榾相,〇本草辨疑曰、沉

幸能二沈のは二ト出レバ、古二云沈ノホタへ上品ノ沈ヲ云ルフ明シ。下品ノ物御引物ノ上品ナル也、太平記ニモ、師直沈のほたト各別ノ物トシテ遣セリ。室町殿日記、永享行 集註

書紀日,天智天皇十年冬十月至至是月、天皇遣上使奉立五五流水香五五於法與寺佛。類聚雜要抄日、香 双云至沉香一斤五至舊衣香,方、沉香一兩、黑方一劑、沉四兩之。 叉曰、香臺一双云云線靈四口納、一口沈

櫃一双、沉香一斤、二階厨子一双、枕蓋一合、有枕二居筥。大内間若日、又かみにも着、衣にも折く、沈をた 香十二兩、沉齊者、轉觸之時、頑服之之、五香頭"人之。手筥一合、第二懸子納沉、第三縣子納。決

さまなどいといまめかし。同梅枝日、おんのはこに、るりのつきふたつすへて云、おんのはこにいれて。 かれ可然い。又强く匂ひい事は尾籠にい。源氏物語繪合日、えんにすきたるちんのはこに、おなじ心はの

ずに、こがねの装束して。同零合日、かずさしのものは、かねのすはまに、流のいしたてく云く。又日、流を は沉の折敷に玉のさかづき、銀のさらに、金の橋一ふさをもられたるをもちたり。同卷第十九日、沈香を寄生日、ぢん云く。又曰、ぢんのおしきよつ。古今著聞集卷第十四日、朽葉のかざみきたる童二人、ひとり てまつり給へり。同鈴虫日、おんのけそくのつくゑに。同夕霧日、おんのにかいなどやうのをたて」。同 同若楽日、おまへにはぢんのかけばん云、ぢんの花そく云、おほきなるぢんのふばこに、ふんじこめて、た **取副デ、侍從ノ局ガ前ニゾ置レタル。宇津保物語俊蔭曰、その上下ほとりにぢんをつみて。明月記曰:寬** ませゆひたる、かねのとこなつのくさむらをかきたり。又口、沉したんのかひずり、かゞみのみづやりなど 州寶等,也。共献物云云御插頭。造『沈香山、以『純金』祭。鶴、令>銜·插頭花。築花物語衣の珠日、ぢんのす しき。又日、ぢんのくし云~。續日本後紀卷第十九日、嘉祥二年冬十月癸卯、嵯峨太皇后遣、使奉、賀、天皇 もて岩石を作りたてたり。紫式部日記日、ぢんのかけばん云、。又日、おほ宮のおもの、れいのぢんのお **、ウレシゲニ開蕩レテ、御物語ノ餘リニ面白ク覺ルニ、先引出物申サントテ、色有ル小袖十重ニ、沉ノ枕ヲ** したるわりごどもまいらせたり。飯尾宅御成記日、御ぢん五十りやう。太平記卷第二十一日、武藏守イト

木部 著木類

足。觀世膏寺資財帳日、沉香拾肆兩喜二年六月廿一日、行幸被管物枕脇

形狀

其大一圈、嶋人不→知·犹水、以交→薪燒·於籠、其坳氣遠日本書紀曰、推古天皇三年夏四月、沉水漂·著於※路嶋、

**貸緊瀆不來、沈是白枝香也。塵添壒囊抄卷第十日、又黑泥。速香ト云、薫。速。滅が故三好。香ヲ點胡蹇ト蔵、則異以献ゞ之。太草類編日、沉香自古來无鎮、沈木來狀紫檀相似、一日燒之三日薫、而其迹如膏。又云、** 云、其色源ニテ云云。攤集類抄日、沉。或書云、此木出。日南、欲、坂當、先祈、樹、著、印積、ケ、皮自朽耀、其

其成 心至壁者、置水则沉、名。沉香、其次在。心皮之間、不。甚堅、者、置、水則不、沉不、浮、與、水平著 名曰:淺香、 たのかする、多くけれどよし。うしの矢のかするいとあし。むけのなとりは 小鹿白渚日 一葉香、葉似。冬青。樹形墓跡。 ぢむのからばしき、ひとつけばますのかず、二つはきくのは わらあくたのかす。ひとつ

沈によ、かたくへかうばしき、くさきかたあるを、よくとりまはしつゝ、火にたきてみて、よきかたをわりを よきにす。又、ろくおもけれども、わろきあり。すこしたきて心みるべし。いるべきかずに、いま一二兩 れ。沈のわろきは、いとあしきなり。くちたるところなどは、たけすてゝつくべし。沈はくろくおもきを

許くはへて作べし。かはのやうならもの、又むしのすのやうにて、ちりばみたるものまじりたるを、よくえ さらばわろき沈をすこしくはへて春べし。かなうすにふたおほひて、ゆをらふるふべし。すこしづゝふる りて、かたなして、こまかにわりくだきて、つくべし。いとよきはしるめきいみあひて、よくもつかれず。 洛港合伙 人。炮六升,和 合之"人。水六升,箭"一新瓶中;口封胃、温,三其膜;漉,取其汁酢,也。以,聚二升, ひて、高また、びつくべし。まづふるひたるをよきにす。造・沈香・法。先取。香稻米一斗、以六月上午日

多少」高、共産(封-四瓶日)坪,土中,不,可,令,知、傷、共日,可,換,汁。至,三度(共後出-青腸)曝干了者、亦陰前用。2. 即取入又作即,前法,也。必至,三度,可,用,之。然後取,青槁木沉,第"去泥土,令,淨、膳,生絹果。" 神中,即取入又作即,前法,也。必至,三度,可,用,之。然後取,青槁木沉,第"去泥土,令,淨、膳

别取. 新瓶、餚 "未多少、蜂蜜淹. 瓶中、陼 "木厚薄, 可、用、蜜。或三周、或七周也。必成. 上品沉香, 也。又法。 楓香木一斤、沉香一兩、白檀一兩、藿香一兩、梨蘆根一兩、香稻米酢三升、蓴汁二升五合、鐵醬一升五合。已

」之。若日取出寒三周。若五周 若七周、即成。上晶沉香,也。水鏡曰、ひさしくなりたるを沈水といふ。福 田方日、元香黑キ角ノ如ニノ苦ク辛ク、水ニ沉ム者良シ。火ヲ忌ム。切テ別ニ研レ。薬ニハ黑ク重ヲ吉ト 來、流水五升煎减。四升、入。酢少少、又道入二一瓶,以上土封胃、經二二七日,取出曝干、而後隨。木厚薄,蜜中淹 上用一藥升。但大豆汁濃煮加一淹之。右一瓶淨淹、楓香木沉以下七種共入之之。 口封開、土中埋、之、 百日以

ス〇本草辨疑日 ナバンハ黑ク堅實也。アカユ手ハ赤ク堅實也。黑二又大泥ト云アリ、深黑堅實ニシテ、ノギタチテ所見、 沉香へ色黒ク重クラ、変趾ョリ出ル上品ナリ。是ニマナバン、アカユ手に アリ、共二良シの

沈筋アリ、香アシ、。香録日、沉香所、出非、一、眞臘者爲上、占城次之、渤泥最下 甚ヨシト云へドモ、香氣大二劣レリ。 伽羅アリの是香氣臭シ、共二不可用のサ

せんかう物語

漢名 棧香 草本

者、或作。颠香。陳藏器曰、其枝節不、朽玩、水者爲一沉晉。其此理有一黑脉,浮者爲一颠香 本草、沉香註、蘇頌曰、其幹為一棧香。時珍曰、其棧香人、水半浮半沉、卽沉香之半結通、木

兩○應添壒鎭抄日、惡沉ヲ速香ト云、驚、滅故ニ云、3。嶺南雜記曰、速香出"瓊州」者爲、勝、色黃而有延喜式卷第十三曰、圖書發。淺香七兩云云奏、請『內藏簽』、凡國忌獢寫云云其香每5寺十二兩。淺香一

木部 落木類

花剗 棕紋 者名 集註 源氏物語繪合日、右はぢんのはこに、せんからのしたづくへ。 延喜式卷第十三日、中宮職。三月潔讚。煎香小一兩、竇陸小四兩、青木香小一 同若英日 、院の御前

10 に、せんからの きぶたつばかりして、くだ物さかづきばかりさしいで給へり。同寄生日、せんからのおしき かけばんに云、尼君のおまへにも、せんかうのをしきに。 同竹川口、せんからの 形狀

水鏡日、ひさしから

松根和漢香

漢名 蘭花結 藏來

形狀 たつ也〇廣東新語日、上者譽帯綠色如 和漢香之龍曰、松根は青色にして、黒き筋立、にがくあまく、あまく 三灣毛、次蘭花結微綠而黑

羅國香之。漢名。羅所香雅麗國賣物。

どる羅の苦みをつかさどる意におかじ たとへげ武士のごとしは官位ありて、堂上方にひとしけれどもひたるが羅國の伽羅にまがふところ之。伽 たとへげ武士のごとしは官位ありてするどなるたとへなり。大名方ひたるが羅國の曲之 一首體のごときにほひありてさぎよき匂ひにたとへたり おほくはにがみをつかさするどなるにほひゅう 自體のごときにほひありてするどたるところを白麗のい おほくはにがみをつかさ 味極、清遠、亞 於沉香 香東日、莊羅國產"羅解香 形狀 香木五筒之鄭聞書曰、羅國自然とにほひするどなり 〈、位ありて和漢香之記曰、羅國は黄色にして、赤き筋立て、あまくたつなり〇

る法の武

伽羅 香之

漢名 通志 廣 東

キャラ

南香經香不枝柯屬露者、木立死、而木存者氣性皆溫、故爲 東新 語日 伽 備與 沉 香並生、沉香質 堅 伽 楠 政 味 辣有」脂、嚼、之粘 大螘所 一齒麻 元、 體食。石蜜 飯而遺 、舌、其氣上升。 華夷花木續考日、 於香中、歲久

不上堪入、藥、故本艸不上錄 少、斯、爲下耳。 根、渦若一場片一謂 ,木受蜜氣結而堅潤、則香成矣。 之。糖結、次也。 誘香惟此種 形狀 其稱 其香本未、死、蜜氣未、老者、謂、之生結、上也。 "虎斑結金綵結」者、歲月既淺、 和漢香之記 |簡之傳聞書曰:六國列之辯:香木の六國と称しきたれり。國||之記曰、伽羅黑ク白き筋立しははやくあまくたつなり ○ 木蜜之氣尚未融化、 木死本存蜜氣 木性多而香味

香木五

漸清

ずの六種には より定ある香木を本として、六十一種。名香料に百二十種、二百種等に六國のたちを付られて、いづれを勝羅國のたちなど、する之。此たちの名の田斯群ならずと云、。志野氏をはじめ代々の宗匠も、たゞその昔 の事と心得べし 伽羅からはるべから 羅 「國、貨南、貨商變、寸門多羅、佐齊羅木の中にて、類をわけて伽羅のたち、「頭、貨南、貨商變、寸門多羅、佐齊羅、此六ッはたちの名へ、諸國より出る 香

して、辛香となる。其清水に製せられたるは上品となり、濁水に製せられたるは下品となる。香木の事、諸書に説おほしといこども、深山幽谷の古木、水中に落いり、年をへて、水の精と木の て、これを物になぞらえて、意味を書あらばされしてれいづれを劣れるとの定めばなかりしを、常伯の發明に 右これを六國 0 列と 11 30 六品 しい づれ 4 是により 特と相性 沉 水

**宿木類** 

いふやうにおもへるなるべしするゆへに、あしき香木や祝香と たちをわかち、銘を付て常翫するへ。あしき香木は銘は勿論、たちをもわくるに及ばず、只沉香とのみ称え、沈水香といふへ。また沉香は、沈水香の畧称なれども、今の世俗は悪き香木の事とおもふへ。よき香木 |伽羅は六種のうち上品のものと品おほし、まづ名香の第一とする六十一

九種、寸門多羅原種、佐曾羅壹種へ。是により、世俗はよろしき香木を伽羅とのみおもへり。此まやまりた種のうち、鬩著待をはじめとして、伽羅のたち四十種、此内新伽羅三種あり。羅國四種:資南賀六種、貨南 。切るべし しかれども伽羅、眞南蠻におとりた、中川須广明石などは霞南蠻へ。 是に下品の伽羅を對するもの文章に しかれども伽羅、眞南蠻におとりたちは極りたるものにて、香木には善惡あり。 六十一種のう を観

で、是より間で れるはおと 贈梅を寸門多羅の列とあらためられしる。六十一種のたちにはあらず、寸門多羅ときかれたること、娃出 寸門多編 の伽羅にまがふきゝあり多羅ときかれしこ。腦梅に伽羅にてはいやしく、羅國、眞南の伽羅にまがふきゝあり志野三代にも臘梅をは伽羅だちとせられしを、汲内宗拾寸門 のうちに、寸門多羅の列木なかりしを、聞出しの曲さもあるべしと建部降勝も感心あり

れしゆへ、大國列の味意よくわかること 事をもつて、伽羅にまがふ聞ありといふへされたること、宗拾の響れなり。かやうの 六種 伽羅其言まやさしく、位ありて、苦みをつかさどるを上品とす の品をわかつ事、大畧左にあらはすをもてしるべ し伽羅上

やかにして優美なり香木にても、伽羅は優美にきかるゝものと其品たとへ 機の をつかさどると。しかれども十に七八はにがみをつかさどるもの名香の伽羅たもなり風骨をいふと。にがみをつかさどるのみ上品にもあらず。六十一種のうち、法難經は ば宮人のごとしるたとへ 自然とたを なりなり

佳、スノハイト云アリ、似。太泥、而香酸シ、伽羅交趾上上、暹邏中下、占城下、燒テ油ノ色、伽羅ハ白ク、上沉 太泥筋透リテ所見能香氣アシ、「占城鶉ノフニ似タリ、白黑交ル、香思、暹邏色鶉ニ微シ似テ、交趾産ニ似香タニ 本草辨疑日、伽羅品多シ、香氣ヲ以澤ベシ、形ニ拘ルベカラズ、木ヲ以見ルニへ脂間ニノ重ク、柔ニ味辛ラ上 トス。或へ白木ヲ学ミ、又ハ潤ナク、カラ〈トシ多ク土ヲ抱キ、或味甘ハ次ナリ。 交趾沉伽維共二上品

へ赤ク、太泥へ黑ク、油フカシ。伊勢難記日、近と云は今の伽羅の事也。能き木は水に入れば沈にゆへ、し づた香と書て沈香とよむと。 今は沈と伽羅とは少遠ふと。いにしへはおしなべて沈と云たなと。占城と

ぼする物也。性の違のたる事を知るべし。物理小識日、流香育雨同類自分、陰陽、泥牝也、味苦性利、共香含 云國より出る也。沈香は陰木也。伽羅は陽木之。甕に入て用るに、沙香は氣をくだす物へ。伽羅は氣をの

麻木其香忽發而性能閉二一便,陽體隂用也藏,燒更芳烈、隂體陽用也。奇南牡也、味辣粘、舌、

# 鷓胡斑 饗 漢名 鷓鴣斑

得一之。於沉水蓬萊及,絕好箋香中、樵枒輕鬆,色็器黑而有。白斑點、點如,鷓鴣臆上毛、氣尤清漿似 稗史彙編日、其半結則質而色重、半不、結則不大質而色褐、好事者謂,之" 薦胡斑。 桂 假履衡志日、 鷓鴣斑 廣

日、鷓鴣斑俗游難錄沉香結爲。斑點、亦名。虧鴣斑,東新語曰。或黑醫斑駮如。鷓鴣斑,者。事物異名錄

集註文明

へ色斑ニメ如、鷓鴣色、故云尓文明写本下學集日、鷓鴣斑、好香

不部 蕃木類

### まなはん。否之

形狀 ぢはひ甘さをつかさどるものおほし。銀葉にあぶらおほく出ス事、質南蠻のしるしとす。しかれ 和漢香之記曰、まなはん、赤色にして白き筋立すくあまくたつ也〇香木五箇傳聞書曰。質南鐵、あ

ふ人食南蠻の品は伽羅をはじめ其餘の列よりもいやし位いやしぎといふ之。 亦質南蠻はよろしきもの」と、食南蠻の品は伽羅をはじめ其餘の列よりもいやし伽羅は勿論。其外四國と同等の香木にてけ食南蠻の ども外の列にもあるこ。語説を受べしるべし。此あぶらの出やうは筆紙に及がたければ、師説を受べしを外の列と同等の香木にてくらぶれば、眞南鎌にはあぶらおほきにて

百姓のごとしきたとへときなりという。はおっていやしたとへば民

# しやせつ香之

漢名 白木香 廣東

形狀 震, 乃斬。其正幹, 體,之、是爲。日木香、在根而不在幹、幹純木而色白、故曰。日木香、非、香故曰。白 和洋香之記日 しやせつは白色にしてひするの色かはらず、しぶくあましの廣東新語日、至三四五

本、而不、雖、香

### 佐曾羅青木

伊勢 寸門陀羅 能 日、 沅 是也。 に木 品 名香は六十 -種 あ り、 是は 種あ 木 ☆種へそれ~ 名を付たる也。 願奢待し り此六十一種といふは、右に記すぎをすっ 0) たち 20 六 種 とは伽羅 眞南か 質南鐵 云伽東 大寺大寺 佐尊羅

香ト云フ 云佐掌羅也一 也種名似了 三芳野伽 ト云伽羅也富士煙羅也**喜清羅** 一名正壽寺家公清新伽京 羅紅塵伽羅古木他 一一鐘也法華經眞南 橋 他 不穩伽羅 國般若伽羅島強斑色黄ニテ島ノ羽ノ 園城寺伽羅 楊貴 妃伽羅 青梅加羅 逍遙同

也花、雪 飛汽梅、 種 B 零 一標、月也。龍田也。紅葉質、斜月、白梅蠻也千鳥伽神ので、竹伽羅さらの羅門田伽羅になり、シャーのでは南下に伽 地羅茨花伽羅, 石質南須煙質南 老海沿地鄉 上萬十五夜、隣家 八重垣伽羅 花 宴。羅加 也加羅

夕時雨鐘也手枕、長明伽也雲 目 也伽 羅 也伽羅 潭雲伽羅上 馬種之名香卜云 井# 量質 也 紅 也 治羅也塞梅蠻也二葉伽羅 + 一種、五 十種、都合六十 早梅館南湯夜、寐覺戲也十夕 種之名香 1 慈昭 院殿 義東 撥質 政山也南

木部 蕃木類

# ちゃうし地震

漢名丁香本

一名 第一音 難舌香 興二丁香、同種、花實叢生、其中心最大者爲、雞舌、繁破有、順理、而解爲、兩向、如、一名 薫集類抄日、このからけ丁子のふしなり。からあはといふものへやうなり。本草減器日、

方日、雞舌香、是ハ丁香ノ一名ト云リ。又云、丁子ノマロフシナリ。又云、丁子二似タル故二丁子香ト名 難舌、故名。乃是母丁香也。新猿樂記二、唐物、丁子・甘松・薰陀、青木、龍勝・牛膝 雞舌トミエタリ。福田 クト云へり。山堂肆考日、按難舌香、一名」子香。其形似三丁子」也。 即丁香之大者。今謂丁香母是也。物理小離日、雞舌是母丁香 集註 類聚雜要鈔日、 一双。銀壺四日納。一 香電苔

る。同寄生日、丁子でめのあふぎの、もてならし給へるうつりがなどさべたとへんかたなくめでたし。同 物、錦唐物村灣沉扁丁子之類、金錦珠玉之外無他。源氏物語藤のうら葉日、丁子ぞめのこがるゝまでしめ 丁子一斤。明月記日、實喜二年六月十四日、以泉展積色《珍宝、作山落満泉、銀、唐垣展風半帖棚脇良皆作 ロ丁子十一兩。丁子、熱腫之時、前服」之、「香煎"入」之。手宮一合、第二縣子納。丁子香ノ唐櫃一双云云

かげろふ日、丁子にふかくそめたるうす物のひとへ。字治拾遺物語卷第三日、ちん丁子をこくせんじてい れたり、世織物語日、此はこのていをみるに、あけん事もいとをしくおぼえて、うちはしらず、つくみのやう

めれと思ひて見るに、かのえもいはずからばしければ、きのはしめありすなからむ中を、ついさして、はな ず、あやしらてうつぶしてのぞけば、うすからの色したろ水、なからばかり入たる、をよびのふときばかり るたるに、さてのみあらんやはとて、おづくくあけて見れば、ちやうじのかの、いみじらはやらかくゆ心え へりて、からばしき事眼なし。ちやらしをせんじて入たるなりけり。台記別記曰、久安三年三月廿七日、知 てとりあげたる物を、すこしさきをくひきりてなめければ、にがくあまし。ちやうし、くろぼうにしみか はこを引ょせて、すこしひきするるに、にがくからし。ちやうしらし見かへりたり。この木のはしにさし らぬ物へけり。是を見るにつけて、いかでもと思ふ心いよくしくるうやうにつきて、おもひくるはるれば、 にあてゝかげば、えもいはずうつくしうめでたき、くろぼうの香かす、すべて心もえず、この世の人にけあ のものゝくちきばみたる、二三ずんばかりにて、ふたきれ三きれ、うちまがりていりたり。さにこそはあん は、このていみるに、なべて人にも似ず、さればれらせんこそこともいとおしければ、しばしあけずきぼり

足院禪閣七一賀、用途一机云云煎丁子一坏、爲二酢代。又煎丁子二坏、爲一餘 二種代。一折數、汁物、煎丁子用、之。一銚子一口、煎丁子入、之爲二酒代

ふるくなりたる。もしは、にてしるつかひたるはかろくて、口にく、み見るに辛もあらず。あたらしくよき **職有三音辛者、是爲、上、不、然者朽古者也。丁子はえだいとわるし。おほきにてしとやかなるをよきにす。** 形狀 試丁子法、以齒 薰集類抄日,丁子。

なり。しろみて、ものゝすぢのやうなる物まじりたるわろし。えりすつべきなり。これもやをらつきて、 は、くゝみみるにからくていとからばし。花といひてまろなるものと、くきとてくろみたるものとはよき

子。類聚離姿抄日、丁子存篩同上。福田方日、丁香花ョツミ切テ去ョ、黑ク油アルヲ良トス。白ク色黄ハ まづいるはれたらんをよきにすべし。よきはさびたるやうにぞある。水鏡日、 そのみは鶏舌、その花は丁

頓医抄日、丁香大ナルガヨシ。 ミ汁無ラ下ト 、ス。又云、微火ヲ以テ焙乾テ使ベシト云へり。凡へ是七火ヲ忌者へ。 本草類編日、丁香亦母丁香謂之。長三四分紫色用之

占唐 加果油 せむたう 淡名 源集 詹糖香 平居 薰集類抄日 草本

三朱、不知此人云 置集類抄日、梅花。其酶 三三原防 類抄 分分 144 形狀 麋唐一分三朱 薫集類抄日、詹爾香。せむたらは、かたいしほのいろにて、その 類聚群要抄日 塵狮。 塵糖 共 樹似、橘天煎、枝葉、為香 双。点塵六兩、占唐一斤 似 物而黒。

施化の

類聚雜要抄、又日

香店櫃

しほのかはのやうにて、うすびらにぞある。まづ煎したる蜜に和合して、乾しとりてつく。この香になは

いろくろきは劣なり〇本草綱目日、詹獅香

此。香皆、合、香家、要用二、不。正、入。藥。唐本注云、詹精樹、似:橋、煎:枝。爲、香、似:沙糖二而黑 **治、言、其粘、糖、言、其** だかはきがたし。此香のなかに、あかきけあるはからばし。 狀也。其、花亦香、如、素莉花 香氣。 證類本草曰、詹糖香 陶隱居。云、

龍腦

集註

唐物體腦 新猿樂記日、

形狀

シ、久夕風日ヲ經テ雀、矢ノ如ナル者ハ不好之。糯米ノ炭ト相思子ニ合テ貯フ福田方日、龍腦香、形ハ白松脂ニ似タリ、杉木ノ氣ヲ作ス者之。明 淨タル者良

チ梅花ノ如ク、瓣ノ如ナル者甚良。又云、如:氷雪:者"好別ニ研○本草啓蒙日、龍腦香。本邦雞舖ニテモ先 ルハ不い耗之。此ハ杉木二似タル木ノ根ノ中ノ脂之。此則下之。香膏ハ即根下ノ清液之。藥ニ入二ハ、狀

スの薬師ニテ千二百斤物ト云、客ノ千二年云モノハ響曆年中二渡ル所ナリの今八潔白ナル者ヲ白龍ト呼

- ハ潔白ナル者ヲ本梅花、或ハ唐人ト呼デ上品トス。今ハ潔白ナル者ハ渡ラズ、色ウルミタルコ上品ト

清列營潔可以愛、謂之。梅花片 デ次品トス〇華夷續考日 香味 年

#### 蘇台香

ン上、以:少許, 擦:手心, 香透:手背, 者庭忌,經、火 人多用」之。本經逢原日、其質如、霧膠、著、爲、蘇合油、、色微綠如、雉斑 、之・以、簪挑起徑尺不、斷如、絲、漸々屈起如、鉤者爲 本草、蘇鎖曰、只用。如。膏油、者。香爽曰、沈括筆談、今之蘇合香、、赤色。如。堅木、又有,蘇合油、如。黏膠、 一名 蘇香 類聚雜要抄曰、手萬一合、納沉丁 者良、微"黄了者次」之、紫赤者又下 子桂心蘇香甘松槟榔子胡树薰隆

木部 蕃木類

白牌香一斤、计松香一斤、沉香一斤云云 白腮、香、唐機一双。丁子一斤、蘇合一斤、

銀靈四口納一口蘇合香類聚雜要抄日、乙萬約香壺

福田方日、蘇

禹錯云、諸香ノ汁ラ與之。一物二非ズト云り。陳經器ガ云、獅子ノ屎ハ亦黑色之。蘇合香油八黄白色之ト 居力云、獅子ノ展之。紫赤色ニッ紫檀=相似と。堅質ニッ芬香」。重ッ如、石、焼ニ灰白クナル者好 集註 形狀 合香油 ン

云リ○本草啓蒙日、饗舶來アリ、塊ヲナス者ヲ蘇合香ト云、釋ケタル者ヲ蘇合油ト云。今渡ル者ハ皆コノ蘇

リッ。蘇合油へ駅總牌ノ如ニメ香氣アリ、ヨク物ニ粘着ス、故ニ貯ルニへ器物ニ水ヲ入レ、其中ニ投

ジ置ケ テ年ヲ經テ破レズ バ、水面ニ浮 合油

日、安息香樹脂、其形色類、核桃類、不」宜一於燒、而能發一衆香、人取以和、香 西陽海如日 安息香、其膠如」給名 一安息香、六七月堅優乃取。大明一統志

形狀

是ヲ焼キ、厚紙ヲ 福田方日、安息香、

上品トス。塊松脂ノ如ク褐色ニメ淡白斑ドリテ光』。本經逢原ニ、紫黑黄楫和如:瑪瑙、研文色白者爲 二似 沙黃 赤ニメ微黒色、古茂 ハ上品ナリョ 諸黄色ニメ光リアリ。 新渡ノ者ハ然ラズ、今ハ カイラギ様ヲ

其上ニオホンニ、桐透ラ質ナリトス。此八波斯國ノ樹ノ脂之。膠齡ノ如之。又云、桃ノ膠ノ如之〇本草啓

歌ナル者ヲ安息油ト云、堅ク凝リ塊ヲナス者ヲ安息香ト云。今舶來

ノ者是ナリ。

狀松脂

受日:

品アリ、

り。本經達原二、粗黑中火ニ沙石樹皮」者爲、次、乃渣滓結成也ト云リ 上上上云り、又茶カス樣上呼ブ者ョ下品トスの色黑クノ内二難リア

#### 加川良乃也仁 類編 本草 漢名 楓香脂 道

脂皆可以亂烈香 本草綱目日、枫香松 名 かつらの阿布 藻塩草曰、楓香。 かつらの阿布 加豆良乃阿布良

都良。今義解序日、唯看否楓之林 類編〇本草和名曰 楓香脂 和名加 風香膏 | 議集 類抄

集註

延喜式卷第三十七日、臘月 御雞。所」須楓香一兩二分

形狀

異本 本草

方日、白膠香、是ハ楓樹/脂~。又云、楓香ト松脂ト皆乳香ニ乱ベシ、楓香ハルシ黄白色~、燒テミルベシ 本草類編日、楓香脂 和加川良乃也仁。二月生花白色、文質如、鴨卵、八九月探熟暴干、十一月探、皮。 韶田

楓香微白黃色、燒之可以見。眞僞 〇香乘日、楓香松脂皆可、亂、乳香、但

君。 聚鈔 倭名類 漢名 草

熏陸本

西者色黄白 本草綱目、薰陸。集解珣曰、紫赤如三櫻桃、透明者爲」上。承日 南者色紫赤、日久重疊者不以成。乳頭、雜以、沙石

一三七一

名

くろく
薫集類抄○倭名鈔

藏陸。

俗音君

落木質

木部

寫カ二枝 本群字海 共本行ノ 涨。新猿樂記 日、唐物黨陸 集註 風水海杖毒腫,去:惡氣、栴檀膠云、出"波斯國」。手筥一合、第 類聚雜要抄日、香壺筥一双云云銀、壺四口納、一口麗陸香十六兩。 鼠陸香者、療 一懸子、薫陸。

供膳次第、第二縣盤、窪器四口、丁子囊陸桂心檳榔子造盛也 香、店櫃一双。 **魔陸六兩。人車記曰、仁平二年八月云云簾中** 形狀

黨集類抄日、黨陸。 るものおほかり。 よくみしるべ くろくはにた

レ之· 存篩同上。水鏡日· そのあぶらは薫陸。 福田方日 るものや、いしやなどまじりたるを、えりすていつくべし。 之。又云、今ノ人へ乳香ヲ以テ骥陸香トス○本草啓蒙日、羆陸乳香、元來一物ナリ。 藁陸ハホヨリ出ル脂 し、わろきは乳頭といびて、しろきものまじりたり。よきはひかり黄はみて、らふいろにぞある。くろみた 、薫香松ノ脂ニ似テ黄白色と。綠色ノ交者ハ香不甚 類紧維要抄日 、薰陸皮抖白物不、用、之、有、光用

3 久シクナリテ松脂ノ形ノ如ク紫黒色ナル者ラ云、乳香へ其脂木 一り新三川テ、形旧ニメ婦人乳頭ノ如クニメ淡黄色ナルラ云

乳頭 競集

漢名 1 乳香本

場在 瓶香。 場香」皆一也 香源日、香飲 地清為 香贈日 薰逵香、其最上品爲 陳香、圓大如 脂頭、今之所謂乳香也。次日瓶乳色亞 乳下今以前明者」為 红! たくべきにや侍らん 野、日日:的乳 流り乳とを 本草、宗奭日 形狀 藏陸即乳香爲 ナル者ヨシ。世ニ属香松脂ョ以テ乱ス 福田方日、乳香 其垂滴,如三乳頭,也 明事二 於陳者一又次日二 ーメ滴 出ル如 鎔

白膠香ナリ。頓医抄日、乳香石、コレハ則乳香ノ中ニ石ラハサミ、石ラツ、ミタル也 **眞へ。先ツ蒸し、次二流檀ノ属ヲ蒸ニ則香氣アテ、而乳香ノ烟ハ 定 テ難、散、否則** 、者窓隙ノ中ニ - 廟三吃メ、然~後入、鉢。急ニ敲碎テ研細テ使へ○石乳香、玲瓏トメ蜂、窠ノ如ニアル者

#### 没藥

證類本草日、沒藥。今海南諸國、及廣州或有之、木之根之株皆如,橄欖、葉青 而密、歲久者則有。膏液、流滴在。地下、結一成、塊、或大或小、亦類。安息香。

形狀 福田方日、沒藥。 五実脂ッ以テ作

香ト誑惑スルコトアリ。安息香八黄黑之、沒樂八只黑ナリ〇本草啓蒙日、テリ沒樂八黄黑色ニノ甚堅ク、 ルコトアリ。但シ乳香ト茯苓ト共ニカミ具メ見ヨ、水ニナル者買し。此者へ無クテバシ、沒藥ョ以テ安息

塊大ニメ內ニ土石雑リ、味苦ノ香ナシ。是眞 物ナリロ ハナ没樂ハ是紫鉚ニノ沒樂ニ非ズ

須房、倭名類 聚鈔

漢名

蘇方木革

槐花黃黑子、南人以梁、絳 南方草木狀日、蘇方木。類 名

俗云須房。新猿樂記曰、唐物蘇方 天文写本和名鈔〇倭名鈔曰、蘇枋。

すわう 語煙の

木部 著木類

そは 薬花物語こまくらべ口、やらくしふながくどもこぎいでたり。そはひこまがたな どきまんしまひいで云こ。倭名鈔曲調類日、乞食調曲、蘇芳菲。北山抄日、四月廿

時競馬事式 五左蘇芳誹擬 右豹形的 供一乎御興前一八日、此日雅樂賽奏縣芳非、駒形。江家次第十八日、臨 須和宇乃支 海編 須波宇乃支 異本

のかざみ。雅輔裴東抄曰、すはうのにほひ云、。宇津保物語曰、中少將にはすはうのつくえ 類編、源氏物語藤のうら葉日、つるばみすほう、ゑびぞめなど。同若菜日、おをいろにすはら 曾米記

雜夏抄日、五尺屆風十二帖繪雜事、蘇芳三南 

五日、光明天皇和銅五年多十月经西、禁a六位已下及官人等、服。用蘇芳,色「並賣買sonoo 同卷第八日 献物、詢厨子四前》二前、以「讀香」作。之、納「琴四面二一前、以「蘇芳」作、之、納」琴譜八十卷。續日本紀卷第 集註 續日本後紀卷第十九日、嘉祥二年多十一月壬 申、皇太子上、表、奉、賀二天皇世寶第二云 元正

二兩。淺蘇芳樣一定,蘇芳小五雨。雖一合、灰八升。帛一疋、蘇芳小三南。絲一二、蘇芳小一廟。江家次第 十一斤上五幣。問卷第十四日、經職寮。深蘇芳綾一疋、蘇芳大一斤、醉八合、灰三斗。涓一疋、蘇芳大十廟 自緑嶽芳之類也、瀬氏物語繪合日、すばうの花そく。延喜式卷第十五日、内藏寮。中宮御服料。蘇芳小八 色、自黃丹紫蘇方、京謂彼命清之紫之人、兼得之服、蘇方以下諸色、之類云云。同第十日、雜令。異不者沉香 天皇寺老四年夏四月庚戌、制。。、三位已上,妻子、及四位五位、妻、並「聽」服一。蘇芳了也。令義解曰,凡服 一鉤、簾芳小十三雨、中蘇芳綾一正、蘇芳大八兩、酢六合、灰二斗。帛一疋、蘇芳大八兩。絲一絇、蘇芳大

しつけたるなるこりみつに、あづまぎぬつくみて。落くほ物語曰、燥木には蘇紡をわりて、少し色くろめ卷第二日、卯杖事云云春宮、彼、賦。卯杖。件案天慶ル年以、蘇芳、作之。字津保物語俊蔭曰、すはらのあ

童女にはきの三疋、すはう、下仕へには絹二疋、蘇枋かへでとらす て、組しでゆひたりける。又日、三人には絹門疋、綾一疋、蘇枋一たん、

附方

產后"身腫治方 頓

抄日、蘇芳月 可服

たかやさん 室町殿 日記

物理小磯日、鐵力木初

黃用之則黑其性蓬

漢名 鐵力木 廣東

集註 室町殿日祀日、唐木にて御見豪を被成いにより、日外大友宗茂より進 上被仕い、紫檀とたかやさん御尋被成い間、御藏よりも御田しいて、御

るべくい 日にかけら

夜子 倭名類

漢名 椰子 草本

今名 ヤシホ

牛乳、瓤中酒新者極清芳、久則澎濁不、堪、飲。廣東新語曰、鄉穀有。南眼、謂。之、夢、有 斑纈點文」甚堅、、 桂海志曰、郷子木、身葉漆類。複櫚桃鄉之屬、子生。紫間、一穗數枚、大如。五升器、皮中蠶白、如 玉、味美如

木部 蕃木類

一三七五

>酒、遇、毒。 轍冰起或至。爆裂。 横一般。成了院。一從一般。成了杯,以盛

本質和名曰、海腦

和名也之

ヤシホ

應添壒嚢抄日、唐之酒器ニヤ

シボノヒシヤクト云物アリ

一名

耶子武喜 夜之 天文写本和名抄〇倭名鈔

集註

雜給,酒器云云七月加二耶子 延喜式卷第四十日、造酒司。諸節

正誤 盃中「則酒忽辨補命、人。無言善然今,人。緣言 盃中「其失言,椰子之用」。文明写本下學集曰、椰子盃、椰、木、名也。 隨截 椰子『爲言盃・若以」違投言。

> 形狀 子。此實中一下學集日、柳

如、酒而醉 有一類、飲べ之

### 金剛子

故名、作、數珠、多月不上冷、有一讀眼大者、有、據子大者、有、桐子大者 典籍便覽曰、金剛子、出。安南海南、六楞遍身花紋深細可、愛、堅而且實

り入ったるはこの、からめいたるを、すきたるふくろにいれて云く 若紫日、こむからしのずるの玉のさらぞくしたる、やがてそのくによ

一名

こむかうし

集註 二連、金剛子一連、木思 慈惠遺告日 念珠菩提子

日、令澗命厕子念珠一道 子云云。太上法皇御堂成記 形狀 如クナリ茶福色ニメ、皮ニ三道アリテ徽文多シの金剛子ハ今念珠トスル者多シ、大サ無則子ノ

## 大金剛子



小金剛子

是影朗。 倭名類 聚鈔

漢名 檳榔

一名 拋、賓郎一音、此間音是朗

ひんらう けんの御衣に、びんらうのうらなしを召れ 太平記日、門主は長くとけたれたるちやう

集註 延喜式卷第三十七日、典雞蹇。雜給料、檳榔子四兩。諸國進年料雜藥。大宰府檳榔子云云各廿斤。 新猿樂記日、唐物云云檳榔子。薰集類抄日、薰衣香云云檳榔子、已上各一兩。類景雜獎抄日、故納

形状大ニノ圓ク扁キ者ハ大腹宿郷ニノ、即大腹子ナリ 〇本草啓蒙日、形長ノ尖ル者へ鷄心溶棚ニノ眞ノ檳榔ナリ。 **言曆記云,此次所被仰樂萬入物有四合、一合清呵梨勒,一合渚檳榔子、一合紅雲、一合紫雲云** 、藥舊一双云云同甲納一口云云納。其鄉子少文、稽鄉子寸白服之手筥一合、第二縣子棋鄉子

藥製

福田方日、檳榔子、勿、經、火ッ、 恐ハカラ無ラン。若熟メ使ハン

形狀

木部 蕃木類

シ炒テ使へト云方モアリ リハ不ン如ン不ン用ト云へり。 〇大腹皮 本草綱目曰:大腹子即潛鄉中一種、腹大形 扁、而味潤者、不」似、溶鄉尖長味良、耳

藥製 田 福

特使へ、此者獨ト云鳥好ミクラウ間、洗テ霉ヲ去之 方日、大腹皮酒ニテ洗テ、又大豆ノ汁ニテ洗過テ到テ

加" 本草 漢名 訶子 草

云 皮肉相着、謹按簫奶云、詞製勒苦酸、波斯舶上來者六路、黑色肉厚者良 證類本草曰、訶黎勒。唐本注云、樹似,木棉,花白,子形似,,庖子, 青黃色、 芸可 呵明勒 延喜式〇本草類編日、訶

集註

延喜式卷第三十七日、典藥寮。 九二卿、呵唎勒四兩。類聚雜要抄日、藥苫一双 難給料 Mu! 明勒

一名

可梨勒

新猿樂記

唐物

福田方日、詞梨勒・訶子ト云ハ詞梨勒ョリ少シキョ

型勒丸諸風弁限ノ病 云云同印宮納一口云云納河梨勒州五丸、河 大便不是道。服之

形狀

五之。

隨風子ト云ハ、最初ノ者之。

未熟

ノ時風ニ

型勒

型勒。

和加之、店用之

樂製

テ核ヲ去テ使へ、又ハ只炮セスノ紙ニツ、 福田方日、訶梨勒。先ッ熱灰 ノ中二炮メ組

吹ョトサ ミテ --介金艇 似テ、大ニメ堅ニ六稜アリ、皮至テ厚ク堅シ レテ少ヲ云之〇本草啓蒙日、詞黎勒形榧 ニテ打婦テモ使へ。

頓医抄日

訶梨勒サテラ奔

生、至四月、舊葉落盡、新葉齊生、即花發成、穗微黃色、五六月結、實作、房、八月熟而黃、類,白豆蔻、一房有。 證類本草曰、巴豆、岡經曰、木高一二丈、葉如..櫻桃, 而厚大、初生青、後漸黃赤、至..十二月, 葉漸凋、二月復

三瓣、一瓣有、實、 一房共三粒也 集註 十一兩一分三銖。新猿樂記曰、唐物五五巴豆 延喜式卷第三十七日,典藥寮。臘月御藥。巴豆

> 形狀 福田方日、巴

豆、先ッ 殼

ト膜ト心去テ、紙ヲ以テ墨テ壓、油ヲ去テ霜トシ、霜トハ油ヲトリコシラヘツレバ霜ノ如ク白ヲ云へ。 一法云、心膜ヲ去テ、水ヲ以テ養コト五度メ、水ヲ換テ養へ。各一沸リ貴へ。和説云、先刀ノ峯ニテャハリ

豆。アラ皮ヲ去テ、心膜尖ヲ去テ、生絹ニツ・ミテ、ナマヌル湯ニテ能々モミ洗テ、中ニウス 沸り煮ョ。如此五度メ後:焙乾テ使ベシ。若猶苦痛アラセジト欲ハ、重テ紙ニツ、ンデ、油ヲトルベシ。或 (~打テ、競ヲワリ去テ、鴻湯ニ入テ一沸リ煮テ、取出メ膜ヲ剝去テ、二"ワリテ、中ノ心ヲコソゲ去テ、又一 レバ其欒ヲ信服スル渚無シ、能コシラヘテ分量ヲ倍ヲ合ツレバ、更ニ苦痛無ヲ人信服スルユ。頓醫抄曰、巴 スリテ赤カワラケニヌリテ、油ヲスハスル様モアリの易簡方ニ番ヲ去コト不可然ト重モ、人吐逆苦痛 カワノ ゴトク

蒙日、巴豆。舶來多シ。外殼白豆蔻殼ニ似テ微 長、内二二三子アリ。子へ豆ノ形二似テ長シ

木部

蔣木類

正誤

ナル皮ヲ洗ステ、乳鉢ニテスリテ、土器ニヌリ、油ヲ能々可」取○脩治簒要曰、巴豆、阿志毛乃末米。本草啓

云ハ非也。巴豆葉ハ佛桑葉ノ如ク、綠色ニメ 本草啓蒙ニ、葉ノ形シラキノ葉ニ似テ短

薄り、鋸歯アリ。冬葉脱ス。樹亦佛桑 二似タリ。 シラキニハ葉ニ銀菌ナシ

#### 麒麟竭

驗光彩、似。能財4人。本草綱目曰、此物如,乾血、故謂,之。血竭, 本草滙日、麒麟蜎、狀若。廖倫一凝塊、紅赤與血同色、敲斷而有。鏡

形狀

以テ偽ト爲ト云へり。先が 福田方日、麒麟竭、降眞香ヲ

ク包ムモノヲ小緑様ト云、長ク包ムモノヲ大粋様ト云、古渡ノ小棕様ニモ大小數品アリ。ソノ内色黒メ光應メツニ。又云、此者へ精ノ霜如クニ似タリ。又云、紫檀ノ粉ヲ以テワ、クスルアリ○本草啓蒙日、形小 ソ氣醒者、是ハ海母ノ血也、不可用之。又紫鍱クハラト云物、コレニ似タル者之。又云、紫爨ト同棲へ化飛針、以子自ガ手ヲ刺テ、血ヲ出テッケテ見ヨ、血止ル者眞之。味微鹹甘ヲ梔子ノ氣ニ似タル者之。又味鹹

リアリ、末スルはハ深紅色ナルモノ ヲ擇デ郷用ニ入ベシ。上品ナリ

#### 多羅葉 1 題河園 風土記

漢名 貝多葉

## 今名タラヤウ

東西洋考日、貝多瑪長一尺五六寸、闖五寸許雖形似、琵琶 有"西域""來"具多襲力叉響"長"可"六七寸"蹟"件"之"葉如"細貓竹筍殼、而柔鹹如"芭蕉、梵典"言"貝多 而厚、夷人以、此書字者也。諸寺奇物記、寶光寺

翻斐樹也、經字大如小小赤豆」等行蠕蠕如"虫豸、不、識"其何經」也 出,鹽伽陀國、長六七丈、經、冬不、凋、其葉可、寫、字、日多襲力义、此

集註

葵沢、建崇寺、蘇我稱美連

之願也。安、多羅葉。壒囊抄曰、西域ノ經典ヲ唄葉ノ文ト云ハ何事ゾ。 本名へ、明多羅樹也。其ノ渠ヲ取テ、爲「料紙」故ニ、或へ名「多羅葉共、或へ初ノ字ヲ取テ、只明斐共云也 唄葉トハ、多羅葉ノ名也。其例ノ

云 云天竺ノタラヨウ云云泗濱石モ此山ニ有トコソ候へ。扶桑縣記廿五日、秋風染翰初寫:貝葉之文 此葉ニ書ク經ナルカ故ニ、多羅葉ノ文トモ名ケ、又畧ノ明葉ノ文共云也。平治物語日、 叡山物語事

形狀 寸也。故是を多羅子といふ也。さて文武二道は一雙の物なるが故に、筆の長も取長なるは六尺、仙覺萬葉集註騾卷第一日、弓をみたらしといふは、天竺の多羅葉、其長七尺五寸、弓の長又七尺五

葉黄色にして墓赤し、故に移」之經教をば遺紙朱軸にするなり或五尺にする也。是殊の外の甲乙なからむがためなり。彼多羅

# うごんくゑの花繁花

漢名 優曇花

歲閏則多;一瓣、相傳南詔盛羅皮時、有。僧菩提巴波、自。天竺,來以所攜念珠分其一種之今枯雲南通志曰「守」優曇花獨在。城內土主廟中、高數丈、枝葉扶疎、每歲四月花開、如。蓮有。十二瓣、

うごんけ 築花物語○竹取物語曰、くらもちの御子は、うどんぐゑの花もちてのぼりたまへり、との♪ しりけり。曾我物語曰、三千ねんに一どはなさきみなる、せいわらぼがその」も」、うどん

木部 落木類

それにたとふるかたきなれば、おがみてきれやきれとて云る けよりもめづらしゃ、うどんげをばおがみてたをるといふなれば

集註

**一きなくえだをならさねば、** 

ヲ、優曇難ノ如ト云ハ、何謂・ゾ。此難尤希ニ開ク故ニ介云也 又へ優鉢羅難共云、又へ靈瓏花共云也。 かほりまさる、よにありがたくめでたきこと、うどんげのごとく。塵添壒甕抄日、優盛華事。物希ナル事 此

素、減然レ、、無、方右、可、開化、非ズ、是、和名へ无キニヤ 薬・芽出テー千年、巻、一千年、開一千年、合三千年、一度開、也

## 紫藤 源平盛衰記

香似。蘇方木、燒、之初不。甚香一本草綱目、降眞香、集解、珣曰、其

集註

蕾ノ造株、紫藤ノ槽ニ枝ノ腹 佐梨木ノ頭ニ同天首」源平盛義記卷第卅一日、青山ト名ヲッケキ。又此琵」

形狀

〇本草路蒙田、降眞香、難舗ニコレヨ三品ニ分ツ、淡紫色ナル者ヲ紫藤香ト云、色淺ヶ節多キ 者习鳳眼香ト云、淡黑色、或微紫色ョ帶ル者ヲ降風香ト云、然レに紫藤香ハ卽降風香ナリ

## 唐梅木明月

· 脚月記曰 天褐元年七月十日、宋明出門、行佐々木見唐

## 漢 名 **灰桑** 詩毛 今名 カラクハ

马人以少幹柘爲·上 歷察次之 中。車襲非弓。多官若工記云、 有。如、画者、古者青州以、絲爲、黄、以、驟絲、爲、簟、語具、驟之蚕、其絲中、琴瑟絃、盛、之籍師、貴、之也。材 毛詩草本考日 檿一名山桑、桑柘之屬、葉似。桑葉、有。點文、亦可。以、飼。蚕、其本碑文采如顷基、方正駢次 一名 山桑河の成とと、 ヲ可い減トが歌ヒケル云云 如い先山森ノ号ナマエノ矢

.1-云八云云 リケル者 集註 雷國進二御引出物、御馬一疋、鷹羽 桑脇息一脚等也 吾妻鏡第九日、文治五年十一月十八日 還如鎮倉、

#### 枳殼

上品へ。伊勢ノ物へ楠ノ皮アリウスシ下品へ。先ツ樓ヲ去テ、麩マゼテ炒テ切レ龍田方日、枳蔵、肥肉アツクメ唇ル反カヘリアツ皮ナルヲ好トス、ツクシノ物へ如此 ン質、九月十月探渚爲。穀。今陰家多以"皮厚而小者」爲。枳實、完大者爲、殼、皆以蘸肚如。盆口唇狀,證類本草曰、如橘小高、亦五七尺、葉如、棖作燈多、刺秦生:白花、至、秋成、寶。 舊證七月八月探者爲

今名 クサワタ

木綿

木部 灌木類

二三八三

山茶花一黄藥、花片極厚爲「房」遊。繁、短側相比、結、實大。如、拳、實中有一白綿 本草總目曰、木綿有。草木二種:交廣,木綿 樹大。,如,抱,其枝佔。桐、其葉大如。胡桃葉:入」秋開。花紅。如。 棉中有上子、今人謂」之 斑枝

楓葉、入、秋開、花黃色、如。葵花一而小結、質大如、桃、中一有。白綿、中有、子、大如、梧子一 花、訛爲一葉枝花。江南淮北所、種本綿 一四月下、種、莖弱如、蔓、高者四五尺、進有三三尖」如二 集註

ノ物出來也。是ヲ取リ聚テ綿ニ入ル、也。天竺ニハ布ニシ、唐ニハワタニス **壒嚢部日 唐ニモ木綿ト云木アリー 其ノ木ノ質ナリタルガ 熟シタルヲ取置タレバ、其ノ質ノ中ニ綿ノ如っ** ルニコソの 類聚國史卷第百

見」之、愈日、崑崙人、後隨暫。中國語、自。謂 天竺人 嗣 "共養物"、有 … 如> 草實 / 者4 謂 。之,綿種。 延曆十 九十九日、延陽十八年秋七月、是月有二一人、張小小船、漂温著、參河國、言語不、通、不、知 何國 人、大唐、人等

九年夏四月庚辰、以。浣秦崑崙人所、奉綿種、腸、 即伊、溪路、阿波、 讚胶、伊豫、土左、及太宰府等諸國一殖、之。 陽地。沃雙了如之作。次、案一寸、衆穴相去。而尺、万洗、種漬之之、令、經一宿、明且殖之之、一穴

水湿、营命 澗澤、待、生、。芸、之 四枚、以、土箍、之、以、手按、之、每、且

#### 大風子

状如一楊子.而周、中·有-子衡上校. 質題風土記曰、大風子油乃大樹之子、

集註

順医抄日、大麻風油

微香、俗呼。栗魏、色黑者下、爲造,者蒜氣撲、鼻、久留生。白釀、本草原始日、市。有:一等、阿魏、色黄如、栗、初、《開光、則臭、久》聞、

形狀

ニテ研テ、如粉ノ熟酒ノ品福田方日、阿魏海、鉢ノ中

ノ者へ色黑ノ塊ヲナシ、大蒜ノ臭氣アリ、偽物ナリ。先年續人へイストル長崎へ持來ル、 ニ置テ、異√物"焙過テ入甕"使へ。此者生キハ和ラカ之。赤色ニノヒルクサシ○本草啓蒙日、阿魏今舶來 阿魏白褐色ニソ

黑色ヲ雑ユ、臭氣アレモ大蒜ニ異ナリ、其層密ニノ栗ノ如シ、是質物ニノ、 本草原始ニ謂ユル栗魏ナリ。又古渡ニ茶褐色ナル者アリ、貨トスペシ

#### 杜仲

如『厚朴、折」之多。白絲、爲、佳證類本草日、杜仲、陶隱居云、狀

藥製

日 ハ白色ヲ帶ブ、横二折レバ細キ白絲多ク出テ、絲綿ノ如ニメ斷レ難シ 一、杜仲、舶來多シ、皮ノ厚サ三四分、又五六分ナルモアリ、褐色ニメ外

靈壽續日

木部 蕃木類

故。名:靈惡 有。緬刺、枝有。大刺、發枝有之機、直幹、節節拔生、秋結、子成、珠、如。竹實之紋、味釀可之食、謂之。。遊許子、其 尺、聞三四寸、自合杖制、不入須 柳河東集日、杭湿壽木、洋漢書孔光、明帝時爲,大師,賜。靈壽枝、注靈壽、木名 延年益高 尊則京師 言正三位多治比眞人池 四品以上、開程用之人,號,甘蔗棍。陸元格日、裾即横也、即今靈壽。毛詩草木考日、作材能令三人 集註 壽杖及興傷一高年了。也。同卷第九日、聖武天皇神龜二年十一月已丑、是日、大納 續日本紀第 一制治。物理小識日、靈壽木、智見乃蕉棕本也 凌」多不」凋、 日 文武天皇四年春正月癸亥、有之韶、陽二左大臣多治比眞人暢"靈 似少竹有二枝節二長不上過二八九 葉如:山醬:葉邊

守、赐三藏壽杖井一綿:

粉銀 又述不 能人ノタマシヰヲカヘス香之。一銖モタガヒヌレバキタルコトナシ。サレバコト難

活、明日失使清所在、贫元元年長安後死者太、帝分奉繞之、死未三日皆活,芳氣三月不歇餘香,一旦失亡太倉 以度。流沙、今十二年矣、香能起二天殘之死疾、下。生之神。雖也 モ、ヨクハカリヲサムベキ之 ○華夷草木巻日、返魂香。 、青雲千呂連月不い散、意 "中國將有"如道之君"故 一搜,奇蘊,異而貢,神香.乘,沈牛,以濟,弱瀾、策 東方朔日、月氏國、使者賦、香、日、東風入律百何不 疾疫、死者 將能起之、以董牙及聞氣者即

於網集中取著僧命還之巢中僕日頭已熟美濃之無生理僧曰吾意望其生但弟其總之漢鳴而已後數日忽出二雖 劉家洞大配水宮樂初建以傳守奉書香火一日僧自外敬見厨下鍋中潮湯鴉而裡之見二卵煮將熟詢子僕言行童 雄黃各五錢一以一餐里一煎一蘇合油

一作价

、野倉貯之、

凡陰迷死卒隱死瘟疫死、被一此香紙幔中一半日、必胜

年候入復來入貢訪前老僧已故英因實意作享其徒謹所取之香何物也倭曰此德香也焚之死人之魂復返聚釐州 殿觀音剧者則與之倭日我是入貢之人安可留以待關成但顯鵬之以價因與自命五百兩僧得厚利逐與之去後數 港泊州登岸入寺秸香見佛前所供之本間僧質之僧給之曰此香是三對大監捨供天祀宮渚豈致實錢有能蓋 造後 僧異之令僅撰其巢見一木尺許五彩錯離成錦紋香風觀和特以與僧供之佛前後有倭人買因風打舟至劉家河

山程道人植い香敷斛、 所出返魂香也 物理小讚巴、返魂香、過應錄日、趙三清獻公好之奠、香、謂可之卻之疾、章子厚自 一日盡發、香蝴盛時、忽耀、峰頂、此亦丁厚乘、雲气之快、錐乎 跌香能入、心、宜楊降惠 . 隨表一還、言匠

其理也 泥"其外;外更黃土泥」之,閩乾埋。向東廣門柏下,七七日出之、然後韵"其外二土、末"其內丸、投"龍腦丹硃 安大後、黄、叱香、皆活、說似、奇而運有」之、今猶人以、篤褥兜網、爲、返魂香、姚有僕覓得藻鏡一方日 納迷迭瓶香、各二麻、降沉三兩、煉蜜和 一李珣言紧寫州有 返魂香 樹如 『前末』爲"大丸、叉板"犀皮猾皮穿山甲蛇頭鳥頭雄黃、 。撫柏、花香聞。古里、宋。根汁一鍊之如、漆、博物志言月氏賣。漢武:長 古家內土 、篤梅兜

古名錄木部卷第三十六終

木部 審木類

# 古名錄竹部卷第三十七目錄

#### 竹類

多介竹 〇誰 集 竹葉 ○多介乃美竹寶

〇竹の根 竹根

〇太加無良 葉の大かんなのかは

吳竹 淡竹

之"名"

加波多介苦竹

班竹 〇紫竹

〇吳竹質 〇くれ竹のこ

湯"、竹

千里竹

通計十七種

霉

二三天八

紀藩

源 伴存撰

竹類 三代寶鐵第四十五日、光孝天皇。裁、楊種 」竹、布」沙控、水、效三承和天子之舊風

多介天文寫本

漢名
竹

今名 タケ

大學子母門。丹鉛總錄日、竹香。竹亦有、香人等情知之之。社詩、風吹細細香。李賀詩、竹香滿幽寂、粉節 帝京景物略曰、竹、丈丁始一枝,。筍、丈丁猶了雜了。竹粉、生於節一。筍梢、出了林一。根鞭、出于籬一。孫 途生翠。正字通曰、竹、植物非"艸"非、木円質虚中深模勁節種大小不.分. 雌雄了、雌者俗呼。母竹.多.筍。 花

崩芽時。發·謂·之。筍。枝葉初放謂·之。第一。循至扶疎茂密。而節葉具焉 箋日、竹植物中之異品也。非、許·非而質復、堅'。外直",中容'。而節尤勁。 鏡曰、按 竹之妙虛心密節、性體堅剛值 霜雪·而不之凋。、歷三四時·而常·茂。、頗無三天艷·雅俗共。質。 品字

一名 多氣 第五日、

鑓=載之1 m - 倭名類聚鈔曰、伊勢國多氣、竹。萬葉集卷第十四曰、宇惠多氣能、毛登左倍登與美元 m 瘤宮。 凡齋內親王在入路每1至,山城近江伊勢等界勢多鈴鹿下樋多氣川等、鎧=神部卜部各二人,在2前 一三八九

竹部 竹類

三九〇

倭名麵 文寫本和名鈔日、竹。 聚鈔日、竹。 和名多計。天 和名多介 千色草 藻塩草日、たけの異名也。 はらてよのつねのいく代かへぬる竹のやのさい 又日、みとりなる色もか

枝草 [4] 河玉草 正。 り河玉草をなにといふべき。蔵玉 秋風はまどなる松にかよふな 夕玉草 同上。これはたけ露をかく云 と。 月にきくゆふ玉ぐさのあ

間。 き風に 山海經、其草多族蘇族多篇皆以、竹爲、草類、是竹木。亦謂、之。草一也 晋はいつこそね覺とはまし。藏玉。 陸餘辰光日、 鋼雅釋立篇、 笋竹 多。草 塵添壒囊鈔曰、因幡記 ヲミレ バ、カノ國高草ノ

リ。竹へ草ノ長ト云フ心ニテ、竹草トハ云ニヤ〇品字鑑曰、等。古、筋字。コホリアリ。其名三ノ釋アリ云云。一二八竹草、郡ナリ。コノ所ニモト 竹ノ林 竹內之筋樓也。草木。 アリ ケリ 0 其故 = カクエへ

敦智郡、竹田。太介多 倭省鈴國郡部日、遠江國 汰毛 吾及鏡第二日、其故何 著作法毛四郎云云 日、古母利短能、簸都細能 日本書紀天皇日 妃和唱

鳴牌、萬等介常俱喇、須衛階鳴牌、府現倉都俱喇、府企醮須等臺運、那蛛例俱壓、駄開能、以知美娜開、企囊開、漠等等階 姚開上見 靈開上見 陀氣 日本書紀推古天皇 日、皇太子歌

第二日、刺竹、皇子剑門乎 日、佐河陀紅熊。 河內國羅川郡竹淵、多加不知。加賀國江沼郡竹原、多加波良。安觀國高宮郡竹原、多加波良〇扶桑略 動なるこの倭名鈔 為其原卷 國那部日、丹後國竹野、多加乃。筑後國竹野、多加乃 太子、太氣能、大宮人者云云 多加 萬葉集祭第四日、打漫、竹田之原獨、 鳴鶴之。 同卷第七日、 山城國久世郡竹淵、多加 . 竹島乃、阿戶

長、蓋其堅貞之性不過剛正寒、亦足司敵人是暑 耳獨的於於整暑烈日,中一移《得兴其 因行其、歸以根不於知 記廿七日、夏有.北户之竹.清風颯然。明月記日、 搖動。也。洛陽花木記則謂、秋社後九月以前裁之、蓋。過二此五寒、亦地氣不之同 法一無不可成 竹不以此色。五雜組日、移行花木江南、多用 集註 竹二百株。同卷第七日、践祚大甞會云 延喜式卷第四十日、主水司。供御年料 服月子、 云

吉爾之乎 雪波布利都都。伊勢國風土記曰、員辨郡获野有"名竹。雲宇途鄉買"的梅桃櫻等。常陸國風土記 次稻實下部一人在:中頭一當色木綿、澤日蔭 ·臺敦。青竹。 萬葉集卷第十九日、御苑布能、竹林爾· 鶯波、之波奈

郡維乃尾、賃、糧杉竹。略思ひのま、日記曰、きて橋竹の臺など、草木に至る迄も、むかしにかわらず。明月 竹。 堤,也。大和國國土祀曰、平群郡膽駒鄉貢、脩竹,和泉國風土記曰、大鳥郡橫野鄉出、修竹。 日、香鳥郡、松竹衛、於垣外。山城國風土記曰、久世郡出。竹木奇沙。古事記曰、作豆坂手、池。即竹。植三英, 伊賀國風土記曰、伊賀郡嶋田山出。松竹、之 武藏國風土記日、在原郡買、竹。駿河國風土記日、安介 日根郡信田鄉出

前 紀日、建久十年正月九日、賴竹於南藍。墓太神宮儀式帳日、五百枝舞竹田乃國正白冬。本朝無題詩曰、對。窓 竹门 惟宗孝言。 前頭有了竹興相從云云細葉乘」風秋響冷云 五〇 賦。庭前、松竹。際原 實範。松竹兩般心

は節文をそなへて、君子のみさほあり。高倉院升遐記目、閉院の、あさがれるの御つぼに、うへさせ給ひた りし竹を、ほけだうにうつされたるが、みどりかはらめを見て。塵添壒囊抄曰、日本ニモ馬醫師ヲ伯樂ト云 おほかる所とぞ覺ゆるを。又曰、こゝかしこ竹。はやしばかりをぐららしなしつゝ。歌林四季物語曰、竹 藤原明衡。 庭前松竹足。相貪。狹衣日、堀川といつくとかや大納言と聞ゆる人の、むかひに竹

谷等,竹敷十本被,名-寄之。今日彼、栽-南御堂後山麓!。平家物語曰,本一新中納言知盛の御子,三才にて也ま 系檀紙ヲ十二ニ切テ、青竹ニ縣テ、十二染干ベシ。吾妻鏡卷第十四日、建久五年二月廿二日、自-三浦濫

人くびをさし入がたし。長替我部元親百箇條曰、竹木杉檎楠松、共外万木公儀御用木のため、付。記憶、者、 に、竹の内なる所に忍びておはしける。彼所まへは深き堀にて、馬かよふべくもなし。後は大竹しげりて、 部といえ所に忍ふでおはしけるが、十三の年建久七年の秋ころより都にのぼり、法性寺大路の一の橋の邊 叙麟して、太夫細忠とて、おはしけり。紀伊次郎爲範養ひ奉りたりけるが、 取奉りて伊賀の國へ迯下り、服

異へ刊平長 レ大本家門 リニトハ本

本兵郎ノリア下 衛門下

立候樣、才學肝要之事。 建武元東寺塔供※記曰、西等子端以、竹構、高臘。是义事躰輕賤也。 太平記第三十 不,及,是非,可。用立,竹木我領知之內難,在之,聚行迄不。申屈,者 伐軍堅修止之。在《山》浦 之竹木成

木にもあらず草にもあらず竹のよのはしにわが身はなりぬべらなり。竹と云物は竪仁にたとへたれども、 九日、日本一州ニ近年竹ノ皆枯失ルモニニ 期間、花面癒は年。盡。死。亦。稱二人之瘟疫之也 古今切紙次第日、九日、日本一州ニ近年竹ノ皆枯失ルモニニ 五難組日、竹太。盛密、則宜以艾・之。。不以然 古今切紙次第日、

なし云、竹はらに成てつるに無曲くちはつる物也 つるにきふくの色なく云、竹と云物は四季若色も ○多加牟奈 本草

漢名竹筍本一今名

タケノコ、瀕雅日、筍、竹萠。註、初生者。疏、孫炎曰、竹刹萠生謂、之筍。。正字遍曰、筍。說文、竹胎也。 在鏡目、竹根,日上頭、。等引。今日上鞭。。經上、梅田、香、名、筍、筍、外包、香、名、鄉、。 過火

ン母 則無解る名等は

一名 太加無奈、極名類緊鈔日、第。和名太加無奈。本草和名日、竹笋。

あいだのこと云ったかむなかだだ、つかをかみにてつくむべし風土記日、公頭郡澤食買し食筍。雅輔装束抄日、おとこになっ たたいもとゆ ひくし云る 太加革奈新撰字鏡日、帶等回、息光則 たけ たかうな 伊勢守貞隆肥日, 竹の子たけ 源氏物語〇雅輔裝束抄日、 <1 たな云ったからなが 竹の子見等

竹子 質可之為。過愈一事。見付中上者、右帶實際一變美一可之過事 長曾我部元親百箇條日、竹子折事堅停止 若於 三相背一者、豆 から玉 護塩草日、 の異名也。酸

爲三珍 品 あり 玉に (大) 在南湖南人、多月捌二大竹根下末。出、土。者7爲二多筍。 東觀漢記、謂一之。苞筍。 益"可"鮮食、野寨辦與抄口、平大爨日錄四號云、根等○字與日、笋。竹胎也。 集讀 ※作、筍。本草綱日曰、 集註 院司別當已下四人食料。等手八把。同卷第三十三。回大膳下 延喜式卷第三十二日、大騰上。賀茂神祭齋院倍從等人給食料 等了二十一把。同祭獨 五月五日 節料 第子九

寺法師竹ラ愛ノ惜ミモツニ、笋ノ時我モクハズ、人ニモアタへスメ病死メ後、中陰ニ弟子共等ヲ取テ N INO 方國府。出.<u>麴麥</u>符栗。 圖。同卷第三十九日、內膳司。供奉雜臺。第四把。五六月。其東宮第二把。駿河國風土記曰、伊穗原郡 廿五日、関東等如夏人食之一赤染衛門集日、第をおさなき人におこせて云く。砂石集日、和州ノ或山 明月記曰、覽喜二年十一月廿一日、櫻木多花開。自川遷在所々云云、笋生人食之

有物なれば、青陽の春もきたらば、叉子をもさしかへてみるべし。續詞花集日、かたらふおとこの、もとの ノ菜ノ汁ニセントテワリテミルニ、黑鬼オホカリケリ。朝倉亭御成記日、御汁たけのこ。漆經記日 、竹はね 、僧膳

竹部 竹類

古名錄卷第三十七

泉武部。かけらじやたけのふるねはひとよだにこれにとまれるふしは有やは 人いみじくけらだつときくに、たからなをやるとて、いまの人よませ侍けるに。 和 たかんなの

か。 は 漢名 鑏 典 学 今名 タケノカハ 字典日、簿。 篇、竹皮也 名 竹ノ子ノ

せば、かほあかめて、ゆ 皮 しうおがたるかた 應添堪襲抄日、日本ニモ馬門師ヲ伯樂下云 云云次一竹ツ、竹ノ丁ノ皮ニテツ、ムベシ 〇多介乃美本草 和

集註

びことにいれて、めかょうして、ちごをおど 大鏡日、又たかんなのかはを、おとこのをよ

漢名 竹米 倘胡 維書 一个名 タケノミ本

界竹在紫色結上實始,奏 詩經鎖渚曰、竹實體、花如、雷、結、實如、麥江維、號、爲、竹米、以爲。荒年之兆,其竹 綱川日、六十年一売結、實・其竹則枯。竹枯日、綺。 竹實曰、復。太平御覽曰、謝靈連晉書曰、元康二年巴西

**慧風之食**也 即死信事 一名 しねんこ 三十二番職人歌合日、竹質。うりかぬるしわんこ竹のするの露も とのしつくのまらけだになし〇本草和名日、子名玉英、一名垂珠。

が近、如 介乃美 和名多 松田 〇太加無良 聚鈔 名 太加波良倭名錚日、孫備切韻云、篡。竹藥也。 漢名 篁辭 花鏡日、初發至今梢葉,名,算 膚名、筠。續日本後紀第日、其在《人也如》竹箭之有 和名太加無良。俗云、太加波 梢葉開盡。名、羅、笋上之

台記別記曰、康治元大堂會壽詞、由都五百簋生用牟。撰集抄

之有以心也

に、常たかむらをめされて〇字典日、整辭註 日、小野篁嵯峨殿詩作事云、小野たかむら、供泰し侍ける **運、竹叢也** 集註 二、萬即·驚·匿 篡業一以以間·擊, 日本書紀卷第二十一、崇殿天皇紀

少竹"引動、今」他 惑三己。所以入 ) 誰葉 萬葉 漢名 竹葉證類

本草

今名 誰葉野爾云云

集註 之荒麓?取。其河之石?合于鹽而墨。其,竹葉二令。詛言:如。此竹,葉青。,如。此竹,葉、素。而、青、黍。古語拾遺曰、以:竹葉飫慰木,葉。爲。手草。 古事記曰、取。其伊豆志河之、河島,一節竹,而、作,入,目

堀。取、颇者了、謂、之。鞭箭、〇按、鞭箭八竹根ノ末筍二似タルヲ云 看三根上,第一枝了雙生著必雌也。乃有之筍。土人於一竹根行鞭,時下 乾一而盈乾云云 又如此際之強 〇竹の根で馬 漢名 竹根本 猫一、畏急刺油麻了。又曰、竹有雌雄、但 本草綱目日、其、根鞭喜行了東南一、而宜之死 集註 家中竹馬記日、竹の根の 鞭、是もとづかをして可

はいづれば略儀也 ッ持。とづかのなき

迁 漢名 淡竹 草本

> 今名 ハチク

長谷若建命、此時臭人愛渡來、其臭人安溫贊於『吳原』。 倭名鈔國郡部曰、阿波國麻殖郡吳島、久礼之萬〇撰集抄曰、吳竹の二字は天老と云鬼の。類川のほとりにて作出せる賢者と社傳たるなれ。古事記曰:大

竹部 竹類

一名 久禮多介 本草和名曰、淡竹。 久禮太介 優竹也 和語云、久礼太介〇本草綱山、竹、集

解。所曰、按《竹譜態竹、駁而保節、體圓而質勁、皮白如、霜、大者宜、刺、船、細者可、爲、笛。本章聆蒙曰、於竹 ハ、治ニハチク、一種竹長ジテ全ク、料アリテ衛ノ如キ者ヲカシロダケト云、是無竹ニメ淡竹ノ一種ナリ

停臺目、計竹県遂竹ノ一橋。言屋第日、くた竹とは等竹と書 遊归本草、竹藍門的註糊隱居云。又一種雕穀者名。甘竹。本草 甘竹 新漢樂記曰、唐物吳竹甘竹吹玉等也。 兵範記日、知足院禪剧七十賀 人安三

詩、陰劃笛甘竹捧禮被豫室を舒道也甚已。不家物語曰「此宮高はせみおれ、小えだとて、かんちくのふえを華三月廿一日、今日高陽院接政具質韓陽七十算、去十三日於接政第飯定雜並云、笛韓大納言宗輔廟先日申 二つもを給へり。中にもせみおれば、むかし鳥羽院の御時、そう朝のみかどへ、砂金をおほくまいらつさせ 給かたりしかは、窓般とおぼしくて、いきたるせみのごとくに、ふしのつきたるふえ竹を、一よまいらさせ

壇上に立、七日かぢしてゑらや給へる御ふえ也。ある時、高松の中納言され平の卿まいつて、社師ふえをふ 給ひける。是程のてうほうを、いかなさうなふえらせらるべき、三井寺の大しんそうじゃう既宗におほせ、

れば、笛やとがめけん、その時をみかわにけり。さしこそせみおれとは召れけれ 竹筎、カラタケノ皮 かれけるに、よのつねのふえのやうに思いわすれて、ひざよりしもにをかれたりけ ヲコソゲタルナリ 唐竹 職佐抄門、維素率ニ死人変アリ、維者認胃ト名々、癲癇ニ似タリ。唐竹ヲ破テ、 コク煎メ可服。又曰、凌竹茹、唐竹ノ上ノ皮ヲコソゲタル之。魔添壒囊鈔日、 カラタケ

らげん也。たけは二五八月にたつるなり ふは七ふしなり。七本なり。口傳あり。し し。世をつぐといふ心也。又曰、竹をたつるやう。からたけのすゑをきりて、えだふし敷ことに七けんとい 於保多介。倭名鈔曰、今按淡、宜、作、齊歟。延喜式於保多介。天文寫本和名鈔曰、楊氏漢語抄云、淡竹、於保

卷第十三日、閩書寮。凡年料裝 潢用度。大竹二十株。標紙料 集註 竹。爲之足、覆以二絲織、夫一人。次其一枚、奏以、曝布、吳竹爲 延喜式卷第七日、踐祚大華祭云云次火燧一荷。納。當二合、吳

年是職異的結失。東陸紀行日、あれたる庭に異竹のたがすこし打なびきたるさへ、そばろにうらめしきつま 足、夫一人。本朝無題詩日、吳竹籬荒只暮煙。 註官舍之情有一故之竹骸云。扶梁略記曰、朱雀天皇承平元

となるにや。十訓抄日、一条院御時實力中將臨時祭の試樂に遲く參て、かざしの花を給ほらで、蔵人にかっ

に見いだし給ふ。ほどなきにはに、されたるくれが、ぜんざいの露は鍋かくるところもおなじこときらめ に竹の枝をさすとかや。源氏物語夕顔日、はしちかきおまし所なりければ、やりどをひきあけて、もろとも とて、竹の臺にす、み寄て、吳竹の枝を折っさしたりける、めでたきよし人、ほめあひけり。是より後試樂

兵範記曰、保元三年三月廿二日、壬午石清水臨時祭也エエ次使進出立。吳竹乾的桂二。弁內侍日記曰、くれ竹 きたり。同乙女曰、まへちかきぜんざい、くれ竹したかぜすいしかるべく。同真木柱曰、くれ竹のませに。

すいがいのつらなるくれたけを、吹なびかしたるとがらしのをとさべ、身にしみて心ぼそくきにゆれば。又 に日はてりながら雪のよりかくりたるを。 蓬萊抄曰:次使上歌人等於。 臭竹東頗」 鍍。歌笛。 狹衣曰、御前近き

メ渡ンヨト思テ、堀ノ上ニ末ナビキタル異竹ノ梢へ、サラノくト登タレバ、竹ノ末、堀ノ向へナビキ伏テ、ヤ などをいれてぞ埋ける。太平記日、是ヨリ商人船ニ乗テ、程ナク佐波園へゾ著ニケル云云サラバ是ヲ橋ニ くれたけのよふかきをきりて、かぎりて、かりぎぬ、はかま、気ぼし、おびなどをいれて、ゆみやなぐひたち 日、雪いたうつもり、えもいはずしみこほりたるくれ竹の枝に、つけさせ給へり。大和物語日、さて此男は、

程のいとけなさに。又日、かくて月日はくれ竹の過ぬる世との戀しさ。袖中抄日、くれたけ 殖。臭竹で、東西七拾三丈、南北七拾三丈也。撰集抄曰、くれ竹のまだ二葉にて、よゝを籠るふしのびあさき スート堀ヲバ越テケリ。古今榮雅抄日、雲林院ハ紫野に有、天唇御時御願寺、塔など立られけり。依と動 のよながきをきりて。築紫道記日、萩の下葉かれたく成らち散、吳竹の葉風あらく、敷吹て

源氏物語胡蝶日、おまへ近きくれ竹の、いとわかやかにおいたちて、うちなびくさまのなつかしきに、たち ←日、異竹は葉ほそく、河竹は葉ひろし。御溝に近ぎは河竹、仁龗殿の方によりて植られたるは異竹へ。

とまり給ふてつませのうちにねふかくうへし竹のこのをのがよっにやおひわかるべき云 いかなこんよかわかたけのおひはじめけんねをばたづねん。桃草紙曰、はしたなきもの。物もいはで、み

竹の名を、いととくいはれていぬるこそおかしけれったれがをしへをしりて、人のなべてしるべくもあら を釣りて、得と言んとしつるを、しきにまいりて、おなじくは女房などよび出てを、といひてきつるを、くれ すからたげて、そよろとさしいる」は、くれ竹のえだ酸けり云云あやしていぬる物どもかな。おまへの竹 の事をばいふぞ、などのたまへば、竹の名とももらめ物を、なまねたしとやおぼし、らん、といへば、まこと

にもあり。竹帛といひて、むかしそれをとりあつめて、ふみをかきけり ればあしつい斗のへだても我心にはなしとよめる也。私云、そのかはい、竹 抄日、奥義抄云、あしつ」は、あしのよの中に、うすやらのやうにてある物なり。よくうすきものなり。さ ぞ、えしらじ、などの給ふ。まめごとなどいひあはせてる給へるに、此君とせくすといふ詩をずじて。袖中 〇唐竹ノ裏皮頓器

漢名 淡竹茹 綱草 |今名| ハチクノアマハダ 走可以塞舟。正字通曰、筎。剖取竹

皮爲 集註 顧醫抄日、竹茹。唐竹ノ蹇皮。又曰、生竹筎。カ ラ竹ノナマシキアマハグヲコソゲタルナリ 附方 產后 身腫治方 蟹

三升入、年分二煎テ服之 抄日、唐竹ノ皮ヲ削テ、水 〇 くれ竹のこ 物語 漢名 猴竹筍 本草 今名

クノタケノコー集註 源氏物語横笛日、御寺のかたはらちかきはやしに、ぬきいでたるたかう な、そのわたりの山にほれるところなどの、山里につけては夏なれば、

このみかなとて、うきふしもわすがずながらくれ竹のこけすてがたきものにぞありける とて、たからなをつとにぎりょちて、しづくるよ」とくひぬらし給へば、いとわぢけたる色 よりて、いとあはたいしうとりちらして、くびかなぐりなどし給へは云、御はのおひいづるに、くひあてん たてまつれ給とて云くわづかにあゆみなど、給ほどなり。このたかうなのらいしに、なにともしらずたち ○吳竹實

竹部 竹類

日本 形狀 日本略紀日、弘仁四年、此歲吳 竹實、如一麥。其後枯光器

加波多介醫心 紀略 漢名

苦竹草本

今名 マダケ

證類本草目、善竹亦有三二種、一種出 汀西及閩中一、本概麁大、等味殊、善、不、可、食。 種出。江漸、近地亦時有肉厚、而葉主觀、第微"有。苦味、俗"呼。甜苦笋、食品所。最貴、者

一名

Ш

延喜式卷第十七日、內匠寮、御輿 一具云云盖,下楼料、川竹十株 川たけ、五十番和歌日、よそに見っ雲井の庭の川たけのひとよ のふしもうとき中かな。右は清凉殿のくれたけ、川竹

の題によせ侍れば べちのしさいなし 河竹 庭料、篙竹河竹各百株、每年山城嶼進 加波多計長名類聚鈔目、 辨色立 等竹)

介。礬竹也○按二大和本草二、河竹ヲシノベ竹也ト云非也。又竹皮ヲチズ、故ニ皮竹ト云ヲ以テ、河竹ノ 成云、苦竹、加波多計。本朝式用。河竹二字。今寒 苦宜。從5竹作5等驗。天文写本和名抄曰、苦竹。加波多

河トス杜選也、山槐記ニ、河竹口徑 一寸許、長五六寸許、作竹刀ト云リ にか竹 伯傳抄日、平生はたつといへども、しろげんに いむもの」こと云、にか竹〇接即苦竹ノ訓也 小川

延喜式卷第五日、齋宮 御讚料、小川竹二十株

华社 開墾卷第十九日、管絃にたえたる侍臣等河竹の北邊にとらす。堀 **純草紙日、** あはれなる物。川竹の風にふかれたる夕ぐれ。古今著

秘鈔日、石ハイノ間ノ前ニ河竹ノ豪アリ、仁壽殿ノ西向ノ北方ニ吳竹ノ豪アリ 河院百首日、木枯にそのこかは竹かたよりになびけど色はかわらざりけり。禁腋

#### 斑竹

在"州南五十里、巖際多"小斑竹、相傳云、舜葬"儿嶷二 妃尋至"湘水、以、手拭、淚成"斑色, 海志曰、斑竹中有。疊重、江浙、間、斑竹直一淚痕。無、暈也。按、永州名勝志曰、道州斑竹巖

ナル竹

名

班

源平盛衰記卷第廿六日、舜王隱レ給ヒテ、湘浦ト云南ニ、蒼梧ト云野ニ、率、納タリケレバ、二人

人ヲ經フ淚ニ染リシ故ニ、此竹ヲ忌也。今、紫竹班竹・二三云へ共、同類ナルベシ。藻塩草曰、娥皇女英 染リケル也。後二生と出タルモ、湘浦ノ竹へ皆斑也ト云云此竹珍敷故二、移シ楠テ世二弘レル也。昔、無 舜王崩御ノ後、湘浦府蒼梧、野納泰リケレバ、二人后常ニ行、湘浦ノ岸ニ立テ泣給へル、涙竹ニ縣リテ、斑ニ 1)0 也。塵添壒囊抄曰、紫竹ヲ忌トテ、竿ナンドニ不どが用何故ソ。堯王女、舜帝ノ后ト成給シ、姚皇女英二女、 サレバ後 ノ后歎悲ミ給ヒケルアマリ、自州浦ノ岸ニ幸ノ泣給ヒケル、血ノ涙竹ニ騷テ、其色斑ニ染ニケ - 生出竹マデモ、皆斑ニゾ在ケル。今ノ世ニ斑竹トテ、斑ナル竹ハ、彼湘浦ノ竹ノヒロマレ

集註 呂"正四位上、抖賜以、金牙、餝、斑竹杖、。延喜式卷第十五日、內藏寮。諸國年料供進。斑竹千六 續日本紀卷第十四日、聖武天皇天平十三年秋七月辛酉,是日授。左大辨從四位上巨勢,朝臣奈氏師

とて、二人の后共に敷給、漠紅をながしたるがごとし、其涙にそまりて、まがきの竹まだら也

## 古名錄卷第三十七

合笙一管 斑竹、長一尺七寸。 兩禪寺祀日 百隻o 遠江國所,進一 阿弥陀院寶物帳日、 ○紫竹 家二裁テ離トス、小竹ナリ、高サ五六尺、港繁茂ス、 本草智蒙日時珍紫ハ紫竹ナリ、和名カンチクアリ人

即著竹ノ品類ナリ、生シタル年へ綠色ナリ、翌年ヨリ鑁ノ紫黒色トナル、コレモ漢名紫竹ト云、 冬月第ヲ生ス、寒竹成熟ノ者へ黒色斑ヲナス、大ナル者ハ傘柄ニ用ユ、今別ニ紫竹ト呼ブ治アリ、 集註

勢貞太難記日、竹の根難、紫竹の鞭、差別事。 家中竹馬記曰、韓に常には竹立根の鞭まし。又紫竹、鞭は。公力様の御持ある間、たどの人は不 弓馬開書ニ、竹の根のむちは、紫竹の根へ。紫竹トハむらさき がける好の伊

紫竹仁和物也。色香むらささいろ也。此根ヲむもに作るを、紫竹のむちと云也。淡竹はむちになる物にあ 竹と云故、紫は五色の外の色なるによつて、平人はゆめ~~不可用也。 公方線 吉良殿など御用之云、元來 らず、竹の根むちは眞竹の根也。本草綱目、其根鞭喜行。東南。此竹俗ニ云眞竹之。此眞竹の根をむちにす

ちは常の竹の根むちを、煤氣にて能色を付る、上の賃竹のごとくこしらゆる品を、紫竹ハわちと云て、公方むちにこしらゆる也。唐土にては楊木和名よ此木を以て馬鞭を作る。楊一名霊壽木正云之。又紫竹のむ るゆへ、竹の根むちと云也。今用る竹根むもは、近江國栗本郡草津が出る。本は美濃國が出るを、草津にて

名湯竹 襲車にてあり○帰和牽無」と

今名

シノベタケ

四〇二

価鷺萬葉集注釋卷第三日、なゆ竹と、、唐竹を云にや、なよ竹といへり。ゆとよと同内相通也。な よ竹の、よながきなどもよめり。唐竹にあたれり。よながくして、とをくなみよれば、なゆ竹のと

塞綱長三面其、葉片大也、是稱三女竹:又謂・忽、竹。。源氏物語總角曰、しろううつくしげに、なよくくとして、ノ材トシ、饗竹二用ヒ、魚、筍トスルニ、墨竹ニマサレリ。節用集ニ、長間竹ト出セリ。雞州府志曰、一種共 をよるみことよそへたりの據式此、說則当湯竹八淡竹ニノ、ハチクラ云。大和本草田、女竹谈竹苦竹ノ內 二雌雄アリ、其雌竹ニハアラズ。國俗三女竹ト云テ、葉モ身モカハレルアリ。大竹トナラズ、皮ヲチズ。壁

からぞきて。狭衣日、なよくかに。膿は此。則ナユ竹へ、即女竹、今云シノベダケ也 しろき御ぞどもの、なよびやかなるに云る。同浮舟日、いとほそやかに、なよ!」と 一名一奈用竹

子等清云云。同卷第三日、名獨竹乃、十緣皇子云云 萬葉集卷第二日、秋山 下部門妹、奈用竹乃、騰遠依 なゆ竹 仙覺萬葉

集註 源氏物語は、木マ

大和物語目、あふ事をかたみにこふるなよ竹のたちわづらふときくぞかなしき。堀河院百首日「鷺のわぐ して、さすがにおるべくもあらず。同繪合目、なり竹のように、ふりにけること、おかしきふしもなけれど。 日、なよ竹の心ち

思ひのまゝの日記日、なよ竹のあぢきなき物おもひつきたる色ごのみどもゝ多侍とかや。赤染衛門集日 らにしむるなど竹のいづれの枝かぶしよかるらん「風吹はなびく物からなど竹の思ふふしん」有須成哉。

わがやどのみぎはにおふるなよたけのはちすと見ゆるおりも有けり。古今著聞集卷第八日 なよ竹のと申給へ云。っあだにみし夢からついかなよ竹のをきふしわぶる様々くるしき

竹部竹類

四〇三

アケ倭名類 聚鈔 漢名 箭竹槽竹 今名

南諸山皆有、之、會稽所、生最精好。貴州通志曰、箭竹、細小而勁通竿無、節可、爲、箭 桂爾志曰、箭竹、山中悉。有。竹譜曰、箭竹高者不之過。一丈、節聞三尺、堅勁。一中、矢、江

**鈔**國那部日、讚鼓國榮原、乃波真。字典曰、桀。玉篇式氏切。類篇、審韻切、弓巻矢也。俗矢字。倭名鈔曰、 唐韻云、篡音是和箭竹名也。塵添壒囊抄曰、簳、ヤカラ也。箭へり竹也。是モ竹竿心ニヤ十一二見工 ヤノシノ母、箭竹 集註 十八日、隼人司。凡應、供、大管會, 竹器蒸笥七十二口、煤籠七十 延喜式卷第五日、齎宮。造備雜物。箆竹三百七十株。同卷第

同卷第三十日、繼部司 一口。料筐竹口別六株。乾 [案餘] 籠一十四口。口別十三株。籮六口。口別十五株。預前造備\*簽 ]宮內省。 凡辦釋用度 料寬竹云云各百帙。每年山城國進之。又意六百株,大和國進。同卷

竹八株。山城區風土記曰、久世郡平間山出靈竹、每歳冬至之後初申日、吳庫寮之寮掌竹便箭用 第四十日、港灣司。鎮建祭料。篦竹六碟。雜給料。篦竹三十株。作,,, 西口及籠柄,料、髂節日、篦 今案

トミュレバ乃前へ太キョ云、之乃へ綱ヲ云ルヿ明也萬華華巻第七日、淡海之哉、八牆乃小竹乎、不造矢而。

今名 形狀 〇大和本草日、矢篦竹い節ヒキク直 シ、肉厚ク葉大ナリ。篠竹ノ類也

スド竹

6名類

漢名

奪篠

聚砂

、箭、長渚不、出。一丈、根杪條等下節生惟。高隂動。。 有一町畝、廬山所、饒也 竹譜曰、等篠、中語帶出納竹也。時"異"他篠,見:廣"至"大大者不上過之如本" ----名 之努與品所

清顯、亂友。同卷第九日、懸而小竹葉背。古之、小竹田丁子乃、妻問石。同卷第十曰、打膽。春去來者,小竹之遷。小竹宮。小竹此。云。之勢。。萬葉集卷第一曰、家疟妹乎、懸而小竹雘。同卷第二曰、小竹之葉者,三山毛

爾押騰。置露,云玄。同卷第十一日、朝柏、閩八河邊之、小竹之眼矣云云。同卷第十二日、小竹之上爾 來居而,米丹、尾羽打觸而、鹭鳴毛。寄上雲。小竹葉爾、薄太禮等。覆、消名羽鴨、將忘 云者、益所念。秋,穗乎 之 労

著制集卷第十六日、强盗をすべらかさんれらに、日暮 加。近江國野洲群篠原。之乃波良。阿波國勝浦郡篠原。之乃波良。濤該國那珂郡高篠。多加之乃。古今 鳴鳥、目乎安見云云。同卷第十三日、心文小竹荷、人不知云云。倭名鈔國郡部曰、參河園寶飯雅篠束、之乃都 **を記している。 ちょう ここと いっか ここと い の あ 風 土 記 日、篠原村篠斉 湿 也 。 新撰** 

留德之日 人音丹明 〇本草綱目、竹。集註曰、小川、篠 日本書紀日、篠、小竹也。此。云。斯奴一 士怒, 古事記日, 其后及獅子等、於,其小竹之

れば家にくだといふ小竹のよをおほくちらしおきて

萬遊集日、夏之夜之以與祇隱礼者郭公鳴

此時獻日、阿佐士怒波 真、許斯州豆拿云云 四能 萬葉集卷第一日、三雪落、阿脇乃大 野爾、旗須爲寸、四能乎押廳 草枕 志力、倭名鈔國郡部口、土佐國 長岡那篠原、志乃波良

見 萬葉年卷第十日、朝霧爾、之怱怱彌所沾而、映子島、三船、山從、喧渡所 。跼津八跡、君之間、世流。霍公息、小竹野爾所沾面、後此鳴綿經 士奴古事祀日、阿佐士奴波 良。萬紫集卷第十一

四 〇 ti

小竹原乃云云 しの竹 の竹はおきふし物の心細くて 山家集日、我なれや風を煩ふし 小竹 是 11、小竹鹿奥、小竹鹿臣。 釋日本紀 豐後國風土記日、此間有:土蜘蛛、名

ミヤト可い問い之 日、小竹宮、シノノ 保管太介、簽名鈔曰、簽。蔣魴、切讀云、簽。細々竹也。和名之乃、、新撰字鏡曰、簽。方標及平竹也。細竹也、簽也。志乃。 一云佐佐。俗 又保曾太介。

用小竹二字、謂之佐々。天文 写本和名抄日、篠。細細小竹也 化化 見上〇日本書紀曰、後。此云。佐佐f。古事記曰、手ョ草結天香山之 小竹葉,而、訓。小竹,云,佐佐,蓬萊抄曰、季御讀經事。第二日云

葉苅敷、竈鴛有跡香。同卷第十一日、妹之髪、上。小竹葉野之、放 駒玉 k。 堀川院百首日、あびきするみつのでは、紫葉卷第七日、夢耳、纒而所見、小竹鳥之、越磯波之、敷布所念。 同卷第九日、旧跡庭、聞往・嫐、大衰野之、竹、葉葉卷第七日、四跡庭、聞:『\*\*\* て。狭衣口、むかしの人のかはりには、こゝのわき葉にてもたのむべきさまにいひちぎりしかひなく。萬 で先四位麗な水於僧手以以。篠葉、麗之。東陽紀行曰、茂れるさゝ原の中に、あまたふみわけたる道あり

さいのにたづかへるなり はまべにさわがれてあけを 佐左 萬華集卷第十四日、宇練具多能、顧呂乃佐左葉龍、都由思母能、奴禮

川門所出 也久志毛 小篠 

平肥ニ出ルハ千里 竹二メ、子ザ、也 百小竹萬葉集卷第十三日、

等竹串竹各三園。『卷第三十九日、內膳司。供師月料。 四十株。 延喜式卷第三十二日、大騰 山城巡所 淮。平野夏祭雜給料。箸竹七十株。冬间。同卷第二十三日、大膳下。 上。一月平今食。箸竹八十株,雖給料。箸竹一百六十根。園縣神雜給料。箸竹 箸竹四 筯竹 延喜式卷第三丁二日、 五月五日節料。 貨茂神祭

串竹 百五十株。 串竹各三圍七月二十五日節料。箸竹、串竹各二圍 延喜式卷第三十三日、大膳下。 九十株,山城國乙訓園。三百六十株、相樂都毘鹭、園 **元月五日節料云** 延喜式卷第二十三日 官下竹、及諸祭諸節等所、須箸竹云云 齋院陪從等人給食料。 、晃牆下。 纺 凡神 竹 一嵐 献

•彼\*等 私記曰、獲、朱鳥反。說文、小竹也。察即獲字也。 亦仰三畿内一令、進。 同卷第三日、凡年中御卜料兆竹者、 字典日、彼:篇 ·植於宮中闕地一、臨、事採用。〇曜日本紀日 母類編、先鳥切。海篇、音小、細竹也

はうしろにありやらのくさをたつる也 のこと云る。 集註 以前甲二辨官、分山城國探 延喜式卷第一 しのをしたぐさにたて、其外 日、中宮御臍。小竹什株。 。進乏。伊勢國風土記日、員辨郡諸羽山、出小竹。 仙傳抄日、人をまつ花 形狀 同卷第三日、凡六月十二月晦日御 延喜式卷第一日、御 贖小竹壮株。徑各二分、長八尺 〇篠ハ山中ニ多シ、高渚五六尺、蒸箸ノ如シ。節節 贖料小竹者、月, 廿五日

細枝多 箭竹ヨリ細 シ 怷

湯小竹 集

竹部

竹類

漢名

千里竹

今名

ネザ、

左 萬葉集卷第十九日、和我屋度能、伊佐左村竹、 幹似:蘆根,實革也。廬山有之、可以、降、火 通雅日、一種日二千里竹、高七八寸、葉似い竹而

> 飯、篠、 群竹吹風ニ、旅寝ノ夢モ可」覺得ない。源平盛衰記卷第四十八日、飯篠

一名

今案

布久風能、於等能可蘇氣後、許能由布做可母

云、イザ、ハ千里竹、小竹、即之乃此也也。太平記日、イサ、小竹、風ソコギト

湯小竹之於爾·霜 降夜鳥。湯小竹、千里竹。 東葉集卷第十日、湛毛、夜深 勿行、道 邊之、

菜部

於朋泥 夏萊菔 萊菔 夏生

〇蔓菁黄菜

多加奈 菘

乎知\*

張潭

安於加良之春不老

加良之芥

知"作"

商萱

薯蕷 芋

以間都以毛

〇字毛之葉永

岐多岐須 牛蒡 〇以毛之 芋梗

〇奴加古 零餘子 

為乃止で岐

黄獨

菜部

菜類

耶麻

乃伊毛

古保禰 沙羅蔔

○加布良奈 〇燕潽子

加布良

蕪菁

四〇九

古邇夜久蒟蒻

通計二十五種

#### 紀審

源 伴存撰

菜類 令義解曰、蔬菜謂。草、可以食。者,皆爲、疏。、兵範祀曰、嘉應元年十二月二日、丈六堂供養 也。開議萠芽自、元三施僧之膳一〇海人蘊芥日、近比ハ將軍家ニモ女房達皆異名ヲ申スト

云る御菜ラバラ ニヲマハリト云ハワロシ メグリト云、

書紀 日本 漢名 萊菔 草

於朋泥

今名

ダイコン

名 於保爾 **本草和名日** 倭名斯聚鈔日、蒿。 ·来菔。 和名於保祢。 和名於保祢。 俗用。大展二字。今按、萊菔、蘿菔、皆言之消稱也。 本草類編日、萊菔。和於保祢。一名芦菔。 今謂之

註〇新 大根。字鏡曰、茯、房六反、大根 泥、佐和佐和野云 蘿菔、大根也。是謂,蘿蔔, 猿鄉 三記日、精進物者、香疾 HO 又歐日、夜莽之呂謎能、許致波茂知、于智辭於朋泥、泥土渦能、辭漏云云 日本書紀仁德天皇御歌日、梛靡之呂謎能、許玖波茂知、宇智辭於明 淤富泥 曰、言露菔之根咖時、 古事記曰、宇知斯游富泥、泥白褐能 左和也加奈利 斯漏多陀牟岐 又日、本自多:羅菔目,數 大根 日本紀

菜部 菜類

意富泥知斯意常泥、佐和佐和东 古事記 时,許 久波母知 およね。蜻蛉日記日、おほねゆのしなして、あへしらひて、まづ 桃草紙日、ゑせもの、所らるおりの 事。 正月 0 ほねの

ためのもちる云、大かた御さかなには、土大根をたてまつることこじちなり

おほね。徒然日、筑紫に、なにがしの押領使などいふなるものゝ有けるが、土おほねを万にいみじき繁 とて、朝ごとにふたつづくやきて喰ける事、年久敷なりめ云くかく酸し給ふは、いかなる人ぞ

らへにすく大根也と云、藏玉にあり るかな。是正月一日、大内にてもちるの 土おほねらにさふらふ、といひてうせにけり ととひければ、年來賴て、あさなくめしつる から物 か、見草 伊勢守貞陸記日、 大こん、から物 もはやきかどみ草やがてかつみとそなへつ 藻塩草日、大根。かく見草。 さき草の中に 集註 延喜式卷第三十二日、 大膳上。園韓神祭雜

內賭司。正月二節。蘿蔔云云有從,元日一至。子三日一供之之。供來雜菜。蘿菔四把 僧別日蘿菔 5 56各一把。仁王經濟曹供養料。僧一口別蘿菔。生菜料,以二一把 5元,四日。同卷第三十九日, 二月、江家次第卷第 語版五 工一把。春日祭難給料。蘿菔七十把。同卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經濟會供養料。 日、供爾蘭問云云大根一杯云云或此間給:看於後 取,多,給,大根,類聚雜要抄日、御 准"四升」正 ニーナーナ

供御神樂、 強問川金料。山域阿 、內脯供御頗周大根含 14等付」進物所,至 16案日進"鮮蘿蔔"名曰"咬春"。 大和國風土記曰,字稅料。山城國奈美同節蘿蔔。供銅驅網齒固六本立云~。用途料,山城國奈美蘿蔔。西宮記曰、正月

入...內膳司料。安弁郡南內屋、黃..羅葡芹菜。 鈴略 殿中申次記曰、十二月八日大根百把、例年進郡責蘿蔔。參河國風土記曰、寶飯郡貢..羅銜、赤孫鄉羅蔔。 駿河國風土記曰、鳥渡郡稻川生..芹蘿 殿中申次記曰、十二月八日大根百把、例年進上 種殖

耕地三遍把犁一人牛、魥牛一人牛、牛一頭牛、料理平和一人、下子牛人,採功十四人 延喜式卷第三十九日、內膳司。耕種園圃。營蘿菔 一段、種子三斗、惣單功十八人牛

古保禰 倭名類 漢名 沙

名沙蘆菔北征

今名イブキタイコン

生者如上筋、氣味辛辣微苦、食」之亦作,鷹菔氣工化征錄曰、有沙鷹菔色白大老徑丁長二尺許、下支

河 文 个案

ν此"則古保祢へ伊吹大根也〇爾雅曰、葵蘑倭名鈔ニ溫菘。和名古保禰、味辛大溫。據と

呼。溫茲、一名蘆菔、今謂。之。蘿蔔。也。即溫茲ハ、ダイコン也 名 こをほね 根元曰、 世繼物語。公事

其、性凌い塞不」凋有一秋之操、散字從、松。觀心此。則然ハタカナ、即シロナ也 き。松をそへて奉る、さてはひが事なり、と上皇被、仰侍き〇江陰縣志日、菘菜、 十二種供事あり。其くさんくは、若な、はこべら、苣、せり、蕨、なづな、あふひ、芝、蓬、水蓼、水雲、松とみえ たり。此松の字の事、白川院御時、師遠に御尋有しかば、岩松と書て、こほねと贈也。若此事にて侍かと申 集註 世繼物語日 九月ばかりに

びほしとりうるかなどまいらせたる也けりい鵬狩に出給ぬ云きひめをして、こほねあは

形狀

□ 根短シテ肥大、共末鼠ノ尾ノ如ク小ニシテ長シ、 ○大和本草曰、伊吹大根、江州伊吹山ニ自生ス、

味甚辛シ。煮熟スレバ甘シ、薬 八大根ト同ジ、チズミ大根ト云

夏萊菔 日記 室町殿 漢名 夏蘿蔔

致富 全書

今名

ナツダイコン

致官全書日、四月種。夏蘿蔔。小知鉄日、雹葵、蘆菔也。 龍四名春日山破地、夏『日、夏生、秋7日、蘿蔔、多7日二七酥 思言

集註

永洪印桑山法門清洲法印善淨房 室町殿日記日、 或時幽齋紹巴德

は、草木心なくばいかでか種をはらむべき、と仰られて、打わらはせ給ふ。各番で尤の御不審にて候、とぞ などや始として、各御伽申さる、折節、夏萊菔のすぐれて見事なるを御菓子に出さる」。秀吉公被仰ける

れける 返答中さ

加"和"良" 聚沙 倭名類

游名

無寄

今名

カブラ

蔓根 征喜式卷第三十九日、內膳司。 年料雜菜。邁根須須保利六石 酒 孤為 守治平等院御幸御膳生物五杯云、蕪。書紀無青類楽雜要抄日、供御脇御飯両六本立云、蘿蔔蕪。

今紫 情式·濟年料辦菜= 遊根須須保利六石、料塩六升、大豆一斗五升。 蔓菁五十石、料塩八升、稔五升。 延喜式ニ墓審根、或墓根、著根ト根ノ字ヲ用ルハ蘇善也。墓蓄或ハ著ト出ルハ葉ヲ云也。延喜内

△ 徐稔 二 ☆ 菜

純 [書根五斗、料塩九升、汁槽一斗ト觀ユ。此等蕪煮及ビ其葉ラ大豆米 滓糖汁糟等ヲ以テ鹽酸ニ成者也。其 **青根須須保利一石、料塩六升、米五升。醬膏根三斗、料塩五升四合、滓糖二斗五** 

明也。 行騰臺灣真廣屋稷宗钦。食屬敦、臺灣凌持來、裸觽、行騰艦前、息此、公トミユの此卽墓菁ヲ阿乎奈トスルコや。清明・李のと、八根也。臺灣ト云ハ葉也。倭名鈔ニ臺灣、和名阿乎奈ト云此也。萬葉集卷第十六日、詠字 び、此。則墓根、蓍根、主根ニノ爲、蕪蓍、明也。源平盛衰記曰、十二日のあき、六はらの門のまへに、おかし 倭名鈔曰、葛菁根、和名加布臭。延喜式卷第三十三日、大膳下。仁土經濟會供養料。墓著根四把。

なる法師の、はぎだかにかゝげたるが、左右の眉をぬぎて、きる物をこしにまきあつめ、箸をとりて、にたるき事をつくりものにしてをきけり。かはらけに蔓葉をたかつきにもりて、おしきにすへ、死しやくばかり たるをつくりてをけり。トミユ。 かぶらのしるをさしつらぬきて、かはらけのしるを、にらまへて立 即蔓帯ハカブラトスル可り置い 集註 下。正月最勝王經濟育供養 延喜式卷第三十三日、大膳

料。 器渡。內擊四人、渡馳道就西階、白宋女所受、云云臺書等、還立王卿前、臣下一々分取加飯上 17 云青根漬各二合。仁王經獨會供養料。濱嘉青根北斗五升二合。两宮祀曰、十月。下 ○加"不良

本草 木草類編日、蕪 和加不良奈 一名 阿乎奈本草和名日、 奈。 字鏡日 、聰明草。 燕青。和名阿乎 阿乎奈 青菜 延喜式卷第三

國一神略郡瓦 上。松尾神祭雜給料。 村東崗、上一、于時青崇葉、自山崗邊川、流下、 青菜 一斛。 內膳 ,目"闢邊川」流下,天皇韶雄三川上"有4人也。仍差"伊許白分命!往",司所5奉。 新撰姓氏錄曰、譽田天皇爲5定"國界、東駕巡逡"到"針聞

平:東夷:時、所 庁 蝦夷之後也問。4。即答曰、已等是日本武尊

葑蔓青也○蔓、字典日、集讀、護官切、音韻。蔓書茶也 新撰字鏡日、蔓、阿乎奈。 背、阿乎奈○苷。 字典日、詩疏、 蒂

塩二斗四升、稔一斗五升。蔓根須須保利六石、料塩六升、大豆 用三入下物之器一。無二次書一入」之云云曹根茹物云云〇延喜式二十九、內膳司曰、遺 **肺葵芹涤筍。灌蔥菁。茆島葵。涤篩脯。筍竹萠也菜以□米粒□和醯漬菜也。周禮艦人掌□七菹。註韭靑** 蒙人, 长立, 印鑫景景2) 明碧蓝(《《江草》 井田亭。 《演演保利、一讀一合。 菁薤二合。 群書拾曛曰、菹醾第三十三曰、大膳下。正月最勝王經齋會供養料。 菁、須須保利、一讀一合。 菁薤二合。 群書拾曛曰、菁菹蔓 江家次第日、四月二孟旬儀。次下物下器云以采女迎取 一斗五升。 幣根須須保利 一年料 一石、料塩六升、米五 一雜菜。菘蓝三石、料

无內系一 常膳本 衍式云大

\根。字典曰、周禮、註:青。臺菁也○隱日本紀曰、或說皆饒速日白\天降時、見:乃樂之地·臺青繁 升。蔓菁切蓝一石四斗 、料塩二升四 合、稔二升〇物理小識日、狂、北爲、蔓鬱、有、根狂、南爲、菘爲、蕎无 あ

集巻第十八日、聖信房弟子共、くとたちを前にてゆでけるに、なべのはたよりくどたちの葉さがりたりける たわの大きさにおはせしを。平家物語日、われらがなたわの二葉まりおほしたて給い。 闘編倭國事界日、秦奈。接ニ奈ト云へ譜楽ノ纜名也。竹取物語曰、竹の中よりみつけきこえたりしかど、な 登、等母遊斯都米婆、多怒斯久母阿流 大御業了、探。其地之樣菜一時、天皇到二坐。其應了之探、茲 題二叶, 伊勢守直陸記 蘇書ラ春ヨリ冬ニ至テ道々下種シテ泰リシ事明カ也今云コカ然 物 今家 古書書ヲアヲナト云、公事限元、人日七種菜ニ書ノ字ヲすずなト云。 延喜式卷第三十九日、內膳司。供奉雜菜。臺灣四把、自二正月一迄二十一 過のトミコ V パ、上古阿袁奈ト云ル 1 松二 ソ蔓青ニ レ圧 古事記日 非ル事 ト親ユロ 於是爲之後

採功

〇蔓青黃菜延喜

漢名

る。かまいてたれかつくりそめけん。據法此"則奈ハ卽爲"油菜,可、蹤。くゝだちハ卽油菜ノ器也を見て,其座に有ける人のいひける「、くゞたちのやいばはたりて見ゆる哉。 房主うち聞てのけ

集註

十二日、大膳上。園韓神祭難給料。墓籍六斗。釋奠祭料。墓籍蘋玉云各二升。同卷第三十三日、大膳下。 日本書紀日、持統天皇七年三月、丙午、韶、今至天下、勸、殖、宋五、东蕪青等草木了、以。助是五穀等。延喜式卷第二

七升六合云云墓青九斗五升二合。右雜菜、正月最勝王經濟會料云云 正月最勝王經齋會供養料。臺菁一升。仁王經濟會供養料。 ガ蔓菁四斗

種殖

延喜式卷第三十九日、 內膳司。耕種園園。

營養蓄一段、種子八合、惣單功三十一人牛、耕地五遍把犁十二人牛、馭牛二人牛、牛二頭牛、料理平和一人、 **徽士百二十擔、擔別准重六斤、運功二十人、人別日六度、從**。左右馬寮: 連。北園。下皆准上此。下子半人月人皆書了一月,君子了了,是是写了一人,是非常是一个人。

則取"入、客獲培"不、見、風日、長。出、黄 葉」嫩黃色脆美無。滓謂。之。黃芽菜子

造製 **菁黄菜五斗、料塩三升、栗三升。** 延喜式卷第三十九日、內膳司。潰年料雞菜。蔓 黄芽菜。正字

通

今名

ウグヒス ナ 註曰、北京 正字通 菘

カブラノタネ

燕箐子

式延喜

通名也

今名

集註

延喜式卷第三十七日、典藥寮 諸國進年料雜樂。伊豫國云云

右漬春菜

菜部 荣類 各三升 燕青子

四一七

### 多加奈本草 淡名 草 今名

D

嘉興縣志曰、多榮一名白菜即燕夏種多收、時珍食物本草曰、白菜、菜扁關而色雪白、葉青多。細白經:葉嶋有 本草綱目目 □、按陸⑪埤雅云、底性凌√多不凋、四時常見有」松之樂、故曰√茲、今俗謂。之。白菜、其色青白也。

ル晩不 二作

太加宗 隆反。荣省, 尺、亦開三黄花二味極美 **國等。與素源高二** 之惠 本草 集註 名 大加南 延喜式卷第三十九日、內膽司。清年料離菜。菘蓮三石、料塩二斗四 升、愈一斗五升。本草續編日、蒸、甘溫无辱、和太加奈。 天文写本和名沙〇木草和名 日、蒸、白菘。和名多加奈 太加奈 宋草照編()新撰 字鏡日、茲。息 又云、之惠、

百、負罪那便學涂鄉田國五來獲答等 名孫雲、映微苦雲也。伊勢周風土記 形狀

つ白菜へ油菜ニ同ノ葉欄短整白色、 葉二白ヲ帶、油菜ョリ花開クフ早シ

今名 マナ

事例 物理小具口。何月收子。油名品意、倘如 IT KI 此之被這門所指下你行 汽名 生态本

日海溪。此門所喻菜也 和名于知。天文写《和名抄

芸養

延喜式、本草和名日 張等。和名乎別 名 於知 不可食之。倭名劉聚鈔曰、芸靈。雲臺二音、 太草類編日、芸墨、和太天宇朝見、又於知。人 ウ チ 修訓 延喜式 集註 延喜式卷第三十 二日. 大膳上。

種殖

延喜武卷第二十九日、內膳司。 耕種園園。營養臺一段、稱子一

一擔、運功二十一人、下子华人、三月八月○按世ニ多キ油菜也。春蒸ヲ探食ス。次ノ九久多知也 升、惣軍功二十八人、耕地二遍把犁一人、馭牛一人、牛一頭、料理平和二人、鞋上作二人、養百二十

久多知 漢名 菜汞縣志

今名

マナノタウ

正字通日、油菜、多種春日暖 抽:嫩心,閉、花、黄豆如、金、摘

い心爲:荣茹、其旁心。 結子、可以控油 五丁 · 葉集卷第十四日、可美都氣野、左野乃九久多知、乎里波夜志、安 江家次第卷第二日、正月二宮大饗云云莖立包燒蘇甘栗給之。萬

母。拾遺集物名日、くゝたち 禮波麻多牟惠、許登之許受登 くっ くいたち、く」 伊勢守貞陸記日

集註

雜菜。 莖立四把、准二四升、二三月。 延喜式卷第三十九日、內膳司。供奉

曰、母屋大饗、饗膳云 - 進物鮒果燒、莖立、鳥足汁,魿、是四種也。 祗園執行日祀曰、正月六日。 堀川神人伇 .. 北山抄日,大饗事云云四献後差褁燒莖立。江家次第二日、正月大臣大饗云云次莖立有"指鹽。類聚雜要抄

の物なり。十二種には有る松、七種には皆若菜計也。若菜と云、子日本也 **雲御抄日、若菜。なべては野にてつむ。又垣ねなどにてもつむ。又七日** 

集註

萬葉集第十二日、乎 登賣良我、春菜都麻

菜類

に、左大將殿の北方、わかなまいり鈴云、「小秋原すゑのよはひにひかれてや野邊のわかなもとしをつむ 須等云 ※。北山抄臼、正月上于日供若豪事。內藏內膳司各供之。源氏物語若荣曰、正月廿三日 ねのひなる

り給。この院にも御心すらけよのつねならず、わかなまいりし。同手習日、わかなをへろそかなるこにい べき云、御かはらけくだり、わかなの御あつ物まいる云、二月の十よ日に、朱雀院のひめ宮、六条院へわた

な。とてこなたに奉り給へりければ、雪ふかき野べのわかなもいまよりは君がためにぞ年をつむべき。 れて、人のもてきたりけるを、尼君みて「山ざとの雪間のわかなつみはやしなをおひさきのたのまる」か

ろにもてさはぎ。年中定例記曰、正月六日出仕の人なし、松尾より若奏進上。公事根元曰、供。若菜。 内藏 饗、ならびに內膳司より、正月上の子目是を添る也。寬平年中より始れる事にや。延喜十一年正月七日に、 土

左目記日、

わかなぞけふをばしらせたる

「あさぢふののべにしあれば水もなきいけにつみつるわかなな りけり。枕草紙日、七日は、雪まのわかな青やかにつみ田つ、、れいはさしもさるもの、めぢかからぬとこ

たり。若菜を十二種供事あり。其くさ(一は、若な、はこべら、萱、せり、蕨、なづな、あふひ、芝、蓬、水蓼、水 後院より七種の若菜を供す。又天酥四年二月廿九日、女御安子の朝臣若菜を奉るよし、李部王の記に見え

ル界ペミこぎ カ書キ有そへ セヲル云ぐ

世證問答曰、延善十一年正月七日二、後院ヨリ七種ノワカナヲ供ス、トミエタリ。其し種ノワカナトイフ 雲、松と見えたり云、霧常は、若菜は土種の物也。霽、はこべち、芹、著、御形、すどしろ、佛の座などなり。

天神モ和菜羹吸口ト作給ヒタレバ、ムカショリ侍リシホニヤ ハ、清、ハコベラ、芹、酱、御形、スベシロ、佛 ノ座ナド + りりの

證領本草日、芥。 云、似、怒而有」毛、味辣 陶隱居

一名 賀良之 芥子。同葉蒜類曰、芥。和名加良之亦同文 倭名類聚鈔關菜類曰、芥菜。和名賀良之。俗用:

辛沙明文

写本下學集日、草木門。山葵生舊寶蓼辛胡麻云云。展添壒囊鈔日、禪家三八不共ノ名月多侍り、韓菜 漬物也。倭名鈔國郡部曰、上野國多胡郡辛科、加良之奈。播磨國辛室、加良牟呂。字彙曰、芥辛荣

カラシ ハミカラシノス、エイモミカラシノス、王餘魚ハヌタズ。精進魚類物語曰、實辛、新、四條洗庖丁書曰、サシ味之事。鯉ハワサビズ、鯛ハ生姜ズ、鱸ナラバ蓼ノス、フカ四條洗庖丁書曰、サシ味之事。鯉ハワサビズ、鯛ハ生姜 集註

子三, 勺。同月修, 太元師法, 料。 芥子七升八合。大安寺讀, 大般若經, 類會供養料。芥子二勺。嘉祥寺春地 上。凡諸國講師年中供養云云芥子各一兩。凡出雲國四王寺春秋修法。每、季七筒日供養料、芥子五勺。同 藏恆過料。 雜給料。芥子三升二合。同卷第三十三日、大膳下。聖神寺季料。芥子四勺。正月最勝王經濟曾供養料。芥 卷第三十二曰、大膳上。 園韓神祭雜紛料。芥子一升四合。 平縣夏祭雜給料。芥子二升、多加,五合。 春日祭 各二升。甲斐國、中男作物、芥子。信濃國、中男作物、芥子。下野國、中男作物、芥子。同卷第二十六日、主稅 延喜式卷第五曰、齌宫。月料。芥子云云各三升。同卷第二十四曰、主計上。凡中男一人輸作物。山薑、芥子 芥子四升八合。七寺盂蘭盆供蹇料。芥子四合。 仁王經濟會供養料。芥子一合二勺、好物料五

菜類

二升九合九勺三撮 主膳監。 月料。 形狀

紫色」ト云ハ紫芥也。即ムラサキカラシ、本草蘇頭ノ説ニ、紫芥莖葉純紫 本草類編日、芥。 和加良之、論云似、茲而有、毛、 味板辛如言紫色。

安於加良之

也

雷州府志日

漢名

春不老 府志 雷州

> 今名 葉ガラシ

多種至二正二月不工花 、森不老、菜名、 名 多加奈 芥、小者謂」之。辛芥、音介、和名多加奈。按茲ト同名也 倭名類聚鈔曰、辛芥。方言云、趙魏之問謂,蕪菁,爲,大

集註 之。三月三日採明干 本草類編日、安於加良 形狀 不老,為,第一、トイヘリ。他芥ヨリ罨蓮シ、是ヲ以名ヅク。是〇大和本草曰、大葉芥アリ、王世懋が瓜疏疏ニ、芥多種、以。春

大葉芥ナルベシ、葉最大ナリ。 老ハ芥葉ョリ大ニメ緑色、春月菜トナシ食フ 味モ亦住。 春不

知\*佐\* 折貨 字鏡

進名 萵苣

H 今名

名 知散 抄用。萵苣二字。字鏡曰、苣。知佐 倭名質聚鈔日、昔。 和名知散。 漢語 仁加知佐 本草類編曰、苦巨。仁加知佐〇本草 綱目云、嘉祐本草言、嶺南吳人植

按三如三

者也 ト式ル 本草類編日、白萱。和知佐。又云、安末支知佐。觀心此。則安末支御佐ハ、苦萱三對ノ、白萱ヲアマキチサン賞。供は鯉、名・苦萱・〇本草和名日、白苣。和名知佐。按白萱ハシロギサ也。本草綱目、色白・者。爲・白鷺・ なまいものくき、ちしやなどをも、湯にをしても吉 藻塩草日、十二種若菜云くちしや。大草家料理書日、 はひろ 伊勢守貞陸記、 しやちやうはひろ

ちやう見 集註 式卷第三十二日、大膳上。園韓神祭雜給料。萵苣五斗。春日祭雜給料。 本草類編日、苦苣。和知 作。 又云、 仁加知佐、 莖中白汁傳丁腫出根甚感。 高萱

葉、生菜料华把。同卷第三十九日、內膳司。供寒雜菜。萵苣四把、准二一升二三四五月 七斗。同卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經續會供臺料。萵苣半把六葉、好物料六 種殖

> 卷第三 延喜式

十九日、内膳司。 耕種園園。營高萱一段、種子三升、苗一千五百把、惣單功三十九人半、耕地二遍把犁一人、

六人、月芸 一遍三人

岐多岐須 聚鈔 倭名類

漢名 牛蒡 草

今名

ゴボウ

細則百十掛。簇之二一樣有了子數十顆、其根大者如、臂、長者近、尺、其色灰彩、七月采、子、十月采、根 本草綱目曰、牛蒡三月生、苗 起、華高者三四尺、四月開、花成、叢淡紫色、結、寶 如 三風林 一而小

茶部

四三

名

宇末不々岐 倭名鈔日、牛蒡。和名較多較須、一 云宇末不《岐。今按作、房者、非也 午房 行日記 祗園幹 支太支乃須 類編草

学 同 子芳 錄外書日、松野殿女房御返事云云名荷 ハシカミ大豆エピ子房ノ物給り候キ ごん 伊勢守貞陸記日、 こばらごん 支太支須 字鏡 新撰

集註 食者也。支太支須。駿河國風土記曰、鳥渡郡西島、莲牛芹。安弁郡足罹、田芹菜蘿蔔牛房等。類繁 本草類編曰、惡實。和支太支乃須、己波宇。所々有之、臨時取之。新撰字鏡曰、平醫。方放反。根

抄日、牛房葉ラモミフクタ 雜要抄日、宇治平等院御幸 御膳干物五坏云、牛房 メテ付、即平態ス、最上也 支太支須乃爾 附方 玉門額左右腫上皮爛、馬之背ノ如ク疼痛不可忍治ス 鏡字 漢名 鼠粘子 草本 今名 ゴバウ 医 頓

3 字鏡曰、惡實、

以別都以毛養的 支太支須乃剛

漢名

聚砂

今名

名 以倍都以毛 天文写本和名鈔〇倭名鈔日、芋。四摩字宛云、 等。葉似之荷、其根可之食」之。 和名以閉都以毛 字毛 荷葉上歌。蓮葉者、如

家在物者、宇毛之薬鏑有之しろみ草、漫塩草目、芋。 露取草 藻塩草日、露取草。七夕の歌や書り に、いものはの露にてかくなり

「家ノー芋」或臼、石、根ト云、或苗トモ云へり。如、此釋モ不二一准、多分、根付タル名也〇字典曰、華陽國志、東陸、東原、壒襲鈔曰、家ノ芋ヲ蹲鶏ト云心如何云、ボ芋形ウズクマレル・第二似タリト云へキコアリ云云

蓋芋魁之狀、若。賜之蹲坐。故也 汶山大芋如三蹲鴟。本草時珍日、 イヘノイモ一鉄外書日、上野殿御返事、イヘノイモ一駄、牛房一ツ ト大根六把云云。又曰、イエノイモ一駄云云。松野

殿女房御返事、麥一箱、イエノ イモ一龍、ウリ一籠等云云 イモ 録外書曰、九郎太郎殿御返事、イモー 駄、クリ、ヤキゴメ、ハジカミ給候ヌ アラヒイモ母、ア

俵沒給畢 ラヒイモー 里いる包丁聞書曰、雑煮上置之事。串勉、串海風、大根、青菜、花鰹。右の五種を上置にす ると。下盛に里いも、其上にもちを置と。規式の握やう有。又上置に串姉、勝栗、

精進の仕立なり 結厳などする事、 まも も、おいもまるとも 子 イモ 鉄外書日、高橋殿御返 根芋康富記日、嘉

方。生芋妳。搗碎和糯米粉爲餅。油煎。芋嫩ハイモノコ也 日、自大住庄常司領盆供根芋云云等到來()遵生八牋日、芋餅 集註

· 茂祭齋院陪從等人給食料。 孝子

九日、內膳司。供奉雜榮。辛子四升 正九十十一十二月。其東宮云云辛子各二升。駿河國風土記曰、烏慶郡 八升四合。同卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經濟會供養料。芋六合、菓子丼菜料各三合。同卷第三十

英部 英類

**祀曰、久壽二年十月一日、內裏平座如例,寒書加賀體守經光、法性寺殿調進非時櫃物二合、此中白米五** は九分め程人ル。せつぶん御遊わ井の事、名月のごとくにこしらへ候て、いも大はちに九分め参ル。人事 大豆小豆等和布塩各百合、布施供養、裏書十一日、河內守資泰調進、法性毒般非時千三百合。自米千合、小豆 西島產子。 御散飯調進次第日、八月十五日名月之御祝、いも大小のはちに一ツづ\。但大キなる御はちに 百合

人、五六七月度別三人、堀功四人、欅功十人。 **芋塩**各百 豊後國風士記曰 "史化: 芋草數千許、株多梁 合云、 種殖 地二遍把犁一人、馭牛一人、牛一頭、駐上作料理四人、確功三人月獲功六人、芸三遍六 延喜式卷第三十九日、內膳司。耕種園園、營芋一段、種子二石、惣單功三十五人耕 ○芋かしら徒 漢名 蹲鴟 草本 名 今名 イモ

イモガシラ 農園六書日、常、心出、苗者為、芋頭、四邊附、之而生者為、芋子。 知錄日、闡賜。前灣食貨志、卓氏曰、岷山之沃野石。蹲鴟。註芋魁

カシラ 蘇外書曰、在月二日イモガシラ石,樣ニホサレテ候、一駄富士上野ョリ身延山送給 イモ

くくひける。誤議の際にても、おほきなる鉢にうつたかくもりて、ひざもとにやきつよ、くひながら文をも つれノード、貧速院に、感到情都とてやんごとなる智清行けりっいるがしらといるものをこのみて、おほ ノカシラ 鉄外書日、五月十四日ニイモノカ シラーいりザトオクリタビテ候 低进一 少賦、障碍云云各十五號。已上忌部所少作 延喜式卷第七日、踐祚大當祭。阿波圖所

らびて、おほく喰て、万の病をいやしけり。人にくはする事なし。たどひとりのみぞくひける よみけり。煩ふ事あるには、七日二七日など、療治とてこもりゐて、思やらによき芋がしらをえ

うりこ 精進魚 類物語 漢名 青芋 群芳譜、青芋有。同名。群芳贈曰、芋。製用。芋多。惠、種無、論。野 生、即田園所植亦須、擇種厚態、不以然有上青色多山斑駁、者,味最劣、

青芋多毒、先以二灰汁」数。 亦可以易水煮、熟乃堪以食一 〇以毛之、褒鈔 漢名 **芋梗** 寄園寄 所寄 今名

クキ 一名 以毛加良 倭名鈔曰、唐韻云、軟。孝壅也。和名以 毛加良、一云以毛之。俗"用二芋柄二字 **芋**柄 註 見上 芋莖写本

和名鈔日、唐韻云、敬。芋莖也。 和名以毛之、俗用、芋柄、芋茎 芋ノ莖 集和石 イモノクキ同 いもし 日記 いもの

すひき 大草家料理書口、生青鷺料理之事。云、但古味噌の時は、いものずひきを酒 にて顛て入候也。又曰、鴨鷄ハ云、但ふくさみその時にはいもがらも吉 式卷

砂石集日、松尾ノ證月房ノ上人ハエ云只一人松尾ノ奥ニ、人ニモシラレズノ、七日ガ時料ヲ用意ノ、カリニ 第三十九日、内膳司。供來雜菜。等蒸二把。六七八九月。土左日記日、いもし、あらめもはがためもなし。

庵ヲムスビテ、修行セラレケリ。七日ノ食盡ア、羋ノ遬ノヒタルヲ水ニ入テ、ヤハラカニナシテ、食テ、今日 ノ命ラノベント思ハレケル程ニ、薪取山人見アヒテ、其日ノ食ハ供惷ノケリ。又イモノクキヲバ、ホシテヲ

菜部 菜類 ノニ食ノニテ上

ヒテ、時料ヲクリケレバ、ツヰニイモノクキモチヰズメ、食物アヒツイデ行ハレケリ キテ、次ノ日水二入テ、食ニアテガヘバ、又山人見ッケテ、供養シケリ。其後連々人見ア

集 萬葉 漢名 荻 全書 農政

今名 イモノハ

渠、芋、其、薬謂・之。軟↑○いもの花り傳 農政全書"日、廣雅"日、

>莖生、花黃色、旁有二一長夢 護、之如。半邊蓮花之狀 本草綱目曰、芋不、開、花、時或七八月、間"有"開者、抽

集註

うげんにいむもの」こと云さいもの花 伯傳抄日、平生はたつといへども、し

耶麻乃伊毛 天文写本 形狀 ○芋花、常二種ル芋ニ閉「稀也。青芋ノ一種、其根小園ニノ簽ナル 者、花ヲ開クコ多シ。形狀天南星花ノ如シ、黄綠色、內ニ圓蕋アリ

漢名 薯蕷草本

和名鈔

今名

ナガイモ

一名 山伊母 新撰字鏡曰、署 夜萬都以毛 倭名類聚鈔日、山芋。和名夜 萬都以毛。俗云、山乃以毛 山乃以毛見

註 字、伊毛 日、預芋二 也未都以毛 本草和名日 署預。 集註 延喜式卷第三十三日、大腩下。正月最勝王經濟會供養料。署預五十各二合。諸國 實進集子。越前國、異預二擔。北山抄曰、十九日御佛名事云云廿一日云云僧侶退 也末乃伊毛類編 長芋 尾張國風土祀曰、中島郡島 山出長芋羽瓜云云等。字鏡

八月有任大臣事、次居尊子云、吴預。今昔物語曰、こゝに夢、務あり堀で見せ春らんといふに云、。古今下、名對帝後、賜酒者鑒預於王卿。雲闢抄曰、御佛名事。第三夜勸吳預羹、六位役之。人事祀曰、保元二年下、名對帝後、賜酒者鑒預於王卿。雲闢抄曰、御佛名事。第三夜勸吳預羹、六位役之。人事祀曰、保元二年

猿死して有。山のいもをふかくほり入て、穴に落入て、えあがらずして死たるなめり。宇津保物語俊蔭日、 とむるに、ある山のおくに、かたはらに山のいもををきて、かしらをあなの中に入て、さかさまにして、一の あかの色なれやわがまがきなるなでしこの花。同卷第二十日、吐猿見へず、あやしく思て、山をめぐりても 著聞集巻第五日、右のなでしこのませに、はいかよりたるいもつるのはに、かきつけ待る一万代に見るとも

幸一すぢをほり出ても、まづ率らんと。又曰、いもほりそめし童いで來て云▼。殿中申次記曰、正月八日、

山等一折、若王子。例年進上之。鄭入記曰、きやらのせん云とひしほいり、山のいもを、かはすきて、一寸ば したため候て、うへにあまのりをよくなり かりにきりて、きじをつくりて、たれみそにて

形狀 料。 薯蓣三根牛、根長一尺、徑一寸、菓餅料二根、 延喜式卷第三十三日、大膳下。仁王經濟會供養

生菜料华根 ○山藥 通名。即山 生ニノ乾製者也 中自

出。山藥。富土那溝口。外寬。山藥。 部山。貢山八壅葛精等。安介郡芸野牧山。

> 今名 ホシヤマノイモ 〇駿河國風土記日、鳥遐 郡位壁。蓬山藥。矢田

集註 延喜式卷第三十七日、典藥簽。木工寮四十種。云云 本草類編日、薯蕷。和也未乃伊毛。二八月採根暴乾。

國、素蕷 5 五各一斗。参河闽、襲蕷二斗。遠江國、粟蕷三斗。 駿河國、棗蕷 5 五各二斗。伊豆國、薯蕷 5 五各 臺嶺云至各一斤。諸國進年料雜藥。大和國、臺嶺七斗。攝津國、臺嶺六升 伊賀國、臺蕷桃仁各五升。 尾張

斗。常陸國、賽養二升。近江國、薯蕷Ku各一斗。美濃國、薯蕷二斗。越前國、薯蕷二斗。加賀國、薯蕷 斗。甲斐國 、薯蕷二斗。相摸感、薯蕷一斗。安房國、薯蕷五升。上總國、薯蕷四斗。下總國、薯蕷云云各

内縣國、薯蕷四斗。 伯耆國、薯蕷九升。 出雲國、薯蕷六升。 石見國、薯蕷一斗二升。 播磨國、薯蕷九升。 美作 一斗。越中國、薯蕷二斗九升。丹波國、薯蕷二斗二升二合。丹後國、薯蕷一斗。但馬國、薯蕷云云各一斗。

記曰、意字郡、所在草木薯蕷。秋鹿郡、所在草木薯蕷。構縫郡、所在草木薯蕷。飯石郡、所在草木薯蕷。大原 一斗。周防國、專預八斗。紀伊國、專積六升。醬酸國、裏嶺云云各一斗。伊豫國、專蕷八升六合。土佐國、署 國、蒙積十五兩。備前國 一斗二升。美濃國風土記曰、渥美郡義婦山出雲蕷。大和國風土記曰、平群郡膽駒鄉貢薯蕷。出雲國風土 蒙荷云 五各四升。備中國、惠荷六升。備後國、嘉預一斗四升。安整國、惠荷云 五各

記曰、鳥渡郡两島、蓬薯蘋。鷹河郡篙科山、賈薯蕷。手越真薯蕷 郡、所在草木棗蕷。安房國風土記曰、平群郡、賈專蕷。駿河國風土

藥製

頓醫抄日、山藥。 ツテ、上ノ皮ッコッゲムキ 竹川ヨモ

テ、布ヲモツテ能々拭テ、竹刀ヲモツテ薄切 へギテ、日ニ可干。抹セントキハ木臼ヨシ 〇奴加古 本草

漢名

零餘子草本 今名

沿加古 委名類聚鈔日、零餘 ヌカ子

源平路 衰犯

ムカゴ

所結丁也。

長山下と一、皮黄肉白

一名

本草綱目日、零餘子。此即山藥藤上

集註 延喜式卷第三十三日、大膳下。諸國貢進菓子。越前國暑預子二棒。平家物語卷第六 日、ある時白川の院能野へ御からなる。紀伊の國いとがさかといふ所に、御こしか

れ、御前へまいり、かしこまつて、ているが子ははふ程にこそなりにけれ。と申されたりければ、院やがて キすへきせ、しはにく御きうそく有けり。その時たどもり、やぶにいくらも有けるぬかごを、袖にもり入

聞えー歌よみ云、ほどなく、八幡の別常光清に相ぐして、たのしく成にけり。子などいできて、後もろとも 御こゝろえ有つて、たいもりとりてやしなひにせよ。とぞ付きせましくしける云く。今物語曰、小大進と

にいもがめかごはなりにけり。といひたりければ、ほどなく小大進、今はもりもやとるべかるらむ。とつ に居たりける所、近き所にいものつるのはひかゝりて、ぬかごなどのなりたりけるを見て、光清へはふほど

は、山のいもの、ぬかごよきころに入べく候 けたりける。大草相傳聞書日、たらのうはをき

一形狀 如卵。和名奴加古。源平盛衰記卷第廿六日、 本草和名曰、零餘子。此署預子在葉上生、大者

保安元年ノ秋、白川院熊野御参詣アリ。忠盛北面ニテ供奉セリ。絲鹿山ヲ越給ヒケルニ、道ノ傍ニ要、黃 紋枝ニ縣リ、零餘子玉ョ連テ生下、イト而白々報覽アリケレバ、忠盛ヲ召テ、ア,枝折テ進セヨト仰スの忠

仕ルの這程ニイモガヌカ子モナリニケリ云る 盛零餘子ノ枝ヲ折進、スルトテ云云一句ノ連歌ヲ

爲乃止之岐 本草

鎭江府志日、黃獨。莽蔓花實絕類。山藥、

葉大而稍圓、根如」等,而有」鬚、味微苦

漢名

黄獨草本

今名

ケイモ

一名 爲乃止々木 倭名類聚鈔曰、赭魁。 和名爲乃止尽木 止

四三

英部 菜類

赭魁。 一名土卵、

伊乃止、支后 以奴止、岐 天文写本 和名鈔

今案 本草和名日、 一名黃獨、一名土芋。和名爲

乃止之陂。據以此"則爲乃止之岐 二月採して、駅如『小芋」似『入參』日本武州多生野之。此説ニ猴テ考レバ如『小芋」似『人参『ト云ハ、羊乳ニ 八黃獨也。本草類編曰、赭魁。味甘平无毒。和止々支、又云伊乃止々支。

渡リシコアリ。形態與ノ如クニメ紫黒色、內へ赤色ニメ赤汁ヲ出ス。本草、保昇日、赭魁。根若,喪爽、皮 紫黑、肉黄赤。大者輪国如,升、小者如、拳。時珍曰、今南中極多、、濱黑肌赤似了。

11

沙参也。ト、キ人参ハ沙参也。ヰノト、キハ即ツル沙参也。蘇魁、和產未詳。

本草啓蒙日

、先年生根

何首為「切」破一中有。赤理」如三稽鄉「有」汁赤如、赭、彼人以"染」皮。製、靴

蘇及门延喜

漢名

胡蘿蔔

草本

今名

ニンジン

新撰字鏡曰、敬。 掌、兒 草字註。又華字註曰、爾雅釋草、蘭故韉衣、註、似、芹可、食。子大如、麥著·人衣。 女加反、藝苑、曾良自。茭、曾良自○按字典曰、茲。按、諸茲本作。諸

自言胡地・米ト云へ圧、鞍河溪里土記ニ、鳥渡郡西島、澤高胡蘿蔔牛房ごト云、即本邦古ヨリ胡蘿蔔ヲ蓬スル可又虁本佐波曾良之野胡蘿蔔,藁本トス。鳥渡郡西島、澤高川、曾東自へ胡蘿蔔也。胡蘿蔔ハ本草ニ元、時始。 说也。 元八鎌倉 曾良之 複博物志日、薫渠者崇羅門云、 和曾良之。異本本草類編日、蓍蓬。 阿魏。和産ナシ〇著莲ハ、タウギサ甜菜也 和曾良之门 黨渠

北条氏ノ明也

**莉羅自六斗、料塩二升四合。右漬」春菜、料** 延喜式卷第三十九日、內膳司。 潰年料雜菜。

種殖 九日、內膳司。 延喜式卷第三十

頭、料理平和二人、蛙上作二人、蓋百三十二擔、蓮功廿二人、殖功三人、凡芸一遍二人、刈功二人 耕種園圃。營藏良自一段、種子三石五斗,惣單功三十五人、耕地二遍把犁一人、馭牛一人、牛

古邇夜久聚鈔

漢名 蒟蒻草本

今名

コムニャク

點。物理小識日、蒟蒻似,天南星、一幹圓十一葉。但南尾葉平、蒟蒻葉翹耳 本草綱目曰、蒟蒻宜。'樹陰下、春時生、苗、長一二尺、與。南星苗、和似。但多。斑

一名 古尔夜久

日、蒟蒻。和名古迩夜久 天文写本和名抄〇倭名鈔 己仁也久類編 古尔也久本草和名曰、蒟蒻。 和名古尔也久 昆若。文明写本下 學集日、昆

コンニャク 錄外書日、上野殿母御前御返事、スリタウフ、コンニヤク、 柿一籠云云。上野尼御前書、スリタウフ、蒟蒻□一籠云云 にやく 伊勢守貞陸 記日、こん

やくとも にやく、に こんやく 何も萬の精進物、油にてあげても吉也 大草家料理書日、ふやこんやく、とうふ、 荷蒻 日、蒟蒻磨汁寫三褐腐 精進魚類物語〇物理小識

拾遺集物名日、とにやくつ野や見れば春めきにけり青つどら籠にやく まゝし若菜つむべく。包丁聞書日、盛合せぬ品々、辛螺に、こんにやく

形狀

蒟蒻。和己仁 本草類編日、

菜部 菜類

也久。秋有花生亦子、其根也○本草啓蒙日、蒟蒻。形状応掌=類ノ圓莖、綠色ニメ紫黒點多シ。葉へ枝ヲ分 チ川三十葉並ピッキテ、斑杖ヨリ狭々長シ。根老ル者へ四月先が花ヲ開、長サ二尺許、徑一寸餘、左右ヨリ

尖り、後二八開キテ筒ノ如シ。外色紫黒 一三重相包ミテ竹簿/如シの其末初メハ

古名錄來部卷第三十八終

#### 香蔬類

岐\*

此に 〇世が三 巻子

> 布由岐\* 多葱

爾北流

澤蒜

比止豆比流

獨子葫

古美良蓮 破餌介瀰薑 囊荷

於保美良

古之前萎 和佐比薄菜

通計十七種

於保比留

葫

阿佐豆木 絲葱

〇保之波之加美

菜部 香疏類

# 古名錄菜部卷第三十九

紀藩

源 伴存撰

香蔬類 漢名 百練抄第六日、崇德天皇、大治二年八月十 葱草本 日、釋奠。依二致生禁断、不少供一童脾之類 今名 ネネデカ

一名 葱、和名紀 比止毛之實、和比止毛之 ーもじ 職人恭歌合日、一もじうり。 こひといいひともじゆへにい

僧へ夏ブテニラヒトモジヲバ用ルナリ。自余ノ五幸ヲ堅々禁ズル也、比嶺大乘律ノ辛也かにしてかきやるふみのかずつくすらむ。伊勢守貞睦記曰、き。ひともじ。鏖驢嘶餘曰 细 うつほ

きり。うすあをのかりぎぬのしたに、もえぎおどしのはらまきをき、つるぶくろつけたる太刀わきばさん 古、職人毒歌合田、一もじらり。紅葉せで秋もも で、殿上の小庭にかしこまつてぞいける。くはんしゆいけあやしみをなして、うつぼばしらよりうちすど えぎのうつほ草つゆなき玉と見ゆる月かな ウツホ海人藻介日、葱ハウツボ、如此異名ヲ彼い付。 平家物語日、左兵衛のぞう家貞といふもの

らつぼ柱、小落と。夫木集日、信寶。しのぶわけてう つぼ柱にかくる樋はもるてふ水のくちやなからん 新撰字鏡日、菍。七 公反、平支。比留

集註三十二日、延喜式卷第

把。准二一升、正四五九十十一十二月。本草類編目。肢。五月六月採。山槐記曰、薤蒜於皆神宮之智不憚也 大膳上。園韓神祭雜給料。葱一斗。春日祭雜給料。菍三斗。同卷第三十九日、內膳司。供奉雜菜。菍三

又曰、與濟論、是罪。酒、重ク蒜、輕シ云、云况。葱薤ラヤ、又食以蒜大事トス云云又月水ノ女見、之失、驗ラト 、日本ニモ、馬醫師ヲ伯樂ト云也エ云葱白根七筋、水天目一餘リ入テ、一盃三煎ジテ、可、飼

度々葱の食者多の驗シアリト云へり。但雅忠ガ説ニハ、熱氣ノ間ニ可、食、初熱誤テ後ハ可」思、の 誰ヲ食ニ、平態スル者多カリケレバ、明ル九年ノ官府ニ云、此病成上痢。時、<u>蒸</u>韭ヲ煎ノ可。多食 難風ニ逢テ、新羅國ニ著ク、其人移り病テ飯リケルガ、次第二五畿内一及ビ、帝都ニ流布シケル也。其時藝 云云仍名用三茶雄司一服ト云云又曰、疱瘡トハモカサ也。本朝二疱瘡ヲ病初也、筑紫ノ著魚ヲ賣リケル、船 三五五其後 然共熱雅 E

人ウラカヒケル船ハナレテ、彼國ニツキテ、ソノ人ウツリヤミテキタレリケルトゾの餘器之 テ食初ル人を多り直りケルト云云。續古事談日、モカサト云病ハ、新羅 國 ヨリヲコ リ、筑紫ノ 殖法

型一人半、歐牛一人半、牛一頭半、料理平和一人、駐上作二人、<br/>
萬二百十擔、運功三十五人、下子牛人、<br/>
八殖功 延喜式卷第三十九日、內膳司。耕種園崩。營菸一段、種子四升,苗一千二百把、惣單功八十 人: 耕地

英部 香疏類

第二遍九人、第三遍七人、二十人、月芸三遍第一遍十人、 ○葱花 集註 延喜式卷第十七日、內匠寮。御興一具云云柱桁拜 茶花料槻十三枚。叡岳要記曰、堂上有金銅如煮寶

珠形云云。江家次第十二日、齋王群行、御興茶華。同卷第二十日、諸家子弟元服。垂-| 葢頭。無 闕腋袍、自余、如、恒。 平家物語曰、かよちやうなければ、そう花鳳れんは名をのみ聞て、主上ようよにめさ 夾形、青色

日石清水行率也云を次寄御興葱花云をの代始和抄日、行幸ノ儀式へ常ノ如シ。但御興ハ葱花ヲ用ラル。 れけり。園太暦日、御輿鳳釐蕊花事、蕊花自里第幸之時、若被用鳳蟄云云。都記曰、永保元年十月十四日、今

花トハ、キノ花ノカタラ、カテニテ打テ、興ノ上ニスエラル。是ハ御神事ノ時、行幸ニ召サル、御興ナリ。 冊俗淺深秘抄口、雨日行幸之時云、午、指、針覆時以、弓覆、之也。次覆、雨皮、以、弓出、鳳也。 葱花同、之〇

色。流、溪青二、名、葱 爾雅日、青謂之葱。註、淺 ○岐乃三 本草

漢名 葱子 草本

今名

ネギノミ異本

凍葱 草本 今名 ワケギ

布出收 天文写本

遊名

和名抄

岐乃美

類編日、港實。

經一多。不以死、分上莖。栽蒔而無以子也 證類本草日、唐本注云、有。淚葱、即 一名

布由木 倭名類聚鈔日 名布由木。即凍葱也 和

#### 書紀 日本 漢名 草本 今名 ヒル 小蒜ヲ関圃 ニ養フ者也

一名 比流 倭名鈔曰、蒜。和名比流、一云米比流。日本書紀應神天皇劉歌曰、比蘆苑뺽耳、比蘆 苑願巧。 釋日本紀日、蒜摘也。私記日、師說、先稱"鼻氣物"者欲称"芬芳物」之發語也

ほにら きかけ給ひければ、ひるのあは、白鹿の目中にいりて、しかにはかにしに、けり。同卷第九日、仙覺萬葉集注釈卷第七日、日本語を御手にとりひしがせ給ひて、そのひるのあはを、鹿にほじ

又かの、信濃のみさかにして、白鹿のまいりけるに、蒜のあはを、目中にはじき入給ひし によりて、死にければ云~。武家調味故質日、くわい人の間にいませ給べき物。ひる 古比留本草

四十二日、東市司。蒜隱云云右東市 日、上總國畔蒜、阿比留。延喜式卷第 名古比留 日、蒜。和 己此留 月五日採。藻塩草日、蒜子。こひる 本草類編曰、蒜。和已比留、又小蒜。五 倍留 簽賀郡鹿蒜。加倍留 ヒル カラ蒜 夢。ヒル 日本靈異記日、 読ヲスリ云云 順医抄日、又カラ 比留 倭名鈔 國郡部

辛蒜ヲムキテ、風ヲヒカセズ、箱ニ入叓云・〇令養解日、五辛者、一大蒜、二日答葱、三日慈葱、四日願吾妻鏡卷第三十四日、仁治二年七月廿六日、御臺所渡ュ御石山局里亭、依、可、聞「食辛蒜」 也。頗医抄曰、

與?葱¾ 莲毫五 也 日 集註 續日本紀卷第十五日、廢帝天平寶字八年多十月甲戌、勑曰、又中男作物、魚完壽等類 悉。停了以"他物」 蓉宛云云。三代實錄卷第四十三日、元 慶七年春正月十六日癸巳、

英部 香疏類

令二云 云下一知越前能登越 阿波姆 所以歐云 云蒜英根合漬十五缶。同卷第二十四日、主計上。凡中男一人輸作物。蒜 中國、送酒宍魚鳥蒜等物。加賀、國、爲、勞、變渤海客。也。 延喜式卷第 五三八

蒜房蒜英云云各一合。 斤、回卷第三十二日、大膳上。 新當祭。 小齋給云云五位已上一人、漬蒜房蒜英各二合。 雑給料。 參議已上。人別漬蒜房蒜菜云云各二合、五位已上三十人。 人別 同小齋解齋給云云五位已上

別充勻。正月四節料 雑給料。蒜一斗 一人、遺蒜房蒜英各一合。同會皇后宮小孺人四十二人、云 學可 法 識房湯英 春日祭雜給料。蒜一斗四升。釋奠祭雜給料。 公谷 親王已下食法並 \_ **斜** I 右神事料。 同一新掌哲。餘節准」此。 造法見 ·內膳式。 云五位一人、遺蒜房丼蒜化云 同卷第 但除二雜餅井蒜。 遺蕊房談英云 云五位已下官人已上三十人 三十九日、 內膳司。 同卷第二十三日 云各二合。 供 东 神 、大膳下。 塌韓神祭

林、木 百根。准二升。正二四十一十二月青進。 一升門合 了。年料。大宰府、蒜房這一有五斗七升六缶。以上國作。宇治**拾遺卷**第十二日、近比蒜を食 五六七八九月干進。清年料雜菜。蒜房六斗、 料 塩五升。蒜英五

至湯不 侍りと印 一河思 神事の で僧申 やう、風をもく侍るに、醫師の申にしたがひて、蒜を食て候なり。小右記日、治安四四六 禁秘抄日、鹿食蒜產此三事非 二其作 遺之蒜 片 端,待打玉公者,中,其目 一溪忌。但近代卅日、如」式七日也。 影無」品。 古事記曰、 洪

三年八月十一日、依腹病變欲服蒜。貞永二年四月十四日、典侍自今日於賢寂宅始菾、適賜惟忰不便之故 禮記曰、元曆二年九月十一相喜神紙大關卜部兼友朝臣之処、薤蒜忌皆神宮之習不憚也者、按八幡宮壽七

月記曰、홅緣二年九月十八日、巳時許相公來臨、蒜以後濾七日、五節不蒙催云

乃打殺也。吾妻鏡卷第五

十日、御

御駅 治白鹿

明

一而來立

0

三食と読入也世。有意穢。云云與と酒論《生罪、酒へ重り読へ輕シ、酒へ失心、読ハ不、失い心、只以、臭爲、過、、ケ日忌之、別當法印任清申柔、五十日忌之、俗別當輔任申条、就之思之精進神可懂蒜乎。廛添壒囊抄曰、或穀

忌…深シ、奥キ氣五十日アリト 仍不下入一堂內一許公五辛,中蒜八其一

殖法

三石、惣單功九十三人、耕地七遍把犁三人牛、馭牛三人牛、 延喜式卷第三十九日、內膳司。耕種園劃。營蒜一段、種子

六人、八月、芸三遍第一遍十人、第二遍八人、第三遍七人、採功十五人 牛三頭牛、料理平和二人、分畦三人、糞二百十擔、運功三十五人、殖功 〇比流豆木 医名銀日 倭名鈔日、搗蒜。

集註 爾、森都伎合而、鰻願、吾爾勿所見、水葱乃麦物

附方

寂房來、昨日 相公令採腹、無殊事、風 明月記日、嘉禄二年八月九日、早旦心

禰比流 示之。成安堵之思者也 所生之腹病也。蒜可宜由 倭名類 漢名

聚鈔

澤蒜本

今名 ノビル

名 馬比留 國風土記曰、日根郡或蒜根。 新撰字鏡日、白芒。馬比留。倭名鈔日、澤蒜。和名為比流。和泉 倭名鈔國郡部日、和泉國日根、比爾 米比流 倭名類

怒毘流 美迩、比流都美迩 古事記曰、怒毘流都

集註 賦役今日、若輸:雜物、者、澤蒜 十四日、主計上。凡諸國輸調。澤蒜云云各七十二斤 一石二斗。延喜式卷第

菜部 香疏類

#### 於保比留天文写本 和名鈔 漢名 湖 草本 今名 ニンニク

名 仁々久 本草類編〇一売山千部會緣起日、有草號忍辱草。新撰字鏡日、萊蒜。 於保比留 **海塩草日、葫子。おほひる。本草和名曰、葫。和名於保比留。倭名類聚鈔** 同、蘇改反、葫。

者胡、和名於保比流 日、大蒜。本草云、前。 にもし 一伊勢守貞陸記日、 にんにく、にもし

集註

本草類編曰、葫。和於保比留、五月五日 探之。又云、五月三日取之用也。 延喜

式卷第三十七日、典塞赛。每年十二月云云。 同日供 殖憲樣十五輔。云 云大蒜云云各四兩 附方

頓醫抄日、白クサ治方、大ヒル ノ根ヲスリ、酢ニ合テツケヨ

比止豆比流、紫纱

漢名 獨子前

行 比度豆比流 蒜。和名比止豆比流、一云獨子葫 天文写本和名抄〇倭名鈔日、獨子

阿佐豆木 倭名類 學學 絲葱ノ煎也 魔東新語所裁

> 个名 アサッキ

嶋湯 令〇萬萋筆卷第六日、辛前乃島爾、島回為流。釋日本紀日、鶴曲謂·海中 嶋曲 碕山,也。俗云美佐祁。倭名鈔曰、島壽。阿佐豆木。本朝式文用之 チモ

>侵:病ムナリの五辛ヲ可入職云云然ヲ初テ濟登テ五辛不>登、梁徒坂本下テ五辛ヲ用也のチモトハ山五登 蟖餘日、比挈山開闢ヨリ、十八代ノ座主慈惠テ和尚迄三百年律表也。酒不登山。慈惠云、山嵐靡霧ニ衆徒被

啓蒙ニ、伯州ニテ干、本、ワケギト云トミエタリ テ今二用テ不苦。按ニチモトハアサッキ也。本草

集註

賦役今日、若驗。雜物」者、嶋蒜一石二斗。 令集解日、云嶋蒜澤蒜等如~蒜取。其加夫

上。凡諸國輸調云云嶋蒜各七十二斤。隱岐國、調、嶋蒜 良、而子細。折勞、進。耳也。延喜式卷第二十四日、主計

古美良條名類

漢名 並 草 本

今名

一名 介瀰 日本書紀、神武天皇御謠日、介願羅毗苦茂苦。本草和名曰、韭。和名古等 良。倭名鈔曰、誰。和名古荚良。又菜惣名也。天文写本和名抄、誰作非 ふたもし

伊勢守貞陸記日、 にら、ふたもし 彌良 相力反、並。弥良 也末仁良 類編 太々彌良新撰字鏡日

美良古事祀曰、賀美良比 登母登、曾派賀母登 久君美良萬雄集卷第十四日、伎波都久乃、乎加能久君美良、 和禮都賣杼、簫爾毛乃多奈布、西奈等都麻佐爾 介良

味故質日、くわい人の間、いませ給べき物、なまにら 倭名鈔國郡部日、上野國那波郡進東、介良都加。武家調

集註

探之。延喜式卷第五日、齋宮聚韮一兩。 本草類編日、韭。和也末仁良、十月霜後

四四三

以上當國充之。同卷第三十二日、大膳上。雜給料。參議已上云云菲搗各二合。五位已上云云華搗各二合。 五位已上一人、誰搗五勺。同會皇后宮小齋人四十二人、五位一人 云云 誰搗各二合。釋奠祭料、誰茲云 云各二 

日、根波郷久里、常陸國眞庭郡にあり。風土記にみえたり。くゝ見らとは、くゝだちたるにら也。中右記曰 並二把、准□一升、自□一月」迄□九月。清年料雜菜。並搗四斗、料塩四升。右清□春菜□料。仙兒萬葉集釋十四 **升。圖卷第三十三日、大膳下。韮搗一斛、右神事料。造法見。內膳式。同卷第三十九日、內膳司。供泰雜菜。** 

日、久壽二年四月廿四日、自、今日,不、服、蓮。 水左記曰、派保四年八月十九日云、以 廣俊令修泰山符君祭。 保元元年九月一日、服韮之間、御燈之祓可有哉否事、保延三年九月一日、依服韮不勸御燈祓 是先例也。 台記

所令申也。仍令修也。道蹤依服並不參勤、件御祭使用廣俊也 雖有日來令服畫一給之禁忌御坐、急事之間不忌如此事之由、道榮

附方

晴、自去夜下痢如沃水辛苦無水左記曰、承保四年八月九日

**処、雅思朝臣識云、雖見官符文熱氣間、不服始者、熱散後本禁忌者、仍予熱之間依不服、始日來不服、而人々** 極。今日弥無力怛然臥、依猗瘡去天平九年六月被下諸國官符云、及痢之時荄韭菍可多食者、就此文欲服之

云、近日週此媛、有:·桐惠之疆、縣二或、熱開。服始、或不、服者:'告服菲痢已平愈、誠和許官符女其臉顯然也。 只可服者,今朝豫服之。十一日去夜下痢一度减少之氣、服誰之驗驗。但心地猶苦○頓鬱抄日、蓬后乳汁無二

走一把搗絞テ汁服

五人、耕地三遍把犁一人牛、取牛一人牛、牛一頭牛、料理平和二人、脖上作二 延喜式卷第三十九日、內膳司。 耕種園園。營韮一段、種子五石、惣單功七十

殖功六人、九月、芸三遍二十一人、度別七人 人、養二百十濟、運功三十五人、擇二苗子一功六人、

於保美良倭名類 漢名 薤 今名

ラツケウ

於保仁良 異本本草類編○本草和名曰、薤。 和名於保美良。倭名抄向之之 佐止仁良本草類編日、薤。 奈女彌

良 新撰字鏡曰、薤。 奈女弥良 集註 式卷第三十七日、典藥寮。元日御藥。薤白十莖、已上自。寮庫一行之之。 腦 本草類編日、莲。於水仁良、四月不可食、但赤白痢用之、久痢立瘥。延喜

月御藥。蕣白廿莖。中宮臘月御甕。蕣白廿莖。每年十二月云云同日供,殖甕樣廿五種一云云蕣白云云各四 雨。雜給料。薤白五十二莖。明月記曰、元仁二年三月十日、今日服薤。嘉祿三年八月十七日、今日服薤。廿

十五日、雖服蘋沐浴念佛。十五日、昨今雖服薤不魚食。十六日止薤、暑熟已催汗流、心神殊不快。文曆二年 四日、今日止薤、朝沐浴。寬喜三年七月廿三日、止薤。貞永二年五月十二日、近日不食之氣殊不快、今日服薤。

今日止殖 六月十六日、

破餌介瀰 書日本

漢名

香疏刻

畫

今名 シャウガ

四四五

一名 久禮乃波之加美 天文写本 阿奈波之加美倭名類聚鈔日、生薑。和名久礼

之加三上波志加美濟等等以字黑志破餌介爾。吾妻織卷第十六日、參河國華錦園之加三見波志加美,古事記曰、字惠志波志加美、久知比比人。日本書紀日詩翻議介 都知波

之加美體心方只生薑。和 名楊知波之加美 土蓝 云云胡桝ノ代、土竈 五節キザミスル云云。一藏三味ニ可應添壒嚢抄曰、日本ニモ、馬陽師ヲ伯樂ト云也云テ。

盟 / 節 云云土 しやうか 
井東給儀畢。又曰、九郎大郎殿御返事。云云ハジカミ給候ヌ○太平御鑒曰、魏志
大内間答曰、或三こんの肴は云、しやうが。錄外書曰、上野殿御返事。シャウガ

會供養料。僧一口別生露一合九勺五撮。好物料一勺、茹菜料二勺、汁物料五撮。索餅料一勺、漬菜料五勺、麵 中男作物、蹇、同卷第三十三日、大膳下。七寺盂崗盆供養料、寺別潰蠹一升一合云云。生蓋六房。仁王經濟 不知其滋味 日、倭國有語 集註 延嘉式卷第十五日、內藏聲。蕭、種十石。右遠江國交易所、進。同卷第二十三 日、民部下。交易難物。遠江國種甕十石。同卷第二十四日、主計上。越前國、

題口,料。 題二柄、 沒, 什料。 擇, 甕女孺五十人。女丁十二人华給, 問食, 人別日八合。 右年料籍, 內侍司, 漬 塩六升、汁槽一斗五升。右演、秋荣、料。生薑四石五斗、料塩一石四斗一升、汁槽、石二斗。柏三十五把、河。 用神殿料。同卷第二十九日、內膳司。供奉羅榮。生壽《房、淮二升、六七八月。潰年料雜榮。稚薑三斗、料

料一合。有以整生薑一房、生菜料。年料、造雜物法、在美門百七十六顆。云云生蓋六升五

O H

遺生器一斛、通司

年七月一供之之。安東郡專營沙汰文曰、敵粉薑二把、代四文與。 用炒 的 月十五日、名月之御説、はちかみ二ゆひ。包丁聞書曰、引渡に生姜を組付る事は、磯の氣を去との事へ。此 しき三とんのとうのへの事、はしかみもりやうはいきなり、たかさ一すんほどなり。御散飯調進次第日、八 造。至《于明年二月』更"易」塩槽、敷隨」幾多少、假如幾薑一石、料塩一斗、精五斗之類。始」當年九月,迄,明 殖法 延喜式卷第三十九日、營薑一段、種子四石、惣單功七十八人、耕地五遍把犁二人牛、馭牛 二人华 牛二頭华、料理平和二人、養二百十擔一運功三十五人、分離四人、殖功四人、川 神鳳鈔日、遠江國種嘉二斗八升。 **娰入記日**、

人、第三過六人、採擇功六人 月、芸三遍第一遍九人、第二遍 〇保之波之加美優名類

漢名 草

都ちはしかみ 藻塩草曰、干薑、都にはしかみ。倭名鈔曰、乾薑。和名保之波之加美。延喜式卷 三十七日、典藥簽。元日所須干薑一分。養性要集云、乾薑、一名定薑、音居良反

引 á

集社 延喜式卷第五日、鷺音。所須攤種干薑七兩。同卷第十五日、內蕨寮。正月寅勝王經濟會講師及僧 各施。蓋一張于臺三兩。自於聽衆、各于臺二兩。云云于臺小一百斤。右遠江國交易所.進 同

**卷第二十三日、民部下。交易難物。還孔國于薑二百斤。同卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經鷹會供養 雑給料、干壺ハ斤、雨三分。齋宮寮、干薑七兩二分。兵庫寮ェュ干薑各二兩二分。諸國進年料雅藥。遠江** 三十七日、典藝寮。 臘月御樂。 所須干薑二兩。 中宮臘月御樂、所須干薑九兩一分。 東宮 五五干薑九兩三分。 料、干選四撮。山寺盂蘭盆供養料 干薑三兩。仁王經濟會供養料、干薑四銖、海菜丼汁物料各一銖。 同卷第

英部 香疏類

十六斤 國、干票八

## 和佐比

漢名 **蔊菜** 

草

今名

ワサビ

物理小識日、蔊菜。林洪日、朱子飲後。以蔊蒸供。嚴難石上生之。肝亦有之。公所供촖建陽者。有蔊詩可致。 一名 《谷言孫嶹以沙風夢食其苗云。其味辛辣。張程曰、好生高山泉源上。與石菖一類。李東壁謂爲田闌小艸・非也 和左比天文写本 和名抄 山甍 厨曳類記曰、但供寒汁之時汁實与利實山黨夏翏。倭名鈔曰、山蓋。 和名和佐比。漢語抄用。山薑二字。按二延喜式卷第三十一、宮內省。

菜子也。今ノ山靡子、伊豆縮沙= 非ス 諮園例質細贊三、越前山薑子ト云者へ葬 山英 卑添堵囊鈔曰、今ノ世ニ四種必スシモ器ニ入ズ、或ハ只 四ノ角ニーツ、器計习置テモアルベキニヤの或へはヲ

略ラ、草モシハ山葵ライルベシト云フ人モアリ。本草類編日、山葵。 和和佐比。錄外書日、南條殿御返事。又ワサビー々人々ノ御志承候

集註

丁一人、山薑一升。延 賦役令日、其調副物、正

御厨供御備進のためにくだりける時、くだんのみくりやに山あり。その山にわざび多くおひたるよしを聞 第三十九日、內腩司。 喜式卷第五日、齎富。 因繙國、山甕一斗五升三度。古今著聞集卷第二十日、後堀川院御位の時、所下人未重、丹波國桑原の 年料。若狹國山薑一斗五升三度。丹後國、山薑一斗五升三度。但馬國、山萬一斗五升 云云山蹇二斗。同卷第二十四日、主計上、凡中男一人輸作物、山棗、芥子各二升。同卷

て、取にまかりけり。厨事類記日、或說云、寒汁 云シホワサビ、山ノイモヲロシテモルベシ

形狀

本草和名曰、山葵。葉似葵、故名之。生深山。 和名和佐比〇本草啓蒙日、ワサビハ深山幽溪

テ ニ生スル水草ナリ。 苗ハ欵多ノ如シ。葉圓ニメ五尖及鋸齒アリ。 黄緑色ニメ光リアリ。 春月別ニ蒸ヲ抽 、長サー尺餘、本ニ小尖葉互生ス。上ニ四瓣ノ白花長穂ョナス、碎米霽花ニ似テ大ナリ。後奏ヲ結ブ、長

及石菖ニ似テ大ナリ サー寸許、根ハ地黄

漢名 蘘荷

今名

ミヤウガ

白蘘荷詩註曰、白蘘荷蓴苴也。春初生。葉似甘蔗根甕而肥、其根莖堪爲菹 柳河東集註曰、按囊荷。葉似初生甘蔗、根似薑牙。可治蠱毒未知是否、又種 一名

倭名類聚

荷。和名米加。本草和名 日、白蘘荷。和名女加 美也字加 類編草 名荷 錄外書日、松野殿女房御返事。云云名荷、 ハシカミ、大豆、エヒ子旁ノ物給リ候又

すれ草 古今切紙次第日、わすれ草の事。第三二ハみゃうがをいふこ。しやかの御弟子に、しやりんは んとくといふ人、我名をおぼへずして、物に書付、名をになひて見せられたり。そのへう所より

をひたる草なれば、名をになふと書て、ふやうが とよまする、忘草のたねまくとよめるは是と

集註

之食也。延喜式卷第三十三日、大膳下。正月最 本草類編日、白蘘荷。和美也宇加、八月九月取

四四九

勝王經濟會供養 資荷 九斗五升二合。 料。 僧別 日 蘘 同卷第三十九日 荷 清武云 云各二合。 八內膳 司。清年料雜菜。 仁王經濟會供養料。僧 藏荷六 一口蘘荷二合。漬菜料。年 斗、料塩六斗、槽二斗四升 附方

洗スリクダキ、一夜水ニヰサセテ、ウエヨシタミ、紙益ヨタ日ニ干、堅テツカフ 十七年麻嶋限科書日、名石。ミヤウガ ノ根ニ、カヤノミノ如 ク成物アリ。 1 打目二 カ E 土ケ ヨシ 9

本草綱川日 本草 初葵、八月下、種。初生:柔莖圓葉、有 漢名 胡荽草 今名

エンド D

立夏後屋。細花一成、簇、如。芹菜花、淡紫色、子如、大麻子、亦辛香 花版、根軟而白、

一名 奈呂之 胡燕 本草類編日、 和奈呂

初完。 雜給料、春冬村回。 之。本草和名日 和名古之 7 ホシ 延得式 傍訓 集註 本草類編日、胡荽。 冬根 葬井川 延喜武卷第三十二日、 和古之、五月五日取明干、春夏葉秋 大膳上。 閥韓神祭

日、胡蒙一合五台。 同卷第三十九日、内膳司。供泰難菜。胡鑫二合 正二九十十一十二月 胡鑫五升。春日祭難給料。胡鑫五升。正月最勝王經濟會供養料。僧別 殖法

取件一人、牛一頭、料理平和二人、 啡上作二人 第三十九日、内阴司。 與稱國前。營前三一段 種子二斗五升、惣單功二十八人、耕地二遍 、養百三十二擔、運功二十二人下子半人、三月八月 把那一人、 形狀

○本草磨雲日 テ、石胡苓葉ノ如シ。獅々長ズレバ分テ三葉トナリ、漸、花枝多クナル。春二至テ鑿ヲ起ス、高サ一二尺。 胡葵绿師 是前 ヨリ側 來り、今處々二裁五〇 八月 種サ下スの 初 ノ葉ハ 、形圓小二 7

リ、根乃チ枯ル

コトニ一族アリ。花ウドノ花ニ似テ、至テ小ナリの淺紫色。後實ヲ結プ、大サー分許。正圓ナリ。熟スレ 班五三ス、梢葉へ細クラ絲ノ如ク茵蔯蒿 → 梢葉ニ似タリ。四月莖上"花簇り傘狀ヲナス、五鷞ニヲ碎小瓣

古名錄菜部卷第三十九

終

# 古名錄果部卷第四十目錄

#### 國果類

夜、奈之。 桑

於保奈都女 大蛋 10.00

佐禰布止·酸雷

花清子 横橋 太知波奈橋 橋即包

〇 演奏子 加無之 柑

加良奈志 奈 奈豆女

橘皮

市 小柑子 鬼械

柏柑

大村 花橋

阿倍多知波奈橙 子 -5-

加良相。鬼柑少知狗橘 加,比"佐"。佐毛。在"老"。 性把 銀4夜\*杏。末加"岐" 木淡 みのがき 通計四十 樹頭霜姊 桿梆 塔梆 ---〇枇杷葉 種

> 久呂加木 桃心黑木 木 熟 梆 四条 方姊 白梆

〇杏仁

杏

佐"加良毛农

石榴

加布智\*

溫州橘

須毛、々、

李 香欒

### 古名錄果部卷第四十

紀藩

源

件存撰

園果類 令護解日、園池 國經路邊經一集樹公子,往還人、得一休息。新猿樂記曰、所、好何物、集物者無、核。續日 司。正一人掌種殖蔬菜樹菓等事了。延喜式卷第五十日、雜式。凡諸

和銅末、出「傷」筑後守、兼司治肥後、國了、勸了人生業了為《制修、教耕營司。頃敬樹以菓菜了 本紀第八日、養老二年夏四月丙辰、筑後守正五位下道君首名卒。首名、少治二律令『驍二習更職、

始。清老小寫怨。爲之、及三収、其質。莫、不。悅服。一兩年,問。、國中化、之。扶桑略記曰、天平 下及了雞地一、皆有一章程:曲。事宜了。既了而時、案行、如有三不、遵、教者:隨、如 十七年、行恭傳云、两之止之房、多。積。菓樹。天平寶字三年六月二日、官符云、東大寺普照法師 …勘當。

漢名

今名

の木敷をつくしてなき物な、〇本豪牛祭繪詞曰、木々乃祭里物取礼此天本云

種菓子樹木,者、泰勒、依、奏。守津保物語後啖口、 兰物

類、域外道路兩邊、裁

奈志 奈之 新撰字鏡日、梨。理思反、奈志。本章和名曰、梨。和名奈之。倭名類吳鈔日、梨子。 同國郡部日、近江國栗本郡梨原、奈之渡良。 安獎國沼田郑梨葉、奈之波。本草類編 和名

三二栗 やうしや云云是なしを庭にうへられ侍りけるにや 日、梨。 和祭之。 延喜式卷第三十九日、內脏司。園地三十九町五段二百步。 年中行事和歌日、なしつぼは、ひき 奈志乃木 祭志乃不。 權、同 新撰字鏡目、楼。 六日 成事、寸

嗣云云 續梨 云云。按「明月記曰、實善元年九月八日、心舜房送草樹等、令栽之、夏梨、鹼、觀光此。則、延喜式卷第三十九日、內膳司。園地三十九町五段二百步。雜菓樹四百六十傑、續架百姓 續架百株

ありの身とて皮をむく也。節分過は、梨子と云て皮をむかぬといへり。時宜によるべし。何も梨子は枝の li 征 續梨へ接木ノ梨也。 所 人の間にいませ給べき物。 八百 機化初開トミエ 又明 月記ニ去々 ありの タリ み。包丁聞書日、 利子 狗聚雜耍抄日、母屋大饗爨膳差 圖、家主前利子ムキクリ二種物 ありの質と梨子に一ツの 包丁といふ事。 ありのみ 武家調味故 質日、くわ 節分前は

衛也 奈須、倭名抄國郡部曰、備前國警梨·伊汝奈

集註

御」雜物。梨子宮五合、別納二十。同延喜式卷第七日、踐祚大甞祭。凡供一神

九日節料。梨子、參議已上七顆、五位已上五顆。同節文人料。五位一人、梨子五顆。諸國貢進果子。 濟會供養料。梨二顆。七寺、盂蘭盆供養料。梨子云 卷第三十一日、宮內省。 同卷第三十九日、內膳司。濱年料雜菜。梨子六升、料塩三升六合。伊勢國風土記日 諸國例宣御營。 信禮、梨子。 云各四升。仁王經濟會供養料 因幡 型子。 同卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經 梨子云五各二颗九月 因幡國、

果部 園果類

郡山 崎横 、資梨云 安濃郡村主鄉、產梅梨。加賀國風土記曰、加賀郡買梨。小濱鄉 至。江家次第卷第八日、七月七日乞巧奠事。朱漆高机四脚立。菱上二共東南机南妻居 貢梨。駿河國風土祀曰、安弁

▶使入唐。痾遇"玄弉三藏〔師受▶業焉。三藏特愛、令▶住"同房。謂曰、吾昔往"西域、在▶路飢之、無"村可"乞。 等。一坏型雷、第 -0 續日本紀卷第一日、文武天皇四年三月已未、道照物化云云。初孝德天皇白雉四年、隨

是月、櫻梨桃李皆化。 天皇貞觀三年八月廿九日庚午,是月、贡邑往々、梨李華或實。同卷第二十日、貞觀十三年九月廿九日壬寅晦 等樹木有5名皆吹俑。同卷第三十六日、陽成天皇元慶三年八月十九日丙子、是月,京邑往々梨李華或 沙門、手持 "梨子、與」吾食之。吾自啖後、氣力日健。 同卷第 二十六日、貞觀十六年八月廿四日庚辰、大風雨、折、樹発、屋云云。 今汝是持、梨沙門也。三代實錄卷第五日、清和 侍從局大梨 質に同

禮能當可,吾世古河、屋戶乃黃葉、、可落所見。右一首少納言卷第五十日、仁和三年二月九日癸丑、信濃國例貢製了云云。 落所見。右一首少納言大伴宿禰家持當時嶮,梨黄葉,作,此歌,也。神 別賞梨子云 いなっ 萬葉集卷第十九日、十月、之具

大學 風鈔日、伊勢國 大照県子。 製于御厨。人車記曰、保元二年八月在任大臣事云云菓子二種、梨子審。 類聚 世要抄口 厨隻類記曰、寒汁、或說云、梨丁ヲヲロシテグスベシ。ア ブル トキッフ 17 シ 灰 12 ->-ノツ 村屋

111 1. 年八月廿七日、南庭梨子產典侍局、入三經擇色々花。入長模、鹹梨向入小籠相具。廿<日、梨子進大駿、付女自信灣梨士一果、今軍持來。寬喜二年九月一日、庭上梨子今年結子、頗有氣味、仍進殿下、入籠指花。寬喜三 雪海未見事殿。 リテ、カキアフペシト 嘉祿三年閏三月 云、。明月記曰、嘉祿二年:月廿三日、 一日、 1月一日、庭上墾于今年結子、頗有氣味、仍進殿下、入籍指化。 寬喜三 貞鵬二年埋核梨木花初開。安貞二年十二月廿一日、入道法師云、 今夜寒氣如多、梨桃花落盡、飲冬盛 開之比

昨日護存外備于劉覽玄云、花色之面目也。天龍元年八月十九日、今日庭實梨子、依虫撋落失、令取進上、女院 房一籠。北政所、典侍書付女房黃門、二籠。安嘉門院、以禪尼書付二条局、一籠。件本兩栋今年依其子多也。

御方之外、今年如二籠、披露由有返事、一篭献前大悟上御房。 廿日梨子進安嘉門院、付二条殿。 文曆二年日 月廿七日、庭花昨日落盡、梨在盛開。四月三日、梨花帶雨散。本朝無額詩曰、林經帶風梨葉落。公任卿集日、

なしの花に、とき過たるみのつきたるに、右大弁、春ふかみ深山がくれのはなゝしといふにつけても分ぞ **兼つる。實方朝臣集日、承香殿の宰相君なしをさしいでたれば「かくれなき身とはしる~~山なしのおふ** 

藁塩草日、おふのうらなしと云り。新猿樂記日、信濃梨子 のうらまでおもひなるらん。尺素往來日、春花者云、梨花。

形狀 枕草紙日、なしの花、よにすさまじ くあやしき物にして、めにちかく

はかたき文つけなどだにせず。あいぎやうをくれたる人のかほなど見ては、たとひにいふも、げに共いろ とて、せめて見れば、花びらのはしに、おかしきにほひこそ、心もとなくつきためれ。やうきひ、みかどの御 よりしてあいなく見ゆるを、もろこしにかぎりなき物にて、文にもつくるなるを、さりともあるやうあらん

使ひにあひて、なきけるかほににせて、頸花一枝春雨をおびたり。などいひたるは、おぼろげならじとおも

たぐひあらじとおほえたり ふに、

ろいみじ

うめで

たき事は

、

和漢通名也

果部 関果類

一四五七

一名 アラナシ 鉄外書日、松野殿御返事。アラナ

集註

例頁御聲。甲斐、青梨子。同卷第三延喜式卷第三十一日、宮內省。諸國

夜末奈之 倭名類

菓子。甲斐國:青梨子五擔十三日、大膳下。諸國貢進

漢名 鹿梨 草

今名

ロアリノミ

大如小杏可以食 本草綱目曰、館梨、 一名 夜末那之天文写本 和名抄 夜萬奈之。倭名抄國郡部曰、甲 也萬

奈之 倭名抄國郡部日、甲斐國 山梨郡山梨。也萬奈之 山なし 源氏物語總角目、山なしの花ぞのがれんかたなかり ける。落くぼ物語日、女やま梨にてこそはといらふ やま

なしの木、桃草紙。接倭名鈔曰、樆子。壁詞切韻云、榑。膏雕、和名夜末祭之。山梨也。爾雅曰、梁山

卓氏藻林曰、雛。山梨也。本草鹿梨、騾名ニモ山梨ト云○新撰字鏡曰、椁朾同。打丁反。山梨、加伊○字典 日、楟。唐韻木名、山製也○朾。字典曰、說文橦也。樟字、注曰、張楫曰、橦華柔肥可」緻爲。布出』氷昌。

集註 近江御息所歐合日、やまなしの花。よの中をうしといひてもいづくにかみ をばかくさむやまなしの花。袖中抄日、山なしの花、山なしも春むけり

#### 加良奈志新撰 漢名 草本 今名

アカリンゴ

有山白赤青二三色。品字箋日、柰果名、狀與、李同、而較大。味稍酸澁 本草綱目曰、柰、與,林檎,一類二種也。 樹惶皆似,林檎,而大。西土最多。

> 一名 布奈江 名日、

提字鏡曰、禁。奈字。加良奈志 **樣**。和名奈以、一名布奈江。新 奈以 (倭名類聚鈔日、榛子。上晉內、字亦作柰。和名 加良奈之見

大京が、 医嬰系製云 またいえせり ハ庭櫻奈梨宝云ナド尺セリ

集註

楽云、。爲重詠草曰、高雄密乘坊宣惠法師もとより、尺素往來曰、春花者云、李花云、菓子者林檎石榴製

からなしをたびたりしに讀そへて侍し。敷嶋のやまとにはあらぬからなしをつねのたぐひと思 はずもがな。と持一返しに、爲重。わが國の種によあらでなるなしを常のたぐひと誰か思はん

八林檎ニ同ジ、熟ヲ內外共ニ深紅ニメ柔軟ナリ 木草啓蒙日、茶。形状林檎ニ似テ葉細長シ。花

利宇占字優名類 聚鈔

> 漢名 林檎本

今名

リンゴ

即奈之小而與者 本草綱目曰、林檎 一名 リンゴウ 殿如何云云今八林ノ字ヲ、リウトマデハ云ハテドモ、橋ヲバ 應添塔襲鈔日、林檎事、林檎ヲバ字ノ如「不」讀ト云事アル

一四五九

果部 關果類

尚ヲ、コウト云人モ有ナリの 倭名鈔曰、林檎、和名利宇古宇 非、無三其

文曆二年閏六月八日,庭樹林橋入籠皇嘉門院北白 本草類編日 、林檎六月七月有之、不可多食。 明月祀日、

#### 和產不詳

語型、熟。七夕前後已、堪、哨、色黃一如一點梨、纏、熟、便、霧軟 證類本草日、行義日、卷羅果、西洛甚多、亦梨之類也。其狀亦梨、先 今案

> 集註 扶桑略記山三日、 云つ 如見

掌中電羅果

相應傳

奄羅樹丁ハ課型ヨリ晩レテ熟シ、味酸群標益ニ同。 読多武峯ノ者原標産ニ接ト云 和州多武峰二出し重羅衛ラ本条トスル誤アリ、誤也の審羅果ハ先二諸梨、熟緣軟ト 一元リの

奈豆女 紧纱 倭名類

> 進名 弘

名: 那都米 天文写本和名鈔〇倭名 鈔日、唐、和名奈豆女 豆女〇棟。字典日、唐讀桑谷切、音速。赤棟木名、 新撰字鏡曰、棟。 夏女。又曰、善。即然反、梅榆。 可

にかん 3: 片岡の零かき分でなつめ殺せこ。瀧城草目、書。玉はくきかりこかまらつむろの本となつめがもとくかき と言言明 奈末奈都女 0 而雅目、诗、白语。唐祖、存徐城作战。 和名奈末奈都女 木草和名曰、生間 奈末之支奈都女 標中納言定頼柳集日、なつめ。都人庁にもぞきます 醫心方○類聚雜要抄日、 東、注一五菓養李栗杏桃也。若 食五

ドカ活らま、本本

名東用之 無者以美 集註 爲。又曰、成。棗云云。延喜式卷第五曰、麝宮。造備離物。薔鞍屬二具。同卷第十日向國風土祀曰、諸縣郡出衞。萬葉集卷第十六曰、蔚云云畫歌云云。棗本、可吉將歸 造備雜物。審鞍稿二具。同卷第十

國、乾蕃一斗。美作園、乾棗一斗五升。備前國、乾海八升。阿波國、乾棗一斗五升。 日、大舍人蹇。凡正月上卯供·進卯杖。棗云 k各二東。同卷第 三十七日、典樂祭。 同卷第四十一日、彈正豪。 諸國進年 ·料雅藥。丹後

日、延曆十一年秋七月戊午,禁、桑書鞍穡」。但舊者中三所司。燒印,用"之"。古今著聞集卷第十九日、貞信 凡禁重断。"云云霓虹灯""对"梁墨木鞍、橋。江家次第曰,卯杖事。或云、暹云云各六束、四株爲5束。日本紀略

饗饗膳甕。宣胤卿配曰、長享三年八月一日、增岳十帖並虫籠淮祭裏云と又吐次庭前桃並密技進上了 ていまだ有。花山院家記日、貞信公拜北斗之時、七星影向或降棗木、或降石上 て、手づから身づから、花山院の北對のにしの妻戶の庭前にうへ給ひけり。是によりて其木左右なき名木に ななつめをあひしてまいりけり。武部卿親王の家に、よきなつめの木ありけり。 類逐新要抄日、母屋大 其木をおろし枝にせられ

### 於保奈都女本草 漢名

#### 一大棗草本

今名 朝鮮ナツメ

本草和名曰、大棗。 和名於保奈都女 銀註 三代實錄卷節五十日、光孝天皇仁和三年二月九日癸丑、信潑 大事、具桃子、蝉脂 「別貢梨子、大棗等、貢献之期、元不」立り制 [例] 黎子。 太政官議定べ

濃國、大器大一斛 例真每年十月、別為、期、立爲。恒例。延喜式卷第三十七日、典樂経。 同卷第三十九日、內膳司。年料。信濃國、大棗一荷納,入籍、籠別一斗 諸國進年 本 朝鄉 信

果部 關果類

四六

#### 佐禰布止 和名

漢名酸棗本

畯、共核微**则、**共仁稍長、色赤如丹 證類本章曰、陳藏器云、其墨圓小而味

味一名

名 須支奈川女 類編 須岐奈都女 本草和名貝

太知波奈 優名類

審仁。是ハナツメノサテノ中ノミ也 破奈都女、一名佐祢布止○頓唇抄口、酸

漢名精

商本

形狀。本草類

成、似害花八月結實紫紅色〇酸墨八零ニ同ヲ圓小也本草類編日、酸源。和須支奈川女、八月採實隂干旱日

今名 カウジ

接橋総名也。本朝韶橋者即包橋也〇倭名抄國郡部曰、武験薗橋樹、太知波奈、曾我物語第一日、たちばなの

うの御ときよりぞいできけると、日ほんぎにはみえたり。しかるに、此たちばなは、とこよの《により、三 ゆらるの事。そもくくたちばなといふこのみのほじまりは、にんわう十一だいのみかど、すいにんてんわ のみたりければ、ちからなし。こゝに、けんしゆといふ大じんあり。此ねがびをきく、やすき事なり、いこく て、御心すべしかりけり。されば、かやうのものもありけるよと、あさ夕ねがひ絵へども、わがくに」なきこ つまいらせたり。おりふし、きさきくわいにんし、かのたちばなをもちひ給ひて、くわひたいのなやみたへ

すべき、とせんじありければ、五月にはかならずまいるべし、と中てわたりぬ。その月をまて共見えずー にわたり、とりてまいらせん、といひて、たもければ、よろこびおぼしめして、さてはいつのころに、きてう

一四六二

りけれ共、たちばなまいる事を、きさき大きによろこび給ひ、もちひ給ふ。そのとくによりて、わりじ御た て、六月になりて、われはとゞまりて、人して、たちばなを十まいらせ、なをたづねまいるべしとて、とゞま

これなり。わがてうに、たちばならへそめける事、此ときよりではじまりける んじやうあり、御くらゐをたもち給ふ事、百廿ねん之。けいかうてんわうの御事

一名たち花

| 狭衣○枕草紙曰、たちはな。源氏物語末摘花曰、たち花のきうづもれたる、みずいじんめ 非時香菓日 書紀曰、垂仁天皇。九十年春二月庚子朔、天皇命。田道間守、遣。常世國、令、永。非時香集,香巢此。云。

岐士玖能加玖能木實 古事記曰、又天皇、以二三宅 連等之祖、名多遲蹶毛理、造語世、國、令 

予『獻』置 天皇之御陵戶一而,擎『其木實、。叫哭以白、常世、國之登岐士玖能迦玖能木實持參上。侍』。4 遂叫哭 以"縵八縵矛八竿"、將來之間、天皇旣崩。。尔多遲墜毛理、分"縵四縵矛四子、獻子"太后。以"縵四縵矛四以"縵八縵矛八竿"、將來之間、天皇旣崩。尔多遲墜毛理、分"縵四縵矛四子、獻子"太后。以"縵四縵矛四

死也。其登岐士玖能迦玖能 木質者、是今、橋、云者也 等伎自久能可久能木實 葉 時支能香久乃菓子 同

かくた物薬塩 普草 同上。代々をへてやどはあれ行むかし 草香をなつかしみ袖まつりする。蔵玉 庭古草同上。うへをきー比は むかしの庭古草ざける

果部 関果類

び川 のみ今のお 極に 知花 和名抄國 圆越智郡立花 郡部日 多知花 、伊豫 不橋 駿河峽风土祀日、 脩竹等で 明月記日、寶喜二年十月十九日、霜獎 富士郡懷伽野、貫香極松柏樟

天晴 續日本後紀卷第九日、仁明天皇承和七年十一月辛巳 [機樹作竹屋] 寬喜二年二月廿三日、今日樹橋 |木獨屋〇按二駿河國風土記日、伊 物循戶、腹橋、橋連 一件橋連、橋守、橋等六姓、与 橋朝 亦以と格 想情 部他伊 換之 原、或橋原

行所作 〇大開 ト云ハ、アカカウジ也 記作を日、治津之等因として一地、宜、賜、禄戸、蝮棒、棒連 〇四ノ書ニ、朱橋 隆林橋子 として毛和勘八、毛利兵橋を置給ふ。橋へ廣東新語二枯二作ル 作棒連 延高式 識·自·遊馬·震 「棒守、棒等了自滁以」橋字」稿、姓之類、 常隆國 松下 風土出台、 陸橋 夏、桑田紅人虎吉。三代實錄 續日本後紀 第二十日、蔭橘三 赤橘

1000 衙門 日、此門際久絕。阿紫國史日 休息 原代秋 「納」實「民得」食馬。合義解曰、謂。位徽、者身帶。官位、及父祖之際也 、夏隆三是翻一而開 110 频紧三代格日、道邊之木、夏、重 同卷第 日 集註 齋宮。

第一料 第 與王以下三位 二日、大師上、辨給料。 1000年,源 不以神四座祭。祭神料。 已上件 同卷第七日、踐祚大洋祭 秦門出上、為丁二十三願。 位意思。 活子十 為子一半。園井韓博三座祭。獨子一百八十顋。 0.00 , iti 位元位件 凡供 五位已上、橘子十五颗。 三神御一雅物云 命站 橋子在期3 云橋下笛十合、 大位已下、橋子五騎。 同卷第三十三日、大膳下。 別約 -1-宴會雕給 同卷第三十 正月最

下個子十點 \* ; 育供養料。橋子太明 何卷第三十九日、內膳可。 仁王經清台供養 六月神今食計 科 10.5 十二月准之 一口、獅子三切、 云云十二月以 巴上東餅料。諸國貨進車下。 :橋子一代 変ぶっ

二斗二升五合。

料。正月三節料。橘子三十六陸、棒橘子十五枝、矮橘子一斗。供御月料。 供料。橘子二十四族、柿橘子十枝。 同卷第四十三日、主膳監。月料。橘子廿五蔭 右解祭料。橘子『蔭、株橘子十枝。 接橋子二斗二升二合五勺。中右記曰、天承二年 右豐樂料。 橘子四十五族。 橘子四 接橋子云 云各 諸節供

島、橋樹生之。香島郡、前郡所、置、多蒔、橋、其實味之。 山背陵風土記曰、鬼道郡資橋。 **參河國風土記曰、**八名 十餘人被做了者、人々疑了。御園下司成貞可爲云、件成貞日本大深盜者。常陸國風土記曰。行方郡、郡 侧

五月卅日,義仲入道入來洪云居住橋御園內源二郎光基宏廿二日夜强盜被缴害了、抖段尼七十餘人妻子共合

きこしめしてはおほん身にもとどめず。江談抄日、紫宸殿南庭橘櫻南 日、はこのふたなる御くだ物のなかに、たちばなのあるをまさぐりて。 風土記曰、烏渡郡池田、產橋、供。隨部之調。伊穗原郡美琴、產橋。益頭郡八田、資松竹梅橋。 那八名庄、貢橋。 樹叟。 榮花物語花山日、たちばなひとつも 內裹紫宸殿南庭櫻橋樹者、 源氏物語胡蝶 駿河 舊

跡也。 云。又秦川勝舊宅者、但是或

花などをだに見させたまはず。高光集日、たち花のなりたる枝に云 大佛頂咒一返を誦して、加持の間すなはち花葉を出しけり。狹衣日、我御心ちもいとなやましく成て、たち 古今著開集卷第二日 古今著聞集卷第二日 定照 一 一 乗院此僧都一 乗院庭前に、一株の橘の樹あり、件橋樹地者、昔選都以前、橘本大夫宅也。枝條不」改、及『天德之末』云云 30 曆代編年集成日、 久しくして枯木と成にけり。 南殿橋者、本自所

生託也 丈二尺。 件樹彈 前此地橋大夫家之跡也。 正尹親王東一條家樹也。依勅定奉之。右近將監已下堀之。或記云 番記錄日、村上御宇天德三年十二月七日、 南殿 坤角 、選都之時、彼橋在 新 移栽 橘樹

所稱橋大夫清後園也。件後園有橋。即南殿前以當衢云云。小一条左大臣記云、橋本主察保國也。須察國史 日、延曆十一年冬十月丁未、停之相撲。國際一攜、以"路邊」也。明月記曰、嘉撰三年二月十三日、經國宿經邊

きたるよし。糖果離奥拉口、内大作股廟大饗云と橋。吉野詣記曰、橋寺に太子の登容おがみ率れり。橋 橋下枝、潛松三本、各栽了、農味記門、শ種所針行。つわく一日、たち花、かつに、いづれる本は物ふりおほ

日信日、穩不被不能具不變、其蛛魔之器へ其子類ヲ爲上々由女子申全不知之、只跨其色便宜居之鱖 約すこし、とこへふじ、たもばなのなりたるえだし、みをとりすてム、いれかへてやりける云マ。三條中山 13 20:00 本当かい 統詞花集日、山寺に侍けるとき、五節たてずつる人の、たきものからばしくあらすとて、そらだき その實言へのこりてかぐはし。弁内侍日祀日、南殿のたち花さかりなりしを、一枝おりてつかほ

云言、寫城 到母、瞻從一位縣大籌城宿称、上:騰·潛御原,朝廷三下。建立了 應原 大宮二事(君) 致 續日本紀察第十二日、聖武天皇天平八年十一月丙戌、 從三位葛城王、從四位上在穩王等、

▶命、秘·孝·德·忠· 周夜忘\等。、果代竭。力。。和銅元年十一月二十一日、供雨奉、墨·國大甞!。 二十五日, 街宴、天皇是也武之主、赐 潭杯之情。 勃日、 繞著果子之長上、人,所。好。 何凌、霜雪·而繁茂、葉經、寒

四、时、明诗、即"包播也。謂。潘渚聖子·長上人所。好此也。今如小猴橋·穩之娘下著也暑。而下。"。"與。珠玉·共""歲.光"、交"金鎮"以繪美""。是。以"汝。姝"、渚賜·橋宿称·也暑。而下。"。"

形狀

紙目、四月のつごもり、五月のついたちの比はで、橋っこくあをきに、花のいとしろく姿たるに、雨のふりた えつとめてなどは、よになく心あるさまにおかし。花の中より、みのこがねのたまかと見えて、いみじくき

0 光其氣芳烈 青色者薄而 郭公のよすがとさへ思へばにや、過更にいふべきにもあらず はやかに見えたるなど、あさ鍵にぬれたるさくらにもをとらず。 青橘 集註 延喜式卷第三十三日、大膳下。七寺 延喜 式 ○岐加波天 皮乃橋之未、黄而 本草綱目曰、青橘

写本和 タチ バナノカハ

盂蘭盆供養料。寺別青橘子二十顆 一名一太知波奈乃加波 橋皮。和名太知 倭名類聚鈔日、

末し紙に包出する 大丁子少胡椒少石細 和名岐加波、共色黄之義也。厨事類記日、キカハトテ、橋皮ラモサス也 波奈乃加波、二云木加波。天文写本和名抄曰、本草云、橘皮、一名黄皮。 漢名 橋皮草 集註 國、橋皮五斤。駿河國、云云橋皮各五斤。相換國、橋皮十五斤。阿波國、云云 延喜式卷第三十七日、與饗養。諸國進年料雜藥。攝津國、橋皮六斤。伊勢 包橋ノ類ラ云 木加波 見上註〇包丁開書日、

湯薬の方。陳皮大白朮

ヲ去ョ カメ穰 橘皮二斤十三兩 橘皮各一斤。讃岐國、 ○波奈多知波奈 藥製 萬葉 「揉」白ミ尽也。私云、竹ノヘラニテコソケテアブレ、青皮モ同クホトへ類。田方日、陳皮。水ニ浸メ軟ラケテ、麁稻ノ糠ヲ以テ拌和テ、手ャを 今案 萬葉集卷第十八日、橋歌一首。可氣麻久母、安夜觸加 之古思、皇神祖能、可見能大御世綱、旧道間守、常世

非多知左加延、波流左禮婆、孫枝毛伊都追、保登等藝須、奈久五月爾波、波都婆奈乎、延太爾多乎理弖、乎登 爾和多利、夜保許毛知、脈爲泥許之登吉、時支能、香久乃菓子乎、可之古久母、能許之多脈像禮、國毛勢爾、於

関果類

伎都追、手爾穌古豆、見禮縣毛安加受,秋豆氣婆、之具禮能雨零、阿之比奇能、夜麻能許奴禮波 。都刀爾母夜里美、之路多倍能、蘇泥爾毛古伎禮、香具播之美、於枳豆可良之美、安由流質波 、久禮宗為爾、 多际调奴

母、共葉毛可禮受、常警奈須、伊夜佐加波延續、之句禮許曾、神乃御代欲連、與呂之奈倍、此橋乎、等伎自久能、 可久能木寶等、名附家良之母。觀以此。則古工橋花ヲ賞スル事、包橋化タル證也。花疏曰、柑橘化皆清香〇 仁保比知禮止毛、多知婆奈能、成流其實者、比太照謝,伊夜見我保之久 美山伎布流、冬爾伊多禮波 、霜於氣騰

廣稱唐詩鼓吹曰、廣橋枇杷也。又曰、上林賦、廣橋复熟、即枇杷也。唐庚子西季氏山園記、枇杷盧橋

一也。事

話口、冷曆夜話云、各來茶雞渾無有虛橋、楊梅尚帶酸、張嘉甫問曰、虛橋何種果類答曰、枇杷是也。又問、何以 用。本草、金橋、註、時珍日、此橋生時青廬色、蒼熟則如、金、盧黑色也。註文選者 拿之`<>答曰、事見相如賦。<br/>
。嘉甫曰、廣橋夏熟、黃甘、燈榛、枇杷、橪姊、亭奈·厚朴。<br/>
則嵐橋果類、賦 、虛橋竟苑今廣東呼。枇杷以爲 。嚴橋、其,葉。名.無憂扇、又本草綱目。以三金橋。爲 以枇杷爲慮 三嵐 橋誤 橋。 不應四句 上林賦 漁隱叢 正

云、廣議夏熟 光聲為建安郡中庭有橋 批批 燃料 「多月衛上覆蓋之 至明年夏色變青黑味有尤字 即以「物並列、則非一物明矣。此橋夏多相繼、故云夏熟一丹鉛錄日、偶閱英錄云、朱

独王化木志曰、宣儒勤土有給客燈似惱响非若悔而香冬夏華質相繼、或如彈丸、或如拳、通跋食之、亦名廣橋 直認名粉志曰、廣麓點元和志光體與有山如體形黑色縣以此名鎮。曾我物語卷第 こ日、又たちばなにろきつ

なりつ といふ名あり。こぞのたちばなに、おほひしておけば、ことしのなつまであるなり。 ろのじなくろしとよめばなり。文華秀麗堡田 夏日臨一泛大湖一首、御製。浦香南 そのいろすこしくろき 廬橋? 明衡征來

にいでたれば云、まつ程のさうか~しければ、たちばなのみなどあるに、あふひをかけて、「あふひとか、 日、魔橋一雘隨,候。進上。注, 花橋也。按本草時珍ノ説ニ據。ハ、魔橋ハ金橋也。蜻蛉日祀ニ、四月まつり見

いひやる。ト云へ全り金橋也きけどてよそに、たち花の、と

一名 波那多智處那四、加愚破志、波那多智麼那、辭豆鬼羅

波、等利委餓羅辭云云 波、比等未那等利、保養思 波那多知波奈 古事記曰、迦具波斯、波那多知婆那波、本都延波、登四宝質

待て唉花橋といふ心と 必五月に唉物と。五月を 花橋 萬葉集卷第十三日、近江之海、泊、宋村和云云花橋野、宋村南、天十十島

集註 日、御まへ

里田、ちかきたち花のかほり、なつかしく匂ひて。同乙女日、むかしおぼゆろ花たちばな。同まほろし日、花散口、ちかきたち花のかほり、なすかけたり。なでしこ、はなたちばななど、うへさせ給へり。源氏物語のいづみのみづ、すぶしげなるに、みすかけたり。なでしこ、はなたちばななど、うへさせ給へり。源氏物語

く、のきちかくかほりけるに。年中行事和歌日、寄…南駿橋、戀。 新中納言。「よそながらみはしのもとのお なん、とまたる、程に。平家物語曰、もとのあるじの、うつしうへをきたりけん花たちばなの、風なつかし 花たちばなの、月影に、いときはやかにみゆる、かほりも、をいかぜなつかしければ、ちよをならせる聲もせ

れにけりときゝ給ふ。赤染衢門集日、いまよりはなどいひしかど、をとぁせで五月も遥ぬ。六月ついたな 春の明ぼのならねどおかしきに、はなたち花にやどかりにや、ほとゝぎすほのかになきわたる、ねにあらけ

もかけにはなたちばなのかさえなつかし。狭衣日、そらはあま雲はれわたりて、ほのぐくとあけ行山ぎは、

果部 関果類

**巻第十一日、昔ノ跡ヲ忍ベトヤ、花橋ノ香ツ包。つれ~~日、花橋は名にこそおへれ、独梅の包ひにて、いに** ころに、たちばなにつけて「待くらし五月のほどもすぎにけりはなたち花はいかどなりにし。源平盛衰記

ひしう思ひ出らる」 しへの事も立かへりこ

形狀

源氏物語若菜日、さ月まつ花たち花もみょぐして、をしおれるかほり おぼゆ。 堀河院百首日、我園の花橋の色みれば金の鈴のなれる**成**け

ho 花たちばなのいとしろく散たるをながめて 更級日記日、五月ついたち頃、つまちかき

花橋子式 漢名

猴橘 八閩 通志

> 今名 タチボ

タチボニノ、與二包橋、同名異物也。 八閩通志曰、猴橋、一名橋花。 葉密而尖小声、雪艮多、大葉可豊と写明月祀曰、建仁三年十二月十日、宇治之間軣、御太刀一、兵、具鎮、仮縣地以記花橋7爲」之。 按花橋子、即猴橋

甘瓣 皮甚薄、 集註 河內國、花橋子一擔。 延喜式卷第三十三日、大膳下。諸國賈進菓子。

ル沃伊

漢名

柑

加無之優名類

聚鈔

置 本

今名 ミカン 攝津國、花橋子二擔

於橋。但無人刺爲人異耳 華夷草木考日、村。莖葉無、異己。 红 蜜柑 日、靈光院献□鑑柑7。殿中申次記曰、正月十一日十二八尺素往來拜下學集○永享日記曰、永享七年十一月十

蜜柑二 簡云 ~ 例年之儀 ~ 章州 府志曰、有密柑、惜未有表章之者 みつかん、物みつかん、金銀之露 みかん とみかん御菓子七種 同上。御菓子九種

云るみ 甘子 替子。因縣、甘子。阿波:甘子。吾妻鏡卷第三十一曰、嘉禎二年八月四日、將軍家若宮大路中子 續日本紀○延喜式卷第三十一曰、宮內省。諸國例資御聲。遠江、甘子。駿河、甘子。相撲、

日、上野國甘樂、加牟良、石見國朔賀郡伊甘、伊加無。 唐劉瀚大唐新語曰、益州每歲進甘子、皆以紙豢之、品 新浩師所御移悉也云云訖、供。五草。四面栗、柿、甘子、蜜。倭名鈔曰、柑子。上晉甘、和名加無之。同國郡部

通言、其味之甘美也 字箋日、甘甜也。又與、相 加牟之醫心方日、柑子。和名加牟之。地藏體驗記曰、高 かんし

ざとならずたてまつれ給。明月記曰、藩巌三年二月六日、顯後卿肩膊物柑子許、恐灸不焼云云 質木柱日、かりのこのいとおほかなるを御覧じて、かんしたちばななどやうにまぎらはして、カ 中主

草木考日、柑、甘也。橘之甘"者也 新撰字鏡曰、甘橋。加牟志。華夷 今案 職人霊獣合日、からぢらり一にしの京やから地のむろやた れとめて月の夜ごろをよそにみる哉。懸すればあしもと

ば云とその心をえて云とこのからじを、三奉りたりつれば、まいらせたるなりといふに。源氏物語若菜曰、 よはしから地らりたふれあやうや大事いだすな。宇治拾遺日、つゝみたる柑子を三ながらとらせたりけれ

に、はこのふたにとりまぜつゝあるを、わかき人、こぼれとりくふ。觀心此。則自、昔柑子ヲカウジト云ル證 つきん、殿上人は、すのこにわらうだめして、わざとなくつばいもちい、なしかうじやうの物共、さまん

卷第四十

りをふくろにいれて、ト云、即カウジ橋、自、古爲『別物』明也。然ルニ後世包橋ヲカウジト云ルハ、後世 S 188 動語に、大から子ト間タリ。築花物語ららく一のわかれニ、御くるまに、からじ襦、ごきひとつばか

村類ヲ俗家、不い植ト云へ何ノ因縁 名ニメ、古ノカウジニアラザ ル也っ ング カウジハ即カンシ也。源氏物語ニ、カンシ橋ト云可證○塵添壒囊抄日 凡難」行山此說」慥ナル本文ヲ不」見、是於山本朝、事験。相類「九種ア

艺 集正 中務少丞從云位上佐珠,朝臣虫麻呂、典鑄正六位上播磨,直弟兄二、並绶。從五位下で弟 續日本紀卷第九日、聖武天皇神龍二年十一月已丑、天皇御二大安殿一、受三冬至 賀辞?是日

正月最勝王經濟百供養料。 柑子一顆 仁王經獨晉供養料。 柑子五五各一顆。 諸國資進菓子。 兄、初費 十子,後四唐國一來少。 虫麻呂先頭、其種一結二子? 故一有。此、授一焉。延喜式卷第三十三日、大膳下。

内脑河。 四指。 题河山 三十九町小段二百步。 村子七郎。相摸國、村子。因輔國、村子。 辦藥樹四百六十株 阿波與 云云村四十株。美濃國風土祀曰、共產物者福村。 村了二 開 新 1000 一下颗。 同卷第三十九日、

大和國 買松竹梅桃絲伽相子等。 風土記 日、平群郡資村。 燒津、貢於梅橋柏柑子脩竹。明月記曰、寬喜一年二月三日、長延入道送柑子下枝。 和泉園 風土記日 、日根郡、貢松梅桃竹栗村。 駿河陝風土記日 、盆頭郡那門崎

时。 文曆一年三月三日、寂延入消送村子下枝、栽持佛堂前、今日不問近事。嘉巖元年十月十六日、 宮村子御前。 古今湊開葉卷第二日、女御の御僧をおのづからのぞき給はんとて、相子一つこみを加持してまいらせ 依高結也。 filt 野郡 、村子御園。 紅紫紫紫沙日、 中右記曰、天仁二年 母屋大爨、經膳村子c 月十 神風抄日、伊勢國護會郡 一日、寂勝講問大神宮司 、村子御廟。 亦宜川 村子御 昨今村子橋梅 國別論

**惱へいゆふし給てけり。同卷第十七日、大納言の夢に見給ふやう、年たけしらがしろき大童子の、とくさの** られけり。信禪かへり夢て、そのよし申されて、くだんの柑子や奉ければ、すなはちぶくせしめ給いて、御

一級にして、ひざうの手をつくして、まはれたりける。續古事談曰、又此御時、堀川 かり衣きたる一人、西向のつぼの、柑子のもとに、かしこまり居たり。同卷第十八日、右府柑子を箸にさして

テ、家ヨツクリヲ、ヘリケルヲ、爲墜大弁、一參テ、此ヲ見テ、アレハ何事ゾ、サルコトヤハアルベキトテ、御イラセタリケルヲ、ナニガシノツボニウエテ、愛セサセ給ケレバ、藏人臘口ナドアツマリテ、木ヲカラサジト

ラル、事無シ。つれく、日、かなたの庭に、おほきなる柑子の木の、枝もたはゝになりたるが、まはりをきび 倉ノ小舎人ヲ召テ、散々ニコボタセテケレバ、木ホドナクカレニケレドモ、人チカラヲヨバズ、君モヲホセ

て、此本なからましかばとおぼえしかしくかこひたりしこそ、すこしことさめ

形狀

赤黄之色之由、內藏寮令申遣、先例不然、悉白之由、 園太曆日、又帛裝東表袴裹幷大口色号相子色可有薄

大村子次第

様い哉ギたど不審い

仙洞二

ハ御沙汰い、何

始テ來リシ時、國王弁持來使者共亡シキ應添壒嚢抄口、大柑子襦柚等、九種香菓種

果部

國果類

集註

主] 辨·備繆饌·云·云大柑子一坏。同卷第十日、新掌會。 注] 江家次第卷第一日、元日宴會。共前"立"朱毫盤五脚、

九月八日、心寂場送草樹等、令栽之云、大柑子云云等也。台即別即曰、長漱四年二月八日、大納言殿令任右 裝東京系大村了一环。類緊雞要抄口、內大臣殷廟大饗、菓子八種云、大柑子乍丸廻盛。明月記曰、寬喜元年

大將給 御裝束菓子士坏、大甘子小片子串柿餅伏戔已上各二坏。園太曆曰、康永三年正月三日今日齒固之云 と次二麒下御菓子大柑子。字治拾遺口、大柑子を、これのどかほくらんたべとて、IIIいとかうばしきみちの

くに紙につくみて、とらぜたりければ、侍とりつたへてとらす。わら一すぢが、大柑子三ッになりぬること ゝ思て、木の枝にゆひつけて、かたにうちかけてゆくほどに云くつゝみたる柑子を、三ながらとらせたりけ

れば云くその心をえて、このからじを三奉りたりつれば、まいらせたるなりといふに云く此柑子えざらま 之甚非一。至分皮ヲ脫 しかば云ゝ此相子の喜は、いひつくすべきかたもなけれど云ゝ。三條中山口傳曰、大柑子袋脱テ聊付皮盤 形狀 宇治拾遺目、さてこの内供は、はな長かりけり。五六すんばかりなりけ れば、おとがひよりさがりてぞみえける。色はあかむらさきにて、大

相子のはだのやうに、つぶだちてふくれたの云く。 台記日、久壽二年七月廿五日、醫基康來語 厚方ヲ外ニテ可盛也 1、法皇皇7个 雞御腹; 沙腫、又細膳多時可大甘子少時不及之、仍明日有御灸治、基康可奉仕也

小柑子實錄

一名 小村 延喜式卷第三十九日、內膳司。園地三十九町五段

集註

**孝天皇仁和二年丙午春正月** 三代實錄卷第四十九**日、光** 

類聚雜要抄日、母屋大饗、饗膳小柑子。内大臣殷厢大饗云、小柑子。三條中山口傳曰、小柑子半破ニシテ仰 业九日已酉、太宰府例÷實小柑子了。以"十一月三十日以前、爲"實進之期。先」是、不¸立:期限了。故今定」之。

サマニ

盛之

花柑子 製指

花甘子 **餝抄曰、賀茂祭見物雲客車。久壽一四廿一、隆長見物。其車上樽網代。左右縱緣。** 張。青薄物、外空立松。簾用。伊与簾、霰地 一切之上緣際、每,縣、緒處一付,在甘子二云。 內

をとづれてたより色ある花からじかな 藻塩草日、花柑子。此ほどはいせにしる人

阿倍多知波奈本草

漢名

今名 ダイノ

葉大而彩圓、北地亦無。此種 華夷草木等日、橙似、橘而有、刺、 名 安倍太知波奈倭名類聚鈔日、橙。和名安倍太知波奈。 本草和名曰、橙。和名阿倍多知波奈。

呂豆伎奴良牟。按二萬葉集十八橋歌二、安由流實波、多極雨奴伎都追下云リ萬葉集卷第十五日,宏伎左禮婆、於久都由之毛鬻、安倍受之皇、京師乃由波 伊萬葉集卷第十五日,宏传走之皇、京師乃由波 伊 阿倍橋 日、吾妹子、不 萬葉集卷第十二

果部 周果類

四七五

橋とかけり。壒嚢抄日、鸞〉事。アヘタチハナトハ何ノ木ヅェニ。言廃集日、あへ橋、ある橋、和字にらへは、立にをいふと、あきらかにしりたる人かたし云ゝ。藻塩草日、あべ橋。顯昭云、あへたちはなとハ、阿倍 たえたるをいふ詞なれば、あべといはんための諷詞に、うましものとをけり云くそもくしあべたちはなと - 久、馬下乃、阿倍橘乃、羅生左右。仙覺萬葉集註釋曰、うましものあべたちばな、とつどけたる、あべとは、とりますシャラ

まりたると云、安僧太智波奈天文写本と、あるとや書あや安僧太智波奈天文写本

集註、萬葉

嚶。同卷第十七日、趙中風土希>有萬葉集卷第十七日、橙橘初咲、霍公蘇

土正曰、寶篋郡真燈 正誤

| 選 | 戦々筆語ニ、阿倍喬ヲ蜜柑トス。非也。

アマタチハナ魔流境

漢名。香橙

今名ク

クネンボ

をとらんとて、魔を取と云ほやろかなる事也。あへとあまと訛ると云く。袖中抄、壒嚢抄ニモ出タリ 漢塩草日、成謄師一申侍し 「では東耕区、たうとよむ。訓へあまたちはなる。 橋及には不用る。然へ橋

[1] 紧 倭 名 類

漢名相

今名

四十九日別菩提ノタメニ簽松物日記事云云柿一篇、五五十等。又日楠五十等云云。倭名鈔曰、 道散阪馬進次第日、八月十五日名月之御祝、うすおしきに遊 ツ参ルの鉄外書日、南條七郎殿

難記口、背き補を、ちいさくけづりて、香に入るを、古はかうちうとい、か。鴨頭と書へ。 青回の皮の、汁の中 腰に組付る橋皮へ袖の皮の事之。叉陳皮をも割て、土器に盛出す之。 四時の邪氣を除との事之○伊勢貞丈

頭書云、鴨ハ音アフナレル、俗ニカウトヨミ來レリ。鴨。玉篇、鳥甲切、音アフナリ に浮たる躰、鴨の水に入て、青き頭を出して浮たるに似たる故と。今はすいくちといふ。 集註

第七日、踐祚大堂祭。凡供"神御"雜物。柏筥一合、別納。三顆。同卷第三十三日、大膳下。仁王經濟曾供養 · 岳柚子各一颗。同卷三十九日、內膳司。供奉雜菜。柚子十颗、九十月。其東宮、柚子五颗。宇治拾遺

おとしもたてず、またやがてはさみといめたまひける。續日本紀卷第卅二日、光仁天皇寶龜三年六月戊辰、 日、他のさねの、たどいましぼり出したるをまぜて、なげてやりたるをぞ、はさみすべらかしたまひけれど

夏四月十日庚子、夜有』流星、田』自『北斗、犯』繁微宮、西蕃第五、星、色青白、大\*如『柚子。 古今著聞集卷第 往來殞然行於京師「、其大。如》柚子」。數日「乃。止。三代實錄卷第二十日、清和天皇貞觀十三年閏八月廿九 日壬申、夜有:流星、出:東南。入:羽林。。星、大。如:袖子、、青、而有、光。同卷第四十五日、光孝天皇元慶八年

りたりけるを、宰相中將見て、あしく切つる物かなと思ひて、ともかくもいふことなかりけり。宮も御らん

十八日、滋井入道宰相中將にて侍ける時、梶井宮にまいりけるに、盃酌有けり。終座に成て、宰相中將今は柚

たる。をよそ柚をきることは、盃酌至極の時の肴物へ。盃を取人、必三度吞事にて侍とや。其のみやう、き くだんの行籍さるもんばらは、行孝が弟之けり。そのげい舎兄にもはぢざりけるとぞ。柚をば三切にぞ切 包丁刀をぬきたりけり。まづ興有てぞ見へける。ぞんずる所切てまいらせたりければ、宮以下入興有けり。 じて、何とも仰られざりけり。とばかり有て、行いまいれや、と仰られければ、等身衣にかりはかま着たる さぶらひ法師の、みめよくつきん~しげなるまいりたり。其柚きりてまいらせよと仰られければ、こしより

又曰、延善九年八月にもかゝる事侍りけるとかや。そのたびは藤柚梆子ともさきたりけり。元亨釋書曰、釋ける。同卷第十九日、十二月九日、二番侍臣献。資柚。菊時貨物之。此柚、於。射庭、可之献、而貢獻遠失之。 るを見て一度、盃に入て一度、しよくして一度之。宰相中將は、この定に吞れたりける。いみじくぞみき侍

**柚。武藏國風土記曰、花原郡滿田鄉、出梅橘柚等。駿河國風土記曰、鳥渡郡池田、壺柚供膳部之調。伊穗原** 元常、或以「柚百頻」爲二一多粮」。伊勢國風土記曰、安濃郡出云云橋柚 三河國風土記曰、八名郡八名庄、貢

等皆華、李楠子生也、蜻蛉日記、あしげなるゆや、なしやなどを、なつかけにもたりてくひなどするを 郡美勢、產楠。盆頭郡、資橘柚。扶桑略記第廿三日、醍醐天皇延喜九年八月、宮中及東西京櫻桃李柚姊縣

柏柑、紫纱

村神、島也〇按 榛ハサボン也 **倭名鈔曰、綺雅注云、養般漢語** 

今名一ユカウ 集註

庭訓往來日次樹木之事云、柚柑々子橘 雲州橋內相以下心之所及令遠聽候即



草曰、一

微シ苦ミアリ。 カウト云物アリ、柚二似タリ、柚柑へ形状柚ノ如ク、黄色ニメ皮厚皮"味 叉苦味ナク、色淡紅ラ帶、肌滑ナル者アリ、寝へ味甘シ

鬼橘 往來 尺素

不詳

鬼柑子 尺素

不詳

温州橋 下學集 文明写本

名 雲州橘 橋、温或作雲嶼

集註 尺素往來日、雲州橋。 庭訓往來ニモ出タリ

形狀 橋。其葉蜜橘ニ似テ 〇大和本草日、 温沙州

薄シ、皮ノ味ハミカンニヲトレリ、其色ミカンヨリ赤シ。 薄小ナリ、其實ノ肌 蜜橋二似タリの大が同。 ミカンヨリ厚シ、味モ亦似、蜜橘、皮ノ裏如、柑蜜橘 二三月ニ至リ味彌ヨシ。土佐州ヨリ出ヅ ヨリ

橋村 文明写本 下學集

漢名 金橘草本

今名キンカン

一名 下學奪曰、橘柑。橘或作、金〇甌江遊志曰、永嘉金柑、即金豆。 觀、此則金柑、和漢通名也。 室町昭日記日、其時信長公座敷を立給ひて、光秀がうつぶさまにひれふして有ける、そ首

果部 関果類

一四七九

をとって押付点せ張ひ、御脇差を引ぬひて、いかにきんかあたまのまふかのむ いかにきんかあたまとて、脳差のわねにて、かなたこなたへなでまわし給ふ云、信長御覽有て、一段よしき まいか、一口返 事をせよ云く

早々香玉へと宜ければ云。

加布知本草 漢名 香變本 今名

ザボン

一名 加有智優的影響以胸緣。 于排世。本草維新口、香絲。此種之歸也。小者為"密篇",其大者謂之之、朱緣。(倭名勸器鈔日、枸橼。和名詞布智。天文寫本和名抄曰、加布如名詞之〇枸絲八 最大者 マル佛

ニ枸杞ノ字ヲ川、枸 問し之。香練の今人課解為、香園から知、香園、即、佛手村、也の日本ニテモ古、課テ香練 総 八共信味苦ク、酢ニ代テ用ヒガタシ。即佛手柑ノ一類二種也 维註

日、山射沙

物問何多用掉紙 塩始事云云度數英 今案 江家次第卷第九日、射場始、賭物。枸櫞。枸橼、上音俱禹反。下晋尹全反。 廣州紀似。橋實一如之物大。而 篙 長、味奇酢、皮以、密煮爲、粽、今世以、此使

| 今名| ジャケチ 實

111

如一根實。 本草編日日、枸櫞。處《有》之、嚮葉並與、繙同。但幹多。刺。三月開。由花、青莲不、香、緒..實大,如 而設薄不と香、人家多收 「稱言」審斷。亦或收。小實「傷充」、枳實及青橋皮、售」之不」可」不了辨

からたち 枕草紙日、名おそろしき物。からたち。曾我物語卷第四日、たちばなはいほくに しやうじて、からたちとなり、すいとの事なればなり。按伊勢物語日、おばらから

タル事明也。萬葉葉卷第十六日、枳、棘原苅除曾家、倉將立たもにかいりて、家にきてうちふせり。觀、此則加良多畑、枸橋 開ら多知で、関ら多知 藻塩草日、枳 加良立

**老** 新撰字鑛日、枳。居紙思紫 二反。木實也。加良立苍 加良太知倭名類聚抄○本草和名曰、 韓橋 三代實錄卷第五十日、 光孝天皇仁和三年五

橋一者二人以山城係丁元之之 月十四日丁亥、是日、始。置"守"韓 根子 雞雞。左右近衛府。根子云云各十四兩 經喜式卷第三十七日 與樂發。諸司年料 しやけち

小云、或似」橋。而大云、じやけちのみ、その形尤利にたる蠍、可」思」之云、集計釋卷第十一日、裏書云、或云、からたちとは、じやけちなり云、或似」抽而 集註

枳殼。和加良本草類編日、

太錦、九月十月採陰于。根實。和加良太錦乃和加支、九月十月採隂于。延喜式卷第二十七日、典藥寮。臘月 御樂。桓寶八雨。雜於料。桓寶十二兩三分一諮司年料聲藥。齋宮卷、桓實十二兩一分二銖。選譯蕃使。唐

各十斤。攝津灣、供寶玄云各三斤。近江國、枳實四斤八兩。若狹國、枳實十斤。加賀國、枳殼云云各一斤。 使、根質云云各二斤。勸使、根質云云各二斤。諸國進年料雜聽。山城國、根實云云各九斤。大和國、根質云云

意見十二節條曰、麦。州郡之根棘。吉野拾遺曰、なをそのほかに、うばらからたちをひまなく植たるうちに、 本期無讀詩日、人家有來答息于新樹之下根落花開紫藤拂池云云根落花暗遠我入云云又曰、枳蕀園荒秋色變。

ほり、からたちを植させて、あたりへ寄べきやうもなし をしこめたてまつる。室町殿日記日、夫より内にも堀を

形狀

〇本草啓蒙日、枸橘。俗二誤テ根蔵 ト呼ど、藩籬二作ル者ナリ。本高サ

故、離二作ル。春末枝梢枝ヲ分テ花ヲ開ク。白色五瓣、大サ寸ニ近シ。後置ヲ結ブ。小ナル者ヲ採テ根質 丈餘、多へ進ナシ。春新葉ヲ生ズ、三葉一帯、胡枝子葉ニ似テ、小ク厚ク、深緑色ニメ光リアリ。木ニ刺多キ

ニメ皮薄ク、切リテハ枳殼ニ偽リ難シ。故ニ皮ノミヲ乾テ、和ノ枳殼ト呼ブ ニ偽ル。皮へ厚ケレモ外色線ニメ毛アリ。秋ニ至テ熟スレバ黄ナリ。肌

#### 倭名類

漢名

李草本

今名 スモ、

名 すも、 重之集日、女の家に、もゝの花や、すもゝの花など、むらくくさきたり。新撰字鏡日。 李。良士反、須毛々。本草和名曰、李核人、和名須毛々。倭名鈔曰、李子。和名須毛

みまなこ二つに、するとのやうなる玉をそへていましたる云~。玉造日、鮨 燠五殊之季。文明写本下學集々。本草頭繰口、季樸人、和名須毛々。竹収物語曰、こなたかなたの目には、すもゝを二つつける様へ云~ 櫻かれはまがへ しかきうちのすもゝの花を雪かとはみん 「たれも見よすもゝの下の道せばみかふりかた 日、李。藻塩草日、青すもゝ云は「きえがての雪かとみるまで山かつのかきほのすもゝ花さきにけり「梅

ふれくる ぶけ手やは 集註 萬葉集卷第十九日、天平勝寶二年三月一日之聲、聽一賜、春苑桃李花。作歌二首云云 吾園之、李 花可、庭廟落、彼太禮能未、遺 有可母。 延喜武卷第三十三日、大膳下。

李子各一升。尺素往來日 春花者李 花。日向國風土記曰、諸縣郡出李。出雲國風土記曰、意字郡所在草木 七寺、盂關盆供養料。李子宝云各四升。同卷第三十九日、內膳司。供奉雜菜。李二升、五六月。其東宮云云

日京中櫻梅經李華。明月記曰、元仁二年二月廿九日云云田夫樵父様一枝、桃李淺深 李繪。嶋根鄢所在草木李。秋照郡所在草木李。百練抄卷第八日、嘉應二年九月、近

形狀
九日、菓

さかなにして、又四五六度が、否にけり。八雲御抄日、すも」の花の雪に似由なり 子には、よく熟せる季の、紫色なるを、大なる春日器に、十ばかりづく盛たり云く季を

## 佐毛々 紧動 漢名

多 李 草本

今名

ワセスモ、

一名 佐毛々乃支 類編 佐桃 新撰字鏡曰、

集註

太 麥秀。 時熟,故以名之。 雜名苑注云、 毛麥秀。 時熟,故以名之。 雜名苑注云、 佐 倭名鈔曰、陶隱居本草云、麥李漢語抄

麥亭一證 頻本草曰、今之麥李細實有:溝道行與、麥同熟故名之青房、今按即麥李也。 近月熟季也。本草綱目、李。 集解曰、早則

形狀

本草類編日

鼠李。佐毛々乃

支、葉質如李子相似、野原自

一四八三

果部 園果類

按鼠李ハクロムメモドキ也

#### 加良毛く

古名錄卷第四

-1-

品字灣日、香。

味門薄

作.

本

今名

果名、似海面甜。 朝作回っ 先桃而放 漢名 香草 一名 本口人 縁而在祭利、按二人、和漢通用シテ春核内ノ仁也。

人上云。倭名類聚鈔樂名類二、杏人丸、杏人湯、杏人煎上出。又曰、杏子。 人等是也。 人和加 經喜式、與藥室、中宮臘月御藥、桃仁三分。 東宮所須桃人一兩二分ト云、大膳式及雞式釋奠祭三榛人菱人茯 良毛々の倭百銭菓具順門、核の和名佐称。 正字道 后、果核中 實有·生氣·峕亦曰:仁"。玉造曰、廣陵曾王之·杏、医言鈔萬具顧曰、核。和名佐称。今按一名人。醫家書云、桃人杏 和名加良毛太。 漢。桃 本草類編目. 杏核 容海遺告日、六 桑木沉十兩、七

桃木沉土雨、八大唐香木沉土雨、九溪桃木、沉土南。文明写本下學集日、杏。武家調味故質日、く わい人の間にいませ給べき物、むめ、もゝ、すもゝ、 からも、〇蜀都雜抄日、棗否等謂之、核果 集註

尺素往來目、存花者云、杏花。本期無顧詩曰、桃杏山寒花始紅。 鄉出班不 湖门 果果 11 [ii] 風土記口、諸原郡出杏。 大和國風土記口、平群都貢否。 伊勢國 風 上記日、安濃郡 加賀國風土記口、加賀郡 I 否柳果。

小門。 極機者 明 PIN . 够河风里土祀日、経頭 

今案

H **誘抄ニ、否葉ノ嗣アリ**。 明月記曰、建曆三年七月廿五

川北田 俗達經秘抄日、馬酬、連惟公剛、小總殿上人、注総撿非進使之。 仁平四 一年二月春日消装東、皇后宮大夫進雅売漬団、唐綾口村禮キヤウョ 然而間々殿上人モ用。連雀。 一、店草 ハ サミ 行港及一員御事 及 11 **狩衣**。世

**鞭日 非滲騰モ猶付」澄融於否葉。而自。中古」有《総戦事付。否葉」と。都記曰、承暦四年九月十五日、今日殯** 之時八不入然。壞職"或官用之。故唐輕譽用之。又宿老人內入用之。京逐關白參,長谷等,時用之。大甞會節

各所借聚人々之。左兵衛督示淺云 響者例響敏、唐數響敏 答云、只可用例譯由所存之。但相聲可申者、次宮群行也。已刻許持來嚴御馬少將來向、午刻催聚馬割六人黑地鞍、手綱差繩切付榮女唐鞍之否葉有交、帶靴

許、返報然者政用何緣乎。答云、只隱在可用戀者、人本用例緣 問申大宮大夫御許被示云、某濟可同唐辦潛達此由於左兵衛肾

〇あんにん 英草相 大草相

漢名 杏仁本 今名 アンスノタネノ内,仁

にせんじて、からみには、あんにんをいりて、こまかにくだき、すしほに入べくゆ。自然あんにんなくゆは 大草相傳之福書日、いかだのす塩は、能酒一ばいに、海干五、程いれ、かつをこまかにけづり、一っに入、半分

しいて用えなり。香木五箇之傳聞書曰、きくといふは、あんにんのかほりあるなり。口傳杏仁の匂ひは、 ど、もとのされをわり、中のみないりて、こまかにくだきて、入べくい。扨すしほす物にていかにもよくこ

~。火にかけなどすることにはありず。此にほひをよくおほべて、辛氣の意味をしるべし 少し酸く青くさし。杏子のはじゆくしたるとき、核やわりて、仁をとり、きざみて其まっかぐ

集註

仁四兩。雜齡粉。杏仁一斤二兩。諸司年料雜葉。篙宮嶽、杏仁二兩三分二鉄。本工家、杏仁云五各二斤。 延喜式卷第二十三日。民一下。年料別貢雜物。上野國、杏仁三斗。同卷第三十七日、典雞蘣。臘月衝斃。杏

開果麵

四八六

杏仁云 左右近衛府、杏仁千五 云各四斤。 謝使否仁云云各二升。新羅使、 百枚。 左右 衛門府、杏仁云 云各四 云云杏仁各一斗。諸國進年料雜藥。 兩。 左右兵衛府、云 云杏仁各四 山城 兩。造諸蕃使。 國杏仁一斗八升。 唐使、

精准國 仁七斗五升。 信禮國、杏仁六斗 一斗九升。 甲斐國、香

藥製 テ炒テ、遺赤色ニメ使へ。急ノ時ハ、炒テ皮尖ラヒチリム 福田方曰、杏仁。 先ッ湯 ニ浸メ 、皮ト尖ト双仁ヲ去テ 火火

比"波" 丰 ・テ使 1 如ニナ 本草 和名 0 シテ使へ 别 が三研 漢名 テ

枇 草本

今迎名

名 味把 倭名類聚鈔日、 本草和名曰、枇杷葉 枇杷。 此間云、 味把。

和名比波 己不久局 類編草 比 巴 上同 比波乃木

宮只今無指御在所以 月十七日、依可有院易来時許參內妻、仰有府云、太皇大后宮可有院号之事、前々以御在两之名奉号也。 新撰字鏡日、杷。 比波乃木〇園太曆日、長和四年九月廿日、自枇杷院迁御新浩內裏。水左記 何所認名哉宜。定、申者、良基資仲顯房忠家信永右大臣定申云、元御領枇杷殿也。 日 一治曆 三五年二 而件

其所之名可泰号號。 俊長卿定中云 大略同經信期臣中、 能長期定中云、枇杷殿元御領 但可依勒定號。有府如此旨付頭中將奏聞 所 110 可申 批机院與。 叉件所陽 一恭長朝戶重仰云 明門大路可 日 陽明枇杷之 陽明門

雖不

一後可

御号、

經信宗俊能季

祐家余經長等定申云、只今雖無定御在两定有可御坐之所歟。

先以

季話家經長能長等申上云、可申陽明門院付、此可申陽明門院之出被仰下。 築花物語玉村藻曰、人のくちやす 間、以何可奉考哉、雷可定申者、真基秀仲顯房忠家余俊家信長右大臣申上云、可申枇杷院、經信家俊能季經

つくしみなどありつれど、十月二日びはどのやくるものか。あさましくいみじともをろかなり からめ世にて、一でうどのと、びはどのと、やくべしとのよしれば、うたてゆくしうおぼされて、御 集註

本記略日、弘仁五年二月甲午、是日。鶺鴒薫數集。陰陽簑枇杷樹、觀人異」之。嘉喜門院集日、けんとく二年已上二合、五位已上一合。 同卷第三十九日、內膳司。 供案雜菜。 枇杷十房、五六月。 共東宮、枇杷十房。 日 三代實錄卷第四十三日、陽成天皇元慶七年五月三日戊辰、天皇御,豐樂殿、賜,宴渤海客徒。禹 禹酒及 數坏 別賜。御餘枇杷子一銀焥。大使已下起之座拜受。延喜式卷第三十三日、大膳下。五月五日節料。枇杷、鎏議

なが月の末つかた、びはの大なる枝に、つたの紅葉のかゝりた りしを、わきてそめけるも、なにとなく御めとまる心ちして

形狀

兩也。用之。和已不久扁 汉云 本草類編日、枇杷。凡一葉重

比巴。多開白花、至三四月而 成實、葉用之須火炙布拭去毛 ○葉 漢名 枇杷葉 本證質 今名ビハノハ

一藥製

以テウラノモラスリ去テ、選ノ汁ヲヌリテ、炙黄メテ使へ。毛ハ人ノ肺ヲ射トホスへ **頓醫抄日、枇杷葉、毛ヲノゴイステ、姜汁ヲスリテアブレ。福田方曰、枇杷葉。フトキ布ヲ** 

佐久呂 聚鈔

漢名 石榴草本

今名一ザクロ

一四八七

以呂大末 本下學集日、石 棚。取上汁入。坏中、經一數日一成。美酒 本草類編〇倭名類聚鈔日、石榴。和名佐久呂。文明写 精稲 頓醫抄日、四 質ニ似タリの魔雅

石榴也 しやくろ **仙傳抄日、たてあはせぬ草** 木之事。じやくろにつげ 集註 十訓抄日、今かたつかたは、同 ろをもられたる。塵添壒羹沙日 桃柳石 ざく

殿、頭馬子幸、御時 也。經外書曰、今月二十二日、信濃ヨリ贈ラレ候シ物ノ日記云云品糖五把、柘榴十。類聚鑑要抄曰、仁和寺 其、其因緣以不以見云云石榴八銀子母神ノ所、變、一人關也一項ノ中二官多故二、鬼子母特二此欄又變少給 船ノ樹 下ニソ 神供弁施餓鬼ヲセヌ 計師遊消 行山。 保廷二年九月廿三月云 > 一本、董子門坏、松柏干墨柘榴云 > 。 何が 誠二上件ノ柳ノ下三於于鬼神不」來山、施餓鬼ノ法ニアリト云 智緊卻前

新析標予畫、殿中中次記曰、天月朔日、竹牆一街。例年進上之 · 尺素往來曰、夏花清云 · 柘欖花等 物、 近 進 Ti, 秋

加" 山支 和省 漢名 柿 今名

賀岐

本下學事曰、姊。背果雖几尺、作。楠 本質和名曰、柿 カキ 非也 木壓也、非、東。也 和名加 被o文明寫

引也。職人所領神御曹与予曾隸匿、自去年有相斷事、寫熈件子綱所招也 〇水左記曰、承保四年十一月十四日已刻計、左衛門 一尉時師來、是仍昨日招 集託

三代實錄卷第三日、 貞獨完年秋七月十九

加支柿。和名加支

下,有"枯樹(絕;不)結5子、俗名等其地,日"不入管枯。 美濃園風土記曰、共流物著、桃癰柿栗、渥美郡呂姊。梆百株。本朝無顯詩曰、枯葉濱塞紅华零。 父曰、枯葉瑶隂學雨疎。元字釋書曰鑒甫,七歲壹臺 鮤山二、近"山 云至荫子云至各一升。清年料雜菜。楠充升、對塩二升。園地三十九町元段二百步 雜菓樹四百六十株、云云 日壬申、雷雨、震、內教坊補樹。延喜武卷第二十九日、內膳司。供聚雜菜一補子二升、九十十 一月。其東宮

花原那貫精 太條鄉出姊。 百練抄第九日、安德天皇養和元年十月十一日、於、院書、柿 日向國風土記曰、諸縣郡出姊。攝津處風土記曰、有馬郡布敷庄、資栗柿等。武藏國風土記曰、 葉 於心經干卷 供養。 納二俵十二

爲」被、入二東海西海」也。是依二登縣朝臣夢想」也。扶桑略記八日、朱雀天皇承平四年甲午春、弘徽殿前姊園 島作よ巢。人車記曰、仁平二年十二月十二日、御佛事云云林一外居山吹唐綾結之。字都保物語後蔭曰、この猿

見給ふに。更級日記目、一むら山の中にとまりたるで、大きなるかきの木の下に、いほをつくりたれば、夜 大七引つれて、さまんしの物の薬をくもでにさして、しめくりかきなしいもところなどを人て、もてくるを

葉に、おもふこくろをしるして、うかべけることも待るにや。大平記卷第三十三日、道ニ落タル栗柿ナンド ひとよ、いほのうへにかきのおちかゝりたるを、人かくひろひなどす。年申行事和歌曰、我國にも、かきの

ヲ給テ、總二命ヲ灣シカバ、身モ除リニクタピレ、足モ不立成ヌト云 木はかき。殿中中次龍田、九月九日、姉一鑞、例年進上之 HO HO

りけるに、栗毛なる馬に、しばをおはせて、あかくな

れるかきの枝ながら、紫のうへにさしたりける云く

形狀

日比にもみぢ見にまか 十月朔

果部 関果類

人車 漢名 醂林 草

今名

アハシガキ

□ 体、安居院、人家自、洛北郊外、資本、監神買、之、以、新智湯、煮。一二沸、新智湯之煎汁、謂、灰、然則苦鑑 得。抹《石灰、或《浸、「蕎麥瑪灰汁二一三月 取出曝乾。」、青變作。淡資、羅味變。微甘,可以食。。 按雞州府忠曰、 菓子四種、梨子茱菱淡柿〇本制食鑑口、又別"有"佐和志姊、京師「此。稱"阿和世姊」。 其 忽去變 计味、是謂:離 あはしがき 你。以『新獨之前汁·麦·之、故外皮壞爛。、依·之謂·之爛桃、京鄉眞如堂每年十月十 權中納言定賴殉集曰、あはしがき。水のあはしかきゝえやすくみゆれども露 の身よりはひさしかりけり。人車記曰、保元二年八月在任大臣事云云次折敷 法青姊將

珍,說。日、水浸藏者謂,之節初。又日蘇藏秭也。水收鹽。浸。之外,又有以。熟的。用。灰汁,澡三四度,令、汁 夜洪事之間爲二節物、故堂前賣」之。又販一市中、或謂一十夜姊。 按ニ、アワシ柿二種也。一八酥柿也。本草時

肉柔ニ爛レ皮硬シ、十月二多シ。故ニ京師ニテハ十夜ガキト云 ○一種八烘桃也。 書:着器中、經十餘日、即可、食。本草啓蒙日、醂柿ハサワシガキ、漆柿ヲ灰汁ニ浸シ、 澁味ヲ去タルヲ云、 アラキ漆がラ器中ニ

去其、甘『如』竈。本草啓蒙曰、樊部ハ漆神ノ青キ者ヲ採リ、皮ヲ去ラズ、稻草ニ包ミ、器ニ入レ置キ、熟スル ニ紅熱スル者也。本草時珍識。口、烘焼・非、謂・火烘、也。 即青絲之秭収 置器中,自然紅熱如。烘成、澀味盡

ヲ云の故ニツ・ミガキト呼ブの义治標中ニ入テ熟スルモアリの故ニタルヌキト呼ブ、栃本氏系圖曰、さは しがき見ざまいやし、心あしきゆへふしつけにし、又は水火のせめや得後、こゝろあらよし。十月十夜に世

人もちゆるなり。十夜

#### 熟林芸喜

一名うみ構造等

集註 納二一斗。同卷第三十三日、大騰下。九月九日節文人料。熟柿子 延喜式卷第七日、踐祚大當祭。凡供"神御」雜物者、熟林筥三合、別

けるに、弓とりに法師をたてたりけるが、秋の末つかたの事にて侍りけるに、門のもとにが。木の有ける下 四顆。人事記曰、保元二年八月有任大臣事、次居菓子云、熟柿。古今著聞集卷第十二日、或所に強盜入たり

れてさんか、にちりぬ。此様のひやく、としてあたるをかいぐるに、何となくぬれく、と有けるを云・。 に、吐法師かたて矢はげて立たる上より、うみ柿の落けるが、この弓とりの法師がいたどきにおちて、つぶ

て死するは、熟した柿のほそ落なり室町殿日記曰、疊の上にて饗賣にし

木\* 淡淡 集 學

漢名 樹頭霜棉 機窓小馒日、不

今名キ

キザワシ

一名 樹淡 往來 庭訓 緊縛。于樹上、禦。風雨、逐、禽每。保。護之、以至,霜後、候。紅熱、而采用之。 其味極 〇本朝食鑑日、熟柹、本澁秭也。自」初寶着。樹上,不之采、至:黃熟時二用。稻草麻繩

果部 闖果類

湯二、養二之柿在二枝頭一自然熟者也 美。 雍州府志曰、木醮林。不、用 還 集註 

筆かき 系圖 柿本氏 漢名

鹿心林

漢名 方林 事物 糾珠

木禄"

1

下學

今名 ゴショガキ

きのこねりとなが申ける **柿本氏系圖口、世の人御所か** 名 こねり 古今著聞集卷第十八日、本ねりの梆をよみ侍りける。 霜をけるこれりのかきはをのづからふくめばきゆる

有ける 物にぞ 集計 殿中中次記曰、八月朔日、木練一籠 簡、例年進上之。字治報恩院同一篇、例年進上之。鶴原五郎 例年進上之。西林院同

八王子 系圖 柿本氏

みのがき 御成記 期分亭

漢名 塔棉 本草

今名 ミノガキ シ

乾、火乾者味不佳、生則離、以溫水養之、無澀去可食、逮至自然紅燭澀亦自去 證類本草曰、衍義曰、又一種塔斯、亦大於議斯、去皮掛大木株上、使風日中自 名 はちや 系圖 柿本氏

記曰、長承四年二月八日、大納言殿今任右大將給御裝束、次居菓子、結餅栗枝姊橘 江家次第二十日、任二大政大臣一事。云云錄事着座居二菓子、枝柿、甘栗云云。台記別

集註

延

枝〇本草啓蒙曰、塔柹ハ、ミノガキ、即漆柹ノ中、形長大ナル者ニタ、濃州ノ名産ナリ。皮ヲ去リ、乾メ白棒 式卷第七日、 踐祚大甞祭。 供',神御,離物。 干林筥二合、別納,五十連。 朝倉亭御成祀曰、御引物みのがき僧

トナシ、蜂谷 ガキト云 〇生干 **柿本氏** 

西条林 室町殿

漢名 白梆 草本

今名

西ゼウツルシ

門に下され、殘は五助に賜わりけり。是安國寺にて菓子に出さる」を、 自然と懐中し玉ふか、よき息つきにてはなきかと信られければ云く

內家壁書日、安整國西条鏡城法式條及

本草綱目日、日"乾者謂」之"白梆一〇大

集註

室町殿日記日、暹羅道牧司を攻る事云~元康鼻桥袋よ り、西条柿を一ツ取出させ給ひ、武ツにおし分、新右衛

形狀

ョリモ白梆ヲ出ス。西 〇本草啓蒙日、又藝州

つりかき **栃本氏 系**圖

上アリ。西城ガキノ中至テ大ナルヲ祗園坊ト云

城ガキト云。西城ハ備後ノ地名ナレモ、藝州ヨリ歐

果部 原果類

一四九三

夜末加收 聚沙 聚鈔

> 漢名 棹林草本

今名

ヤマシブ

心柳八筆カキ也 末加岐。按二應 >汁謂一之林族。可以染二餐扇諸物。故有一漆林之名 山柿 美門云云又曰,山柿嗣泉比。此 萬葉集卷第十七日、幼年未選到山林

垣

大草家料理書日、魚箸の木 つげ、若つげなくば山垣

さるかきが本氏

形狀

系圖

一名

本草綱目曰、牌乃姊之小而卑者。故謂"之牌。 擣碎浸

鹿柿『厚集日、山柿と『鹿柿と書 夜萬加岐 天文写本和名抄〇倭名 り。山の字なし、小柿之

宇治郡山科七鄉特"多矣。土人初秋 ○雍州府志日、澁林。一两々有」之、然

謂。木籬。倭俗每:物第一。謂。一番:第二謂三一番;。又不、離。他物、隨至,自然之體一者、惣:謂、木。言心、木 柳末。熟。時、探、之盛。籠。寶言京師一、買、之者去。其帶一、春一、杵」之以、右襲「搾形取」其、油、是謂一一番濫。又 調質撲之謂、而共義亦相當。。然後以『共所》辨之流海。盛或、楠、八八、水經三二三日、後再。

久呂加木 倭名類 聚鈔

漢名

林心墨木 徽州名

件之取"其"油了是謂:二番羅言。凡姊油之爲。用也、染。衣服,又經言强紙。張。管筥,云云

今名

クロガキ

健州名跡志日、鄭縣新安岡注邑賞: 一名 延喜式卷第四日、黑姊一村、長二尺方四寸。倭名 鈔曰、黑姉。楊氏漢語抄云、椋心。久呂加木、俗

柳木心 黑篋名也 人呂加岐 天文写本 くろがい 大鶴日、くろがいのほねの、ころのあぶぎをさ

びらかけたるき丁ども云云 ろがいのほねに、くちばのかた 黑柿木、紫宸殿、設、黑柿木、倚子。

集註

今昔物語日、黑姊 の机のきよげな

人黑柿机。北山抄曰、內宴事。座右置硯納黑漆革筥置黑柿机上。汪家次第曰、大臣大爨云,g自餘大臣大饗 る一つをたてたり。太上法皇御受戒記曰、東方立三尺御几帳一雙。青鈍朽木形惟黒枯骨。康平記曰、殿上

用。赤本黑柿机樣器等。頻聚雞要抄曰、母屋大變、黑柿机七胸。內太臣殿厢大饗云。黑柿机七前、齋院

**殿移御黑柿机云と。人車記曰、黑柿御僑子。明月記曰、七夜次第、公卿殿上人變黑柿机、藏簑儲、次居饗黑塘** 

机三脚、本宮廳儲。合記別記曰、長承四年二月八日、大納言殿令任右大將給、御 裴束儀、殿上人黑柿机十前、無寶鷹。 阿弥陀院宝物目錄日、納黑梯櫃一合云云

ころかき

栃本氏 **※**圖

漢名 君遷子革

今名 ブダウガキ

但結上實小而長狀如中奶。乾熟則紫黑色 本草綱月、時珍日、君遷。其木類、柿而葉長。

イチャウ 塵添壒 愛鈔

漢名 銀杏草本

果部 關果類

一四九五

一名

きむなん。原介では、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、

鴨脚、故。云。山谷句云、風林収:鵙脚7〇本草綱目曰、葉似"鴨掌、因名" 鴨脚。宋始人貢改呼"銀杏、'其形似"小杏"而核色白也。今名"白果"

集註

註 尺素往來

古名錄果部卷第四十

#### 山果類

美加久利 板栗 一〇ペリカンで ・ 一〇ペリカンで

Oみなしくり

以知此石橋

される で大き、 で大き、 で大き、 湯豆乃美 海松 で大き、 湯極

加"倍作

〇栢乃油

まてましる

毛介

木瓜

之比推

佐々久利

姫胡桃 本半夏

〇吳桃子油

久美 胡顏子

白花木瓜

カラナシ

棋櫃

久留美 吳桃

果部 山果類

一四九七

知智乃實天仙果

和多々比 木天蓼

通計二十八種

ケムノキ 枳椇

# 古名錄果部卷第四十

紀藩

源 伴存器

山果類 扶桑略記廿三日、醍醐天皇、寬平十年十月廿一日、太上天皇有二御應狩逍遙、云廿四 日、進發過,現光等、礼、佛捨、綿、別當聖珠大法師、捧。山果、煎。香茶、以勸、饗侍臣。

高倉院嚴嶋御幸記日、峯のあらしに、色く一のこのみ、みぎはに散しきたるやりにうちょら し。又曰、うみのいろくづをつくし、山の木の實をひろひていとなめる。老のくりごと曰、里

をひろふ

和 本草

漢名栗本

今名クリ

名 三栗 萬葉集卷第九四、松 反、四臂而有八羽、三栗、中 上不來、麻呂等言八子。 蹬類本草曰、陳士 良云、栗三顆一毬。正字通日 、栗一蒜三顆扁著名栗楔。本草和名曰、栗。和名久利。 倭名

類聚鈔日、栗子。 日、久利波米波、麻斯提斯農波由云云 和名久利。 萬葉集卷第五 美都具理 古事記曰、美都具理能、曾能那迦都 袁。又曰、美都具理能、那迦都延能 源克

果部 山果類

鬼能、中枝也。言伊加栗之實多者有三也釋日本紀日、彌莬遇利能、三栗也。那伽莬 伊加栗見上註。古今著聞集卷第八日、よしやよし昔

して、琳野。いがぐりは心 こそすれ。源太府家集日、琳賢がもとより、いがくり、あけびなどつかは はくぞ落にけるこの山姫の多めるかほみて 角栗尾張蕨風土記曰、中島郡 安部島山 出桂梅角栗

云云 久里 倭名抄國郡部曰、山城國久世郡栗隈、久 里久末。越後國領城郡栗原、久里波良 久留 留須。播轉國揖保郡栗栖、久留須。近江國栗 倭名抄國郡部日、山城國宇治郡小栗、乎久

部日、尾張國藍栗、波久利。甲斐國巨麻郡栗原、久利波良。長門國豐浦郡栗原、久利八良。阿波國名方東郡殖 語謂謂、栗爲。區兒・、然則韓槵生村ト云、蓋、云..韓、栗、林..鰔ト云へり。按ニ槵ハ、ムクロジ也○倭名鈔國郡 届 兄 魔流壒嚢鈔曰、日向國韓 徳生村所アリ云 云栗ノオヒタル心也。此所「小栗ヲホシ。昔哿

わかくりかへしゆきょしる道の辨離裝束抄は、秋はひそくにうすあをうらつけて、こくりいろとて、おとな 月有任大臣事、次居菓子、菱若栗熟師樂預。定顧卿集日、わかぐりを「たちかへりたれならすらん年をへて 栗、熏久利。醬岐國鄰足郡栗隈、久利久萬。新撰字鏡曰、栗久利。藤谷殿集曰、嘉元元 年式部駒親王家干首に「かぜまちてひろいとすれど袖の上からる木陰の露のおち栗 若栗人車記日、 保元二年八

は近るはみなきる物なり

集註 天皇十九年多十月戊戌朔、幸二吉野宮、時國模人來朝之云云其土 本草類編日 栗。和久利、九月採之、常未用之。日本書紀日、應神 果部 山果類

**屢參赴以献 "土毛。其土毛者栗領及年魚之類焉。又曰、持統天皇七年三月丙午、詔令\*"天下 勸-殖云 云栗** 自、京東南之隔、山、而居、于吉野河上。峯嶮谷深、道路狹巘。故雖、不、遠、於京、禾希、朝來。然自、此之後

司言云云文言、毘嶋太神宮惣六箇院二十年、間一"加引修造"、所以用。材木五萬餘枝、工夫十六萬九千餘人、料 稻十八萬二千餘東。探 造。宮材「山在」那賀、都一、去、『宮」二百餘里、行路嶮峻、挽運多》煩。。伏、見、『、造、宮」

**司。命》加強維。療守主。。太政官處分、並依、請。延喜式卷第三十二曰、大騰上。雜給料。參議已上、生栗子** 材木多用。栗樹了、此樹易。栽一亦復早。長。。宮邊、閉地、且栽。栗、樹五千七百株、椙四萬株一。望請、行二神宮 一升四合。五位已上、生栗子五合。宴會雜給。親王以下三位已上幷四位參議、生栗子一升 四位五位共命

祀曰、久世郡貢集。出雲國風土祀曰、仁多郡所在草木栗。大和國風土祀曰、宇陀郡貢業。平群郡帥波庄貢婦、生栗子五合。賀茂神祭齋院陪從等人給食料、生栗子一斗六升八合。 正字通曰凡果屬成實者、山背國風土

栗。加賀國風土記曰、加賀郡賞栗。玉戈鄉實栗。駿河國風土記曰、安弁郡山鰖橫實栗。益頭郡山西蒷松柘 栗。和泉國風土記曰、日根郡貧栗。攝津國風土記曰、有馬郡貧栗。布敷庄黃栗。武駿國風土記曰、在原郡資

**杉竹桃梅栗。神鳳鈔曰 參河國生栗御蘭、各栗二石。常陸國風土記曰、行方郡。即"有"栗家池:爲兰其,栗** 大了。以爲。池名。宇津保物語俊蔭曰、推栗もりをはやしたらんごとくめぐりておひつらなれり云と椎栗其

きくりひとつをくふにつけても、やすくいりはべらず、いわにのみなんはべる。古今著聞集卷第二十日、美 水に落入て流きつゝ。榮花物語衣の珠日、やがてひをうちけちたるやうにて、うせはべりにしのち、はかな

入殲蛮子。栗一籠、例年參。三寶院殿。十月十五日。栗一籠、例年進上之。宇治拾遺物語第十五日、清見原 にくりの木有けるもとに、枝の有けるを取むかひたり。殿中申次記曰、三月。栗一籠。九月九日。栗一籠。

くおはし着にける。その里人あやしくけはひのけだかくおぼえければ、高つきに栗をやき、またゆでなど 天皇与『大友皇子』合職の事。云に山城國たはらといふところへ、道もしり給はねば、五六日にぞ、たどる

ゆでくりは、形もかはらず生出けり。いまにたはらの御くりとてたてまつるなり。類聚雑要抄日、仁和寺 して、まいらせたり。その一色のくりを、おもふことかなふべくは、おひいで、木になれとて、かた山のち へにうづみ給い。里人これをみて、あやしがりて、しるしをさしてをきつ云と田原にうづみ給しやきぐり、

拾テ、霧ニ命ヲ繼シカバ。落くぼ物語曰、くだ物栗などかきつくろひあたり。新猿樂祀曰、丹波栗 たゞ栗をのみくひて、更によねのたぐひをくはざりければ。太平記第三十三日、道ニ落タル栗柿ナンドラ 殿、鹽馬行幸、御膳井御遊酒看事。菓子一種、生栗。内大臣殿廂大饗云、栗、乍」皮廻盛。つれノ〜日、むすめ

仙豊萬葉隼注鍵巻第九日、栗などは、ひとつすのうちに、ふたつもみつもあるものなり。又日、三 果之中間向有曝井之宝云みつぐりのなかとつどくる事は、つねの詞なるらへに、その心相叶へり。

かたぶかずして、はたらかずしてるたれば、なかにむかへるさらし井のとつどけたり なかにといはんために、三つくりのとをけり。みつくりの中なる栗は、いづかたへも 聚鈔 佐名類 漢名 房窠本 今名 クリノイガ房彙、大渚若、拳 本草蘇頌曰、實有二 〇久利乃以 一名一伊加

いが

くりの 府志日、其毛毬、謂。伊賀栗。倭俗毛毬謂。伊賀。毛毬ハ本草原始ニ見エタリ。枕草紙日、おそろしきもの、 天文写本和名鈔日、栗刺。和名伊加。倭名鈔曰、栗刺。俗云久利乃以加。頓医抄曰、栗ノイガヲモテ。雅州 くるす 仙覺萬葉集注釈卷第六日、くるすのをの、山城國也。くるすは、くりのい 0

なしくり、散木 集 漢名 栗楔草本 | 今名| クリノシャクシ 本草時珍日、一徳三顆、 其中扁者、栗楔也

が也。されば諷詞に、さしすきのとをけり。すきとは、つくと云ことばこ

一名みなし栗草鹽 集註 散木集日、これもさこそはみなしぐり朽葉が 下にらづもれぬ。堀河院百首ニモ出タリ 〇久利乃之

不侵名類 今案其味瀧之義也 和名人利乃之不。 聚鈔 漢名 栗莪草本 今名 クリノシブカハ本草曰、栗莪。音字。恭云、栗 內薄皮也。倭名鈔曰、栗扶。

美加久利釋日

漢名

板栗本

今名 テ、ウチグリ

本紀日、私記日、大栗爲」美加久利 本草時珍日、栗之大者爲:板栗。釋日

山果類

早栗類聚

集註 類紧國史日、延曆十七年春正月丁 未、停。伊勢美作等國獻。早栗

佐太久利 深鈔 漢名

茅栗本

今名 シバグリ

而不與栗不殊。但春生夏花秋實多枯爲異耳 證ূ類本草目、圖經云、又有茅栗佳栗、其實更小、 一名さく果護塩草日、さゝ栗。さゝにはならで

さらくと庭に落しく。倭名砂田、杭子、和名佐々久利、言塵集田、さゝ栗とは杭子 とかけり○杭。斷雅口、杭魚毒。註、杭大木子似、栗生」南方、皮厚汁赤。和蓬未詳 形狀

志日、茅州府

栗,其形小面內智去。其外皮,湯黃之之、靨,是於布爨,新婦戲。頭上,寶。京師。 而篆。所、寶之錢、是光。新婦 黑。鞍馬拜矢背大原、土人、九月初旬,中三日問各有:遊樂之日、斯,時村中新婦各人。旧林 探 "茅栗"或稱 "芝

登川 平中之

波之波差太草

茂名 榛本

今名一ハシバミ

徽文、而有"細頗及尖、其實作」苞三五相精、一苞 本草綱目曰、榛樹 低小如、荊羻生、多末開、花如:傑化,成、條下垂,長二三寸、二月生、葉如,初生櫻桃葉、多。 實實別。際實、下壯上銳、生青熟褐、其壳厚而堅、其仁白而

集註

據子。同卷第三十三日·大膳下。諸國賈進菓子。大和、延喜式卷第三十一日、宮內省。諸國例頁網藝。大和、

るてふざくなきのはしばみよりもながくみゆらんと、になっている。鏡詞花集日、はしばみ、あやしくも風にを

形狀 木草類編目、榛子。和波之波美、形如小栗、

似タリ。春ニ至リ閉ク時へ、形長大ニメ黄色ナリ。花謝シ、三月ニ新葉ヲ出ス、形圓ニノ五ノ短尖アリ、周邊 冬へ葉ナクメ小穂ヲ節ゴトニ雨々下垂ス、形葉撥ノ如ク 、長サー寸許、濶サ二分許、淺褐色ニノ赤楊蕾ニモ

下ハ薄葉ヲ以テ包ム。藁ハ大ニヲ、寶ハ小シ。殼ヲ去レバ内ニ白仁アリ、生食スレ 二鋸蝎アリ、皺紋多シ、大サ三四寸、互生ス。實へ新枝ノ梢ニ生ズ、大サ茅栗ノ如ニノ圓尖、淡白色、 バ味栗ノ如シ

# 之比倭名類

## 漢名椎



### 今名 シヒ

呼其子等珠子 閱人呼爲椎者膏近譌耳泉州府志日、江東人呼柯樹爲珠樹、因

今案 | 追、通作/組俗作/柏。集韻朱惟切、音佳、木名似/栗字典曰、椎。唐韻、正韻、直追切。集韻、傳追切、鼓音

不家物語口、かする。此皆作住青錐、ノ字膏ニ據リ〇古事記口、坐『筑紫之詞志比、宮』。日本書紀曰、臘日宮。而小。新撰姓氏錄曰、氣長比竇、謚神功、筑前糟冰宮。御、字之時。倭名鈔國郡部曰、筑前國糟屋郡香椎北須

1 日、香推。此推ニ志比ノ訓ヲ用也。八幡愚童訓ニ、仲哀天皇治。御棺、此、御棺芳、・事元・滿諸方でサテコソ 西事記日 、屬水、宮。類聚國史曰、樫日廟。延喜式第十八曰、疊日廟。同第二十三曰、香 椎

表出レモ、弘仁ヨリ已前ノ書。訶志比古事萬葉集ニ香維ノ字ヲ用レバ、愚童訓ノ説杜選ト云ベシ。萬葉集第上ヲバ糟居鹿維ト云ケルヲ、香椎ト申改、香椎ト名付タルト云説不ら足」采。糟氷ノ字ハ姓氏鎌二葉帳天皇是ヲバ糟居鹿維ト云ケルヲ、香椎ト申改、香椎ト名付タルト云説不ら足」采。糟氷ノ字ハ姓氏鎌二葉帳天皇

調于問襲宮一。無襲、可紫比也でシカレバ、 ▶木っ推ト云ニ用ヒタリ。 圖支類記二八推子ト出。仙覺萬葉集註釋日 二歌ニ、旅蘭之有者推之薬網盛ト云。摩添壒囊抄第十一日、椎へ菓子ノシイ也。此字ヲ禪院僧室ニ置テ打ッ ト云也ナド中 ス。但ショ ノトコ ロノ名ラ、日 カシキト點ジタルハ、コトニアタレル也のト觀エタリ 本紀三 ハ層日 トカケリの 、香椎、物知タル 筑前國風土記云 、到三筑紫國 ヨシスル人、 、例先參言 カスヒ

一名四比 安比波多家波自。藻塩草日、しるのこやでとは、椎のちいさき枝と云也云、萬葉集卷第十四日、於曾波夜母、奈乎許曾極多寶、牟可都乎能、四比乃故夜提能、 思比

佐要太能、登吉波須具登母 同上。或本歌曰、云云思比乃 志比乃木、新撰字鏡日,楠。志 志比之。註上 志比 延喜式卷第

名之比。倭名鈔曰、惟子。上晋直追反、和名之比。字鏡曰、檔。志比 大管宮」者、柱將二無枝。古語所、謂志比乃和惠。本草和名曰、椎子。和 とは、椎の木にて作ると とり。言歴集日、維さほ 椎柴青農 辭毗 月王午造、参議正四位下互勢朝臣野足、奉、幣帛、於八幡大 日本書紀日、 雄此っ云三解毗 しゐの木 -10 類聚國史日、大同五年十二 曾我物語日、しゐの 木三ぼんこだてに

四位

近位

抖命婦

人別云

玄椎子各二合。 同卷第三十三日、大膳下。

諮國貢進菓子。

人別云云椎子各四合 河內國、椎子一擔。伊

四臂 萬葉 集

○燥椎 江家次第二十日、任 太政大臣事。錄事着

甘栗、娛樵、桃。字典曰、燥。集韻、都果切、 集註

也也

晉朶。說文、量也。一日、女容如··花朵之垂·言··美好

座居。菓子、枝柿

武邑人探言拾椎子一爲。欲熟奧、著 日本書紀卷第十九日、欲明嶋東禹

播灣 三寸、厚 灰裏一炮一其皮甲一云 **榫子。 同卷第三十二日、大膳上。 宴會雜給。 親王以下三位已上幷四位參議。** 寸。同卷第三十一日、宮內省。 云。美濃國風土記日 諸國例貢御贄。伊勢、椎子。越前、椎子。 椎鄉 推樹多。延喜式卷第十七日、內匠寮。 丹波、椎子。 一枝、長二尺五寸、廣 因幡、樵子。

艸木樵栗竹茅之類多生、云 子四斗五升。 四升。右夜料。椎子四升。右解齋料。右 豐 樂 料、椎子四升云云。正月三節。椎子六升。供御月料、鹦國、椎子二擔。越前國、椎子。播譽國、椎子一뾽。同卷第三十九日、內陰司。新甞祭供御料。椎子云 同卷第四十三日、主膳監月料。椎子二斗九升二合五勺。 下。 池油稚園、 清泉所と出る云。香澄里、椎竹箭往々多。香島郡高 常陸國風土記日、行方郡 松濱、椎柴交 0 御月料。椎 14 一野地沃、

かい つらせ給ける。御はこのふたを、かへしたてまつらせ給とて、にようごどの「あり 雜 楠椿松。 くになくなりにたるこのみともがな。 既如山野? 築化物語衣の珠日、か」るほどに、 久慈郡、 所阿爾 高 市、云 云西北帶山山野。 ときこえ給ひければ、大なごんどのと御かへ しみを人のも てま 推擽榧栗生。出雲國風土記曰、 いりたれば、にようごどの なが らわかれ ム御かたへたてま 出雲郡山埼有二椎 おくやまの N よりは な

果部 山果類

やどり木目、しるのはのをとにはおとりておもほゆ。四季物語曰、このころのみ無はさらなることはりな るがもとをしたづねこばとまるこのみをしらざらめやは。にようごどのいとあばれとおぼさる。源氏物語

も葉がへせぬためしにいはれたるもおかし。又曰、「けなきもの、又さやうにひけがちなるをとこの、しゐ るを、青葉しるしらがしの、木のまがくれは云下。枕草紙目、椎の木は、ときは木共いづれもあるを、それし とかへる山のしる紫とのみ製りたまひけり。叉日、神やまのしる紫がくれしのべばぞゆふをもかくる質茂 つみたる。散木集日、人のもとにてあそびけるに、酒などのみて、しるい有けるをつみなどし云、。 狹衣日、

アル推ノ木ノ三侯ノ枝ノ上ニ置奉ss。去上社頭二町餘。置。御棺、維枝根サシ夢へテ今ニアリ。星霜積故 のみづがき。高倉院升辺記日、世はしるしばにて。八幡愚薫訓日、筑前香椎仲哀天皇治。御棺。香椎ノ濱 ニヤ、當時樣木ト成タリ。名木ナレバ并類アリ。東大寺別當次第日、可、縣二 形狀 葉せずといへり。 凝塩草日、椎は紅

椎木一者云く。義經記日、椎の木の四枚だてつかせ。新猿樂記日、若狭椎子 まことにもみぢの梢也。もみぢせの山に云こ。狭衣にも、せめてもみぢせの 由云り云と。秋風に軒ばさしるのおもつれば庭にくろ石まくかとぞみる

以知此後名類

漢名 石格 邵武

今名イチ

和名久沼木、日本紀私記云、騷木ト云。又染色具ニ唐韻云、像僕宮也。烽ハドン 和名都流波美日本書紀ニクヌギト伊州毗ヲ分チ、萬葉集ニ縣木也ト、伊智比ヲ二條トス。倭名鈔ニ鑒樹等ハケ

機實也ト出。又菓部ニ櫟子、和名以知比ト云。觀光此。則石緒ト櫟子、田本は櫟子ハ不」可と言と葉也 自、古爲明皂斗ト出。又菓部ニ櫟子、和名以知比ト云。觀光此。則石緒ト櫟子。即ツルバミ、和名抄誤テ充。 二物−基明也○延喜式ニ、櫟ニ、イチヒノキト傍訓セリ。三代實錄第四十二、山城國葛野郡礫原郷。倭名鈔

樂、血 緒、石橋、位山ノ一位ノ木、四物同名也の群等に、山城國葛野郡樂原。按ニイチヒハ

集註

字津保物語俊蔭日、又おほいなる木の 下にいきて、いちる椎栗などを取て 形狀

高二三丈實モ橋ニ似タリ〇イチヒハ橋ノ如シ、葉亦相似テ、深緑色。鋸蝎深ク、背ニ茶白ノ毛アリ。花モ橘 ○大和本草口、イチヒノ木ハ、儲ニ似テ同類異物ナリ。葉ハカシノ葉ニ似テ、白カショリ薄々大ナリ。其木

如ク細長尖ニ白毛アリ 二同。其實 ホソノ質ノ

#### まてましる 小町 漢名未詳

○大和本草曰、マテバシイ、儲ノ一種ナリ。葉ハ緒ニ似テ厚ク大ナリ。色深青色、面ニ有光澤、背 ニハナシ。木理モ似は、屋材トシ器ヲ作リ、舟ノ撸トス最ヨシ。其用はト同ジ。一類別種ナリの

儲ノ如ク鋸歯ナク、タラヤウノ大サ也。實八五七寸ノ聽二多ク附、形狀ホソノ寶ノ如ク、長キ者一寸許 實へ儲ヨリ大ナリ、熊トス、民食ヲ助ク。按ニマテバシイハ、樹カシニ似テ皮柔也。材亦至テ軟也。葉へ

果部 山果糖

萬豆乃美倭名類

聚沙

漢名

海松子草

今名

朝鮮五葉ノミ

一五〇九

中仁香美、東夷人食之、當果與中土松子不同 證類本草曰、海松子。生新羅如小栗三角、其 名 麻豆乃美 天文写本和名抄〇倭名鈔日、松

会任卿集日、ゑちせのぜしの松のみを率らんと聞えてほどへてありけ れば、暮がたき春の日よりも契てし君まつのみぞひさしかりける

○大和本草日、海松五葉ナリ。 然カサ大ナルしかりける 集註 鏡日本後紀卷

第十七日、東宮御兀服五云木菓子四坏松實五云十年八月辛亥 派釋國黃。松實御贄。江家次第卷

形状リッチへ果トン食ベシの本草啓蒙日、海松

巴豆ノ如シ、三稜上尖リ茶褐色、皮厚クノ破り難シ、内ニ白仁アリ、油多シ。味山胡桃ノ如シ○肥前國風土子。朝鮮マツノミ、海松小葉燈心草ノ大ニヲ背白シ、朝鮮人來聘ノ時、多クコノ松子ヲ齎シ來ル。形大ニヲ

祀日子高來都奉湯泉在郡云五有山云五松、松 ノ海松丁也。本草啓蒙日、コノ松、本邦ニモ自生アレバ、カラマツト訓ジ難シ。信州戸隱山ニ多シ。又越後 共 集細、有×子大如·小豆。令×得×嚟。按"此即日本自生

七大ナリの鱗甲ゴトニ子二粒アリ田初ニモ多、松卵長サ六七寸、鱗甲

加" 倍 倭名領

漢名 權 草本

今名

カヤ

其,中子有:一重鑑黑衣(艾,人黃白色、鷽久漸甘美證類本草曰、衍義曰、橅質大如) 緻欖縠、色紫褐而脆、

今案

本條也。木類二、柏。和名加閉、ト云、

子。和名加閉 写本和名抄日

相

植子仁各一斗。出雲國、榧子一斗云云栢子仁各一升。即榧子、栢子仁ヲ別テリ 側柏、コノテガシハ也。 延喜式與藥寮。諸國進年料雜藥。但馬國 椰子四斗。 T. 云

一名

柏ニメ本草ノ柏子仁也 和名加倍。按二柏實八、側 加也乃美本草類編出、椎實。

集註

加人乃三方柏實、柏實。倭名鈔曰、本草云、柏寶相晉一名榧子。榧、音寺。

云云木菓子四杯、云云

加閉文天

延喜式卷第三十七日、典藥賽。 諸國進年料雜藥。大和國、榧

子 一斗。近江國、榧子五斗。美濃國、榧子一石五升。若狹國、榧子二斗。越前國、榧子一斗六升。能登國、榧子 伊豆國、榧子云云各一斗。 甲斐國、椰子云云各二斗。上總國、椰子二斗二升。下總國、棚子大

四斗。 所在草木擁楡雄。神門郡、所在草木榧。飯石郡、所在草木榧。加賀國風土記曰、加賀郡小濱鄉貢榧 榧子二斗。周防國、榧子五升。 伯耆國、棚子二石六斗。出雲國、椰子一斗。美作國、榧子一斗三升。備前國、榧子一斗五升。安麴國 越中國、椰子五升。丹波國、椰子五斗五升。丹後國、椰子一斗一升。但馬國、椰子四斗。因縣國、椰子 阿波國、椰子一斗三升。讃岐國、榧子二斗五升。出雲國風土記曰、 楯縫郡

上ニ向フ、質ノラズ。雌木ハ横ニ垂ル、實ノル。吉野山ノ産ヲ爲上品 ○大和本草曰、榧モミニ似テ、葉サキトガリテハ リノ如シ。雄木へ枝

附錄

稻 乃油

取て、もち來りしを、汁物にして、栢の油をいれて、房主食しけり。しばしありて腹痛して吐道甚し 物語日、比叡山の横川にすめる僧有けり。秋のころ房の法師山にゆきて木を伐けるが、平革有けるを

# 夜末毛々優名類

#### 漢名 楊梅草本

#### 今名 ヤマモ

形似。水楊子、而生青熟紅、花、核上。無。皮殼 證類本章日、楊梅。其樹若。荔枝,而葉細隂青 11:

> 一名 夜蓝毛々 天文写本和名抄、倭名鈔日、 楊梅。和名夜末毛々。續日本

**紀卷第三十三日、光仁天皇、**寶龜五年正月内辰、宴-五位已上於楊梅宮。延 喜式卷第二十一日、諸陵箓。楊梅陵。山槐記曰、今夜爲一方違一向。楊梅 也未毛々無耳、見るにこ

なれば、花はいまだなごりあり。やうばい、たらりのこずゑこそ、おりしりがほにかごりあり となることなき物の、もじにかきてことんくしきもの。やまもく。平家物語曰、三月中の六月 カラム

X ハカラムメトヨムペシ 既添莲養抄口、楊海ト門テ

なむラ椋5 らべと んきよク

集註 ※ 熱。 新撰姓氏錄日、大貞連五五上寫太子攝政之年、任一大椋 本草類編日、楊梅。和也末毛々。四五月探之、勿食多之、令人

官。于時家,仍有一大侯楊衛、太子巡 延喜式卷第二十三日、大膽下。諸國賈進皇子。山城國、楊梅子三慘。大和國、楊梅子三擔。河內國、楊梅子 行卷向宮」之時、親,指、樹問之。即詔,阿比太連。賜一大炭連 OH HI

**風土記曰、平群想簡波序質慢靜。攝津與風土記曰、有馬那質楊梅。布敷序質楊梅。出雲國風土記曰、意字** 一條。攝津與、楊顏子四於。和泉或、楊辯子一擔。山背國風土記曰、久世郡賞楊梅。字治庄賞楊梅。 大和國

郡、所在草木楊梅松柏。飯石郡、所在草木維楠楊梅。大原郡、所在草木楊梅。 駿河國風土記曰、安介郡蓬楊梅、山崎横貫云云楊梅等。 芸野牧山出楊梅

形狀

楊梅其實五月、○大和本草日、

熟ス、大ニシテ紫 黑、甘美ナルアリ

毛介聚鈔 倭名類 漢名 木瓜草本

今名

ボケ

小瓜 本草綱目日、木瓜。其葉光而厚、其實如 一而有」鼻、津澗味不」木渚爲二木瓜

> 一名 保計

塵添壒聾鈔日、倚魔ノ御所トへ諒闇ノ時ノ 本草類編八本草和名曰、木瓜。

和名毛介o

人ノ装束等皆非常、是ヲ僑廬ノ御所トハ云也。又曰、真紋事、木瓜天子ノ皇居也。乃寒ニ板敷ヲ下、葦ノ御簾、布ノ木瓜、太刀平緒、其、外 集註

延喜式卷第四十七日、 左兵衛府。凡正月上卯

杖仕奉氏進 豐、申給 鬱、申。勅曰、置·之。醫師已上共稱唯。献畢以√次退 其御杖木以三東云云。已上二 習以下兵衛已上,各韓上御杖一東、次第參入。、立定佐一人進奏。其詞曰。、左右兵衛府中。正月卷上卯日養御

日上二株爲と東。仙傅抄曰、禁花の事。ぼけ、たどし時によつて、色たてに花のひらきたる十一たつる。尺 株爲、東。中宮東宮別木瓜二東。江家次第二日、卯杖事 〇木草啓蒙曰、庭ノ木瓜、享保年中ニ渡ル、木大ニメー丈ニ過グ、葉ノ形長大 次左右兵衛府進二御杖一但、其木五五木瓜三東五五、

者云云木瓜花 素往來口、夏花

形狀

アリ、石榴尖ノ如シ常ノカラボケニハ鼻ナシ 後質ヲ結ブ、長サ二寸餘、ソノ末四ニメ内ニ鼻 製法

> テ後二、サモヨトリステ、、皮バカリカケョ 頓跨抄日、木瓜。 ル シ資和ゲテ、シ 沫 ニウ 11/8

111

ニメ桃葉ノ如シ、春末ダ葉ラ生ゼザル時化ヲ開ク、海冥ボケニ似テ色鮮美、花

果部 山果類

之上美類編

漢名 梳子本

今名

クサボケ

木瓜一色微黃、蒂核皆粗一。核中之子小圓也 本草綱目日、龍子、乃、木瓜之酢澀、者、小与於 形狀

名注之之止美、紅色苍蓮其上夜露日暴〇大和本 本草類編日、木瓜。和保計、日本不及流布、是和

草曰、草ホケ、高一二尺、野ニ多シ。花赤色、木ニ刺アリ。果小シ。武藏野ニ、シ 云艸木瓜アリ。其實ノ大サ肥後梅ホドアリ。上民其酷ヲ用ユ。按シドミモ草ボケ也 ドミト

白花木瓜或

今名

ロボケ

和慢、白花木瓜實廿三斤。近江國、白花木瓜實十斤 延喜式卷第三十七日、典學寮。諸國進年料辦藥。大

形狀 瓜、葉初生。時餘餘 〇大和本草曰、白木

カラナシ 停劃 延喜式

漢名

榠椃 草本

今名

クハリン

證與本草日、陶隱居云、 集註 株爲、東。中宮東宮別棋艦一東。二株爲、東。江家次第日、 延喜式卷第四十七日、左兵衛府。 凡正月上卯云 五其御杖模遣三束、 卯杖事。

東、一株総東 但其木模禮二

又有三裡三、大而黃

形狀

木アリ。花八林優、又海楽二似タリ。海棠ニヲクレテ開ク、實八秋多熟ス、六サ 〇大和本草臼、榠痘、俗クハリント云、京畿ニ多シ。梨ノ類、木瓜ニ似タリ。大

アリ、味シフシ ハ瓜ノ如シ、香氣

漢名

久"美

胡顏子本

今名 グミ

有..細點,如、星、老則星起如、麩、經、多不、冽、春前生、花、杂如。丁香、蒂樹細,倒垂、正月乃敷。白花,結、實小 **本草綱目曰、胡頽、即廬都子也。 其樹高六七尺、 其枝葉柔軟如 s 墓、 其葉微似 : 棠梨 : 長狹、而失 : 面青背白俱** 

王詠。東市之樹,歌一首。東、市之殖木乃、木足左右、不相久美宇倍、吾戀蘭家利額子。和名久美、二云毛呂奈里。本朝式用。諸生子三字。萬葉集卷第三日、門部 長、嚴如山茱萸、上亦有。細星斑點、生青熟紅、立夏、前采食酸潘、核 延喜式卷第三十一日、宮內省。諸國例買御贄。備中、諸成。 亦如。山茱萸、但有。八稜、敷而不、堅、核內白綿如、絲中"有。小仁

諸生子是上 諸成

一名

毛呂奈里倭名類聚

鈔日、胡

渡シ、垣生庄ニ陣ヲ取、勢ノカサヲ見セントテ胡頼于原柳原ニ引隱ス。平家物語 日、となみ山のすそ、松長の柳原くみの木林に引かくしたりける一萬よき云云

同卷第三十三日、大膳下。諸國買進菓子。備中國、諸成

集註

源平盛衰記卷第二十九日、一手へ 木曾三萬餘騎ニテ小矢部河ヲ打

形狀 〇大和本草

木ノ高サ六七尺、枝柔っナリの葉へ梨二似テ長ク狹シ。面青ッウラ白シ。十二月正月花サクフ丁香ノ如クサ ガリ垂ル。夏月度無ス。實小ニノ長シ、星多シ。核ニカド多シ。核軟ニノ不、堅、核ノ内絲ノ如シ

果部 山果類

さ、おもとくすししてたてまつりぬ。このころは小一条の御っうぶむの里とり取り給こ。ふだらくの寺よ 正誤 川季物語日月くみのみは、もろこしにても、くすりの御みきにつかふまつることなるを、こゝにも あるためしにて、おほくはやまあとの添の上の山よりたてまつれるを、國の守の奏にて、藥のつか

之加美。胡雞子。和名久美。觀,此則吳茱萸、胡類子自,古爲三一物,可,證也 り。古寶物圖ニ所出ニテ其誤レル事明シ。本章和名曰、吳茱萸。和名加良波 りもたてまつりむ。やけ野などにもあるべきとかや。按二吐頃ヨリ秋久美ヲ誤テ、吳茱萸トセシトミエタ

事でリ下

かがかけれが

が本



なはしろくみ藁塩

漢名 木半夏革

今名 ヤマグミ大和

及星斑氣味並與『旒都』同。但枝强硬、葉微團而有、尖。其實圓如"櫻桃」而不、長爲、異耳。立夏後始熟。故 藻塩草曰、を山田のなはしろくみの春過てわが身の色にいでにけるかな○本草綱目曰、木牛夏。樹葉花實

其核亦八陵、大抵是一類二種也 吳楚人呼爲。四月子、亦曰:野櫻桃、 形狀

> 本草啓蒙日、木牛夏、ヤマグミ、木ノ高サ丈許、枝條繁茂ス、 其枝胡顏子ョリ柔ナリ。葉形橢長ニメ互生ス。面綠色背へ

淡褐或へ白色、春末葉間ニ花ヲ垂ル、胡頽子花ニ似テ小シ。實へ形圓 ニメ南場チョリ微大ナリ。胡顔子二次テ熟ス、色赤ノ白星點アリ



# 久留美本草 漢名 胡桃草本 今名 クルミ

花鏡日、胡桃有··二種、穀薄多、肉易、碎者。名、胡桃。 殼堅厚、須·重槌,乃碎者。、名、山胡桃。 本草啓蒙日、質 ニュ岐多。。本邦ニ多ク栽ル者へ、オニクルミ也。大和本草曰、鬼グルミ、圓々皮厚シ、堅ク破りガタクラ ノ胡桃へ韓種ニノ世ニ少シ。葉オニグルミヨリ長大ニメ、核モ亦大ナリ。一寸餘ニメ皺多シ。故ニ仁モ大

黃白色皺文多 ノ如ク寸餘、殼 一名 久流美 倭名類聚對日、胡 桃。和名久流美人田瀬留弥八梯ハカウゾ也〇本草和名日、倭名舞聚鈔日、胡人田瀬新撰字鏡日、栲。口考反、吳桃。久

肉スクナシ。又朝鮮ヨリ來ルアリ。殼薄クノワレヤスシ、肉多シ、最爲,佳品。按二朝鮮クルミハ、大サ桃

草曰、胡桃。夏山のすそのにしげきくるみばらくる見いとふな行てうらみん。時雨にもぬれぬくるみのか 胡桃。和名久留美。枕草紙曰、見るにことなることなき物、もじにかきてことんくしきもん、くるみ。藻塩

いかすてをのが心 藻塩草○字典日、桾。廣韻、 桾懸子。 フダウカキ也 奈久留美 優名抄國那部日、吳桃。奈久留美〇

癸丑、信濃國例資云云吳桃子云云。延喜式卷第二十三日、民部下。年料別貢雜物。甲斐國 本草類編日、胡桃。和久留美。秋冬熟吃燥之。三雪代錄卷第五十日、光孝天皇仁和三年二月九日 、胡桃子

物、吳桃子。同卷第三十三日、大陰下。正月最勝王經濟會供養料。胡桃子六顆。正月修『眞言法』料。胡桃 一石五斗。同卷第二十四日、主計上。凡中男一人輸作物。吳桃子云云。越前國、吳桃子。 加賀國、中男作

果部山果類

養料。胡桃子三十一顆。好物料二十颗、紫餅料六颗、清菜料三顆、汁物料二顆。同卷第三十七日、與樂瓷。 子一斗二合四 勺。同月修·大元師 法料。 胡桃子丁七顆。七寺盂蘭盆供養料。 胡桃子八升。 仁王經濟會供

子一斗五升。同卷第四十三日、主脑监。月料。胡桃子一斗四升九合。古語拾遺曰、以"蓋于蜀"椒 吳桃葉及子一斗五升。同卷第四十三日、主脑监。月料。胡桃子一斗 同卷第三十九日、内脏司。供御月料。吳桃

鹽一班「置其畔」安尼區風土記曰、平群郡貢胡桃 大内間苔目、三峯尖の事云、ぬきくるみすび口也 〇吳桃子油 武延喜 今名

クルミアブラ

集註 胡桃油。越前國、吳桃子、幷油。同卷第三十六日、主殿賽。 延喜式卷第二十四日、主計上。凡中男一人輸作物。吳桃云云油各三合。甲斐國 云云吳桃子油三合

ふのみおぼゆると、出 のから。老のくるみの Oくるみのから から 後集 集註 續詞花集日、くるみのから。 ゆるはおもてになみのた」む成けり。後葉集物名二くるみ 35 いのくるみのからくのみおぼ

姬胡桃子 J.c

今名

ヒメグルミ

### 一名一ひめくる見 藻塩草日、夏山にしげみがくれのひめく る見かけてみまくのかたきこひかな

集註

夾喜式卷第三十一日、宮

羅、籏別一斗。 関倉亭御成記日、御引物、ひめくるみ。 三好議長亭御成記曰、御くわし、ひめくるみ **灃、姬胡桃子。同卷第三十九日、内膳司。年料。信灃國、姬胡桃子云云其荷敷者、胡桃子一荷納。八** 形狀

○大和本草日、姫クルミ、扁クシテ皮ウスシ、鐵槌ヲ以テ側ノ合タル處ヲウテバ破ヤスシ。肉多ク油多シ。 味鬼クルミニ勝レリ。鬼クルミハ、形醜シ。頗クルミハ形美シ。故ニ名ヅクの本草啓蒙日、一種ヒメクル

中仁採り易シ

# 知智乃實 黨 漢名 天仙果

# 天仙果 本 | 今名 | イチヂク大和本草

小、無以花而實、子如"櫻桃」纍然。一級一枝問、八七月熟、其味至甘 益部方物略記曰、天仙果、出:四川、樹高八九尺、其葉似·荔枝·而 今案

※ の木は、葉似。楊梅葉、葉如。胡黏

子、熟時色赤鴨好食之云。此本在上走湯山、又伊豆大島此樹茂盛也。云云觀以此。則天 似タリ。秋多三至テ熟スレバの二細子多ク、肉アリテ恰無花果ノ如シ、味甘シ。實青キ時ワレバ白汁アリ ク、無花果ラモ、イチデクト云、ソレニハ非ズ。葉ハ木犀ニ似テウスク、冬ラツ。其實無花果ョリ小ナレ 何果也。今勢州度會郡砺本村ノ方言ニ、天仙果ヲチ、ノミト云、即占名ノ所、傳也 形狀 日、イチヂ 〇大和本草 压能

果部山果類

#### ケムノキ本草 漢名 枳 棋 本 今名 ケンホノナシ

洲記、崑崙山有「玄鸕薹、行書若」玄鸕之槓玉。群芳謂曰、史記太康中玄뉍園有」梨樹四株、其枝與、中條 本草類編日、枳根、和ケムノキ〇扶桑略記第二日、珞樹珊瑚、満"於玄베之表。柳河東集日、覆"玄圃。注十

。質。如『鶚川、形]長寸許綴曲。、開作二三岐、懺若、鶚之足趾)、嫩時、青色經、霜乃黃。 鬢、之味甘、如 | 熟梨: トスル著也。本朝食鑑日、計無保乃梨、此。即"枳模也。木、高・三四丈、葉圓大",如、桑。夏月開、花枝頭結 枝、兮置、机、酒是青州之竹、酌。上葉、而満、樽〇按ニ後世根根ヲ玄圃梨ト稱スルモ、其味美ナルヲ以テ同名 皇太子令》:传臣「作+烈。本朝無題詩曰、玄聞梨花不待霜。新撰朗詠集曰、酒。匡衡。葉則玄瞓之梨、折。西

如"酸蛋仁、言,解、酒毒止。吐。大和本草曰、枳、槐、酒ヲヨク消ス每、閉以坡。盡。處、結。一二小子、狀。如,蔓荊子、、內一有、扁核、亦色

### 字久比須乃岐乃美優名類 漢名 驢駝布袋 奉草

今名 ウグヒスノキ

似。省治油薬、而尖顏齊一共薬對生閒。花色白、結。子如。菜豆大,兩兩粒生、熟則色紅味甜 救荒本草日、鱧駝布袋。 科條 高四五尺枝梗微帶 赤黃色、葉似:郁李子葉、颇大而光。又

集註 台記曰、天養二年五月二

鷄實

國得之 云自和泉

形狀 ス。又子安ノ木ノ葉ニ似テウスシ。臘月ヨリ諸木ニ先ダチ芽ヲ生ス。正月ニ小花〇大和本草日、ウグヒス所々山林ニアリ、小木ナリ。葉ハ山黝躅ニ似テ、雨々相對

ラヨリ早クミノルの實モ兩々相對シテ葉ノ茲ノ内ニアリ サキ、三月ニ實熟ス。ユスラノ如シテ紅ナリ。味甘シ。ユ ス

#### 和多之此 和名

漢名

天蓼草本

今名

和太々備 和太々非 倭名類聚鈔〇本草和名日、 木天藝。和名和多々比 末太、比

延喜式卷第三十九日、內膳司。漬年

〇大和本

草日、マ

本草類編、塵 添壒囊抄卷第

又扁牛實アリ、中ニ子ナシ。一藤ノ内ニ兩形アリ。按二圓扁ナル者ハ實ニ非ズ、蟲ノ作ル洛也。五倍子ノ タ、ビ。四五月ニ白花ラヒラク、梅花ニ似タリ。實へ棗ノ如ク小尖レリ。内ニ子アリ。中子茄子ノゴトシ。 如何。マタ、ピト云八臣言也云云 、辛蔵ヲマタ、ピト云ハ、文字 集註 料雜菜。和太太備二斗、料塩 二升 形狀

古名錄果部卷第四十一

アリ、互生ス。又シラクチノ葉ニ似テ薄ク緑色。夏ニ入テ梢葉二三枚白色ニ變ズ、多葉ナシ 如シ。マタ、ピハ、新枝蔓ノ如シ。舊枝ハ樹ノ如シ。葉ハ杏葉ニ似テ、細長幽アリ。微ニ柔毛

果部 山果類

五三三

古名錄藏部年第四十二日錄

诚短

岩なし

通計八種

之良久知 攤簇桃

五二四

# 古名錄蓏部卷第四十二

源 伴存撰

蓏類 柳河東集註日、疏。魯果切、按說文在木曰果、在地曰疏。張晏云、有核曰果、無 核日疏。應劭云、木實曰果、草實曰蓏。又或云、有殼曰果、無殼曰蓏、未知孰是

伊陀寐 日本 書紀

漢名 木連草本

今名 イタビ

之生。清。六七月實內空与而紅、八月後則滿腹細子大如三轉子ン 本草綱目曰、木連。實大如、盃、微似、蓮蓬、而梢長、正如、無花果 名 以太比養名類聚野日、木

以多比 日本書紀日、木蓮子。此云。伊拕寐。日本記略日、延曆十三年 五月己亥、皇太子妃英帶能子、忽有、病、移。木蓮子院、頓逝 本草和名曰、祈傷木。和名以 本草類紀日、折傷 伊太比

多比。木蓮子、和名以多比 伊太比 木。和伊太比

集註 延喜式卷第三十 新撰字鏡曰、折傷不。

伊太比、

一云木蓮子〇折傷木、和產未詳

宮內省。諸國

**蓮子着、筑前國部內諸山、及壹岐等廳所、出之中、擇上好味者,年中貢。肥前國風土祀曰、松浦郑值嘉鶴有木蓮** 例宣御贄。木蓮子。太宰、木蓮子。同卷第三十三日、大膳下、諸國貴進菓子。 河内图、 、木道子。 太宰府、但木

蓝部

蹴類

子 形狀 ○大和本草曰、イタヒ、其葉木犀ニ似テ其實無花果ニ似タリ。其憂コハシ。其實八月以後 中質ス、八月以前へ中虚ナリ、味甘シ。數年ヲヘテ後、葉厚大ニノ實ナル。小ナルハ大ナル

ト別物ノ如シ。藍ニヒ ク延、墓っへピコル



漢名 草本

阿介比

今名

アケビ

震。 本草綱日曰、有 "綱細孔、兩頭皆通、故名 "通草、即今所謂木通也。 今之通草、乃古之通脫木也 證類本草、通草註曰。唐本注云、其子長"三四寸、核黑稱白、食」之甘美。。 南人謂爲。懲惡;或名。鳥 名

山女 稱『似』。中、不上切。人在、之。藻塩草曰、山女、ますらおがつき木にあけびさしそへてくるればかへ 新撰字鶲〇三条中山口傳曰、山女。晴,菓子、不、見、內々、事驗。食ル時二皮切ステ、羞之不、點。但

の里 る大原 阿介 子。和名阿介 倭名類聚鈔曰、蔔 集註

子一擔。大和國、蘭子一擔。河內國、衛子一擔。揣律國、 延喜式卷第三十三日、大膳下。該國賈進菓子。山城國

葡子二擔。源太府家集口、珠賢がもとより、いがくり、あけびなどつか はして。 いがくりは心ゆはくぞ落にけるこの山姫のゑめるかほみて

熟裂テ女陰ノ如シ、故名。

今案

陰名也、通鼻 抄日、玉門。女 阿介比八開玉門也倭 此實

凡問門著、將曹一人等。近衛八人、開閉。同第七日、踐祚大祥祭。供。神御、雜物。者堅魚舊十五合、別一種 經營之管時、忍阿弥陀佛營之、彼日開クチヒラキト云、又クチアケトモ云。延喜式卷第四十五日、左近衛府。 卷第八日、大津山の關別でまいらんとて、肥後頃にうちこえ。安東郡事常沙汰交曰、事當郡、入部之時、日開 新撰字鏡曰、蘭。聞音、山女也。 阿介比。倭名鈔曰、以"開字」爲,女陰。 平家物語

不好思 合。別一龍不上開。扁栗子筥四合、別一龍不上開 腊箔 一九十五合、別一籠不と開。紫英筥四

形狀

○アケビハ大サ大母指ノ如シ、初緑色、熟テ淡

り自ラ裂テ、内二小指ノ如キ肉アリの 緑ニッ紫色ヲ帶ブ、敬軟ニノ厚シ、横ノ一方ヨ

牟"閉" 聚妙 倭名頻 渡名 野木瓜

淡黄白色透明肉中ニ黑核アリ

今名

ムベ

**艸**木 上了葉似。黑豆葉,微小光澤、四五葉墳a生一處,結,瓜如 教荒本草曰、野木瓜、名。八月號、又名。杵瓜、出。新鄭縣山野中一、蔓延而生安。附 三門皂大了味甜

名

宇倍

高語 

全 信 更多是否就是一个在2000年度 2000年 20 地。宇倍奈弥山流光授賜詩人於不之在。萬葉集卷第五日、波流奈例婆、宇倍母佐枳多流、鳥梅能波奈。

源氏物語かしは木口、むへくくしきかたをばさる物にて。新撰万葉集日、鶯者、郁子牟鳴濫。又、 、秋立日砒者、郁子裳云鑿里。又曰、打吹丹、秋之草木之、芝折禮者、郁子山凮緒、荒芝成濫

一個、都子四條。近江國、都子二興館。同卷第二十九日、內膳司。雜集樹四百六十株、云云郁三十株。永享日 延喜式卷第三十一口、宮內省。諸國例頁銅贊。近江、郁子。同卷第三十三日、大膳下。諸國貢進菓子。山城

錄日、永享七年十一月九日、躾 峨 善入寺献三部子、木果類也 形狀

ナス。木通葉ニ似テ、長大ニメ厚ク、而深緑背淡緑色、冱生ス。〇ムベハ蔓ヲナシ樹ニョル。四時葉不凋、其形五葉攅リ、一葉ヲ

四月葉間三四寸ノ蒸出、末ニ枝ヲ分、六鱗、山慈姑ノ如キ花ヲ閉、繭厚ク頭尖リ、白色ニノ紅細斑アリテ、タ テニ條ヲナス。花後山茶寶ノ如キ寶ヲ結ブ、初絲色、熟テ紫黑色トナル。殼厚ク軟ニメ、內ニ淡黄白色凝脂

如如 児色ノ核全テ多シ キ肉アリ、味甘、

之良久知倭名類 聚业

> 漢名 獼猴桃

今名 ヤマナシ

**酸、子繁紅、其色如。芥子、技條柔樹、高二三丈、多附、木而生** 證短本草日、衍義日、獼猴桃。十月爛熟、色淡綠色、生則極

一名

志良久知。素打造人 新撰字鏡日、莅。

名鈔日、獼猴桃。和名之良久知 名曰、獼獲桃。和名之良久知。倭 こくは 遺卷第十一日、あをつねの君のあがひすべしとて、まいらの 三條中山口傳日、獼猴桃。コクワ、晴菓子必可盛之。宇治拾

にはあをくいろどりたるおしきに、あをぢのさらにこくはをもりてさゝげたり云~〇今奥州南部ニテ、コ 打たるいだし組して、さしぬきょ青いろのさしぬきをきたり。隨身二人に青き特衣はかまきせて、ひとり はずからばしく、あいぎやらとぼれにとぼれて、まいり給へり。直衣のながやかにめでたきすそより、背き 人なし。殿上人ゐならびて待ほどに、堀河中將直衣すがたにて、かたちはひかるやうなる人の、香はえもい

名ノ残レル也

集註

類聚雜要抄曰、母屋大饗、永久四年正月廿三日、饗膳差圖、獼猴桃云~。 厨叓類 記曰、木菓子、栗、橋、杏、李、杜子、桃、獼猴桃、柿等用、之、時美菓四坏供、之

□○本草啓蒙日、獺猴桃。諸州山中ニ多シ、藤蔓甚繁茂シ、年久シキモノハ藤最モ粗大ナリ。葉ハ梨 葉ニ似テ長々、周邊ニ細鋸爾アリテ互生ス。藤皮チバリアリ、夏月葉間白花ヲ開ク、形梅花ニ似タ

り、後實ヲ結ブ、形大審ノ如ク、長サ寸許、潤サ六七分、葬長ノ下垂ス、多三至テ熟ス、綠色ニノ褐色ノ斑 點アリテ型質ノ如ク、又胡顏子ノ如シ。熟スレバ柔軟ニメ甜香アリ、肉ハ絲也ニメ味甘シ。内ニ細ゴアリ。

新夢へ紅紫色、葉梨葉ヨリ狹々、葉泰紅紫色ニソ葉背白色青脉羅紋ヲナス。四月葉問小穂ヲナシ、數十花下 醫栗子ノ如シ。按ニ、シラクチハ、深山大樹ニ夤緣シテ數丈ニ及ブ 舊墓皮灰白ニッ扁柏皮ノ如シ、劉落ス。

※紅斑アリ。內二点聚レリ、幣及整俱二紅紫ラ帶 垂シ開、梅花二似テ葩厚々、紫褐瓣內淡緑ュ帶、瓣外

本部 本類

#### 以知古、倭名類 漢名

## 覆盆子本

子似 以知古八總名也。古書三諸,以知古ヲ分タズ、凡テ覆盆子ト書來ル。本草ニ李常之日、 覆盆、之形、故、名以之。唐ニテモ諸説紛々タリ。本草綱目二此ヲ分チ詳也

ili 比 「現金、地觀然錦表。明月記日、建曆三年四月十四日、云云確賴氏符付瑕盆子籍。仙艷萬葉集註釋日、《北西·延喜式卷第十四日、縫殿蹇。白地覆盆錦一疋。同卷第三十八日、凡設、座者、妃夫人錦草鐜。黄 伊知比古義,伊知比古、蹇。方富反、去盔伊知 新撰字鏡日、莲。古圭反、實似壽覆

日、イチョ。倭名鈔日、覆紅子。和名以知古 いちご。藁瘟草日、猬盆子。いちご。下學集

集註 延喜式卷第三十三日、大膳下。諸國買進菓子。山 城國、覆笼子一捧。河內國、覆盆子一捧。攝津國、

云~いちご。尺素往來日、菓子者覆盆子。赤染衛門集日、いちごをひわりごに入て。同人。くれなる 中中次記曰、六月二日署盆一荷、例年云ミ。仙傳抄曰、平生はたっといへども、しらげんにいむものゝこと る。砂石集日、夏覆盆ナノサカリニ、覆盆子ヲ柏ノ薬ニツ、ミテ、隆ヲ同ヒテ、此猿尼公ニワタシケリ。酸 著不ど識い數遷替之時拘。其解由。枕草紙日、あてなるもの云といみじうらつくしきちごの、いちごくひた 獨統子四據。同卷第三十九日、內膳司。供泰雜菜。署釜子二升、五月。又曰、覆釜子園二段。右依、件令之植。 にほふまでむける玉なにのもるともかぞへかねつ」。かへし。もりつらん物はことにてくれなるの袖に の袖

白花ヲ開ク、後實ヲ結ブ。

初青熟黄色、圓扁小指頭ノ如シ〇本草啓蒙日、覆盆子。トツクリイチゴ。今漢種

日、今日有任大將事云云次供菓子、棒餅栗枝柿覆盆子 はなにのたまかとぞみむ。康平記曰、康平五年四月廿二

形狀 道殿下。夏來偏愛覆盆子、 本朝無題詩日、賦三覆盆子。 佗事又無

青草,只呈、紅、圓珠万顆周墙下云云 樂不以窮、味似以金丹」旁感以美、色分以

附方

頓医抄日、夕部ニ目ノ見エヌヲ治ス。覆盆子ヲ日ニサラ シテ、ミサイトラシヒサキテ、綿ニツ、ミテ、乳汁ニヒ

中ニッチニ可入。五日若へ七日ヲ過テ目明ナリ タシテ、一 時バカリヲキテ、アヲノキニ風テ、目ノ

今案

古今著聞集日、同大將賴朝もる山にて狩せ られけるに、いちごのさかりになりたるを

りもあへずつむばらがいかにうれしかるらん。トミュレバ、古書ニ戦ルいちごへ大略今ノキイチゴ騒動をみて、ともに北条四郎時政がほけるが、連歌をなんしけるつもる山のいちごさかしくなりにけり。大將と ル事明カナリ。 キイチゴハ山足ニ多シ、莖高サ四五尺、刺アリ、葉互生シテ、子午花葉ニ似テ、初夏葉問五出

ナリの 要、枝ヲ分ヿ野薔薇ノ如シ。花へ五出白色野薔薇ヨリ小ナリ。後實ヲ結ブ、形態、苺ノ如シ。熟ノ紅紫色 七葉ツキテ、荼、蓁、葉ノ如クニヲ短シ。莖ト共ニ白色ヲ帶ブ。夏月舊莖ノ新枝ノ端ニ花ヲ開ク、一朶數ナアリ、即浙江ノ覆盆子也。蔓生甚繁茂ス。莖ニ刺多シ。高サ六七尺、葉互生ス。形霧田蘭ヨリ狹々、五葉或アリ、即 トツクリイチゴハ、伊勢及越前ニ産ス、形狀漢種ニ同ノ白カラズ、質形トツクリニ似り、故ニ名ク

山いちこ 常盤嫗

**画部** 

蓏麵

漢名

懸鈎子革本

今名キイチゴ

正三

集註 常盤嫗物語日、びはや山もム山い ちご腹の質も拾ひくはどやな

岩なし 方丈

漢名未詳

| 元 東子 | 民頭江星北台県 | 大学子 | の類系國史日 氣朝臣清麻呂甕一木姓譽梨別、公一後改藤野 和

集註 方丈記日、或はつばな を切き、岩なしをとる

サ三四寸、春葉間ニ細花ヲ開、夏ニ入テ實ヲ結ブ、柳イチ 店ニモウル味不と美、小児食ス。按ニ、イハナシハ東北國ニ多シ、葉胡甕子ニ似テ絲色、背不二茶褐、五生ノ高 形狀 木ナリ。實ハイチゴニ似テ酸シ、北國ニテハ、スナイチゴト云。山城州ノ山砂士二生ズ。京都菜 方丈記注日、形如豆色赤 夏有もの也○大和本草曰、イハナシ。葉ハ平 地末二似テ、高サ數寸ノ小 ゴノ實ノ如シ、始綠色熟ノ紅黃色、其葉多不」凋

於保衣比加都良本草

漢名 葡萄 草本

> 今名 ブダウ

今案 木草時珍曰、漢書·言。、遲霧便。西域·還。始得可此、種、、而神農本草已·有·葡萄·則漢前驅西 舊 百 。紫桃, 何又終日、葡萄 ,神農九草之一、中國久。有 不少俟片博。望、從 西 

此。則日 有二葡萄一可以證也 木自神代二 一名

日、貓陶。和名於保衣比加都真○柳河東集日、食森、、杜葛交 酸 古事記曰、取「黑」御養「投棄玉、乃「生」滿 子、是據 食。 本草和名

看 日縣蛇結虺如三蒲 注消亦作葡 衣比 明月記曰、寬喜元年十二月廿九日、年始女房裝束詶出、元日 云、紅打、山吹表襲衣比染唐衣〇按衣比八剪奠下同 名也 江美 人車記

紅比 刊小

平四年二月二日、春日詣前駈人々襲東、右 少將魚陵狩獲付江美染打 、

、

、

裏有唐草文 長秋記日、參、左大臣殿、尋申、云、花田打下重師時可、着 後不、清也。

按日本書紀日、天武天皇十四年六月、初《定》明位『日下進位』『日上之朝 位、深線、務位、浅線、追位、深浦菊。ト觀ユ。徹書記ニえびぞめのしたがされば、えび色はむらさきくろ色な 服 TE. 、深紫 直位

諸王,諸臣、一位、皆黑紫、諸王二位以下、諸臣、三位以上、皆赤紫 るものなり。この色をえびぞめと云。此說非也。續日本紀第二日 大寶元年月三月、服制了,親王四位已上, 直冠上四階、深緋、下四階、淺緋、動冠四階

タ、長秋記ニ云ル花田色也(演氏物語初音日、やさしきかたにあらねど、ゑびかづらしてぞつくろひ給べ 務短四階、邊緣、追冠四階、深縹、遊冠四階、邊標、據以此 則 日 本書紀二載ル追位深蒲萄 八深經

ざめしぬべき御ありさまを われならざらん人は、み

集註 參河國風土記曰、寶飯郡貢葡萄。 大和國風土記日、宇陀和賞葡萄。下野伊驅庄賞松栢葡 赤絲鄉貢葡萄。武藏國風土記

名 紹 當。

在原鄉貢葡萄 日、在原即貢葡 萄 正誤 染ト云、門葡萄質ノ熟シタル色ニ象ルナリト云、紫黒色ニ染 本草階蒙三、エピー 云八 葡萄 ノ古訓ニメ、特衣等ヲ紫黑色ニ染ムルヲエビ ルヲエビ染ト

さきと。藤渡家禮日、滞獨色ト云ハ、アダウノ色ト、エピノナマノ時ノ色ト同ジョナルニョリテ也。観以此 八非也。 令義解曰-衣服凡服色云 云流葡 蒲萄者、紫色之最淺者也。 藻塩草日、ゑひ浦蔔とかく、紫の寂あ

疏類

則エビ染ハ、紫色之最淺キ者ニノ、活蝦ノ色タル明證也。延喜式第十四日、経殿寮。雜染用度。 蒲萄綾一疋、紫草三斤,酢一合、灰四升、新四十斤。 帛一疋、紫草一斤、酢一合,灰二升、薪廿斤

#### 瓜類

蜜瓜

木\* 江 写列"

黄温

〇余加字利乃保曾知 熟瓜

字利,

甜瓜

□ 瓜蒂 ○字利乃佐祢

瓜子仁

早瓜

嶋コ瓜

黑红瓜 阿平宇利醬瓜 末太良字利 田雞瓜 黄斑

〇千四

南瓜一種 领瓜

阿古陀

曾波字里 加毛宇利

胡瓜 多瓜 越瓜

太知布字利處

之呂字 晚瓜

利

〇加豆宇利

多瓜一種

〇大匏 匏

〇乾鄉 瓠畜

奈利比佐古

疏部

瓜類

〇小匏 縣瓠

古奈須比牛妳茄

五三六

已春

源作存撰

萬葉瓜類

宇利、萬葉

名 甜瓜草

今 名

ロマクハウリ

七月瓜熟、其類最繁 本草綱目日、甜瓜。六 名 苽 文明写本下學集日、瓜作、蓝。神鳳鈔日、伊勢國 類聚雜要抄曰、御齒問用途料、山城國奈良御蘭蓝。 正字通、醒誤日 志郡荒生御園。

婆、胡藤母意母保由www。倭名鈔國郡部曰、日向國諸縣郡瓜生、宇利布乃國加ī用野字7。延喜式卷第十七 瓜。瓜果之瓜、今誤作蓝○蓝。按周禮、魚、宜º茈。註"魚、水畜芷、水穀、此、亦以言同氣"爲宜。 芷晋孤。 讀略"作√価"、周禮形方氏無」牽離之地。註"爲"価悄之価。疏"云~兩頭寬中狹○萬葉集卷第五日、宇利波米 和底。明月記、作、後に頓醫抄ニ、白価胡伽甜瓜ニ作ル。正字通曰、価、舊註『音誇、価、邪雕絶貌、又不、正也。 日、蔗。攻乎切、晉姑。彫蔗即彫胡、今菱苗米是也。菰與蔗同。觀此則字鏡、雜字、滋誤也〇新猿樂記曰、大

疏部 瓜類

每年五月一日兩度、盛.楊筥一合,進之 日、內匠猴。 制、瓜刀子壮枚、双長五寸、 甘瓜 江家次第二十日、發任大臣大饗。蹇。看物、暑月。創述甘瓜 江家次第二十日、發任大臣大饗。蹇。看物、暑月。創述甘

刮瓜 甘甜之帰。然則甘瓜和漢通名也。證類本草 陳航器序云 、甘瓜子上、月經大過 3 h 幕紋事。 蓝叉瓜瓜 紋枕草紙〇 應添壒囊鈔日 五の色 古今丟聞集卷 第十八日、

年《月十一日、自"大理許,被、送"五色了、殿中中次記曰、六月十八日、五色、二籠一例年進上之。玉造曰、東 くりたりける返事に。「なめ見つる五の色のあぢはひもきはだの紙にじがくなりぬる。山槐記日 輝駒、秦覺法印がもとへ瓜をつかはして、此瓜くいて、 、これがかはりに、此般若かきてとて、れらし一輌卷を 、治承四

物で、順平盛衰前卷第十五日、平家ノ方ヨリ、悪キ法師ノ振舞哉、サノミー人ニ多者討レタル 終日不。体止。今日、大庭平太景能、於「新造、御亭」做「盃酒 其儀 强 不 ·
ふ美、以。五色鱸魚、傷・者 コソ安カラネ

門五色之瓜。三長記曰、建永元年八月四日、長東被送五色。吾妻館卷第十一日

建久二年八月一日、丁丑

雨

トテ 鉢ヲ打テ、喉笛 :7 7 マデ打サカント打タリケ 優テ、ナガヘヲ指出·タル兵アリ。明春是·見テ、而自シ、東門五色ノ熟瓜 ルニ、太刀モコラへズメ、月間穴ノモトョリ 折ニケ ゾヤトテ、甲 1) c 明衡往來

色太郎〇文選卷第六日、昔聞東陵瓜。近在 日、六月消息。 排灣有一領地、等都平之跡、令之前。五色之荒、而隣子村男復之夜鎮之一精進魚類 [青門外。連畛距,阡陌。子母川釣帶。五色曜·朝日。嘉寶四面會。 物語 一、茂五

瓜。又事文須舉終集與漫馬賦ニモ、五色へ瓜ノ異名ナルフミエタリ○籌海岡編佐西事略日瓜。鳥理 I, 101 柳河東集注日、漢邵平故為,秦東陸候、秦破緣,布衣、種 瓜"長安城東、瓜美世號"東陵

「、延曆寺座主傳燈大法師位圓仁卒五云。圓仁性寬柔、慈悲甚淡。"喜怒不、形言于色。當、思。身麗:「? 元明天皇和銅六年春正月戊辰、伯耆國献、嘉瓜。三代實錄卷第八日、清和天皇貞觀六年春正月十四 日本書紀日、推古天皇二十五年夏六月、出雲國言、於一神戸郡,有、瓜、大如、缶。 續日本紀卷第六日、

日辛出 日、諸使事賜以侍從所便殿上五位六位高戶者。頹聚國史曰、延曆十一年多十月丁未、停予伊豫國獻太子五八 不死,妙樂 **曾**『居叡山北極、草菴』。夢從、天送。饗《形如』胡瓜、半片噉、之,其、味如》蜜、傍"有,人、語云、此是三十三天 覺。後口裏、餘味、飲、之三過、與。夢中。噉、、其味不、異。經。旬日,知。身健 眼明アルアラの侍中耕要

日、二品科御臺所渡 居一合、一合積離物、以護袋爲在在上如紙、小器「小さら等也。一合積例後。吾妻鑛日、文治二年六月十六 以。路遠一也。明月記曰、寬喜元年七月廿一日及未斜但州相其前能登來臨、相具風流物、已以過膏、擬 一創比企尼家。此所、樹陰爲 納凉之地。其上 嚴有 興之由 依 令 ,申也。網遊宴終日 版大外

**午刻謁帥卿、亭佳例瓜事有之。殿中申次記曰"七月朔日"瓜"十籠" 佐々木近江守。七月九日、瓜三荷。例年** 進上之。正月綱叓始之記曰、うりをけづりて、人の紛い時、そとたべてそばに置い事、くわんたいなる事に 云 K。類聚雜要抄口、供御緬齒固用途料。山城國奈良御園黃茄子。一水記曰、大永六年六月廿二日,祗園會

さいしなや、いかにせん、いかにせん、はれ。三段いかにせん、なりやしなまし、うりたつまでにや云くいし ては。そのうりあしく共、みなくふ事也。催馬樂日、山しろの、こまのうりつくり、なよやらいしなや、さい しなや、うりつくり、うりつくりはれっ二段うりつくり、我をほ(し)といふいかにせん、なよや、らいしなや、

なや、さいしなや、うりたつま、うりたつまでに。愚็勢日、山城國狛と云野に、こまのうりふとて瓜作所有

描語 瓜類

歌林四季物語目、たてまつるくだ物、瓜なしやらのもの。叡岳要記日、古老相傳云、此山伽藍粉建之 。依山上。于、時傳敎大師有:一小童(爲〉療。咽渴(取 』 依一颗(優邊塞忿敺 擊小童),大師因搯:優

に、瓜を四奉りたりければ、夫凡やつ四果のらりをぞえさせたるひじりのつらにならんと思ふか。又曰、 婆鶏、、兼亦立、制不、令、種、族。故云、是也。古今著聞集卷第十八日、あやしげなるげすをとこの禪林寺僧正

侍ける。つなにもみなくうになるべき物ならばいざこのうりにかいものこさじ。伊勢大輔集日、同宮に、 人々あつまりて瓜をくひける所にて、或人萬法みな空なり、と云法問を出したりけるを聞て、舜蓮法師よみ

もとへやりける文のらはがきに、さきの入水の上人とかきたりけるとか。同卷第十二日、一人は瓜の皮をと うりのそのつらにこそならまほしけれ。宇治拾遺卷第十一日、この法師にやありけん、大和より瓜を人の 御むすめの御まへにありつるとて、ちいさきうりををこせたりしに へはがくれずたちもいではやこまの あつめて、水にあらひて、緑梁にあたへけり。今昔物語曰、今はむかし七月ころに、大和國より、おほくの

馬に瓜を負せて、下梁ども京へ上りけるが、宇治の北に、ならず柿といふ木のかげにとい まりて、瓜の篭をおろし、息つきてすどみけるに、下梁ども瓜少々取出し切て食けり

みにつくみて、あさみつの少將のがりやるを、きょたがへ、よりひらにとらせたれば。雲のたつうりふの里 紙口、うつくしきもの。ふりにかきたろちごのかほ。小大君集日、ちいさきうりのきなるを、おなじ色のか

いかどいふべきと、あしでにかきてまいらせたりつれば、宮より。うりふ野の澤にすみぬるをし鳥は雲 をみなべしくちな一色はくひぞわづらふ。又曰、うりのあをきを、をしのかへりみむきたるよしを、これ

然士。東寺邊其味爲、勝、世稱。東寺眞桑二、然其、種每年用。美濃國眞 **桑瓜といるは、無理なれども、今江戸にては、すべてまくわ瓜といふ。 雍州府志曰、甜瓜。 呀々。有」之、** いふは、美濃関の地名と。質繁といふ所よりいつるうり名物と。他酸他所にて作り出すを、おしなべて質 黄色ともえぎ色の、細きてて筋あり。古代はほそぢといふこ。今江戸にて、まくわらりといふこ。眞桑と ゐにかよふ心あるらし。新猿樂記曰、胻。簇如』大和蓰,向5。日"○雜記曰、夏食する瓜は、甜瓜といふ物√。 〇保曾知 倭名類

ホソヲキウリ ウミウ 一名ほそち 言塵集日、ほそちとは熟瓜也。倭名鈔日、熟瓜。和名保曾知、俗用 熟瓜二字。或說極熟帶落之義也。本草和名曰、熟瓜。和名保曾知

桑瓜之瓤核。也。故元稱《原桑、瓜、至、今客》瓜、字言直謂,順桑、

今名

日根郡貢黃熟瓜 和泉國風土記曰、「慧生」 集註 延喜式卷第五日、瘸宮。七月節。熟瓜一百顆。同卷第三十三日、大 膳下。七寺盂蘭盆供養料。寺別、熟瓜三十六顆。十月二十五日節

まぎれに、うせにければよめる「めす人はほそちをみても雨べればほしりりとてやとりかくす壁 おもふらん水ぐみたるはひさこなりけり。讀詞花集日、ほそぢをゝけりけるが、ゆふだちのしける 等。一坏窯瓜。相撲召仰。 宮 宮近衛次將等以 "美酒窯瓜」給 "王卿" 古今著聞集卷第十八日、曉行法印人の許 料。熟瓜、參議已上四颗、五位已上二顆。北山沙日、七月相撲召合事、云云以酒然瓜給王卿。攝津國風土記 日、有馬郡黃熟瓜。江家次第卷第八日、七月。七日乞巧奠事。朱漆高机四脚立, 莚上、其東南机南妻居, 菓子 へまかりたりけるに、瓜を取出たりけるが、わろく成て、水ぐみたりければよめる。山しろのほぞもと人や 形狀

超流 瓜類

ザトいふはホゾヲチ也。ウリノツエテホゾカラ落タルナリ。ホゾハチクノ所ヲいふと ○宇利乃佐古事祀日、如パッ熟 瓜振折...而殺 ○雑祀日、ほそぢと云は、熟 瓜 の事也。頭書云、ホソ ○ ゥ リノ ゥ 本草 和名 漢名 瓜子仁草 今名 ウリノタネ音辨、和名瓜瓠辨也。天文写本 倭名類聚鈔曰、瓜。唐韻云、纜。

和名抄曰、唐韻云、瓣。瓜中核也。和名字利乃佐祢。本草和 名曰、白瓜子。蘇敬注曰、白字誤當险爲甘。和名字利乃佐称 ○佘加宇利乃保曾 本章 漢名

瓜蒂本本 今名 ウリノホゾ 證類本草曰、瓜蒂。味苦寒石毒。 居云、瓜蒂多用。早青蒂、便是甜瓜蒂也 陶隱 一名 仁加字

利力保督、本草類編〇本草和名日、瓜 みがうり **藻塩草日、瓜蒂。** みがうり

集註 蒂。和仁加宇利

伊豆國、瓜帶五兩。相摸國、瓜帶二兩。武藏國、瓜帶五兩。下總國、瓜帶三兩。 乃保曾,上月七日採用干。延喜式卷第三十七日、與樂察。渤使。草藥、瓜蒂四升。諸國進年料雞樂。 伊豫國、瓜蔕二兩 形狀

○本草啓蒙日、瓜蒂。常ノ甜 瓜ノ、未熟ノ寸採レバ味苦シ 大陽

集註 預にたまひて、鴻廬にうへさせられたりとぞいめれ

早瓜、近喜

一名 初瓜 粉瓜一籠,佐水木中務少輔人道

集註

日、山科 園進二早瓜一捧。若不、實者

也。而件御園、桓武天皇所 花根了。年中行变越抄日、內騰司供,早瓜 『建給』也。古今著聞集日、五月一日、南都より早瓜を奉たりけるに『、内膳司供』早瓜、叓。 差』内竪・温・常住寺、件早瓜山城域御闕所供』 種殖

殷牛一人 牛一頭、料理平和三人、 媚畦溝三人、 糞七十五擔、 運功十二人半、位三百六十座、 蹈位一人、下子半 月拂虫十 人、壅井芸三遍、第一漏五

人、三月第二遍四人、三月第三遍三人、四

江瓜歌中中

務少輔入道。江瓜百罐、佐々木近江守。康富記曰、嘉吉二年七月三日、宮の御かたざまより、御りり 殿中中次記日 1 六月十八日、江瓜 籠、例年進上之 佐々木近江守。七月九日、江瓜百館、佐々木中

**譜進覽候。諸事以而拜可申入候。恐惶謹言。七月十二日。貞穀判表書、日向守殿御宿꺳ヰ邸貞頼** 十二つかはされい よしずらし。日うかのかみどのへ一恐悦族。仍雖左道至無極族。 江瓜十

鳴こ瓜宮胤卿

ろ一うり下されい。かしこまい存い。 官胤卿記曰、永正三年七月十七日、自禁寒賜御燈樓、嶋こ瓜赘書御とち しこう仕いて申入べくい云る

木宇利 張沙斯 医名斯 倭名類 漢名 敱甂 草本

倭名鈔曰、黃鸝。和名木宇利。陸詞切韻 云、嗣黄瓜也〇黄鶣へ甜瓜ノ一種也

末太良字利條名類 本草綱月、甜瓜。集解 派鈔 一名 漢名 またら瓜

黄斑 草本 言塵集〇倭名抄日、斑瓜。策名菀云、虎歸、

今名 オクテウリ

晚瓜买票

日、其色或黄斑釋斑

名狸首。黄斑文瓜也。

和名末太良宇利

遍把犯一人、馭牛一人、牛一頭、料理平和三人、掘弉羅三人、位三百六十座、踏位一人、下子牛人、獲 延喜式卷第三十九日、內膳司。耕種園園。警晚瓜一段、種子四合五勻、惣單功三十五人半、耕地二

二遍八人、四第三遍七人、五月第二遍八人、四第三遍第一遍十人、三第

阿平宇利 倭名類

漢名 醬瓜 物本草 時珍食

今名 カタウリ

六七月結、瓜如、枕、熟則內練倒爛皮色青綠用宜帶生剖開腌晒醬藏以供 i疏茹 時珍食物本草曰、醬瓜處々。有、之、宜。於沙壞山坡。、二月下種、就、地延薨而生

耽。青皮瓜名也。倭名抄日、青瓜。和名阿乎字利 天文写本和名鈔曰、青瓜。和名阿於字利。唐韻云、 青瓜 養料。寺別青瓜一百十顆。言塵集日、青うり 延喜式卷第三十三日、大膳下。十寺盂蘭盆供

正月三節。味醬濱瓜糟濱瓜豆 5。右從三九日,至山于三日三供》之。 濱年料雜菜。 瓜味清一石、料塩三斗。右 五斗七升、直、鹽二斛四升九合六台、滓蟹五斛六斗三升六合四勺。右儲。醬瓜,料。同卷第三十九日、內膳司。 七斗二合三勺三鬚、滓甕一斛九斗二合。右從。八月一日、迄。來年七月三日一供御醬瓜料、中宮門、之。瓜八斛 七斗四升二合四勺、滓蠹三斛一斗四升一合六勺。右正月最勝王經齋賣醬瓜料。瓜二石九斗一升五合、直 鹽 延喜式卷第五日、隋宮。月料。醬、瓜三十顆。同卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經濟曾供養 料。僧別醬瓜糟漬瓜云云各一顆。好物藥生菜等料各一顆。年料。蔗四斛七斗六升、直、鹽一石

瓜類

二斗七升。爨清瓜九斗、料塩蠹滓蟹各一斗九升八合 右濱 |秋菜 | 料。同卷第四十三日、 清二春菜、料。瓜八石、料塩四斗八升。 轉漬瓜九斗 料塩一斗九升八合、汁糟一斗九升八合、滓醬二斗七升、醬 主膳監。月料。獨

放山 形狀 〇本草啓蒙日、カタウリ、形狀甜瓜ト同メ大ナ り。用テ清物トス。初ハ緑色、熟メ黄色トナル

〇千瓜 違物語 一名

ほし

うり 宇治 拾遺 集註 字治拾遺口、御縣にしろき干爪三寸ばかりにきりて、十ばかりもりたり云とほしり 」り三きり計くひきりて云と。類聚類要抄口、宇治平等院御幸御膳、御湯津ケ干瓜

之呂字利天文写本 和名鈔

> 漢名 越瓜草本

> > 今名シロウリ

證類本草曰、越瓜。陳臟器云、趙瓜。大者色正白、越人當、果食之、小者糟散、之〇按。延喜式卷第三十九日、 內勝司。供來雜菜。 日別生瓜三十顆、准;三升、自三万月 (迄)八月,所、進)。 鞭炎此。 則、牛瓜卽越瓜、本經逢原

以テスレバ、延喜武二載ル生瓜ハシロウリ也 所謂生瓜也。翻風ハ果トス。生瓜ハ菜トスルヲ

一名 之路宇利 簽名称梁沙山、白瓜。和名之

疑也、即为モウリ也。之呂字利ト和漢二名何クメ二物トナル 皮維音經濟亦有白衣、其中子白、今繼本經云白瓜子、卽冬瓜仁無 都乃宇利 本草和名曰、越瓜。和名

之呂宇利 越瓜。麻 しろうるり、徒然日、貧寒院に、感謝僧都とて、やんごとなき智者有行り云、比僧都、ある 法師を見て、しろうるりといふ名をつけたりけり。とに何物ぞと、人のとひ

かば、此僧のかほに似てん、とぞいひける ければ、さる物を我もしらず。もしあらまし

白うり 集 言應

集註

類聚雜要抄日、宇治平等院御 幸御膳、生物五坏白瓜云~

瓜黑瓜 クロウリ 要抄 對聚雜

漢名 川鷄瓜

間史 汝南

今名 口

類聚雜要抄日、宇治平等院御

集註

ウリ

幸御膳、生物五坏云~黑瓜

形狀 州ニハクロ 〇本草啓蒙日、讚

ウリ

漢名 冬瓜草本

加毛字利 倭名類

深ク、肉ハ白シ ト呼ブアリ、皮色 青者色類。田鷄、又名。田鷄瓜 汝南剛史曰、生瓜白著色類。扁蒲、

今名 カモウリ

>毛、老則蒼色有、粉、其皮堅厚、其肉肥白、其瓤白虚如、絮 木草綱目日、冬瓜。結、實大者徑尺餘、長三四尺、嫩時綠色有

一名 門瓜文明写本下學集。言選集 日、かもらり。倭名鈔日、

名加毛宇利。本草綱日日、冬瓜以三其、冬熟,也 多瓜。和名加毛宇利。本草和名曰、白冬瓜。和 集註 齊會供養料。味醬漬糟漬、冬瓜、各以二一顆? 延喜式卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經

糟漬多瓜一石、料塩二斗二升、汁糟四斗六升。醬漬多瓜四斗、料塩、升八合、醬滓醬未裝各一斗六升八合。右 充三三日。造雜物法。未斲冬瓜二十五颗。 清糟冬瓜二十四颗。同卷第三十九日。 內膳司。 瀆年料雜菜。

高語 瓜類

瓜。和加毛守利。多月収之 清:秋菜:料。本草類編目、白冬

形狀

延喜式卷第三十三日、大膳下。仁王經濟會供蹇料。冬瓜、漬 來醬漬糟漬料、各以"一顆」充"十日、顆長二尺、生來料以"一

也。其實嫩時標テ白毛多シ、老スレバ毛去リテ少ク深線色、自粉ヲ生ズ 駒光二十日、顆長一尺〇大和末草日、此瓜多ニイタレバ白毛アリ。按此說非 〇字利乃佐禰

漢名 自瓜子革本

今名

カモウリノタネ 本草綱月日、白瓜子。別錄日、冬瓜仁也。志 日、白瓜子、冬瓜仁也。但冬瓜經、霜有。白

之。異本本草類編日、白瓜子。和宇利乃佐称。冬瓜也 本草類編日、白瓜子。和宇和乃佐祢、多瓜人。八月探 〇加豆字利"

野沙 倭名類 八郎多瓜 所以外

のみして らふたぐひ

今家

之號因

斯面得

集主

衣、其子亦白、白瓜

一名 負うり 言應集日、冬

らり、真らり かほ瓜。藁塩草日、かほ瓜。むすびをくあを

方熟清也。又曰、多瓜。和名加毛宇利。ト二條ニミュレバ加豆宇利へ西瓜ノ如キ倭名鈔曰、寒瓜。雑名苑注云、寒瓜。至」冬熟也。天文写本和名抄曰、寒瓜。至多 つづらこのかほうりはさそなめな

多瓜ニノ、籍芳譜ニ冬瓜、圓密如、斗ト云清也。延喜式ニ、冬瓜颗長 一尺ト云エバ、加毛宇利へ長キ可、證。即群芳譜二冬瓜長者如い枕

形狀

〇本草啓蒙日、冬瓜。カモ ウリ、京師ノ産へ告形圓三

ノ者ハ多クハ形長シ メ西瓜ノ如シ。他州

曾波字里 倭名類 聚妙

> 漢名 胡瓜 草本

今名

キウリ

本草綱目曰、胡瓜。結、瓜園二三寸、長者至。尺 青色皮上有「痞蘊」如「疣子、空」老則黃赤色

名 木字利

倭名鈔日

、胡瓜o和名

岐宇

曾波字里、俗云木字利

大和本草臼、胡瓜、白アリ黄アリ、白 本草和 和名加良字利 名曰、胡瓜

忠

加良字利

利

天文写本和名抄日 胡瓜。俗云岐宇利

支字利 宇利。 本草類編日、 。新猿樂記曰、和胡蓝 類編日、胡瓜葉。和支

太知布字利天文写本 形狀 黄ニマサリ、久二堪フ。見アシカラズ 和名沙 漢名

瓞 额

今名

ニ瓜ハノ ヒ小メサ 丰 ウリト云 将、

心践"紹、著瓜、蔓緒、亦著」子。 但小如、瓝 . 践政、其心紹践。註:俗呼: 政瓜,爲 名 多知布字里 此 かっ 倭名類聚砂日、畦 小瓜名也。和名多知布宇 . 爾雅注云、

阿古陀 次記 殿中申

南

瓜ノ一種也

里

爾雅日

高温 瓜類

集註 院五衢、倒年進上之、八輔田中殿中中次記曰、六月十八日、阿古

形狀

〇大和本草日、アコダ瓜、京都ニ多シ、南瓜ニ似テ小 ナリの味不、好の其墓長り其葉蜀葵三似テ大ナリ。

許、正圓ニノヒダナク、皮色赤シ。汝南圃史ニ、南瓜紅皮如三丹楓色、ト云ハアコダウリナリ 黄化ヲヒラク。南瓜ヲアコダト訓スルハ誤ナリ。本章啓蒙曰、アコダウリハ、形小ニヲ六寸

## 奈利比佐古 聚沙

今案

#### 漢名 弧瓜文說

## | 今名| ユフガホ

麵八首尾相同ジク、長キュウガホ也。兖州名勝志二、瓠山以 珍ノ説ニ、後世以『長〉如心越瓜」首尾如上一者『爲上頌。延喜式ニ、狗何柄ト云ハ柄アルモノニノ懸瓠 也形似了為瓠山圓一而長也。本草時

有三短柄一大腹者爲之靈、壺之細腰者爲。消鷹 本草時珍云、無、柄而圓大形扁者爲、匏、匏之 **独《枝墓布》《》:《田之能吟》、淌三二二日『乃花乃貨。、一一、瓢大 如 如 案 、累 ×倒 " 偃 , 充 示 塞 、田中 。 此即 匏也 。** 

也。時珍ノ説ニ、刎之一頭有、腹長抦者爲。縣獨一〇元亨釋書曰、釋法蓮云云孟秋、之始、蓮。畝

中一生去一整

一名ひさこ。宇治拾遺卷第三日、ひさこのたねを、 たどひとつおとしてをきたり。云る

も、これをおけくれ食であり。一里くばりなどして、はてにはまことにすぐれて大なる七八はひさごにせ さはれ梢てみんとてうへたれば、秋なるまくに、いみじくおほくおひひろごりて、なべての物にもにず大に んと思て、内につりつけてをきたり。云ゝこし折たるすどめ、田斗桶にとり入て、飼こそけてくはせなどし おほく成たり。女悦けうじて、さと隣の人にもくはせ、とれども人へつきもせずおほかり。わらひし子孫

に植でけり。れいよりもするくと生たちて、いみじく大になりたり。これはいとおほくもならで七八ぞ て、月比小るほどに云云ひさごのたねを一づゝみなおとしていめ。さりばよとうれしくてとりて、三ところ

第日、租撲召仰至三次石出着『狐 華。散木集日、高砂にて風いたく吹け「ば、おきにひきごはなといへるもなりたる○日本書紀日、古俗、年小兄年。上五六、間、東 菱 於 額十七八。聞分、爲三角子、今亦無」之。 江家次なりたる○日本書紀日、古俗、年小兄年。上五六、間、東 『ジュン』』

也。本草時珍日、其間者日貌。亦曰、瓢因写其可。以浮水如。泡如号漂了也夕頂いふるのを。倭名鈔日、唐韻云、瓢和名奈利魏也。魏菀也。匏可爲飲盡者夕頂 ひさごといふものをこしにつけて、酒らる家に望て、つねにこれをこひて云る。つれく一日、なりひさごと のゝたちけるをみて「ひさご花さける氣色によ所ながられこの心をくみてしるかな〇古今諸聞集日、なり 源平盛衰記,又夕貌二 作ル。按二源平盛衰

顔といふ。言塵集日、ひざく花とよめり。夕がほの花にも浪にもよめり。쮆点此。則ひさご夕顔爲二一物 **記曰、与市が乘たる馬は、白あし毛、太く逞く七寸に余りて、鼻のさきひさごの花のごとく白かりければ、夕** 

量抄に云、騰の羽をはぐ様、ひしやくばなを羽先にはぐべし、自言符の所へ云く 可」證他〇伊勢難記日、矢の羽にひしやくはなと云事有。又ひさごはなと云。法

ふときりるがいかは切とさ

は見害をそう

疏部 瓜須

染草繩真

水柄

阿

とも、ひさごはなとも云なり。ひさごの花は色白き物之。それにたとへて云成べし。ひしやくはなとは、ひ 腮の羽のみに限らず、質羽にても符を切りたる羽を、自符の所を羽先にする也。 其白き所を、ひしやくばな

古名餘卷第四

---

五五五二

ると。ひさごとはゆふがほの事と さごばなと云詞のうつりかはりた ヒサケ 明月記日、建仁三年五月一日 云云索杯取物とサ人酒返給 たそかれ草 藻塩草

れりすがひくして。すがひくとはらち地がへくと云事と。風はそうじて山城によめ 臭た子がれ草、異名。 臓玉にもあり。 叉日、やましろのすとの竹かきにはもせにゆふがほな 额

**岡神四座祭、魏四柄、解除料。魏二柄。平野神四座祭。匏十六柄。已上散祭料食界。同卷第二日、供"新草1座。魏"四柄。卷日神四座祭。祭神料、匏四柄。周拜韓神三座祭。匏四柄。大客宴神四座祭。匏八柄。平** 料。劉十八柄。餘畧同卷第七日、踐祚大管祭。凡天皇十月下旬臨云幸、川上、爲。禊、料匏三柄。 云云等之類 一民部下 凡諸可。年中所、須五云朔云云者、省卽檢。収隨「官符、到」便即分光、自上非。破損一、不上得。職 集註 斯·汝身"、時水虬化、墮以引引入礁、礁不、沈云云。延喜武卷第一日、鳴雷 神祭一日本書紀曰、臨言減淵:以三三全魏,投、水云云、汝沉三是魏。則余避。之。不能沈者仍 同卷第二十

上柄。絵纂 赤染羅門集日、あさがほ夕がほうへて見しころ「ひるまこそなぐさむかたはなかりけれあさゆ 同卷第三十九日、內膳司。年料。夠一百九十柄。沒 搜~~。年。終·惣、計、如。有、剩 者、避。光。後年。 同卷第三十二日、大膳上。 釋奠 祭雜給料 一已上供奉酒料。鎮政 祭料。劉十一柄。主水司。正月十五 湖初, 汁,料。同卷第四十日、浩酒司。 日供御七種粥料。 夠八柄。 供御年料。 浩漕 匏十五柄°

ふかほのはな

形狀 かられるに、しろき花ぞをのれひとりゑみのまゆひらけたる。をちかた人に物 源氏物語夕顔日、きりかけだつ物に、いと青やかなるかづらの、心ちよげにはひ

もかのもあやしくうちよろぼひて、むねりくしからぬ町のつまなどに、はひまつはれたるをゃくちおしの花 の契りや、一ふざおりてまいれ、との給へば云くしろきあふぎの、いたうこがしたるを、これにをきてまい て、からあやしきかきねになんさき侍ける。と申す。けにいとこ家がちに、むつかしけなるわたりの、この 申すと、ひとりごち給ふ。みずいじんついるて、かの白くさけるをなん夕がほと申侍。はなの名は人めき

そへたる夕がほの花云るつよりてこそそれかとも見めたそがれにほのぼのみつる花の夕がほ。枕草紙日 夕がほはあさがほに似て、いひつどけたるもおかしかりぬべき花のすがたにて、にくきみのありさまこそ、 らせよ、えだもなさけなけなめる花を、とてとらせたれば云くて心あてにそれかとぞみるしら露のひかり いと口おしけれ。などてさはたおひ出けん。ぬかつきなどいふものゝやうにだにあれかし。されど猶、夕

六月の比、あやしき家に、夕顫の白くみえてがほといふ名ばかりはおかし。つれ~~日、 一 〇大匏 亞喜

漢名

匏 本草

今名

延喜式卷第十五日、內藏寮。 大匏四十口。遠江國三十口、

集註

下。交易雜物。遠江國大匏州口 常陸國十日。同卷第二十三日、民部 形狀

フクベー名

大皿、延喜式卷第二十三日、民部下。

交易難物。常陸國、大瓢十日

酒離器。大匏四柄、各受二二斗, 〇小兔, 延喜式卷第四十日、浩浩司、浩 延喜式卷第四十日、浩酒司。造

描語 瓜類

五五五三

一
无
五
四

集註 延喜式卷第二日、供『新賞』料。小・匏一一柄。 客。供。新管·料。匏十八柄、小二。年料供物。小匏三十二柄 同卷第五日、齋

〇乾弊

漢名

瓠

今名 カンヒヤウ 一名 干瓢 下學集

劉凞 料气

文明写本 鴈瓢 同上。草木 門日、鴈瓢 今案

及馬 日取自妙御幣。後鳥羽院熊野御幸記曰、親爺朝臣取自妙御幣進之。台記曰、久壽二年九月廿八日奉白妙幣五取自妙御序?字ヲ用ヒシ也。延喜武卷第八、祝詞曰、明和幣古語云『和幣ヲ附縣トミエタリ。明月記ニ建仁三年代テ弊ノ字ヲ用ヒシ也。延喜武卷第八、祝詞曰、明和幣古語云『 于寫下出。倭名抄日、幣置獎 延喜內購式日、清年料舖菜。云云大和國、乾弊四縣。 泰自妙幣於春日大原野青田等社。廿五日 匹於春日日吉。十二月十一日詣北野、泰白妙幣 和名美天久良。トミユの乾飄八其製樣薄白"シテ弊帛ノ如ヲ以テ、瓢ノ字ニ 神寶白妙幣六本云 已上年料所、進。 門 台記別記日、仁平三年春日詣、九月十日云云次 云次宗輔公能飨長等卿隆長朝臣各捧白妙幣。 ト乾弊 八乾瓢也。下學集飲食門二、

白妙幣。廿九日、上島御奉賀茂社云云有白妙御幣 兵籠記曰、嘉應元年二月七日、皇太后宮依日吉行啓 云 云

仁加比佐己 蓋

進名

苦瓠 范本

今名

ニガヒサゴ

證領本草曰、苦獨。胸隱居云、今獨自忽有。苦潛 ▶贈、不∠可∠食○本草師編目、苦瓠。和仁加比佐古

精進魚 漢名

本草時珍日、苦瓜。 如"觸及荔枝殼狀、熟則黃色自裂、內有"紅瓤一墨.子、瓤味甘可之食 結、瓜長者四五寸、短者二三寸、青色皮上痱瘟

倭名則

漢名 茄

草本

今名

ナスビ

名 なす 伊勢等貞陸記曰、たすび、たす。本草和名曰、茄子。和名奈須比。本草類編同之 日、茄子。驗字粉。茄。膏荷。和名奈須比。茄子、味甘醃。唐韻力減反、醋味也。 倭名鈔

者、油濃茄物〇經海圖編倭國事界日、茄子乃沈皮藏反、酢味也。 俗語云惠久之〇新猿樂祀曰、糯進物

集註

延喜式卷第三十三日、大膳下。 王經濟會供養料。未鬱漬糟漬醬漬茄子各 正月最勝

八颗。 颗、在果料 11顆。七寺盂蘭盆供養料。茄子二斗。仁王經齋會供養料。茄子六顆牛、醬漬料二顆、糟漬料二顆、熬青料 同卷第三十九日、內膳司。濱平料縣黨。茄十五石、料塩三斗。醬茄子六斗、料塩一斗二升、汁糟味醬 一颗,中子料半顆。干茄子五勺。 造雜物法。醬茄子一千四百二十八颗。未紫茄子一千四百二十

感。云 日、山城茄子。江家次第卷第八日、七月七日乞巧奠事。朱漆高机四脚立。莚上一、其東南、麦居·菓子等。 云土俗每朝先寶/奏。注、黃瓜紫茄,土入寶/之故云。雲圖抄曰、七月七日乞巧奠事云云茄樂。新**獲** 

灌牆各一斗八升。糟茄子六斗、料塩一斗二升、汁槽一斗八升。右覆、秋菜、料。本朔無顧詩曰、著、葦屋津,有

版部 瓜須

はさらに衝なかりし物をや。康富記曰、嘉吉二年七月六日、自大住庄宮司領公事物、索餅拜盆供茄子、根芋 七日、まづきたのかた、かるがはらにつくりたるのゝまめ、さゝげ、うり、なすび、といふもの、このなかごろ 日、石の御説調進也。但なすびのからの物まるに一三と入にいりて参、然時はからのまめ不参い也。大鏡 **坏、茄子。類聚雞要抄日、御齒周用途料、山城國奈良御薗茄子。御散飯調進次第日、正月三ヶ日朔日二日三** 

麥等到來 等、又簽粉之

て、人のをこせ

形狀

新猿樂記曰、踵、皹如》山城茄子相言霜。赤染衛門集日、はちすのつぼみたるをみ にて、たすびのおそろしげにふしつきたるをかほにして、ほうしのかたをつくり

古奈須比優名類 たりしに云云

漢名

牛婀茄中質

今名

ヒトクチナスビ コナスビ

一口茄子御散飯調進次第

日、八月十五日

一名人佐奈須比 本草和名曰、竜葵。和名古奈須比、一名久佐 奈須比。倭名鈔、竜作、龍。本草類編同之

名月之御祀、一口茄子五ツ づく三ゆび、以上數十五也

集註

斗八合、総三升。右潰、春菜、料。龍婆蘋六斗。料塩六升、松二升四 延喜式卷第三十九日、丙騰司。清年料雜菜。龍葵味道六斗、料塩四

斗、料塩九升 合。龍葵子漬三

正誤

古祭須比ハ今一口茄子ト云者此也。古工龍葵三誤り充、イヌホウッキハ實黑 按二後人態度ヲ以テ龍葵古訓古奈須比ト云ニ據、イヌホウッキトス、非也の

九日、內膳司。濱年料雜菜。在姜六斗、料瓜九斗、冬瓜七斗、茄子六斗、蓍根四斗、塩一斗二升、醬未醬滓醬各 糟漬料二顆、熬膏料一顆、在袰料一顆、中子料半駒。トミユレバ、龍婆子ハ茄子ノ小ナル事明也。同卷第三十 顆。吳桃子二斗、生薑六升、山蘭、龍葵子各一斗、舌就一斗。仁王經濟會供養料。茄子六顆半、醬漬料二顆、 色、南天子ノ大ニソ、食用ニナルベキ者ニ非ズ。延喜式卷第三十三日、大膳下。造雑物法。荏果四百七十六

ト田。茄子へ常ノナスビニメ、龍葵ハー口茄子也一石。又曰、茄子五石、龍葵子漬ニ斗、石漬山秋菜、料

古名錄與部卷第四十三

藏部

瓜類

絡

一五五七

# 古名錄草部卷第四十四日錄

型頂

滑梦。

香鹿

くりたけ かのした

黄茸 黄素 松たけ 松克

ねすみで「精準数 ひらたけ、天花霞 志女知 玉置

和大利

郷恵 紫菌 推賞

笑 菌

月よたけ

久波乃多介 桑黄 加之乃支乃不須扁

信札

麻豆保止 茂谷

附錄

覃類

豐部

一五五九

## 古名錄草部卷第四十四

紀藩

源 件存撰

接イクミダケハ千里竹也。タシミタケハ嗜菌ニメ香蘭、及樹木ニ生ジ食スベキ菌ヲ云〇古事記日、波毗呂久麻加斯、母登幣介波、伊久美陁氣淤斐、須惠幣介波、多斯美陁氣淤斐〇

新撰字鏡曰、桶。人之反、木耳也。比牟加之利、又太々利。羹、而元反、上、蘇々大介。湛園

祀日、內則疏芝栭廳是一物、今春夏年於木、可用爲蓝、其白者不堪食、疑卽今之蘭也〇駿河國風

**散極高脚繼頭、或紅黃白背開網縫者、皆可椒繪之** 土記曰、烏渡郡草蓬山、蓬茵藍松牙等。 物理小識日

松たけ 学治拾 造物語

渡名

松蕈蘭

今名 マツダケ

物松。,出無宗、愛者 萬譜日、松豐、生、松陰、凡, 二八非ル縣○東醫寶編日、松茸越 香美言有。松 一名 松茸 塵添壒囊鈔日、クサビラト云へバトテ心松茸、平茸ナド云物 類聚舞要抄日、平等院御奉御購云、御汁物二度、寒汁、松茸。

氣、生,山中古松下、假、松氣,而生、木茸中第一也

マッツ

付

伊勢守貞陸記日、まつたけ、まつ

海人藻芥日、松薫ハマツ如此異名ヲ被 集註

を、をそくやくなどいひけるを聞てよめる云、。山背國風土記曰、久世郡白川庄資祭覽。東道郡賈松覽。 殿中中次記曰、八月朔日、松茸一折、例年進上之。散木集曰、田上にて物いひけるついでに、松たけの有ける

松墮。駿河國風土記曰、益頭郡貢於覽。羽食濱貢於覃。山西貢於覽。三輪貢於竹於墮旛柚等。吉野拾遺曰、 つれく日、雉松茸などは、御湯殿のうへにかしりたるもくるしからず。大和國風土記日 平群郡膽駒鄉頁

がりに北山にまかれりと云々松茸求之。たけ狩、秋茸みる之。求之。袖中抄曰、古今にも、素性が敬の詞 高野山より了確無法師のたづねいまして、あか棚にありける松茸をみたまひて云く。 藻塩草目、古はたけ

時、參上、午終御子松茸山訖退下、昏歸參、深更還御、名謁退下。寬喜二年八月廿七日,午時許宰相來、一昨日 に、たけがりにと山にまかりけるに、とあるは、松茸もとめにこそ侍めれ。明月記曰、建永元年九月三日、天

松茸于万、爬、兼、無"共命" る。新猿樂記日、 形狀 頓医抄日、水腫トテ人ノ身ノ腫ニ薬鬼水腫ラ 字治拾遺卷第一日、松だけのおほきやかなるもの 卷第九日、松茸をつくみあつめたるやりにてある物九あり云 ム云:、川

ひらたけ 平家 漢名 天花壺 本草 綱目 今名 ヒラタケ

松茸

附方

水腫

下ス、干松茸ヲ粥ニ具シテ、能々不斷ニ可食

如。松花;而大、香氣如、聲、白色食」之甚美本草綱月日、天花覽。集解、瑞曰、天花菜、形

名平茸 学治 ひら茸 古今著 集註

五六一

かに平のきやうにすむ人はひらだけをこそくふべかりけれ。かへし。相図。「平茸はよきむしやにこそ古今著聞集卷第十八日、觀知僧都、九梁の太政大臣のもとへ、ひら茸をおくるとて、そえ侍りける「たひら

ぞと心えて、ぶゑんのひらたけ、こゝにあり。とうく、といそがす。根非小弥太はいぜんす。いなかから にたりけれおそろしながらさすがみまほし。平家物語卷第八日、木そ、何をもあたらしき物をば無塩と云

らせたり。字治拾遺曰、これも今はむかし、丹波國篠村といふところに、年比平茸やるかたもなくおほか しのきはめて大きにくぼかりけるに、飯うつたからよそひ、御さい三しゆして、ひらだけのしるにて、まい りけり。里村のものこれやとりて、人にもこゝろざし、またわれもくひなどして、としごろすぐるほどに

漸く存命しけり。云こそのゝもは東大寺にある僧をめして、御讚經をつとめさせらる。云々南袖よりおほ こびて、汁物にとゝのへて、弟子僧と童子と三人食しけるが、各にはかに煩ひて、師と童子は死して、弟子は 云。今昔物語十日、小一條社内の、藤の木に生たる平茸を収て、持來りしかば、僧よき物持來りしとよろ

同宿の僧これをみて、是は何方より取よせ給ふにや。近ごろけ平茸、食して、湯にあたりし人おほし。云々 くの不茸をとり出す。師の僧やがて下僧におほせて、平茸を燒漬にさせて取よせ、思ふさまに食しけり。

有けるを取て、もち来り。を、汁物にして、稲の油でいれて、房主食しけり。しばしありて、腹痛して、吐道 又曰、今はむかし、比叡田の横川にすめる僧有けり。秋のころ、房の法師、山にゆきて、木を伐けるが、平耳

りて、國をおさめて、任おぼりければ上るとて、御政を越に云、守が乗たる馬、懸橋の木をふみ折て、逆に馬 し。あまりにたえがたければ云~。同第十二日、今はむかし、信濃守藤原陳忠といふ人あり。任國にくだ

共に落入たり。云、引あげて見れば、平鹿を猿篭にあまる程いれたり。云、守猿籠に乗て、片手には縄を捕 へ、片手には平耽を三ふさ持たり。上りのれば、懸橋の上にすへて、朗等どもよろこびて、是はいかなる平

ば、見すてがたくて、まづ手の及ふかぎり取て、猿篭に入て上つる也云、。源平盛菱記卷第卅三日、何モ生 **曹にか候と間ば、守答やら、落入たる時に、馬はとく底に落入つるに、われはおくれておちたるが、木の枝に** とりつきてとゞまり、下に大なる木枝のさはりつるを、ふまへて居たるに、其もとに平電おほく生てみゆれ シキ物ヲバ無騰ト云フゾト心得テ、無鹽ノ平茸モアリツナ、歸給ハヌサキニ早メヨく~ト云ケレバ云云平

すノ汁一ツ、折敷ニ居テ云云無騰ノ平茸ハ京都ニハ無物也○釋常談日、無塩。女 人體涵謂。之。無塩、齊有。陳女、号、無塩、白頭深月垤門陰腰肥項少髮皮膚如、漆

形狀

日、 〇本草啓蒙 ヒラダ

ケ、冬容山中朽樹ニ生ズ、初生小塊多ク聚リテ鮫皮ノ如シ、漸ク長スレバ微ク傘狀アリ、感長ズレケ、冬容山中朽樹ニ生ズ、初生小塊多ク聚リテ鮫皮ノ如シ、漸ク長スレバ微ク傘狀アリ、感長ズレ バ蓋ナク銀杏葉ノ形ノ如ク、雞冠化ニ類ス、多ク重疊ノ白色微黑、背へ切レアリテ、葉ト共ニ白色

殿中中

今名

ナメタケ

一名なめすゝき 常盤遍 物語

集註 般中中次記曰、九月九日、清 薄 一折、例年進上之、無量壽院

形狀

中恒例記に、

なめすゝき進上の事有、是は木茸の名之。しめぢたけ二似て、くき長き物之。 筑紫 てはみづたゝきと云物 **之。**江戸ニはなし。大和本草日、ナメズ、キ、笠ハ方一寸計アリ、莖ハ小ニメ長シ、柔滑ニメ味美シ、無一莓。

曹部 曹夠

一五六三

タリ。西土ニテ水タ、キト云、寒月生ズ 本ョ リ北多 ク生ズ、褐色也。 ウラ 1 丰 V

志女知 類聚雜 要抄

可以變、然作之毫微報、俗名。寒清電力 南譜日、玉簟。生。山中、初寒時色潔哲

名

めりたけ

等院翻幸御膳云云御汁物二度、熱汁 常盤嫗物語○類聚雜要抄日、宇治平 漢名

玉型 雷雷

今名

シメヂ

志女 形狀 ナリの ○大和木草口、シメデハ松覃ニ似テ小也。蒸短シ。八九月山野ニ生ズ、味美好 蘭品日、白シメデ、シメディ白色ナル者也。 都、テー科製十茎族り生ズ

黄耳 山城國 風土記

尚謂曰、黃璽。 叢 生山中 黃 色、俗名。黃經豐、又名。黃種

遊行

黄潭

譜 陽

今名

キシメヂ

名 黄陽 山背國風土記日、兎道 郡武云云黃蘭之類

集註

山背國風土記日、久 世郡白川庄、松覽黃

ねすみて 常然 門酒

形狀

金鹭ト云、京畿ニテハ黄ト地ト云 ○大和本草日、黄下地西州ニテハ

漢名

掃帶菰 通志園

今名

ネズミタケ

角菜、而大、黄白色、味亦佳 八閩道志曰、掃祭菰、如:鹿

形狀

鼠色ナリ。 菌品日、風タケ、栗イロ、チズミイロ、黄イロノ三品アリ。 〇大和本草曰、鼠菌、其形大針ノ如ク、頭ハナルアリ、サキハ不」尖、

大ナルニ似タリ 按鼠タケハ、鼠足ノ

椎茸 御成記 文禄四年

漢名

香蕈 府福州

今名

シヰタケ

一名

州府志曰、香蕈生。深林腐木上、味極香美

椒園雜記日、香鹭

惟深山至陰處有」之。福

しる竹

朝倉亭御成記日 御菓子しぬ竹

集註

年御成 文滁四

紫菌 日本 書紀

くりたけ

常盤嫗 物語

種、推茸御菓子七種 記日、御六献、椎茸御菓子九

椎茸

形狀

○南品曰、クリタ ケ、莖長味美ナリ

豐部 遭類

一五六五

集註 紫蘭挺、雪而生;高六寸餘,滿。四町許。乃使,童子,探取、還示隣家。摠言,不、知、且疑。毒物。於 日本書紀日、皇極天皇三年、倭國言・噴音薨田郡人押坂直、將,一童子、欣:遊雪上、登。薨田山、便見。

壽。或人云蓋俗不▶知。芝草、而妄言是廣耶○按「廣東新語」 南注曰、從化 "多" 香蘭」至 "多" 雨雪滋凍腐而生、 >是、押坂直與『董子』煮而食之。大有『氣味。明日、往見都不>在焉。押坂直與『童子』因"蟶』 閱養、無:病

冬春無之韓、夏秋多春、以、屯有污蛇蟲從、下而過。。無。此應之韓、謂。之雲商、色白而香、亦曰。雲曹、大抵

## かのした常盤編物語

集註 常騰驅物語曰、まつたけ、ひらたけ、なめすくき、かのした、しるた け、しめりたけ、くりたけ、わずみて、月よだけ迄もくはばやな

# **漢名** 笑菌 雞暑 令名

ワラヒタケ

爲□美炎乎な。雖暑雖日、揭桐蘭、食」之美不」止、俗名□美蘭一。南品曰、トガノ木ノ南ヲ食へバ美テ不」止ト云。 五難烈曰、又有。笑蘭、食、者笑、不以止、、名。笑矣乎。。清異錄曰、倘有二一種、食、之令二人以乾笑、士人戲呼

體蘭生時即灣屬食」之即笑不ゝ止松葉解」之物理小讚日、異苑言交趾有」蘭其葉塗、人學

集註

注 今昔物語曰、京にありける木伐人ども、北山にゆ

り舞をなして出來たり。木伐人どもこれを見て、これはよも人にはあらじ、天狗にや鬼神にやと怖れ居た さまよびけるに、山の奥の方より、人の來るをとす。あやしや何者の來るにやとおもふ死に、尼四五人ばか

山の奥より、かくは郷出たまふぞと問ければ、尼ども答て、我等かく舞來るをば、そこたちは定めておそろ るに、此尼ども本代人ども見つけて、より來れば、木伐人どもおそろしながら、是はいかなる尼君達の、深き

みたがへて、出べきやうなかりしに、うるはしき輩のあるをみて、物のほしさに、これを取て、くはんとせし しと思ふらん、たぐし我等そこくとにある尼どもなり、花をつみて佛に奉らんとて、山に入つるが、道をふ

る魔を取てくらふに、心ならず舞けり。其後は尼ども、、木伐人ども、、たかひに舞ついけて、わらひけり。 ども、やめられずといひける。木伐人どもあやしくおもひながら、物のほしかりければ、尼どもが食残した よき事なりとおもひて、多くくひしに、たどかくこゝろならず舞るゝなり。心にもいとあやしき事とは思へ が、くひて踏るやせんとも思ひしぬれども、飢て死んよりはとて、燒べてくひつるに、きはめて甘かりければ、

おのく、歸りけり。それより後、此費を舞覧といふなりとなんかくてしばらくありて、醉のざめたるやうになりて、道を尋得て、

### 和大利物語

り入て、いみじく調味して、別當をよびよせて、昨日ある人の許より、平茸を給はりしを、頭物にし今音物語十日、くふ人ごとに必死、といへる和大利といふ茸を、手づから山中より取來て、鍋にき

曹部 賈頡

へて、別當にくはせ、已は平茸をくひて、別當今やこゝちあしきといふや、かれだに死は、我別當になるは間 てふるまはんと思ひて、中入つるなり。といへば、別當悦で、打らなづきて居たれ。かの僧和太利をといの

年ごろ、いまだかくいみじく調味したる和太利をくはざりつれ、といひて居たれば、僧奴は知たりけりと思 有べからず、と數刻鎖をまもり居たれども、而色つねにかはらすして、菌一つもなき口を頻咲して、法師は ひて、はづかしくて、物もいはで奥ににげ人にけり。別常は事もなくして、房へ 今案 大樹ニ生ズ、 ワタリハ深山

歸けり、此別當はとしごろ和太利をくひしかども、籐たる事なかりけり云る 形胡 孫限ニ似テ騰梁背ニ鹿キ切レアリ、而紫褐色背淡紫色悪臭アリ、暗夜ニ青光ヲ竣ス、誤食 スレバ人ヲ殺スの物理小識日、菌植其背光者朝菌有、夜光、者養、不、熟者湯昭人无、影者殺人人

月よたけ 常經遍

#### 〇附錄

麻豆保止 養名類 漢名

木草綱目曰、茯苓。 出.. 大松下、附. 根而生、無.. 苗葉花 實、作、塊如、拳、在、土底、大者至、數斤、有。赤白二種

一名

萬豆保夜天文写本和名沙口、伏苓。

分。雜給料。茯苓十一兩三分。齋宮寮。茯苓二兩二分。木工祭。茯苓云云各二斤。內匠寮。茯苓云云各四 延喜式卷第三十七日、典雞豬。臘月御雞。茯苓六兩。中宫臘月御雞。茯苓二兩一分。東宮所須茯苓一兩二

唐使。云云茯苓各六斤。渤使。茯苓云云各一斤。新羅使。茯苓云云各五斤。諸國進年料雜樂。攝津國、茯 雨。左右近衛府。茯苓至云各一斤八兩。左右衞門府。茯苓八兩。左右兵衛府。茯苓五云各三分。遣諸番便。

答云云各三斤。伊賀國、茯苓七斤。伊勢國、茯苓十一斤十兩。尾張國、云云茯苓各七斤。參河國、茯苓六斤。 遠江國、云云茯苓各卅斤。駿河國、茯苓云云各十斤。上總國、茯苓廿八斤。下總國 茯苓六斤。常陸國、茯苓

後國、茯苓七斤三兩。伯耆國、茯苓云云各二斤。出雲國、茯苓六斤。石見國、云云茯苓各六斗。播磨國、茯苓 百六十六斤。美濃國、云云茯苓各州斤。若狹國、茯苓四斤。加賀國、云云茯苓各一斤。越後國、茯苓三斤。丹

斤。紀伊國、云云茯苓各四斤。阿波國、茯苓云云各一斤。讃岐國、茯苓七斤。伊豫國、茯苓五斤。美濃國風土 云云各四斤。備中國、茯苓一斤二兩。備後國、茯苓五斤。周防國、云云茯苓各一斤。長門國、云云茯苓各三

編曰、茯苓。和末川乃保也:二月八月採陰干、茯神狀別有之。常陸國風土祀曰、香島郡玄云自、此以南至。輕野 記曰,共產物者茯苓。渥美郡遊婦山出茯苓。山背國風土記曰 久世郡白川庄貢茯苓。鬼道郡貢茯苓。本草類

楯縫郡所在草木伏苓、細辛。神門郡所在草木伏苓。大和國風上記曰、平群郡膽駒鄕買茯苓。伊賀國風士記 里、若松濱之間 |可º卅餘里、此皆松山、蓬·伏苓伏神、每、年期、之。 出雲國風土記曰、秋鹿郡所在草木**伏苓。** 

日、宮城郡宣茯苓。加賀國風土記日、加賀郡宣茯苓。玉戈鄉貢茯苓。駿河國風土記曰、烏渡郡産茯苓。富士 日、伊賀郡嶋田山出茯苓。狭山出茯苓飲茗。参河國風土記曰、寶飯郡貫茯苓。形原郡買茯苓。陸奧國風土記

旬、有二一仙童」云云只服。松葉與山茯苓。時人号。松葉仙一郡出茯苓於翠 走湯山緣起曰、無神同御宇四年癸巳九月中

形狀

福田方日、茯苓猪苓皆黑皮ヲケッ リ去テ、焙テ切レ。頓醫抄日、茯

ズ、形狀甘語ノ如ク、外皮松根 ボリ収テ拾ヨの **苓、先上ノ黒皮ヲ削捨テ、切テスリ振ベシ。水ニ打入テ覆立テ、スベシノ絹ニシボリテ、綿** サテ葛粉ノ様三底ニ池メテ、上ノ水ヲ捨テ、ホシテ炒乾テ用ョ〇茯苓ハ松樹ノ下地中二生 ノ様ナル物ラシ

諸國進年料雜獎。尾張政、夜神五五各六斤。駿河國風

皮ニ似タリ、肉赤白ノ二種アリ

〇茯神

· 通

本草綱目、茯苓集解曰。 抱,根而輕虛者爲,茯神

其

集註

七日、典藥養。 延喜式卷第三十

土記日、伊穗原郡美躬產茯苓茯神。鷹河郡買茯苓茯神

加之乃支乃不須扁本草

漢名 豬苓

今名 ハギホド

實者住。時珍日、豬苓、亦是木之餘氣所、結 本草綱目、豬苓集解、弘景曰、其皮黑色、肉白而

末加之波等。和名久奴岐

醬心方目、猪

加志波くぬ木

藻塩草曰、猪苓。 加志波くぬ木

一名

久岐 本草和名曰、豬苓。和名加之波 岐一名久岐、一名也末加之波、 也

集註 本草類編曰、猪 苓。 和加之乃

八月探除于 支乃不須扁:二 形狀 内へ白色。今和産多シ、丹州及諸州ヨリ出ス。根塊潤サーニ寸長サニ三寸、四 〇本草啓蒙日、豬苓。形豬屎ニ似タリ、體輕ク、外皮黑色、又赤色ヲ帶ル者アリ。

花。仙臺ョリ出ル者花多シ。舶來ノ者ニハナシ 四多クメ四瓣ノ花ヲ開ク、瓣尖コテ莖ナシ、一根數

## 雷丸今通名

大小如之栗狀如三豬杏一而圓。皮黑肉白、甚堅實 本草綱目曰、雷丸。竹之餘氣所、結、故曰"竹苓。雷丸。

> 形狀 豆又如李核〇本草啓蒙日、舶來ノ者形 新撰字鏡曰、雷丸。和良比乃根着、如大

務茶二似テ小ク電メ堅實ナリ。大ナル者へ栗ノ如シ。小ナル者無患子ノ 如ニメ圓ナリ。又圓ナラザル者アリ。外黑色內白色、又皮赤キ者モアリ

久波乃多介本草 漢名 桑黄草本 今名 クハノキノサルノコシカケ

南。和名久波乃多介 延喜式〇本草和名曰、桒 集註

黄色ニソ体カロ

ク、味淡キ者ナリ

魔部

曹類

品日、桑黃。桑樹枝間隂湿

ノ処ニ生ズ、

國進年料雜藥。美作國、桑茸二斤 延喜式卷第三十七日、典壅賽。諸

形狀 菌

五七一

題芝 通名

古名錄卷第四十四

五七二

今名

マンネンタケ

草、形似。珊瑚、枝葉連結、或丹或紫、或黑或金色、或隨。四時,變之色。一云一年三難、食之之 王文 續日本紀卷第九日、元正天皇神籲三年九月庚寅、內裏"生至來、勑、令》、朝野道俗等。作:玉 來、詩賦了。壬寅、文人一百十二人上三玉來、詩賦。延喜式卷第二十一日、治部省。 集註 祥瑞。芝 日本

長一尺。其色紫緋相雜、每二莖之末一有、菌 令。 胃壽。 文德實錄卷第三日、仁壽元年八月癸亥 有」差〇和漢ノ書ニ孁芝ヲ戦ルコ多シ。今界之〇大和本草日、靈芝五色アリ、紅紫無芝多シ、地上ヨリ生式。 日、天武天皇白鳳八年十二月、紀伊國貢三芝草、其狀似以蘭・莖長一尺、其蓋二閻。續日本後紀卷第四日、承和 一年二月丙申、天皇御、紫宸殿、右大臣從二位清原眞人夏野戲,芝草二一莖有 而產二子大臣、山莊双岳之下。 是日賜 駿河國献:瑞草、紫柴朱華、或謂:之。芝 兩枝一者、一枝長一尺六寸、一枝 酒侍臣、以賀二祥芝、賜、祿

木湿潤ノ氣ヨリ生ズ、蓋トクキトアルヲ靈芝ト云 南品口、処々山林多生ス、人家庭際ニモ生ズ、皆朽

#### 稍麥領

〇沼賀 糠 伊和神 O くろよね 稻 糲 〇毛美與亦 糙 〇與亦 〇之比奈世 粃 白粳米・ウオー ○あをいね 〇すりぬか

精米

到版

〇和良 稾

〇乃木 穀頴

〇保\*

. 穗

〇布留岐与,亦

陳廩米

朱米 なかて 宇流之亦粳 紅稻 ,中稻

於久天晚稻 和勢早稻

紫毛稻

自然生穀

天生荍

穀部

稻麥類

毛知乃與亦糯 からすね

一五七三

〇年版加良 〇青麥 麥苗 麥秸 〇年岐乃久呂美

古牟岐 布止牟岐 大麥 小麥 早麥 )晚麥

〇无支古 方無吃乃加领 , カス

加" 加良須毛岐\*

糠麥

麥麸

之。呂。 阿 阿波乃宇留乙称 波乃毛知 白梁米 秫

岐さ美 丹黍米

稗 盟

支奈司支美 久路岐々美

唐岁

香 人人佐

蜀黍

骨" 美乃 比"衣"

牟岐

蕎麥

岐美 安御

褪

黑黍 黄黍

阿加"

木\*美

乃毛智

黍

和四 加了

川河波

早果

支安和

青粱米

一岐阿

波

波~

THE.

回。

形波加良

一五七四

穀部 稻麥類

**丹羽**鄰稱木。以奈木

私祀日、師說

tr

# 古名錄穀部卷第四十五

紀藩

源 作存撰

#### 稻麥類

萬柴 110 漢名

M M

今名

稻見乃海之、奧津浪。問卷第九日、稻見野乃。同卷第十日、稻塘逝、別、家居。者云云。平家物語卷第十日、 然此诗典情形 正字通日、所雜日、顧問三通言。 以陳清也。 本草綱川以、標爲、稻、 稻未二心、盡之是被一也

名 云云 萬葉生卷第八日 同卷第三日、名細寸、 口、伊奈宇之呂

優名沙園都部門、武黃國足立郡稱直、伊奈保。上總國海上郡稱歷、伊奈無波。 以 因盡國法美鄉齡打、伊奈波。長門 いなばうちそよぎ云、。源平察衰記卷第十七日、稱葉ヲ渡ル風、晋、同卷第四 倭名沙州郡部口、尾張門 。國大津郡稻妻、伊奈女。 綾河鰡風土惣日、鳥渡郡稻川、或伊奈川、或稻田川 能。但那賀真遊云云 灣日本紀日、伊醮武斯廬、稻席也。 信濃國高非郡稻向、以奈無木。 十一日、稻業ノ露モ置増ツ、の 稻之被,推:于水

乃、而 及苅 不相。公陽 住吉之、岸乎田爾黎、**萨** 故 队之形似、敷、席 云三稍席 志泥 倭名鈔曰、唐韻云、結。春義不清者也。漢語抄云、乃古利之称。又曰、糙。一云、 加知之你。 古事記日 日子詞惠志定命 今按、本朝式等所謂爲糙者容。稻 、御貢津 以繭 倭名鈔曰、粽。唐韻 漢語抄云、美之呂乃以祢〇正字通日、 成一般 之名也。 云、粮。 萬葉集卷第 香稻白 八十日、 米 糠。 也。

驚馬、稻一升。 議解曰、謂稻者、牛糠米也、故稱、升也。 田令曰、凡云云每年宮內省、 舊註音氣、青稻白米誤。醫心方曰、稻米、和名以称乃与祢 一日給二細馬、稻三升、中馬 預。准以米來年两、種色目 稻若豆二升、

ろありてし 白黑爲」色也。 云 けたるみどこ 義解日 ·謂色月者、稻 稻名寫」目也 たのみ草 たのみ 藻塩草日、た のみ、いねと 源氏物語明石目、この世のまらけに、秋のたのみをか こりしよはひつむべきいねのくらまちどもなど、おりおり所につ すめら見草 詞林采葉抄日、 藻塩草日、すめ ら見草、いねる 、水陰草へ稻ノ一名ト見 水かけ草 h おさめ、の 仙覺萬葉 及 集註釈第 りりの 共

就 十日、水かけ草とは稲の名也といへり。水に 岩 ナル草ゾ。只水 いりじゃ 也。其故 ふる草なれば、みづかげぐさと云成べし デ雨露 ハ天川水ヲ縣ル故ニ、尔コメリの ノ陰二生ル草ラ云ト云云。ミカケ草共云云云。 ノ恩ニ浴スル と。 又天漢ノ水陰ノ草ト云心と。 天 水陰草 水懸草上 故ハ 亦或說二、是八水懸草也。水懸草卜八、苗 塵添壒囊抄日、水逢草事。水カゲ草トハ何 銀河天水ノ惠ミテ さみ草 言塵集日、とみ草とは稻之。 、苗代水ノ始 3 IJ 稻化成

穀部 稻麥類 河ノ水ヲ懸ル

1-

八、空日

リ降

ル雨ノ事也共申

とみ草の花とも詠り。

日、稲とみ草。藻塩草日、とみ草是もいねと とみ草の花とけ稲の花之。又日、富草稲之。又 民の葉草 稻 久末之呂。淡路國三原郡神稻 〇倭名抄國郡部日、石見國邑知郡神

久萬之呂。<br />
令日、凡田、長三十步、廣十二步、爲、段。十段爲、町。<br />
段租稲二東二把、町租稻二十二束。<br />
義解 日、謂段地獲。稻五十東、東稻春得米五升也。即於、町者須、得。五百東。 出雲國風土記曰、飯石郡。多爾鄉

天下,時、稻種暗此處、故云、種。神亀二年改一多職一 所,造,天下,大神、大穴持命與,須久奈比占命,巡三行 集註 續日本紀卷第九日、神龜元年三月甲申令至 七道、諸國了依國、大小一割一取稅稻四万已上

粮料1。同卷第十日、天平元年夏四月癸亥勑玉云。爲5造山陽道了諸國驛家了、光。驛起稱五万束。同卷第十 二十万東已下了。每年出舉了取了,息利了、以充。朝集使了在京、及。非時差之使、、除。運到調情了,外向」京擔夫等。

先符。任當。公廨、以充工主府中雜事了。同卷第二十七日、天平神護二年二月丙午、勑。、、夫善貯、者爲了國之 承。前門公廨稻合一百萬東、然中間官人任、意費用、今但。造一一十餘萬東,云云。其諸國地子稻、者、一、佐山 十萬以下、下國八萬已下、如多過 免,除、之。又曰、天平六年春正月丁丑、聽、諮園、司每年貸二官稻、。大國十四萬以下、上國十二萬以下、中國 一日 天平三年八月辛丑、詔曰、但淡路、阿波、讃岐、隱岐等國租、 丼天平元年,以往、公私未、納、稻者、、咸。 茲、數:依、法科、罪。同卷第二十日、天平寶字二年夏五月丙戌,太宰府言。。

和泉國五殿不上登、民無為稱和「轉診讚岐國稻四万餘東」、以充、種子」。同卷第二十九日、神護景雲二年三月乙 進一階。有以位稱一百斛加泉。一階。並勿過正六位上。同卷第廿八日、神護景雲元年

、本、宜、全事運、近江國近郡、稻穀五萬斛、貯穀納於松原、倉。。白丁運、五百斛、叙。一階、每、加。三百五十斛

本大 八日、貞觀十二年 代實錄卷第十日、貞觀七年五月十七日丁酉、上野國言、加卡學排門任 國司、公廨稻七萬東以從之之。 三万五千餘東京、脈流給飢民、許之。 東で以下俘囚死器、存べ者、員少で也。餘客文德實錄卷第六日、齊衡元年三月丁未、石見國奏請、以《公廨、稻此善狀で假以外從五位下』。同卷第十七日、承和十四年七月丁卯、滅『省日向國正稅義一百解祿料稻七千六百此善狀で 東了、以充了燈油。 相摸國大住郡大領外從七位上玉生、眞廣主、代言窮民"輸言私稻一万六千束"戶口增益"<"五千三百五十人、褒言云。乃造"便於七道諸國"、各驩"當國、穀韻"、棄賑"飢民。 鈴畧 續日本後紀卷第九曰、承和七年二月壬申・ 之間、准之賤時價二、出二縣私稻、滿二一万東一者、不上論。有位白丁了、 第三十二日、齊龜四年三月已丑、天下穀價、騰,貴、百姓飢急、雖、加,脹恤、獨未、存、濟。。於、是官議奏曰、用度。。九月壬辰、陸奧國晉五五、又常國春五蓮年粮料稻卅六万餘東。。從、費。官物、、稱、致己民困。 同卷 當"農月"、差5天運漕。海路風波、動「經1數月,至5有55漂貫757、復徵55運脚76乞割5當國,田和7以5充7已1616、北建道使右中辨正五位下豐野眞人出雲言、佐渡7國造5國分寺,料稻一万東、毎年支。在5越後1、常 云望請、准二國 同卷第十日、天安二年夏四月戊戌、充。越前國氣比神宮寺 "稻 大小!、以,正 五月廿六日丁丑、河內國、年穀不之登、民苦山飢饉、太政官處分、借,境內宮蒙、貯稻 税 穀 一拠 脱時一價一、糶 與、登民一云 同卷第七日、齊衡二年六月戊寅、詔以『安祥寺』預』於定額 云。至此於秋時一、賣品成領和一云 叙。位一階、每,加。五千東? 一萬東、爲光造

一田租で、以下充立

如百 姓

五七九

穀部

惣三萬東云

HO

ri

- 卷第四十六日、元慶八年八月廿八日丙辰、以。山城國正稅稻一千三百八十七東九把了充

貞觀十五年十二月十七日戊申、太宰府言

2

云、又府儲

一佛像

二、施稻一千 之料。三 同卷第十 萬三千

東了、班三給百姓一、待以秋

"返給。

同卷第二十四日

入河门交野郡百済车。

ぞなりつ

けふにかぎるべからず云

IV )

2/9

聚四史日、延曆十二年五月、長回

峻河國風土記曰、鳥麦都西島又靠稅稻。扶桑略記第

五日、天智天皇元年多月云

阿波南國

稻

么

F

東

儲、苗種不ン下、農業可 選元京 米 拉腰也 - to -川雲風 同卷第四十七日、 『正稅稍八萬東、長門國三萬東、各班 仁和元年三月十日 乙丑、先是、紀伊炒 「経間内 百姓、以《去年不》登 介外從 五位下 民無言宿 ·興道宿

伊勢太神宮 神祭、稻八東 叉曰:冊住之子 稱了。延喜立卷第一曰、鵙雷神祭一座、稱四東。春日神四座祭 河内、和泉、擂 你不宗解 常江山 中は、ことしの 令二大炊餐一支#度 年中供師 0 、其後者もきこしめし、臣にも給ふ。故に節章をおこなはるゝ也。 同作第 一成全 -1-衛。去真觀十五年交替、 東。 津國一、金香客田 五稻 陈沙 干无口、大炊祭 物八至是 はつ間を軸にたてまつらせ給えなり。 用明天皇二年四月にはじまるとぞ。 月料獨三十九東、一把六分。同卷第三十一日、宮內省。凡名營出收納帳、自己官下、省、即 天百 巫 元十六 來薦神祭、稻玉東 許之。 「紹糯栗等」數二中之省、省即申「官、 水 韓門 權稻科地下之直,海是深節一之。 不り川 -11 同卷第四 神祭, 月祭料 思智 五萬七千九百四 料、稍八束 十八日 同卷第五日、審內。蕭內顯王參三時祭觀料、稻十二東。 卷第三日 、仁和 右豊明節會と申に、 代のはじめには、大管會といひて、としごとの 《日祭料、稻八東。 食器 開館 元年十二月六日丙辰 神祭、稻 -1-官下.符民部省下 一東 日本靈異記日、不上告二吾子、取稍十束。 おほよそとよのあか ITI 東。 既經濟芥、不 鎖衛鳴祭 稻六東。 ことしの稲を神にたてまつ 、勃、分置使者、於山城 年中行事和 科 同卷第二日 派 三里 充:0 一東 りとは、そうじて 115 明 。 [iii] 1]1 卷第四日、 御 宮東宮亦 をは新 巫家篇 大和 准法

ねかるにおちちりたる悪にり。こからべなどの、それをとるをは、おちぼひろふと云也 るかなる田の中のほど道を、精巣の露にそぼちつゝ分行ほど。袖中抄日、おちぼとは、い げればよ二億ける。一きのふみし法師子のいねよのほどにみそうつまでに成にけるかな。つれく日、は れば、法師子のいねなりといひける。又あしたに、きのふの法師子のいねにて、御みそうつとてくはせたり ゑつかたに、たながみといふ所へ罷たりけるに、いねをかけつみたるを、あればなにといふいねぞととひけ 千東、以。共利稱、光。聚中雜用料。又舉。丹後喚稻八百東、以。共利稱、光。學生口味料。 叡岳嬰記曰、康和二千東、以。共利稱、光。學生口味料。 叡岳嬰記曰、康和二 神明にさゝげ、御門もきこしめしあぢはひ給ふ事やんごとなしや。古今著開集第十八日、俊願朝臣秋のす 年五西、法華三昧料、稲八千東宮符下。近江國四千東、美乃國四千東。 歌林四季物語曰、ことしのいねこめ、 田のいねかるとて、浙につけたる物まれびしつく。意見十二箇條曰、又有く物、令。常陸國選年擧 宫缚稻御倉之放、楝芩、盗虫取御稻十八束。"又曰、宫司納所乃稻米之類宫司可。下、符進,该。源氏物語手習曰,門 江麓守橋長 // 志賀寺傳法供料稻一万東 重進施入。太神宮諸新事記曰,天平勝寶六年六月廿六日夜**、豊受** 月矢十万隻、糸九百斤、綿一千斤、布一千端、稻種千斛、送。百濟國。同卷第廿三日、延喜十四年三月五日、近 形狀 稻九萬四 書紀

穀部 稻麥類

氏物語夕霧日、鹿は云~山田のひだにもまどろかず。いろこきいねどもの中にまじりて、うちなくも。仙 √魔。故云。大前襲日、ゆぶしでの神のたき田のいなほのいなのほのもろほにさればこれといふなし。源 本朝無題詩日、欺雲稻穗兩岐白。又曰、廬守山畦稻穗秋。注、沙々望。山河、處々有,田煎、稻花盛熟、守者在 B、以、稻禽。水田種子。 又因是"天邑君。 即以"共稻種,始殖"于天狹田及長田。 其秋垂穎 < 握莫《然甚快也。

は、さなへをとりて、たばねをきたるなり。そのむらなへは、うふべきところをさだめをきて、とりたる也。 覺萬葉集註釋卷第二日、妹のたはほにいでぬれば、日をへてなびきまさる也。同卷第十四日、むらなへと

ふ物にいれて、すりて米にはなする。或はらすにいれて、つきてこめにもなすなり。扶桑略記第五日、天武 は、ことのほかおほく出きたりければ、いねおほくかりをきて云る。袖中抄日、いねをこぎて、するすとい 字治拾遺目、二月ばかりのことなりければ、そのえたりける田を、なからは人につくらせ、いまなからはわ がれうにつくらせたりけるが、人のかたのもよけれ共、それはよのつねにて、をのれがぶんとてつくりたる

細也 育一下中午、 下皇朱雀七年、 内構國、 貢□ □ 山、神 長少 **亚中有三八千粒** 一名 一己女 嚢抄日、ヨテは宿也。つれ/一日、よねのたぐひをくはざりければ。扶桑略記一名 一己女 字鏡日、穀。己女乃支奴。新猿樂記日、鎭西米。倭名鈔日、米。和名與祢。 壒 聚鈔 漢名米禮周 今名コメンに日米。米之言 品字箋日、米。穀

降也 廿三、裡書曰、延喜十二年十二月十九日、仰。檢非遠使、令、勘言申去十五日失火舍宅、人々各即給。米 粒。職人濫賦合日、こめうり、戀せじと神のみまへにぬかづきてさんくのこめのうちはちふ哉

六年三月十一日、云云凡御率加、八木一萬石。同卷第十七日、八木墨也。同卷第十九日、八木十二晏。同卷 吾妻鎬卷第十三日、建久四年十一月廿七日、永綿寺藥師堂供養也。加布施、八木百石。同卷第十五日、建久

第四十七日、八木十晏。康富記曰、應永十九年正月元 日、今日恒例八木一萬內侍所送進刀自万遣之上分也 多內與滿本草和名曰、米。和名多々与

能米百石。 日、丈六堂供養也。 日、虚空藏講 六日云 如例云 A.題名僧九口、能米州石、護摩阿闍梨二口、能米廿石。 濫僧供養、能米五石、蓮華谷二石、 導師供養、能米十石。仁安元年九月五日、今日政所季預修理進忠行有引物事、薪二百束、 云能米二石四斗。仁平三年十月六日、布施供養、能米五石。兵範記曰、嘉應元年二月三 御雜事。能米州石、白米二石、 人車記日、仁平二年四月十三

〇現米 吾妻鏡卷第六日、現米千石、駿河上総兩國分〇帝王編年記日、 後深草院宝治元年十一月廿四日、被宣下西國米穀渡唐停止事

清水坂乞者三石。

七日御法事也。供養能米十石。十五日、又有濫僧供事、能米十石。

明天皇和銅六年三 續日本紀第六日、元

庭訓往來日、能米

呂、献。東大寺米一千斛、雜菜一千7。 同卷第廿五日、 ·是、文武官及諮家司給:米、人別月六斗。 第十七日、天平十九年九月乙亥、越中國人无位礪波臣志留志。洪三千碩玄云。 **庸米八百六十餘斛。山川峻遠。,運輸大"難"人馬並"疲"、指費極多。望請、輸、米之重、換言綿鍛之輕。** 聞。同卷第十日、聖武天皇神鶴五年夏四月辛巳、太政官奏曰、美作國言、郡內大庭鳳嶋。 月壬午。語曰、宜、國郡司等、募。豪富家、置、米路側、、任。其竇買。一年之內、賣、米一百斛以上,者、以、名奏 上天皇供御米鹽之類、宜。充。唐和上監價 。同卷第十六日、称德天皇天平神護元年二月辛卯、是月、京師/米貴/。 今』西海道/國門/窓"漕記献』東大寺米一千斛、雛菜一千雪。同卷第廿五日、慶帝天平勝寶八年十二月庚寅、是年兵旱雪。 禪師、法榮一人一、永令是供養者焉。十月癸卯、 同卷第十九日、孝謙天皇天平滕寶八年辛卯、太政官処分至5°° 太 天平勝寶元年春正月己己於 大納言藤原朝臣仲師 部 一年之內、所、輸 仍米石千 同卷

穀部 稻麥類

令m西海道,國門來通過和米門。夏

ルル響ペニニショ作

二百斛、叙元位

及三白丁二體以米二百石。叙。位 四月丁北 京 **穀各一千石뾅** 一階。每2加三一百石7進二一階一般。又令2諸司六位已下雜任已 一於東西市一、以這也米價踴貴」也。六月癸酉、勑、天下諸國 郡司、 六位 一丁丁丁下

康中、天皇及皇太夫人、以·米夫。百斛云云·施·僧尼德婆集修遊夷及隱居飢窮之輩二萬九千六百七十四人。 秋七月、帝間。年滿二八十、恩賞殊 米、脈系給京師 部政外正八位下刑部周足献 十月二日戊申、分置便者、陽一京師登窮者錢米了、以一今日皇太后宮齋講畢一故也。同卷第六日 被 下刑部周足献』當國國分等米一千斛。之。文德實錄卷第四日、仁壽二年閏八月己卯、以二一階。每1加二一百五十石,進二一階1級45。同卷第十八日、神謙景雲元年五月戊辰、尾張國 三風灾清。 同卷第十日、天安二年八月、內供奉十禪師傅灯大法師位光定卒云 温泉也の 施云 云米八十石。三代實錄第四日、清和天皇貞觀 文德實錄卷第四日、仁壽二年閏八月已卯、以』廩院 二年五月十一日 貞剛 HO. 111 天安二 年五月 聞

7 京三七人、京、買、害如沙雲。是時裝價辦羅之內外飢饉、米一斛、直新錢一千四百。由是、官聽以 1 回卷第 丁亥、備前國言、進二官米八十斛、散二於一船、差一綱丁」進上。而遭一海賊一悉被一侵奪、死、殺百姓 卷第十三曰、貞觀八年九月十七日已未、先是、太政官,厨家、墓。越雨國地子、借引自官米四百七十 于四日、真體九年夏四月廿二日辛卯、東西始置三常平所。 出居官米一而羅之。 米一升直新錢八文。 十一人

E、清明智能 and o 十二年加 同卷第二十三日、貞欄十五年五月十五日戊子、制、伊勢太神宮司元一員、 京師及灣 二一員、一个完。紹含五十疋、米各百斛。同卷第三十曰、陽成天皇元慶元年春正月十七月已玄、去 內灣顯能等、河內和泉傷之尤其一來贈會東西京中一置三常平司了、出三賣官米。 以。米一百五十斛數一千斛、眨點東西 京僧尼男女不上能山自存了。『者。 年料 給絹百疋、米三百斛。貞 三月十八日己 同卷第三十二

シノ共の共

江國米百五十六斛、丹波國

千斛穀三千斛,助等國用如。 日、元慶元年十二月二日戊辰、授・近江 同卷第三十四日、元慶二年八月四日丁卯、出羽國飛驟奏言、勅母日 國蒲生,郡大領外正六位上佐々貴山,公元野外從王位下、以 五五〇又 献一米二

事畢。以,来一百五十解穀一千斛、賑和給東西、京僧尼男女不之能,自存、者。五月十日己酉、勅令之大和國 今上,越中越後 \*\*百斛於清和院\$春\$充。太上天皇頭陀山中之費。同四十六日、光孝天皇元慶八年六月廿三日壬子、勅以s近 兩國一、各選。来一千斛」以一充。軍糧。 回卷第三十五日、元慶三年三月廿八日戊午、清和院齋講 [米三百十十斛五五、光上嘉祥寺造]五重塔、料。同卷第四十七日、仁和元年六月十

江、國〉米百斛、『施」拾經曆寺。同卷第五十日、仁和三年五月廿二日乙未、先、是一大炊餐助已下、爲了簽字多 日癸酉、夜、偸兒入。民部廩院倉二盜。取米一斛五斗。。同卷第四十九日、仁和二年五月十一日已亥、勅以。近

月四日、皇太后宮行啓平野社 米,貞成一两,告、與、田納懿司、積、年。犯、用官米、物、七百餘斛、仍停、虧務、云云、鈴畧 月丁巳、檢非違使等請"慶院米五百斛。於"朱雀大路,施行隱居高年蝕病等、是爲 上分米三石、口入料米五石。叡岳要祀日、弥陀兩三昧堂僧料米一石五斗事云云。日本祀略曰、延喜十六年三 、雞事脈給料米十石。神鳳鈔曰、近江國、內宮方上分米三石。淺非御廚、供祭物 法皇,御賀也 兵範記日、嘉鵬元年二 野府記

める米を、日のうちにいくらばかりか食 日、長元四年七月十日乙卯、今日慈心寺。成敬聖米三石送、之、以。爲持「爲」使。撰集抄日、さ様に多の 施米事。東西北 同卷第四十二日、建長四年三月十九日、三品親王關東御下向也。御儲事。 三箇山、每山使十人之中、各有一二三四五、合五手、東手愛宕寺 し侍らん。吾妻鏡卷第五日 文治元年十月廿日、御堂供養五 御神事。 北手右近馬場、西手右兵衛 米州石。北田抄日、 原積重

穀部 稻麥類

間、上皇以"播霽國別進米三千石(賑"東西兩京登窮(依:天下飢饉)也。世以爲"無遮之大會。同卷第十三日, 法大师云、米卅石。百練抄第六日、保延元年三月十七日、於,,法勝寺;以,,米千石,脹,,飢饉登賤者。四月, 此 幸記日、又僧供米二百石。平家物語日、しづが山田をかへさねば、米こくのるいもなく。頻繁雜要抄日、禄 馬塲、給之臺灣。太上法皇御受戒記曰、令運米五十斛。七佛甕師御修法記曰、瓊供米合廿一石二升。高野鉀

供米卅石、呪驥三礼等各米十五石、凡僧米十石。又米二百石付1。寺家1給之。古今著聞集第十二日、惡徒等が 字美濃整者誤泥嗎。千僧、轉:讀一切經。 口別施,米五斗,云云。同第十四日、仁治二年二月十五日癸酉、南都 寬喜二年六月廿四日、以。錢一貫文,可、被、直。米一石,之由被、下。宣旨。 同三年三月廿五日、於。比密坂下, 常樂會、入道相國被、多、被、進,會料米百石,云 k。 扶桑略記廿八日、仰,瀔州,米百石給之。 同三十日、講師

賊徒等のぞみ有べからず。惡徒等かく云を聞て、熊野の御米と見ればこそ左右なくほとゞめね云ミ 舟すでに近付て、御来まいらせよといひけるを、正上座人を出していけせけるは、是に熊野へ参る御米へ。

タニ、スナゴノヤウニ、タテナラベテ、ソノ上ニ、チヰサキフダョツクリテタテ、、ソノ所ノョネト讀古事談日、宇治殿平等院ツクリテ、庄園ヨセラレケルトキ、所々ノ米ヲスコシヅ、、長ヒツノフ

河内国玉獅ノ庄ノ米、一ニョカリケリ カキテ、モチテマイリテ御魔ゼサセケルニ、 〇志良介米 新撰 精米通名

今名

シラゲタルコメ 名物致曰、六書精蘊云、精粹字皆从米、精者何也。米之脫粟也。色微黃赤人皆知 其粗也。糠去而白殼英木也聲矣未也。春而近心矣色微著青、此生意所函也。粹

一合精米。釋月本紀日、精兵トキッハモノ。シラケッハモノ。正字通日、米之美者日、精築」。又日、桑。倉 古文作晶象三米之形尤見意義。六研齋筆記曰、精字氣字皆從米、是精氣資於米也〇北山抄曰、精代度米者充 糯繫皆言米也。穀一石得米六斗爲精、一石五斗爲製、得四斗爲聲、得三斗爲精。精之学从米爲義、从靑爲聲。 者何也。 始而襲米殼也、中而吞米夫膜也。率而尋米去翳也。仍後聲於主粹。丹鉛總錄日、儒書以精鑿縣學

坐使、擇、米、使,正白,爲,白粲,供,祭祀之用,暗切、粲去瞻、又春也。 張蒼定律有、罪者婦人

一名 春米 「京者」正月起蓮。 八月三十日以前納
一名 香米 日本靈異記曰、春米。田令曰、其春米蓮

送云云。萬葉集卷第十四日、伊禰都氣波云云。於志氐伊奈等、伊禰波都可禰杼。 奈美乃保能云云。字鏡曰、畢。續日本紀第十九日 天平勝寶八歲多十月丁亥、太政官処分、山陽南海、蔣國春米、自今以後、取三海路、西 米也。志良久。稗。傍掛反、与祢志良久 **粳**稷。志良介米。朗。徒郎反、春也。治 白米 二。延喜式 志良介與禰 与称。按照はヒエ也 新撰字鏡日、稗。志良介

うちまき 紫式部日記日、いたいきには、うちまきを雪のやうにふりか」り。 ちまきはそらにしられぬあられとみえたり。又日、御はかし御うちまきなどし給し云る。 築花物語布引の

\令\進言上京都,也。六月一日、今年國力凋弊、人民殆泥。東作業(二品、令),憐愍,給之餘、仰;三浦介、中村庄 あられのふるやうに 宇治拾遺日、うちまきを 司等、相換國中寫、宗百姓等給。慶牙。人別一斗云云。同卷第十三日、慶牙一袋也。宗清法印立顯文日、右隱 ○ 慶子 寶第也。仍可、被上行"御賀」之旨、爲、被上申三行之」云云。驟牙等、所和漢通名也○吾妻鏡卷第六日、文治二年正月廿一日、法皇今年六十御

穀部 稻麥類

きしらげたる米が、くじかといふけたものゝきばに似たる故と。按ニ、隱ハノロト云者也。クジカハ一歳ノ 眼襞牙膏紘誠布之類〇難記曰、膿牙といふは白米の異名へ。鏖牙と書て、くしかのきばとよむへ。白くつ

居易詩 磷米縣牙稻 鹿也〇小知錄日、自 志良與, 爾安鎮日、裸。胡買及、幾實也。 白きよね よね三斗いつます

古今著聞集卷第六日、則白き米を、かはらけに入たるを、うちあはびとをおしきに入て、とり寄すい むれば、米をうちく、みて、ことにはをとよげにからくくとくいけり。打あはびをとりあはせて、只

蒸くぼ物語ニ出ルハ白粳米也○續日本後紀卷第十六日、承和十三年十二月丙申、勑、延曆寺定心院ノ、三宝 山村 こにやすく、とくひてけり。落くぼ物語曰、かのしろき米多くに代て。按『落躍集二出ルへ精米ニシテ、

盗改。故易此以關防之耳。文章中非於宜用也 **崑山宗已有之。葢錢殼之數用本字。則姦人得以** 永。令之一群其料一。 勢王帝釈供巡糾、、每月白米壹斗伍舛伍合。僧十人、每日白米陸斗肆姓。燈分油每日試合、宝》仰n近江國。 接塔園每所寄日、壹貳參肆伍陸柒捌玖拾阡陌等字相傳始、明初刑部尚書開濟然宋邊寶 集註 三代實錄卷第三十七日、元慶四年三月十九日壬 申、以作伊勢尾張兩國、可、淮三清和院 一封租白米

百石,同卷第四十九日、仁和二年六月七日乙卯、勑、唐僧莊謇供新、日白米三升二合云云。 每年五月十二日、以 "近江、正视"充之。秋七月五日壬午、勑云云僧五口、供料。每日白米各四升六合、割。近江 節料 )白米一例

白来一斗。難色人意料、白米一斛三升二合。同卷第三日、凡諸确巫者、妄云其食人別日白米一升五合。同卷 國、正稅一萬五千東、出學、、用工其息利,云云。延喜式卷第一曰、鳴 雷神祭云云自米五斗。釀一神酒上解 原料。

日、內藏疑。使等,向終日解除料、自米三升。中宮御服料、白米一斗四升八合。同卷第二十三日、民部下。凡延 第六日、澹院司。人給料、自米五十斛七斗八升六合。頓給料、自米十斛。元日節料、自米二十斛。同卷第十五

曆寺云云修法料、白米一十斛。同寺定心院正月一七箇日修法料、白米九斗二升。同卷第二十八日、兵部省。 葉餅野火雷轉一座、白米三斗。羅神四座、白米二斗。公。 古今著聞集卷第二日、新大峯に入られける目瀬持 云 n 月別自米一石。同卷第三十二日,大膳上。御膳神八座、白米五斗。 黌院高部神一座。云 n 白米三斗。 の粮米七姓へ。其内四升は日來うせにけり、のこる所三姓へ。吾妻鏡卷第四十二日、白米二石宣旨斗定。

專所難物白米 事所難物自米 ○美之呂乃以禰 錄 [漢名] 白粳米 遵生類聚雜要抄日行 ○美之呂乃以禰 倭名 [漢名] 白粳米 遵生 今名 シロゴメ

〇くろよね。義經 漢名 糲 典 字 今名 クロゴメ 字典日、精。廣韻機 一名

くろこめ 職人灩歌合日、こめうりつ山かげや木のしたやみのくろごめの月いで Aこそしらげそめけれ。義經記曰、自米三石三斗、くろよね三石三斗 黒米 嘉鵬元年 期ノ署置至上 こまます。 日光にキスのしまさるのくろことのプロで 黒米 嘉鵬正年 兵節記日、

日別伍合。佛供料黑米賣解伍斗、日別二斗壹舛。僧供料白米伍斛、日別賣斛壹斗、口別賣斗比良之良 六月廿三日、左辨官下三大和國三應。早。運三充室生體穴社御讀經佛僧供料一事、燈油武姓五合、

介乃與繭 倭名鈔曰、糯米。上音刺、 和名比良之良介乃與、称 集註

李註 官處分、定立左右京白米一升直錢四十文。前、廿六文、元十六文、三代實錄卷第十二四、貞觀八年二月十六日壬戌、太政、本政、一十十六日壬戌、太政、一十十六日壬戌、太政、一十十六日壬戌、太政、一十十六日

被下

毛美與禰

、元慶二年五

月十五

H

所,成、

勑

合言美濃國三每年春

没 延 延 曆

寺四王堂、佛

僧供

料

息利

稻

米十

黑米四 今加 參議左大辨廣原·朝臣家宗、勞工問淳 = - | -門百文。 DLI 文。 黑米三十女、前十八文。 由是增品定京邑沾 但 和院 今加二十二文。 同卷第二十五日、貞觀 火灾二、狼 是歲穀 泰二造三云 十六年夏四月廿二日庚戌、 價騰踊べい 云白米五 東 --西 斛 津 、黑米五 -1-米 一解之云 ) 衛 解嚴 -1 云 [ii] 百文。 卷 有助

• 消以維統 米 人別日黑米二升。 -1-例。 福 liil 顶二具等料。 四河 一卷第四 職、凡每月十一日、請言來 hil 十日 卷第六日、鷹院司。 元慶五年 延喜式卷第一日、釀神酒丼駈使等食 秋七 月廿二日戊辰 人給料黑米五十斛七斗八升六合。 月料 米 百 例。 物 了、白米 H Fi 十石 料 、黑米四石。 百斛、 黑五十石。 、黑米 五。 +0 同卷第三日 Ğ 同卷 解廷 頓給 第 個覺寺、以 于五 、凡宮主云 、黑米二 大藏省黑 -1-充 云其食 光浩: 佛 同

!: 斜 米二升。 合二公五撮受 3. 同卷第三十二日、大膳上。 11: 丁料。 於省了 fiil "。同卷第二十八日、隼人司。凡今來隼人云 nu 是卷第二十三日、民部下。凡內消殿料、黑米百五 駈 使雇夫單五 十人食料 、黑米人別日二升。 云其粮 一十例 (海)月 ,非一大歌所料、 一給、男日黑米三升、 同卷第三十三日 -川 八 斛七斗二升二 、大膳下。 女日黑

器二人其 、粮料黑米日 二升。 百練抄日、 後堀河院 寬喜二年六 八月廿四 日、 以 質文,可、被、直,米一石,之由

一, 一, 光之未精者, 又凡物之不, 光潔, 者、皆 、穀未。出一般。日、職、 倭名類 聚鈔 独 漢名 一金未。治 日於號 典字 今名 名 モ 111 正字通日 三代實錄 ,精者皆日 卷第 だの 十七 非

糙穀 元年二 月 五 云令 ~二和泉國 和

E I

た。

叉日

穀雜。品字

巡日

倉エノ五斗籾量よ之ま ik。宮中御倉納御籾俵五斗俵也。又曰、御籾俵以三斗五舛爲一俵。神鳳抄曰、相摸図用五斛五斗幷口籾一石一斗量よ之。「俵ニテ奉よ量よ之」又残二俵ノ内ヲ是、家用、料殘之残一俵余ニテ御器御

石五斗、口籾二石二斗也。而彼口籾二石二斗也云云。御籾、俵二十四俵ニテ量之。但此內廿二俵ニテ正供

宛也。其外口籾、斛別四斗也。然者五段半之分、正供用五

<u> 斗一奸八合三夕宛也。十步=ハ、籾三奸六合四夕宛也。本御田宮中、注進之分一町也:而此內五段半、宮中</u> 宛也。十步二八、籾三舛九合二夕宛也。本加御田分損亡之蔵、籾餅等可"勘納,之次第。六十步二八、御籾貳 **舛定一石三斗一舛宛約」之。新加御田、損亡歳、御籾餅等可 "勘納」之次第。六十歩ニハ、御籾貳斗三舛五合** 

供用御籾大餅等沙汰上之、御籾、正供用段別一石

略也。物不、精也。集 称、一云加知之祢。今接本朝武等所謂爲、糙者,春、稻。成、穀。之名也。字典曰、糙。粗米米、春。粗。玉篇。 田稻季。領十五束、糙。穀一斛。以。國司申請。也。倭名鈔日、糙。唐韻云、糙、来穀雜也。 加知之禰 見上 漢語抄云、毛美與

黑ク籾交ナリケルヲ 惟盛上テ妻記卷第卅三日、毛立シタル飯ノ

発於飢困

一故

新加御田壹段二八御籾納定一石四斗一好。半田二八、納姓定七斗五合。

本加御田壹段ニハ、御籾納

集註 讀日本紀卷第二十六日、天平神護元年二月庚寅、左右京极各

三年三月丁巳、以『穀倉院籾塩、給』京師思』皰瘡。者。 同卷第七日、齊衡二年春正月戊申、陸奧國飛、驛奏三五 "陽」賑給新籾一万斛。安東郡專當沙汰文日、安東郡權專當方御田供用、御籾云云等収納云 云

>年不、腐、自、今以後、稅及雜稻、、心爲、穀而収、。」之○源平盛 ○續日本紀第八日、養老三年六月癸酉、制、穀之爲シヒワ物、郷

韻通作、麤、俗作、糕

上分籾四十石 大庭御厨。 内宫 形狀 もして、のぎをうしなはんとてうつをば、もみかつといふ 袖中抄目、稻をこぎて、そのもみを庭にをきて、おほきなるつ (すりぬ

か神神 漢名 剪糠 漫山 六書 今名 スリヌカ詹州坑。以動機一鋪。底 農圃六書日、種、芋法、先於、南 一名

わりふね。伊勢守貞陸記日、す りぬか、わりふね 万久毛 字鏡曰、輪。容外反、米皮也。糠也。 演久毛〇正字通曰、 給。說文學也。六書故、释與詹穀敬也。已 春、爲、麋。又

概字注云、新雅、八次也。 と云物や入て、想をくみ 米皮去了其内了以空之也 〇沿賀 倭名類 集註 長曾攻部元親百箇條曰、摺籾計债者、五斗入可仕事。袖中抄曰、ほ けとは、るなかにいねのとりはじめに、あたらしきわらに、すりぬか 漢名 糠 漫画 六書 今名 ヌカ 農画六書曰、糠

味甘 之。米皮、 一名 女加 日本蝦夷龍曰、皺 奴加。倭名鈔曰、 爾雅注云、糠。米皮也。和名沼賀 奴可 新撰字鏡目、稅。 加衡反、奴可 こぬか

あはせ、具して云る

孟にてはりふさぎ、こぬかをつかるべし云、 一世勢守貞陸臧入記は、手かけ云、但下上をか 一旦女乃支奴 新撰字鏡曰、瀔。五客反、羅也。己女乃支 11 集註 古今著開策卷第十一日、糟糠のみ入て軽く中故に。源平盛菱記卷第卅三日、腹藁二至マデ 飾、褶マデ透積テ侍ツル間。吾妻館卷第四十二日、建長四年三月十九日、三品親王朝東御

荷上タ 7 日所、被:施行,也。炭薪膏羹糠事云云。太平記第二十九日、今直常敵ノ落ヌトイへバトテ、人二兵狼ョモツ 糠一馱、俵一文代五十文。同卷第四十四曰、建長六年十月十七日、雜物等依、有。高直之聞,被、定,其法。今 下向也。獅群事。秣二百卅東 ハセズ、馬ニ糠ヲモ りつ 同三十一 カハ セズ、楚忽ニ都へ入替ル事、其要何事ゾヤ云云。又曰、馬ノ粧藁ニ至ルマデ如山 藁 八百束、糠十行。 同卷第四十三日、建長五年十月十一日、被之定。利賣直法。

▶生、而俱以死。、先生。者、美米、後生者爲、秕。是、故其称。也、長三其、兄二而去。其弟。註:謂、存三其、長 、成、粒。又曰、秕。說文不、成、粟也。善仲點之誥、若、尚之有、莠、若、粟之有、秕。又曰、呂覽不之思不、俱"也 口、馬ニ糠カハセテ 〇志比奈世 聚鈔 漢名 通 今名 シイネ 正字通日、

·去. 則長大者因,之而多。秕也 大学去一共弱小者。若 弱小、若不 集註 

○あをいね 蜻蛉 日記 集註

蜻蛉目記曰、ひんがしのかどのまへなるたども、かりてゆひわたしてかけたり。たまさかにも 見えとふ人には、あをいねからせて、むまにかひ、やいこめさせなどするわざにおりたちてあり 〇 布留

岐與禰 木草 漢名 陳 原米 器類 子曰、人了而無、人道。謂之陳人一。註、陳、朽檳 證類本草曰、陳原米。陶隱居云、此今久入、倉陳赤渚。莊 無用行

也 一名! 比佐之支與禰 注日、入倉陳赤者也。和名布留殿与藤〇下栗ノ注ニモ壒囊抄ニカサ 本草麵編日、陳廩米。和比佐之支与年。本草和名目、 陳廩米。

蒙部 稍麥類

**藁可万。** タル米ヲ出ス可合考 クチテ紅梅色ニ 正字通薰字註曰、說文、茣稾兩見、从、禾爲二 ナリ 和"良等 漢名 說 今名 名 可万 字鏡 日、

集註 御服。 延喜式卷第十四日、縫殿聚。六月神今食 云云稟六開华。

之。 吾妻鏡卷第四 之。 吾妻鏡卷第四 結構率排別當、法親王、積藁於寺中、有制止鰔、欲放火云 東、代五十文。明月記日、寬喜元年十月三日、天王寺惡徒等 造二五月五日昌浦城,所云 ji 稟十團。御服料、云 吾妻鏡卷第四十一日、藁八百束。同卷第四十三日、建長五年十月十一日、被之記司寶直法、藁一點。八 雜染、稟三百團。同卷第十六日、隂陽寮、凡新年鎭。岩氣, K K 所, 須、囊鷹十枚、縄十斤。 云色綾六正、東三千八百十八圍四 〇乃木 倭名類 斤八兩。 漢名 中宮御服料、東六 穀額 本草

青指布衫三百十二領。云 ni 藁六團。 不得、从\木爲·木枯·○字鏡曰、薪莲同。

練沁用度、絁十疋、稟五園。

絲州約、稾四閩。

同卷第十五日、內藏錄。

新當祭小鷹諸司

和良、藁同

倭名鈔曰、切韻云、芒。禾穗芒也。 名乃木。 本草綱目日、穀頴穀芒也 和 (保\* 倭名類 聚鈔

漢名 穗 韻云、穗。禾 倭名鈔曰、唐 聚鈔

和"勢" 口、悪。 倭名類 果纱 說文、禾成秀也

**穀末也。和名保。字典** 

漢名 早稻

今名 7 せ

雅日、六月 名 速稻 水田。緣乎、守部乃五十戶之、門田早稻、苅。時過去,萬葉集卷第十日、城縣等。行相乃。齊都子、苅。時二、成 不來跡爲等霜。同卷 來了 芽子花唉。 寄

背。大伴宿禰家持報贈歌一首。吾妹兒之、業跡造、有、秋、田、早悪乃務、雖見不飽可聞。尼作。頭句,拜大第八日、坂上大娘秋、稻穣曆。大伴宿禰家持,歌一首。吾之蒔有、早田之穗立、造有、蘅曾見乍、師答波世、吾

伴宿禰家持所, 北京家持所, 北京家持所, 北京市 駿河國 風土記曰、鳥渡郡 「續」末,句一等多和不歌 石上、振乃早田乃、穗顏波不出、心中爾、縫流比目。三代實錄卷第十八日 所鑄作之早 產早出。 一首。 5 れく日、わさ 佐保河之、水乎寒上而、殖之田乎、作苅流早飯者、 濁

穗二十文。

奈之伎乎、刀爾多氏米也母 立 田かりほすなど、とり あつめたることは、秋 袖中抄日、わ 0) みぞおほかる 和世 仙覺萬葉集註釋卷第十二 豆思加和世子、帶倍須登毛、曾能可萬葉集卷第十四日、類保杯里能、可 ゆきあ

なり わせ せと云は、とくいできたるいねをいふえ やわせ 堀河院百首日、和ぎも子が門田にうふるはやわせの苗代水を 采葉抄日、下総國葛餝郡室 ゆきあひのわせ 1-一六里二 ハ、早ワセトテ ひの 、イト早ク わせとは、 イデクル稻へ。 いか 稻の名なり。 でひかま

グヒ ヲカ , 7 シル 1 リテ ト申也い藁塩草目、わせは早田稲之。今義解日 一 曾ニスルレハ、門戶ヲトデテ シシ ダシ キ跡キヲ云ズ、只家中ニテコ・ 、早晚者、九月爲、早、十一月爲、晚也 ۸۱. カ 1) ササ 3 " 1

集 池田、産、早稻。 駿河國風土記曰、鳥渡郡西島、岡野井陵。國造岡野井眞人葬 『於茲。 早稻熟時、以 「穗並」 祓 伊穗原郡、貢、早穀。 倭名鈔曰、稻。今按"稻熟有"早晚、取,其名了。 和名早稻、和勢、

随稱、於久天。或 又處水一有い之

カ脱てすへ

入れ

なかて

漢名 中稻

早稻 尚南通志曰、稻凡》數十種、類、之爲。三則、日 日中稍、日晚稻、其宜、酒者謂之、糯

ニごっのけいしけ ハニテコ

一名 中田のいね なかてと云也も出たり 藻塩草日、中田のいねをば

駿河國風土記日、安介郡産早中田。曾根好忠家集日、わが さるる中でのいねるのきは落。村々は先出にけらしも

漢名 晚稻

於久天候名類

派鈔

今名

オクテ

**通雅日、詩十月** 也。おくて、同上。又おくてのを田とも。福中抄日、晩田の稲をば、おくてと云 きのさいもくむへきにをしれもるとてとるもくらしつ。藻塩草田、をしわ、おそき 護爾、今晚嗣也 一名 おしね 郷河院百首日、秋かりしむろのおしねに思ひ出て春ぞたなひに種 おろしける。言塵集日、をしねとは邏縮と。又日、小山田のたの 集証 續日本紀卷

家集日、あやげなるおくてのいねや守るまに萩のごかりは過やしぬらん

**孝謙天息天平特字元年八月田午、韶曰、又今年** 

順利和一逢一元十二 曾根好也

## 宇留之滿本草 漢名 粳草本 今名

ウルコメ

爾雅號已、字林云、糯點 **税稻不り黏省** 

名 宇流之爾侯名頻聚鈔四、就米。本草云、粳米、和名宇流之即。天

本草類編同之 和名字消之祢。 集註 五千餘里、居三筑紫南海中、切、炎草裳。 粳稻常豊、一羞兩収。 延喜式卷第三十 日本書紀日、白屬十年八月丙戌、溫,多称島,使人等買,多称國圖。其國去之意 文写本和名抄日、就米。不黏米也。本草和名日、粳米。

抖命婦、人川餅料粳米糯米各四合。 新猿樂記曰、所,作植•稑•粳。糯·苅顯勝,他人,春法增,每年 二日、大膳上。宴會雜給。親王以下三位已上并"四位零議"人別餅料粳米糯米各八合。四位五位

からすね言歴

漢名 紫芒稻

汇隂 今名

カラスイネ

名 黑稻 言塵集日、からすねとは黒稻之。按二今亦 カラスイチ、クロイチト云、葉穂紫黑色

朱米原学國

芒稻紫穀白米 兀陰縣志日、紫

漢名 紅稻 一雲南 通志

今名 アカゴメ

約以二紅稻白稻糯稻一概之 雲南通志日、稻凡百餘種 集註 伊勢國風土記日、安濃郡村主鄉產朱米。按正字通 二、大売済儀市無赤米ト云へ、平常ノ米ヲ云ル也

稻麥類

一五九七

一五九八

草本

箋日、糯稻之黏者謂·之。糯· 農園六書日、黏著爲と糯。品字 聚鈔

漢名

一名 毛知米 篇云、鞭。米之黏也。粳米。和名毛知乃與祢

延喜式卷第五日、齎宮。供,新賞,料、云云米糯米各一升、糯稻四束、糯糒一升。同卷 第三十九日、內膳司。九月九日節 釋稻五東。新堂祭供御料、糯米二斗、糯、稻十束

比豆地 天文寫本 和名鈔

稻

渡名

稻孫 小路呼

今名

ヒツジバへ

稻再生日。稻孫。小知錄日、已斷而復抽日稻孫 俗呼小錄日、滑再發謂立之稻係。正字通日、番愚志、 比了,知 倭名鈔曰、唐韻云、穡。自生稻也。後漢書、穭讀。於路賀於 一名 ヒツ、デノ米、頓医抄。藻塩草日、ひ 於路賀於比見

於呂於比天文寫本

れる田に

おふる也

集註

曾根好忠家集日、わがやどの門田のわせ のひつぢばをみるに付てぞ親は戀しき

洪名 天生荍

自然生穀株桑

今名マカズイネ

レ種自『生"暢茂》結、實、農民名。日·天生敬 雲南通志日、雍正九年八月、昭通 東川 夜地、不

集註

自然生、穀也、世爲 記十四 裡書曰、延長 希有。諸人聞之、 取過者莫 五年四月廿二日、北山

日雖 レ不い隣」荷。即云、敷 収不」器式 F

**牟**\* 岐\* 倭名類

> 漢名 **多總名**

> > 今名

ムギ

性也。 物理小識曰、麥入土百四十日秀、秀後六十日成、蓋歷四時兼寒熱之 江陰縣志口、凡麥秋種多長春秀夏實、具一四時中和之氣

名 武藝 久敞胡之爾、武藝波館、東軍等等等

加 武古字馬能、波都波都爾。倭名鈔曰、麥。 ] 月記曰、使家僕掘竹而栽、北庭爲麥壠、雖小分爲支凶年之飢也。 莫嘲貪者有他計哉 和名牟岐。今按、大麥小麥之惣名也。故別學之。

字鏡 新撰

鶴元年十月乙卯、諸國百姓、唯趣 水澤之種、不如 陸田之利。 宜、今 人以麥爲神供之料。 等,帳以然,後移沙送 市足 口、无支 集註 元語省言 酸河國風土記曰、伊穗原郡阿蘇宇伊出麥麵 口、民部上。凡朝集使終。事還、國"者、令二多"勘事合。官舍羅池桑漆種麥陸田鷄舖 日本書紀日、欽明天皇十二年春三月、以、麥種一千斛。陽、百濟王。。延喜式卷第二十二 山城國風土記曰、久世郡藤岡、岡頭神座、天穗日命二座、以仲夏初癸祭之、土 遇河那柏原貢豆麥~ 百姓兼種一麥禾。 扶桑略記第六日、靈 男夫一人二段

穀部 稻麥類 以。此狀:"鴻告。天下、漂、力耕種、草や失。時候。 野府記曰、長元四年七月十日、菩提講聖雲林慈雲送麥塩和布

田、如三月許。此叓定不就之由令然驗、尤不快事也。草木之躰、今年多有非常流例叓、尤可怖叓歟。神鳳抄 等。明月記曰、寬喜二年十一月廿一日、近日諸國所々麥多熟、或食用之由有巷說、不信受之処、今日見共總

日、伊勢國高羽江 形狀 日本靈異記曰、押入麥畠、《二町餘、麥生二尺許。本朝無顯詩日、着阿黒嶋述 志云云待秋麥壠子生遲。在此嶋之民不耕田畝、多殖麥壠、其子熟以仲夏爲秋、

故云。字治拾遺曰、我てゝの作たる麥の花ちりて、實のいらざらんおもふがわびしきといひて。母、立夏 夥。。青苗初。生、風漁、路"破。"翠麥將「秀、群,入、食損。。百姓之愁、莫、甚。於斯。。。望請檢》非。年貢,之 早郡忽那嶋。馬牛、年中例貢。馬四疋牛二頭了、其、道遺。馬三百餘疋了、牛亦准、之。嶋內、水草旣乏、蕃息滋。 雨多花捎、卢婆料浮秕也(三代寶錄卷第二十九日、清和天皇貞觀十八年多十月十三日丙辰、伊豫國言、管風夜雨多便損麥、蕎麥花夜吐(三代寶錄卷第二十九日、清和天皇貞觀十八年多十月十三日丙辰、伊豫國言、管風

小、雨麥、耕種勞少。、而夏月早。熟、、支心急力多。。若。不以刈。青苗,、令以其成熟。、貧賤之民、將以、療以飢, ★學告悉。

清却。

(以言其價直了混言合意)正稅。

認能」之。

續日本後紀卷第八日、承和六年冬十月丙辰、制、大

積得至一今、不以畏。憲法了。宜以令至左右京、五畿內諸國了、不如得二更然了了。其百姓不二改、俊、及上所二、容 屢、下一禁制了不。聽以爲、獨·。而累年奢侈,之俗、収·青苗,以。倘以馬、庶民之愚利;得、"質"以·曹。用·ao

格,隨,水,科,處。 ○ 牟岐加良 聚鈔

漢名 麥楷 帝京景

帝京景

今名ムギワラ名

按、禾稻之素皆曰、狷、專、屬、麥泥。字典曰、絹麥莖也。六書故、麥蘗也 鈔曰、野王按、租麥莖也。和名牟岐加良。正字通曰、租。說文、麥莖也。 ○牟岐乃久呂美 優名類

麥奴 今名 口 ホ 穗將、熟時、上有、黑黴、者名、麥拏、〇倭名鈔日 證類本草曰、陳藏器云、麥苗上 黑徽名 麥奴亡。 、麥奴。 正字通日、麥 和名牟

岐乃久 青季 源平盛 菱記 漢名 麥苗 草 本 今名 ムギノナ 工

天工開物、麥、註曰、當二

春小麥大麥青青之時、

耕一殺山中 延喜式卷第四十一日、彈正臺。 凡禁事節 『刈』大小麥 青苗「爲」馬草 一質が買い井三桑

審木鞍橋。政事要略曰、弘仁十年六月戊中太政官 符禁-斷。賣-買^\*\*\*。麥茲事。

蒸品器土性

官 備、宣。 右去 治失一个月 天平勝寶三年三月十四日格 奉助,麥者繼語了教之之言義之尤。良了。宜了分天下諸國了獨一課了百姓 應、種二大小麥,事。 自一今以後堅固 禁斷、若、有、違犯一人、必科、重罪一。 右撿一太政官去。。天平神護二年九月十五日、格一個《大納言正三位吉備朝臣鎮吉 偁 、大小麥寔 能 助夏乏、愚癡百姓不」題後欠了頓 類聚三代挌日、弘仁十一年秋七月已酉、太政 今被 種大小麥即勒 刈言青藝 徒 三國郡司

恪勤 秋之月乃勸種等麥冊、有人失、時。其有以失言時行言罪無疑。 費。功力,還 宣ラ解っ 清各一人了事的富。其事的 系 "物"今開黎民之愚"既"而不、顧、至此有二絕之了。徒苦 不一得一實一。 是即國郡 其專當一人, 名附 官司小旗 、格旨一授《時那》方。此一,而從以政 前集便一中上了清之、 創館 宜心自心今以後始心自山八月 或、雖 一大納言正三位藤原 誰 一耕植 謂 善更ら 既一失二其時了、空 動 朝臣多嗣 月令云、仲

青麥食 馬。 不是得少失了吗。 源平盛衰記卷第卅四日、其食 自餘 事條 佐三前格 0 若。有べ死犯一科で違動 ミ物ノ料ニ、青田青後ヲ刈ラ 罪が ンニ僻事ナラズ。 日本記略曰、弘仁十年三月壬辰、禁 太平記第十六日、

稻麥類

ヲ打刈セテ、乗鞍ニ負セテゾ闘ケル此高家小山田敵陣ノ近隣ニ行テ、青麥

布止牟岐本草 和名 漢名 大麥草本

今名

於來了、故得了大人名了〇來八小麥也 本草綱目、大麥。註曰、麥之苗粒皆大: 一名 加知加太 倭名鈔曰、大麥、和名布止無岐、一云加知 ムギ

集註 布止牟岐是 賦役令日、大麥一斗五升。延喜式卷第二十三日、民部下。交易雜物。旧城國、大麥二石。大和國、 大麥三石。河內國、大麥三石。攝津國、大麥三石。同卷第三十五日、大炊餐。正月最勝王經寶會 布度無岐天文寫本 不止无支 倭國事略曰、大麥崎 小麥崎 小麥崎 小麥崎 小麥崎 籌海圖編

月修,大元師法,所料大麥三斗二升 云云同會,終日、大麥云云各四斛。同

早麥 駿河國 風土記

> 今名 三月ムギ

江陷縣志日、大麥 有早晚二種 集註

駿河國風土記日、安 弁郡建保流早婆

晚麥 風土記 駿河國

集註 郡池田、產早麥晚麥 駿河國風土記曰、鳥渡

加良須毛岐 本草

漢名 穬麥 草本

カウボウムギ

今名

本草綱月日、穢麥。即大麥一種、皮厚者。又釋名日、穬之殼厚而粗礦也。天工開物日、穬麥、獨,

達三陝西二、一名。青稞。 即大麥隨、土而變而皮成。青黑色,者、秦人專。以飼、馬、饑荒人乃食、之

加良頂车岐 倭名類聚鈔日、穢麥。新抄本草云、微麥,以作魔者也。和名加良頂牟岐。本草和名曰 職婆。馬所食者也。以作蘗。和名加良須毛岐○本草啓蒙日、職婆。大麥ノ一種、粒大=

者ナリ メ色青キ

漢名

草本

今名

コムギ

萬無岐后 末年岐峻。本草和名曰、小麥。和名古牟岐末无

古無木天文写本

穀部 稍麥類

一大〇三

麥。和末无支 本草類編日、小 集註 月三節料、小麥云云各六升。供三新甞一料、小麥云云各二升。 賦役令日、小麥二斗。延喜式卷第五日、齋宮。月料、小麥云云各三斗。正 同卷第六日、

斗一升。同卷第四十日、主水司。供御月料、澡豆料小麥二升五合。小月亦同。同卷第四十三日、主膳監。月 五月五日節、小麥四升。七月七日、云云小麥各六升。 九月九日節、小麥云云各四升。供御月料、小麥一石四 第三十九日、內膳司。新常祭供御料。小麥四升、右解齋料。小麥四升、右豐樂料。正月三節、小麥一斗二升。 麥二十五石。攝津國、小麥州五石一斗。阿波國、小麥七十石。同卷第二十四日、主計上。亭岐嶋。調、小麥 月最勝王經濟會料、云云。同會終日、小麥云云各四斛。同月修己大元師法了所料、小麥一石七斗八升。 料中宮料各十五斛。手束索餅料、小麥十十斛、御料中宮各八石八斗五升云 Ho 養料、小麥六合、甜物幷薄餅菜料各七合。七寺盂蘭盆供養料、小麥一斗四合。年料。索餅料、小麥三十石、御 松尾神祭雜給料、小麥大升。同卷第三十三日、大膳下。聖神寺率料、云云小麥各七合。正月最勝王經獨智供 位拜命婦、人別小麥二合。園韓神祭雖給料、小麥一斗二升。平野夏祭雜給料、小麥二斗六升。冬加,八升。 二十解二斗。同卷第三十二日、大膳上。宴會雞給。親王以下三位已上拜四位參議、人別小麥四合。 日、民部下。交易雜物。山城國、小麥州石。大和國、小麥十一石七升三合。河內國、小麥州五石。和泉國、小 **齋院司。人給料、小麥三斗五升。同卷第十五日、內藏簽。中宮御服料、小麥二斛九斗八升。** 同卷第三十五日、大炊祭。正 同卷第二十三 四位五 同卷

升七合五勺 料、小麥二斗四 ○こむきのから

ル豆麥

一京が上土土土

本二 雲本

漢名

物 平 家

小麥稈本草

今名 コ ムギワ

時ハ、サト光、水時ハ小麥ノ翼ヲ經 合"テ、銀ノ針ノ如クニ見エケル也 一先支古等 漢名 暫 本 今名 ウドン 一名時へ、サト光、み時へ小麥ノ藁ヲ 耀 一先支古字 でかつひだりけるが云と 日、こむぎのからを引むすん 之粗乳者又日秸日郡又日稈。說文禾莖也 正字通日、徐鋒日、稈即秸之和皮者稟則又稈 形狀 源平盛衰記卷第十六日、雨降ケレバ、頭ニハ小麥ノ翼ヲ國、有ノ 手二、小瓶ヲ持テ、左ノ手土器ニ煨ヲ入テ持テ、煨ヲケサジト吹 七 小麥ノ葉 源平盛 菱記 集註 平家物

無一大大人人人。一日粮、同物異名。變、以、炒成、、其香吳、故糗从吳變从炒省也。本草綱目日、麥變無一大人人人人人人,一人人,也不知。如名無較古。新撰字鏡曰、新變同、尺紹反、上无支古〇變、正字通曰、變然,米麥

聚鈔 倭名類 **此日、豬同以婿。集韻、麥屑也** 即糗也。以麥蒸燒成屑()額。字 漢名 麥麩 集註 今名 上上音可真点。又要分上逐列图 ○古無岐乃加須康富記曰、嘉吉二年七月六日、自大 ○古無岐乃加須 住庄當司領云云又麥粉之麥到來 ムギカス 無歧乃加須。正字通麩註日、今俗謂、勢、餘 倭名鈔曰、說文云、麩。小麥皮唇也。和名古

天工開物口、稱、以、聽爲、中、麥以、麩爲、衣 · 丁亦曰:麥桴。本草綱月曰、麸乃麥皮也。

阿波倭名類 聚鈔 漢名 栗草本 今名アハ

穀部 稻数短

粗者爲 樂。想小而毛短、粒細者爲、栗 本草綱日日、栗即梁也。穗大而毛長。粒 安波萬葉集卷第十四日、安思我具能、波姑爾乃夜 麻網、安波麻吉氏、實登波奈禮留乎、阿波奈久

ふ事は、いかでみならぬぞと、ふやしむ心也。 萬葉筆卷第三日、娘子報。佐伯宿繭赤鷹贈歌二一首。 千磐破、 毛安夜思。仙騒萬葉集註釋卷第十四日、「上がらのはこねの山にまきたるあはは、みとなれるを、わがおも

而行益乎、池師留島。仲譽萬葉葉註釋卷第三日、粟のこれをまきをきたば、終にはみにたるべければ云と。神之礼四、無有世伐、春日之野邊、栗種益乎。佐伯宿顧赤鷹更贈歌一首。春日野爾、栗種有世伐、待鹿爾、繼神之礼四、無有世伐、春日之野邊、栗種宗が、

矣,背鴯見乍、乏。小舟。同卷第十六日、寸三二聚帰五五。倭名鈔國郡部日、山城國變宕郡上粟田、阿波多。萬葉集卷第十四日、左奈都良能、乎可爾安設脈传、可奈之伎我五五。同卷第三日、武庫浦乎、牓轄小舟、栗島

但馬國朝來都聚鹿、安波加。安藝國高田郡粟屋、安波也。伊豫國風早郡聚井、安波井。倭名鈔曰 和名阿彼。字鏡日、秸。古八反、稾也。阿彼保。日本書紀日、神武天皇御謠曰、阿彼赴邱波云云

皮 倭名鈴嶼郡部日、播灣國完衆、志佐波○麋添壒囊抄日、栗ノ字。米ト云コトアリ、如何。米栗ト云ヘル事 多シ。アハトモ心エラレヌペキ事モ有り。漢朝鷄ヲツクテ、其ノクチバシニ、勝ノ字ヲカキテ加 サ

収タルモノニハ、米三斛ヲ給スル事有リ。サヤウニヌ、給ル米ヲバ雞粟トナヅケタリ。又漢書曰、大倉之 字ナレドモ、米ナル心アキラカナリ。臣軌云、務、農則田黎、々々、則粟多、。々々則人富、云、リ。是等 果、獨不」可」食云へル、注言は、積に日、久で、米紅赤」、也、カサクチテ紅梅色、ナリタルナリ。是等へ栗ノ セテ、サホノサキニ置テ、六人ヲ定テ勝ノ字ヲ我レサキニ取ント、アラソハシムルニ、ハヤサホ ニノボリテ、

集註 賊役令日、凡一位以下、及百姓雜色、人等、皆取··卢粟、以爲·義倉。 上上戶二石、上中戶"一 石六斗、上下、戶"一石二斗、中上、戶"一石、中中、戶八斗、中下戶六斗、下上、戶四斗、下中、

戶"二斗、下下、戶一斗。若。稻、二斗、大麥一斗五升、小麥二斗、大豆二斗、小豆一斗、各當...栗一斗。皆與..田 自登上御諮山之嶺「繩紅」四方,逐、食。粟。雀。。續日本紀卷第四日、元明天皇和銅元年秋七月丙午、有之韶、京 租,同時収畢。廐牧今日、日給…細馬、栗一升。 日本書紀日、崇神天皇四十八年云 云、弟活目尊以…夢辞,奏言、 師僧尼、及盲姓等年八十以上賜。粟。百年二斛、九十"一斛五斗、八十"一斛。同卷第七日、元正天皇養老元年

卷第五日、鷟宫;月料、云,聚十七束八把、並大炊寮每月春供。正月三節料、栗云,6各三升。供"新甞"料、栗二十一月癸丑、詔曰、百歲已上者、賜,粟二石、九十已上者、栗一斛五斗、八十已上者、栗一石。 已上謂栗 延喜式 斗、栗糒云 16各二升。同卷第六日、齋院司。 元日節料、云 16栗各一斛。同卷第二十二日、民部上。 凡供御及, 中宮東宮季、料稻栗糯等、、並用..省營田所獲3、待空官府到3仰5畿內1分、進。但>栗山城國 37進,之。 同卷第二

穀部 稻麥類

衣備

付三神祇官一、新掌准上此。凡供御稻米粟米吞備、日別

送為勝司一。凡供御料稻栗並

用富田。

同卷第

#### 古名錄 系卷第四 -1- $\dot{\mathcal{H}}$

同卷第三十一日、宮內省。 下 交易 雜物。 阿波國 凡新常祭所以供人 、栗廿石。 同 官田稻及、粟等、、每年十月二日 卷第二十六日、主 税上。凡 雜穀和傳、栗小 神祇庙史一人率下部、省

合、東宮三斗九升八合二勺八撮。 承錄各一人率。史生了共"向"大炊寮一下三定。 官即仰下。 同卷第三十三日、大膳下。 同卷第三十五日 年料、 應 進一稻栗,國郡中。下了省丞以一奏狀 、大炊好。 異精 解二斗八升六合二勺八撮、御拜中宮各四斗四 六月神今食。 稻八東、栗四 進一內侍、內侍奏了。下 東。 用 四官田 稻 升四

北、土民植五 三日、主贿赂。 71 三十九日 合、果精三升七合五勺。 、內膳司。 五月五日 177 類熟 月料 聖神寺十 節、無果精 新背祭供御料、糯栗子等,精各二升、右解齋料。嬰子精二升、右豐鄉料。 、舉于糒三升三合七勺五撮。累于三升丸合九勺。伊勢國風土記日、桑名郡 但果而 稲御粥料、栗云 五各五升。正月十五日供御七種粥料、 liil 卷第 各一升。 已大熟焉。 1-1-七月七日、粟精三升。 白、主水河。 故名之。釋日 路祚大常會館 本紀日、伯耆國 九月九日節 流一種御粥料 風土記三、川足郡、 果精一 聚云 果云 升 云各五升。 云各二斗。驛與科 供御 有一架嶋 料 正月三節、 聚如 同卷第四 果三斗 小 、在市部 月子命 四升 艺 --

1 地 果果 於門鄉 ル第丁二 75 0 物語セラレケル 則 N. 彈 渡 常世國 ハ、常初無下ニワ 故云 聚鳴。 カ 0 IJ 沙石集日、金剛王院,僧 シ時、高 野詣ノ便宜ニ、和 正實管 州ノ山寺巡禮セシニ、葛 平 17 か テ 後、法弘

1 办代 せ給へト ノ邊ノ山 1 里 1 ---行ク 77 U ,: 7 立入ヌの 成山巡 ガ家二立寄テ、宿 サテ架ノ飯ヲ、 折败二 ラカ n 木ノ進ウ = 牢 双 ケタ チシキ 12 法師 テ取出シ 出アヒ A .; 見苦 何二 ゲニ候 テモ器 物二人

テ 云云の山里ノ習ナレバ、栗ナンド云物作リテスギ候へバ云 タベカシトイヒシカバ、尋常ノ人ト見奉レハ、便ナクトイヒキ

形狀

靈亀元年多十月乙卯、詔日、 續日本紀卷第七日、元正天皇

宜以,此、狀浮遍。告三天下一、盡少力耕種、、莫以以失、「時候」。自餘、雜穀、、任以力、即北之。若、有以百姓輸,栗 宜少令产品伯姓一銀品種麥不了。男夫一人。上一一段。凡、果、之爲。生物、支、人。不、敗、於語穀,中一家。是 精好!

聽。之 轉い稻者 ○阿波加良 等鏡

字鏡日、秆稈同。公旱反、禾莖、阿波加良

今名 アハガラ

〇字典日、秆。古旱切、音箭、同、桿。左傳

阿波乃毛知

稟也 註、秆

漢名 秫 草本

今名

モチアハ

爾雅日、衆林。疏、衆一名林謂了黏果 本草綱目日、秫即梁米之粘者、有:赤白黄 也也 一名 モチアハ 延喜式傍訓、本草和名曰、秫米、和名 阿波乃毛知。萬安方日、黄 林 殼

同

集註 延喜式卷第三十九日、內膳司。供御月料、秫米一斗五升。 卷第四十三日、主膳監。月料、米秫各一斗一升二合五勺

和世阿和 字鏡 新撰

穀部

稻麥類

漢名

早栗正字

今名

ワセアハ

一六〇九

和。字典曰、釋與種同、又稀字註、說文疾熟也。先種後熟曰、獐。後種先熟曰、稑 正字通曰、大抵早聚皮薄米寶、晚粟皮厚米少〇字鑄曰、穋。力六反、早熟禾 和世间

阿波乃宇留之爾倭名類 聚鈔

漢名 梁本

今名

オホアハ

綱目曰、自、漢以後始以三大。。而毛長者。爲、梁。細而手短者爲、栗 **賃珠船户、詩話:梁、似、麋而大。雲南通志曰、梁石。飯糯二種。本草** 

一名 阿波乃字流之爾

梁米。和名阿波乃宇留之繭 天文寫本和名鈔〇倭名鈔日、 阿波乃與一爾 本草和名曰、青粱米。陶景注曰、粱米皆是粟類也。和名 阿波乃与祢。按一青梁米八色青キ霜アハ也

云云一種料、精選米五斗云云 斗、小麥三斗。三種糟各五斗。 集社 料、稻米菜米各一升四合。並先瞿先師二座料 同卷第四十日、造酒司。三種糟料、云云梁、米 五延喜式卷第二十日、大學寮。釋奠十一座、云云雀二、稻飯、梁飯。同卷第三十五日、大炊寮。驛寶 形狀 ○本草啓蒙日、梁オホアハ、シ、クハズ、ケアハ、栗ノ中一種、 態大ニメモアル者ナリ。赤毛黒毛ノ品アリ。白染米ハ色白シ、

安御支安和 養トナシ食フ。 黄染米 ハ阪トナシテ佳 ナリ

新 本草 漢名 青粱米 證類

今名

シモアハ

也。本草類編日、青粱米、和安御支安和 本草綱月日、今栗中有二大与而青黑色者」是

### 之呂岐阿波 太草

漢名 白粱米 證類

今名 シロアハ

**麓扁長不」似山栗圓」也。米亦白而大、食」之香美爲山黄粱之亞** 證類本草曰、唐本注云、白梁、穗大多毛且長、諸梁都相似、而白梁穀 一矣

之呂支安和 日、白粱 本草類編

米。和之呂支安和。本草和名 日、白粱米。和名之呂胺阿波 延喜式卷第三十七日、典藥祭 進年料雜藥、山城國、白栗大一斗 計國

# 岐美本草

漢名 草

> 今名 キビ

升。同卷第二十日、大學寮。釋奠十一座、云云二座、先師餌子。 座別簋二、稷飯、黍飯。從祀九座、座別簋二日、成棗、寸三二粟嗣、延田葛乃云云。延喜式卷第十六日 降陽寮。庭火丼平野竃神祭、云云黍稷飯各一斗二日、成棗、寸三二粟嗣、延田葛乃云云。延喜式卷第十六日 降陽寮。庭火丼平野竃神祭、云云黍稷飯各一斗二 可、釀、酒、猶。稻之有為粳、與、糯也。品字箋曰、黍暑也以大暑時種、故名黍 本草綱月日、稷與、黍 類二種也。粘者爲、黍、不、黏者爲、稷。稷可、作、飯、黍

一名 寸三 萬葉集

用二米六合。黍稻粱飯各用二米七合 稷飯、簠一、黍飯云云。簋簠質稷飯云 文美 本草類編曰、黍米。和支美。百練抄卷第四日、後冷泉天皇康 平四年十一月廿五日、備中國吉備津宮燒亡。 同卷第十四日

きびつみず、わうとうない云マ。文徳皆珠第七日、蓍徳二年二月癸亥、備中國言、吉備津彦名助神庫門和鑛、 餐期河陰皇章元年十一月廿七日、夜備後吉比津宮燻亡。御躰已下寫灰燼。曾尹物語第八日、びぜんのくに

古智鎮於第四十五

古個津湾神宮都宜思何云 夜三明o 扶桑略肥十二日、 H

集註

芙濃峽風土記日, 渥美華佐原鄉田黍竹

作后,

凡造御陪犯食祭

齎宮。月料、黍子エ以各三斗。正月三節料、云云黍各三升。供"新草、料、云云黍子糒各二升。同卷第三十二 者、典院徒三年云云若憨肺不得入黍米中云云。延喜云卷第五日、

**国、大騰上。總總祭將、黍子四升。屆卷第三十三日、大騰下。七寺盂蘭盆供養料、黍來各五升。屆卷第三十五** 

聖神寺上種御粥料、黍云云各五升。四卷第四十三日、主膳監。 供御月料,靈子三斗。同卷第四十日、主水司。踐祚大堂會解鸞七種御粥料、黍子云云各二斗。 日、大炊寮。肆億料、蓋米七升七合。 正月最勝王經黨會料云云。 同會終日、云云霏云云各四斛。 ·備供\*\*。七寺盂蘭瓮檜料、黍米三斗五升、別五升。同卷第三十九日、內膳司。七月七日、黍子云云各六升。 月料、黍子二斗九升二合五与 東西寺預 今案

古書ニ張トアル 本草和名二、稷。 ハウルキヒ、腰トアルハモチキど也。今ト相反ス 較美乃毛知。本草類編ニ、黍。支美ト云トキハ、

木美乃毛智優名類 紧纱

漢名

黍 草本

今名

モチキビ

者。亦有一赤口黃黑數種 木草綱川川、黍、乃陽之精 一名 岐美乃毛知 天文寫本和名鈔〇倭名鈔曰、雜。和名木美乃毛

云、機之黏者也ト云ヨリ誤來ル チアハ也。按二面雅疏秫、說文 集註 延喜式卷第三十五日、大炊宴。釋奠料、櫻米六升六合。 **內親王料、日米一斗、稷八合。三代皆錄卷第二十五日、貞觀十** 賀茂齋

六年三月廿三日、詔、何必黍稷百味之供養、原野旅生之藥,可、施。十方之僧。 美濃國風上記曰、其產物者黍稷不麻。渥美郡出黍稷、本條鄉出黍稷

久路岐々美天文寫本 和名鈔

漢名 黑黍雅爾

今名クロキビ

治部省。祥瑞、租林。租者、黑黍也。林者、一浮二米者〇 和、黑黍 所雅日、 一名 久呂木々美 母。秬者黑黍也。本草和名曰、秬。黑黍也。延喜式卷第二十一日、一名 久呂木々美 倭名類聚鈔日、本草云、秬黍。一名黑黍。和名久呂木々美。今菱解

黑黍ハ、キビニ同ノ皮淡黑色、又皮全ク黒色ナル者アリ

阿加岐々美 天文寫本

漢名 赤黍草本

今名一アカキビ

宗、曰、丹黍皮赤、其米黄 太草綱月日、丹黍米、即赤黍也。 一名阿賀木及美族名類聚鈔日 赤黍、一名黃黍、和名阿貫木水美。本草和 丹黍。本草云、丹黍。一名

即赤柔米。和名阿加於水美 名日 丹恋米。一名贾黍米 安加支支達、秦〇丹黍ハキビニ同メ皮赤黄色

稻餐源

# 支奈留支美路心 漢名 今名 キ色ノキビ

黄黍 本

比太優名類 聚鈔 黄榮米。和名支奈留支美○黄榮米へ栗也 漢名

本草綱目曰、廣志有二赤黍白黍黃黍云

云〇醫心

今名

上了一 新撰字鏡目、稗。比江。倭名鈔曰、善音偲。和名比衣。延喜式曰、丹波國桒田郡薭田野神 茸

草曰、稗子有三一種、水桿生。水田、邊二、旱稗、生三田野、中二、今皆處處有之之、苗葉似三卷子、 葉色溶綠腳葉頗。帶,紫色一稍頭出。湯穗。結2子如3黍粒大二,茶褐色、味微苦性微温

集註

十日、主水司。踐祚大学會解齋七種御廟料、華子云云各二斗。聖神寺七種御粥料、華子云云各五 物。尾張國、褲子充石。同卷第三十五日、大炊寮。正月最勝王經濟會料、同會終日、薭云云各四斛。同卷第四 **卷第六日、元明天皇和銅六年春正月戊辰、左京城献、稗化爲、禾一莖。 延喜式卷第二十三日、民部下。** 

升。伊勢國風土記曰、員聯郡塞城鄉、賈黍稷栗稗等。武藏國風土記曰、在原郡赤坂庄、賈麥춁等 本草啓蒙日、稀子。水陸二種アリ。 ノ生ゼザル處二栽ユ。皆形聚黍類二似タリ。憩ハ、アハ タビエハ下濕ノ地、稻二宜シカラザル處二栽ユ。 ノ如クニメ小ク、枝多シ。 畑ビエハ陸地他ノ作 一寸許ノ長サノ紫色

製部 稻麥類



### 波久佐" 新撰 字鏡 漢名 今名 クサビヱ

爲我、夜一人宿。 漢塩草曰、 蕣。ほに田ぬ夏さへまじるひえ草の引すてみれば世をやすぎなん。 按二萬葉というです。 上願種詩、比要乎多、擇權之業曾、吾,獨「宿。 同卷第十一日、打っ田」と、稗 數多、雖 有、擇二日、水乎多、上願種詩、比要乎多、「擇權之業曾、吾,獨「宿。 同卷第十一日、打っ田」と、稗 數多、雖 有、擇 レ毛、質似、實害一樣。此等ノ說二據リ、後人 夢 ヲ質ノ稗トス、非也。 養へ養ノ字ニメ、クグ也 集、漫塩草ニ載ル比要へ、ハグサヲ云。即イヌビエ也。正字通曰、六書故、稗薬純、似、稻、節問 は草 千首和歌曰、取のこすは草は見えずゆく水の早苗こす波露の凉しき。夢ハイヌピエニノ 不」詩ノ森稻苗ニ混シ生ス。字鏡曰、荌。波久佐。字典曰、荌。說文草也〇萬葉集卷第十

新撰 漢名

雅

爾雅日 生、慶田中で按二如、雕胡米、ト云ハ、ミノコメ此也 皇守田。註、似三燕麥 子如 鵬胡米が、可食。

一名 彌乃 新撰字鏡日、莠。 紫ハイマビエ也。 延喜式二所

田乃弥乃。按

證。又字鏡曰、蓋田在:美乃。 戦皇子ハ、イヌビエニノ、エツタゴメニ非ズ。即字鏡、夢田乃美乃ト云可 扶桑略記日、廿九日風靜波平過二田簑嶋

集註 延喜式卷第五日、 月料 、云云重于

國、萬子九斗。同卷第四十日、主水司。踐祚大掌會解齋七種御粥料 供新管 料、菓子糯云云各二升 同卷第二十三日、民部下。交易雜物。 算子K 以各二斗。聖神寺、種御粥料 河內國、 **篁**丁五斗。攝津

穀部 稻麥領

古名錄卷第四十五

五升。同卷第四十三日、主膳監。月料。菓子五升六合四日 菓子云云各五升。 正月十五日,供御七種粥料、菓子云云各

漢名 蜀黍 草本

今名タウキビ

紅黑色米性堅實。黃赤色。品字箋曰、穫。灌雜。北地所謂高粱也。梁。穀名。此種高丈餘。一人一論。藏 本草綱目曰、蜀黍。春月布、種、秋月收、之。蒸高丈許、狀似:蘆荻、而內實葉亦似、蘆。穗大如、帚、粒大如、椒、 室町殿日記日、

故謂之滯秫云。又云、江南呼爲蘆粟。亦名蘆稷。此字見五音集韻 其中而不能見。故名高梁。而獨其本名也。此種乃裔中之秫也。 一名たうきひ

唐黍陶砂和」之可」付也頓醫抄日、觸病若腫者、醋 或時玄以法印

京極通りの在家人等を召れての玉ひけるは、勿論かみしもや並取續て は見ゆれども、ひらやまたは葛屋、たらきび柱におほくは土棚なり

今名

蕎麥草本

曾波牟岐 本草 漢名

本草綱月日、蕎麥。結一呼樂水如二 **羊締、實有三三稜、老則鳥黒色** 一名 曾)波 核、八稜爲和、見通俗文徐鍇。按字書三稜爲柳

まむき。古今著 **陶集** 久呂無木 倭名類聚鈔日。蕎麥。和名 曾渡牟岐、一云久呂無木 角麦 玉云 又孫角菱ラ食合スレバ還リ

成ル テ青 1 あをい そばあをい 伊勢守貞陸記日、 集註 朕以。膚虚了、紹言承鴻業了、 勉 己 自勉、未ゝ達。天心。 是 續日本紀卷第九日、元正天皇養老六年秋十月戊子、詔曰、

なり、といふを聞て、よみ侍けるこひたはへてとりだにすへぬそまむぎに うどの物をくはせたりけるを、これはなにものぞと問ければ、かしこにひたはへて待るそまむぎなんこれ ける家の島に、そばからへて侍けるを、夜る盛人みな引て取たりけるを聞てよめる。「めす人はながばか 年荒。續日本後紀卷第八日、仁明天皇承和六年秋七月、庚子、令"繼內國司勸,種蕎麥、以"其呀」生土地、不 以今夏無い雨、苗稼不、登。。宜、今、天下、國司、勸、課百姓、種。獨晚不蕎麥及、大小麥、藏:置儲積了、以備 まをやきたるらんそばをとりてぞはしりさりぬる。同卷第十八日、道命阿闍製修行しありきけるに、やま シ論□沃瘠、播種收獲、共在□秋中、稻粱之外 足+為>食也。 古今著聞集卷第十二日、惠 比僧都の坊のとなり~

しょつきめべきこゝちこそすれ。駿河國風土記日、鳥渡郡西島産蕎麥

都之太末本草 漢名 川穀 今名 スドダマ

白褐色、或淡黑色、穀薄軟也。 古書都之太末ヲ置政トス非也 敷荒本草曰、川毅。生...氾水縣田野中、苗高三四尺、葉似·初生 薥秫葉 微小 葉問叢 開·小黃白花 結5子、 \$·••珠兄.微小 味甘救荒本草日、原回米本草名。薏苡仁、俗名艸珠兒、 一名 一玉豆志新撰字鏡日 川支太末、本草類編〇本草和名 〇按川穀八黑色穀堅實難。破、薏及

穀部 稻麥類

豆之太萬 妓。和名豆之太萬 豆之太末 天文寫本 都須 挑。葉及鹽。」雖二當其畔一。 占語 治遺曰、以。置子蜀 椒 吳

樂思ひやらる。同御法曰、すどのかずにまざらはして。倭名鈔曰、今按念珠、一云數珠、見三千手經。〇本朝 晋の壁すみておぼえずたまる我なみだかな云云。源氏物語若菜日、佛經けとぢずのとゝのへ、まことの極 以、鷺目。都須。機集抄日、尼こくろをしまして、念珠をすりはむべり、あはれざにかく。思び入てするすが 他記口、方御從四位上藤原改子。扶桑略記廿三裡書曰、延喜十六年正月廿八日、攝津國故並神授、從元位下

集註 嘲之也。延喜式卷第三十七日、典藥簽。諸國進年料難藥。大和或證苡仁十五兩。 本朝無題詩日予宿疲更発崩證故飲之、家奴等各以不請、其中老騙一人、打攀殊以

武家調味故管日、くわい人の間いませ給べき物、つしだま、はしかみ、くすのこ 近江國薏苡仁一斤八兩。本草類編曰、薏苡人。和川支太末、八月採實、根无時。

形状 一気でダマへ

震故へ奉種ラ下シ、多枯テ不二宿根 ニ不異、其管黒色ニメ堅ク、野生宿根スの 附錄 消散、赤痢已發辛苦無極、中時許典樂頭雅忠朝臣入 水左記曰、承保四年八月四日、自終日陰、心地隆熱氣

腹病可食小口粥干麵等云、談次主上御口仍今夜所參內也 口讀 二二粒率令飲、是一之方也 來、雖爲物忌相達問云 熱氣內不食之物、其氣消散、後食之可有禁忌乎、如何。若尤可忌之由、爲

#### 豆類

萬豆大豆 井知古末女 久呂末女 黑大豆 ○さるながせ

白大豆 黄大豆 毛豆

阿豆枳 赤小豆

佐、介 豇豆 乃良末女魔豆

阿知萬女 和豆

罂粟

通計十五種

志呂佐い介白豆

〇阿豆岐乃波奈陽婢

〇小角豆覆血

穀部 豆類

# 古名錄穀部卷第四十六

源 件存撰

豆類 〇籌府閩編、倭國 事界日、荒曆米

萬米、倭名類

漢名 大豆本

今名

マメ

三日、うずのたまかげとは、まめをつらぬきて、もりものにしたるが、なかほどはくびれいのて、うずのやら 日、まめきり。さめかくるさはりもいとどまさるかなせどの高木の葉かくれの月。仙鹭萬葉集註釋卷第十 草綱目日、大豆有。黑白黄褐青斑,數色。 廣群芳譜日、按黑豆、黄豆皆名二大豆。本 於保末女本草類編日、生大豆。 一名 麻米 天文寫本和名抄○倭名鈔曰、大豆。和名萬 末女 草類編 藻塩草日、大

ひるの内に雪とは見えず夜白草かりそめのまる花のゆふばへ〇包丁聞書日、甲の 大豆とは萌したる豆と。又香の大豆といふは納豆に、葛の粉をつけたるをいふ

といふなりと釈せり なれば、うずのたまかげ

集註

夜白草

豆、夜白草、

賦役令日 大豆二斗、

穀部一豆

豆十六石+斗、醬大豆六十石、陽三年進醬大豆十石。紀伊國、大豆廿石、醬大豆十石、陽三年進醬大豆三石。 秣料八十石、隔三年進嶲大豆+石。備中國、大豆廿八石、醬大豆四十四石 隔三年進醬大豆七石。備後國、大 豆廿六石。美作國、大豆十石、醬大豆廿石、隔三年進天豆十五石。備前國、醬大豆廿五石、大豆四十四石七斗、 石。但馬國、醬大豆廿六石。隔三年進醬大豆五石。因婚題、醬大豆廿六石、隔三年進騰大豆五石。播磨國、大 近江國、大豆六十石、騰大豆廿石、隔三年進醬大豆十石、大豆十四石。丹波國、大豆卅石、隔三年進醬大豆五 縫殿姿。縫殿神一座 同卷第 式卷第 之息利。同卷第十四日、直觀九年三月廿五日乙丑、令。大和國"集止百姓"燒石上神山、播計時《禾豆"。延喜 三代實錄卷第十曰、貞觀,年五月八日戊子、是 日 勑,充。對馬嶋分寺,三綱供?其料、用,三寶布施大豆百斛 一日、鳴雷神祭一座、大豆云云各一斗。春日神四座祭。祭神料、大豆云云各五升。已上大炊餐所 二日、御巫奉、齋神祭、大豆玄云各二斗。同卷第五日、癚宮。月料、大豆云云各三斗 大豆云云各五升。著酒神一座、大豆云云各五升。同卷第二十三日、民部下。交易雜物。 同卷第十四日

各五合。凡出雲國四王寺春秋修法、每世學七箇日,供養丼燈分料。僧四口、一口一日云云大豆云 上。凡雜穀相傳、大豆一斗當一稻一東一、自餘、如、今。凡諸國命光明寺安居者云云、其供養,講師日大豆云云 阿波國、秣淅大豆八十石、醬大豆廿二石、隔三年進醬大豆五石。讃岐國、醬大豆四十二石、隔三年進醬大豆子 右馬寮秣料、備前國大豆八十斛。阿波國大豆八十斛、並以"彼"寮,請交、制;會抄帳?。 同卷第二十六日、中稅 石、大豆十八石。伊豫國、大豆十八石、醫大豆卅二石、陽三年進鬻大豆五石。同卷第二十五日、主計下。凡左

卷第三十二日、大膳上。御膳神八座、大豆宝宝各五升。大首神一座、座別大豆一合八勺七撮。雜給、料。

料一合五勺、菜料一合。七等盂蘭盆供養料、寺別大豆五升。同卷第三十五日、大炊猪。正月最勝王經濟會料 卷第三十三日、大膳下。聖神寺率料、大豆至云各五合。正月最勝王經濟會供寨料、僧別五云大豆二合五勺、餅 料、大豆豆豆各一斗九升。平野夏祭雜給料、大豆二斗三升、冬加。七升。松尾神祭雜給料、大小豆各一斗。同 宴會雜給。親王以下三位已上並四位參騰、人別大豆二合。四位五位並命婦、大豆まよ各一合。 閑韓神雜給 參議已上、人別大豆一合八勺七橇。五位已上三十人、別大豆七勺。☆位已下二百六十人、別大豆四勺七撮。

巧鷺事。朱漆高机四脚立。遊上、"共東南、机南妻"居。菓子等。 一环大豆 枕草紙曰、頭つき給はぬほどは、殿 二升五合。同卷第四十三日、主膳監。月料、大豆豆豆各九升十合五勺、俊畧、江家次第卷第八日、七月七日乞 一合。正月三節、大豆三升三合。五月五日節、大豆二升。九月九日節、大豆二升。 供御戶料、大小豆各二斗 豆五斗八升。七寺盂蘭楚、料、大豆二斗八升、別四升。同卷第三十九日、内膳司。新甞 祭供御料、大豆二升

云云、同會終日、大豆云云各四斛。正月修。直言法。料、大豆一石八斗九升七合。同月修。大元師法。所料、大

ければひきあらはして、わらはるゝ事ぞかぎりなきや。吾妻鏡卷第十三日、建久四年十月廿九日、以上御倉 上の大ばんに人もつかず。それにまざひろは、まめひともりをとりて、こさうじのうしろにて、やをらくひ

王願東御下向也。御雜事。白米二石、宣旨斗定。大豆三石、同斗云云。安東郡惠常沙汰文曰、惠當都、入部 所納米百石,大豆百石,今诊施\*自 邊國,參上御家人等。給。同卷第四十二日,建長四年三月十九日,三品親

之時口開墾營之云云彼時先三種肴、一種ムキ广メ、一種ナ广ス云云。 - 種ムキマメ、 種膾。古今著聞集卷第六日、ある時は叉豆を苅所にいたりて、叉是をかり 樂頭饗名付、云云先二種

種殖

人、廖牛一人、牛一頭、料理平和一人、畦上作二人、殖功二人、月、芸。一遍二人、採功二人、打功二人延喜式卷第三十九日、內턆司。緋種園圃、營大豆一段 種子 ^ 升、惣單功十三人、 緋地一遍把犁一

大豆粉料、大豆一石、得一石七斗、弱六十斤。下云、黄大豆也。延喜式卷第四十八、左右馬餐二、諮園每年 延喜式卷第十六日、隂陽寮。凡造、曆 五勺。ト觀コレバ、延喜式中ニ、大豆トノミ記スルハ、黄黑二豆道テ云ル也。延喜式三十三、浩雜物法。敖 用度、糊料大豆三升三合、請。大炊猪二人 今案 白大豆五勺、好物料。黑大豆一合五勺、菓餅料一合、好物料 延喜式卷第三十三日、大膳下。仁王經濟會供養料。僧一口

進。恭料、備前國大豆八十斛、阿波國大豆八十斛トミ ユレバ、延喜式中ニ出ル大豆ハ過半黄大豆ノ事也 ○さるなかせ 職人盡 歌合 今名

ノシイナ 集註 職人悲歌合日、こひすれば屋を地のまめの さるなかせなみだの川はわれぞましける

白大豆菇喜 漢名 黄大豆草 今名 シロマメ

ル徴也。本草綱目曰、大豆石。黒青黄白斑敷色:惟黑者入、簗、而黄白豆炒食作、傍浩、紫竿、油盛爲。時用供養料。僧別日大豆二合五勺、菜料一合・小豆四合、大角豆白大豆各一合・觀・此則大豆、白大豆二 南高一二尺、葉似。黑豆葉:而大結、角、比≒、黑豆。稍肥大、共葉味甘 湖南通志ノ黄豆也。救荒本草日、黄豆苗今處々有い之、人家田園中多種、 今案 觀、此則大豆、白大豆二物タ 延喜式卷第三十三日、大 膳下。正月最勝王經濟會

穀部 豆類

一六二五

集註 「大豆各一合。仁王經濟會供簽料。僧一口別菓菜料、白大豆五勺、好物料 〇青大豆 延喜

漢名 毛豆 時珍食 今名アラマメワセ大 豆之屬、夏、紅便可、食、莢筒靴、秋深縦實多 時珍食物本草日、毛豆、南人多種、之、亦黄大

有『五月黄六月爆冬黄三種、五月黄収~粒少ト云、夏マメ也。延喜式內膳司、供率雜菜、日別生大豆六把、六 煮食作、果、以來設上有、毛故名、毛豆。按:黃大豆、皆蒸殼:毛アリ、夏初便可、食ト云、、天工附物:大豆

云此也 七月上 騰下日、平月二十五日節料、生大豆、五位已上二把。九月九日節料、生大豆、五位己上二把。쮆三此則、生大 豆へ即宋熟青豆也。延喜式卷第三十三日、大膳下,仁王經濟會供養料、生大豆二合、漬菜料。同卷第三十九 一名 生大豆 延喜式。按二本草囊全、本草和名、本草類編二生大豆、延喜式卷第三十三、大

其東宮生大豆云云各三把 日、內膳司。供奉雜菜云云。 アダマメ 鉄外書日、高橋殿御返事、広一龍、サ、ゲ、 今案。延喜

青大豆二把、トミュ 第三十三日、大膳下。上寺盂蘭盆供養料、寺別餅菜料、青大豆三十把。青大豆三東。九月九日節料文人料。 レバ、青大豆へ未熟ノ青豆ニメ、湖南通志及其他ノ書ニ所載ノ青豆ニ非ルフ明白也 群芳譜、本草

久呂末女優名類

漢名 黑豆 所謂黑大豆

今名 クロマメ

名 久呂萬女 天文寫本和名鈔〇和名鈔日、鳥 豆。久呂末女,圓而黑色者也

集註

延喜式卷第三十三日、大膳下 際會供養料。 僧一口別黑大豆一合五 仁王經

藥寮。諸國進年料雜藥。河內國、黑大豆大五斗 **与。 菓餅料一合、好物料五勺。 同卷第三十七日、典** 

曾比末女 聚鈔

未考

名 曾比萬米 天文寫本和名抄〇倭名抄日、鵝豆。紫赤色者也。 名曾比末女〇廣群芳譜曰、又有舊豆。大豆類也 和

井知古末女優名類

未考

一名 井知古萬米 天文寫本和名鈔〇和名鈔日、珂孚豆、狀圓圓 似。玉而可、愛、故以名之一和名井知古末女

阿豆枳肾 書紀 漢名

赤小豆草

今名

アヅキ

鮮紅色者盖不入治、病。但可、作、烟飯團餅館,耳 農圃六書日、赤豆。小而赤黯色者入藥、其稍大而 名 阿加安豆木 倭名鈔曰、小豆。 和名阿加安豆木

阿加

一六二七

穀部 豆類 班一五一

小豆各一斗。同卷第十四日

、縫殿寮。縫殿、神一座、云云小豆各五升。

著酒神一座、云

云小豆各五升。

和名鈔 A Knj 加阿都岐 本草和名日、赤小豆。 和名阿加 [A] 初 此之 安川支 支。延喜式卷第三日、御井 本草類編出、赤小豆。 和安川

升。萬葉集卷第十一曰、小豆奈九、何狂言云云。同卷第十二曰、中中、默然毛有申尾、小豆無。日本書紀天皇祭。赤小豆二合,產井祭、赤小豆二合,同卷第三十-曰、典樂簽。諸國進年料雜樂。山城喫、赤小豆四斗六 本紀卷第三十七日、小豆嶋。古事記曰、次生・小豆島、日、阿波薦羅摩、異佛敷多那羅珥、阿豆枳羅摩、云、讀日 本紀卷第三十七日、小豆嶋。 あか 伊勢守貞陸記日、あづき、 あかとも、あかく共 あ

兄 H 集註 散祭料、云云小豆各五升。曜井韓神三座祭、云云小豆各五升。 延喜式卷第 日 、鳴雷神祭一座、云云小豆各一斗。 春日神四座祭。 同卷第二日、御巫、奉、卿 祭神料、五五小豆各五升。

各二升。 祭、云云小豆各二斗。座 摩 巫奉、精神祭、云云小豆各一斗。 第十二日、中務省。十二月晦日 五日、齎宮。 炊部神祭、云云小豆各二升。酒部 正月三節 新、小豆×云各三升。 已上供料。小豆三斗、×云已上官人以下料。 諮司春祭、云 難給料、云云小豆各世斛。內数坊、春、祭云云小豆各元升。 神祭、云云小豆各一升。凡器國送納調庸、云云小豆各六石。 生嶋巫奉、齋神祭、玉 云小 豆 女孺厨、春神祭 가 回卷第 云小豆

石。同卷第二十四日、主計上。壹般楊、調小豆十一斛。 中國、小豆一 卷第二十三日记 石六斗 記上。 **筛後國、小豆一石七斗。** 交易 雑物の 播轉國、小豆三石。 隔三年進小豆十六石。紀伊國、 同卷第二十六日、主稅上。凡雜穀相傳,架小豆各二 美作國、 小豆六石。 備前 小豆州石。 國、小豆十九 阿波國、小 石七斗。備 豆十六

三十人、别"小豆一合五勺。六位已下二百六十人、别"小豆六勺。宴會雜給。親王以下三位已上并"四位參 座、云光小豆各五升。 醬院高部神一座、喬神四座、云云小豆各三升。 菓餅两火 雷 神一座、云云小豆各三升。 **髓神四座、www.小豆各二升。大直神一座、小豆二合《与。 雜給料。參議已上、人別小豆二合八勻。五位已上** 國四天王寺春秋修法、云云僧四日、一日一日供飯料、云云小豆各五合。 同卷第三十二日、大膳上,御膳神八 斗。凡懿國金光明寺安居者、其供養、講讀師日云云小豆各五合。凡貞觀寺佛供云云、小豆日九合。凡出雲

王經齎會供養料、小豆四合、餅菜料各二合。七寺盂蘭盆供養料、寺別小豆一升二合。仁王經齋會供養料、僧 夏祭雜給料、小豆二斗六升、多加=八升。 同卷第三十三日、大膳下。聖神寺季料、na na小豆各五合。正月最勝 譏、人別小豆二合。 四位五位拜命婦、人別 5 〒小豆各一合。 闌 韓神、祭雜給料、5 〒小豆各一斗九升。 平野

豆各六把。其東宮、小豆云云各三把、同卷第四十日、造酒司、祭祀二座、並從五位上、座別云云小豆各二升。 小豆等類、、隨、到量收、訖即申、省。 諮司赴集依、實、檢納。 同卷第三十九日、內膳司。 新堂祭供御料、小豆 一口別小豆一合六勺、菓餅料二勺、好物丼羹料各四勺、汁物丼索餅料各三勺。凡諸國交易。所言進、攜大豆丼 一升六合。正月三節、小豆二升四合。七月七日、小豆一升。九月九日節、小豆一斗。供奉雜菜、日別云云小

主膳監、月料、宝云小豆各九升七合五勺。除署御散飯調進次第日、六月朔日あづきすいはら一かさねにつく 主水司。鳴雷神一座祭、云云小豆各二升。踐祚大管齊解廣七種御粥料、云云小豆各二斗。同卷第四十三日、

みて、上下をやらしにてとづる也。七月七日あづきへ いからに十二はい参うつくみやら右にこれあるとほり

· 營小豆一段、種子五升五合、惣單功 延喜式卷第三十九日、內膳司。耕種園

<u>畔上作二人、</u>用下子半人、芸二遍四人、探功二人、打功二人、十三人半、耕地一遍把犁一人、 馭牛一人、牛一頭、料理一人、 ○阿豆岐乃波奈 聚鈔 漢名

腐婢革本 今名 アッキノハナ 即赤小豆花也 證類本草日 、腐婢。 一名

安川支乃波奈 本草

川支乃波祭 日、腐姓。和安 阿都岐乃波奈本草和名日、腐婢。小豆華也。和名阿都岐乃 附方 頓医抄日、 クサ治

0

又小豆花ヲ雞卵ノ汁ニ合テッケョ 方、胡麻油ニ赤小豆ノ粉ヲトキテツケ 3

佐々介 天文写本 漢名

豇豆 豆本

今名 サ、ゲ

垂、有。習坎之義、豆子微曲如一人、腎形之 本草綱目日、豇豆。開、花結 一淡必兩兩並 今案 日本書紀註二、荳角皇女註二、莖角此三二。娑佐縣。廣 蜀都雜抄日、大小豆等謂。之。角果、然則角乃豆莢也。

雅日、賈勇謂之。羨。。 古事記曰、袁本杼命、生。御子佐佐宜。郎女、云云、次佐佐宜王者拜。伊勢神宮,也。 延 ツ。難空智燈ニ、真豆有長短一色。ト云、長八大角豆ニノ、本草綱目豇豆ノ集解ニ、一種藝長文餘、茨長者 喜式二大角豆ラ載、伊勢國風土記二小角豆ヲ出セリ。 大角豆、小角豆、俱ニサ、ゲニメ、莢ノ大小ヲ以テ分

至二一尺一、嫩時克,榮、老則收上了。 農師六書二里豆、其夾細長如. 裙帶。 汇除縣志二裙帶豆有。青紫二種、墓

草綱目ニ時珍ノ一種憂短ト云者ニメ、ツブサ、ゲ也。本草啓蒙ニ、憂短クメ畑中ニ栽、莢短メ上ニ向フテ生 熟スルコ早シ。時珍食物本草日、豇豆短者不」及」尺、莢殼不」可」食、其子更、香美、和飯中、極佳。藻塩草ニ ズ、熟ノ豆ヲ探食フト云、卽小角豆也。江隂縣志曰、豇豆。色赤黑、四月種六月熟ス。今ツブサ、ゲハ其實 生而長故名ト云者也、今十八サ、ゲト呼此也。大和本草曰、豇豆、其莢長コト二尺二餘。アリ〇短ト云、本

草ヲ出セリ モ大角草、小角 一名 散々介 紫式部日記日、せんしの君はさるやけ人のいとほそやかにそびへ 倭名類聚鈔日、大角豆。和名散々介。離離、讀布佐奈流、見」文選。

さるけ 佐佐宜 部 佐々支 本草類編日、白豆の知佐々支。て。大鏡日、佐佐宜 古事 佐々支 本草類編日、白豆。和佐々支。 2 3 伊勢守貞陸記日、 ちょけちょ

前草 になびけばか花はさけども雪とみえぬる。蔵玉 藻塩草日、大角豆。い前草。伊さくさいかなる風 紅角豆大和國風土記日、宇陀郡貢紅角

會供簽料、僧別日大角豆云云各一合。七寺盂屬盆供養料、寺別大角豆一升。五月五日節料、大角豆、五位已 部下。交易雜物。山城國、大角豆六石。大和國、大角豆四石。同卷第三十三日、大膳、下。正月最勝王經 生大角豆六把、六七月。即裙帶豆 式卷第三十九日、內膳司。供奉雜菜。日別 者子赤○按二救荒本草ノ紫豇豆ニ非ズ、紫豇豆ハ炭紅紫色也。紅角豆へ其豆赤キョ云 駿河國風土記曰、鷹河郡柏原、貢紅角豆。 櫽科山貢綿紅角豆等。 汝南蒯史曰、豇豆赤莢 生莢也 集註 延喜式卷第五日、齋宮。五月節、大角豆三升。已上 供料。大角豆一斗五升云云。同卷第二十三日、民 生大角豆。

穀部 豆類

事。朱漆高机四脚立:"莚上、"其東南机南妻居。菓子等。一环大角豆。雲圖抄曰、七月七日乞巧奠事。大豆、大 合。濇粉熟料,大角豆一石八斗。供奉雜學,其東宮云云大角豆各三把。江家次第卷第八日,七月七日乞巧奠 上一合。七月二十五日節料、大角豆五位已上二把。同卷第二十九日、内脏司。供御月料、大角豆一斗三升五 角豆、干鯛。大鐐巻第七日、まづはきたのかたにも、かはらにつくりたるのゝまめ、さゝげ云ぇといふもの、

鳴、風烈雹降、其勢如,大角豆,云云。新猿樂祀曰、蘭畠所ゝ蒔、麥大豆大角豆小角豆栗黍薭蕎麥胡麻員盡登 このなかごろはさらに補なかりし物をや云く。山槐記日、治承四年十月廿九日戊申、朝間晴、午刺天陰雷

面、秋以一方倍一納一歲內 種殖

熟、春以二粒一雖一散一地 惣軍功十三人、耕地一遍把犁一人、馭牛一人、牛一頭、料理一人、畦上 延喜式卷第三十九日、內膳可。耕種園閒。營大角豆一段、種子八升、

作二人、殖功二人、芸 一遍二人、探功三人 ○小豆角 便勢國

時珍食物本草日、豇豆。短者不、及、尺、名、戳

**近、茨殼不」可以食、其子更香美、和二飯中」極佳** 

渡名

截豇 物本草 時珍食

今名ツブサ、ゲ

一名 散々理草 らば風にやちらんさるり 草花の

元月雨 滅玉む

志呂佐々介醫心

漢名 白豆群芳

今名

シロアヅキ

白者也。苗葉似。赤小豆、而微尖 [一名] シロ

シロキサ、ゲ 呂佐々介。頓醫抄日、白角豆 尉斐類記,醫心方日、白角豆。和名志

厨裏類記日、干菓子、松ノミナキ時、シロキサ、ゲラモル。武家調味故質日、松のみといふは、白 あづきをもる也。松のみさのみなき間、かやらにするなり。観点此。則志呂佐々介は、白アヅキタ

證也 ル明 形狀 ○白豆ハ菱生ゼズ。苗葉赤小豆ノ如クニノ、殼内ノ豆白色小豆ノ如シ。本草啓蒙日、白

乃良末女 聚鈔 一

漢名 豌豆本

今名 エンドウ

苗弱,如、意、莲雨《對生、花似"蛾形,淡紫色、灰長寸許、子圓如"藥丸 本草綱目日、其苗柔弱宛々、故。得引豌豆、名了。農圃六書曰、豌豆九月下、種、

月下土種、 [1名] 乃良末米 天

豌豆和名乃良末米、夏収者也 寫本和名抄日、野豆。太草疏云、 玩宗豆鄉、產大豆小角豆城宗豆云云 園豆 進魚類物語日、蘭豆 頓医抄日、萬豆。精

綠豆地名

今名 ブンドウ

豆絲以,色名也 集註 宇陀郡賞綠豆本草綱月日、綠 集註 宇陀郡賞綠豆

一形状 マデシキリニヲヒ~質ナル。又早クウヘテ早の大和本草日、緑豆。倭名ブンドウ。夏ョリ秋

**黎語** 豆頭

ク選 本草啓蒙日、綠豆、苗へ赤小豆二似テ小ク、莢モ亦相似テ小ク、粒モ亦小ナリ ノリタ ルヲマケバ、其秋又寶ノル。一年ノ內二度ミノル故ニ、ヤエナリト云。

阿知萬女聚鈔

漢名 幕豆草本

今名 インゲンマメ

樣、或是或團、或如、衫袖、或如、網、所、或如:猪牙刀鎌、種々不之同、皆藥々成之枝、白露后實更繁衍、嫩時可之大。 時於食物本草曰、糯豆。一月下種、薹生延纏、葉大如、盃、團而有、尖、其花狀如"小蛾」有"翅尾形、其莢十餘

疏。茶料一老則収了者食、味椒香美、子有,黑白赤斑四色、一種麥硬不、堪 \食、其豆子粗圓而也自著可\入、藥。 李時珍日、硬殼白扁豆其子充實 一名

和名抄日、舊豆。

和名阿知末目

比良末女、草類編日、蘿 阿地方女新撰字鏡日、萬。九卷区、鹿豆也。天豆 阿知末目 写本

ワ也。倭名鈔日、舊豆。籬上豆也。和名阿知萬女 鹿蠹。註、今鹿豆也。野菜譜、薑。野鹿豆、即ベニガ

阶錄

波保麻米萬葉 集

今案 萬葉集

十日、美知乃偕乃、宇萬良能字禮爾、波保賦米乃、可良職流伎美乎、两可禮加由 加牟。觀以此則野生ノ夏ヲ指、野生メ荊棘ニ蔓延スルモノハ鹿電ト野豆也

器栗 左續 化史

今名 ケシ

除テ、酢ヲシ

メシアプレ

藥製

頓医抄日、罌粟。殿ウラヲコリゲ、スニ浸ノ ヤブレ。又日、裏ヲコソゲ、シリカシラヲ切

古名錄穀部卷第四十六 終

穀部

豆類

## 古名錄穀部卷第四十七日錄

麻紅

阿" 大脈

〇麻柄麻骨 〇麻鄉

〇熟版 〇麻子油 〇信濃麻

綿 草棉

五末 胡麻油 以知比 荫縣 介無之衆脈 〇紙麻 〇白暴緊腿

迎計十六種

加良無之 苧麻

〇櫻脈

源 伴存撰

麻類

阿佐" 倭名類 聚鈔

漢名 大麻 草本

今名

良。信濃國伊那郡麻緝、乎美,喜妻鏡曰、信濃。〇古語拾遺曰、古語麻謂之了總,也。今上總下總二國是也麻笥乎無登云云。同卷第十六日、陳續兒等。倭名鈔國郡部曰、阿波國麻植、乎惠。安房國安房郡麻原、乎波 乃云云。勝牡鹿乃、眞間乃手兒奈我、麻衣爾、青鈴著、直佐麻乎、裳者織服而云云。同卷第十三日、亂、麻乃、云云。同卷第七日、麻衣、著者夏樫、木、國之。同卷第九日、小垣內之、麻乎引干、妹名根之、作服異六、白細云云。 同卷第七日、献 · 立、麻手刈干云云。畝火乎見管、麻裳吉云云。同卷第五日、寒。之安禮波、麻被、引可賀布利乎。倭名鈔曰、說文云、麻、菜屬也。和名乎、一云阿佐。日本靈異祀曰、麻乎。萬葉集卷第四日、屡

安佐 倭名抄國郡部日、武藏 國入間郡脈羽、安佐波 麻素 荔能麻素武良、可传武太伎云 ki 萬葉宝卷第十四日、可美都氣努、安 安左乎 萬葉集卷第十四 日、安左乎良乎、

穀部 麻類

一六三七

須伎西佐米也、伊射西乎騰許爾選家爾布須左爾、宇麻受登毛、安 麻引、命號貯云云。詞林采葉抄曰、麻生タル所ヲハウト云へバ、 萬葉集卷第七日、夏蘇引、海上滷乃、奧津洲爾。

夏ソヒクウト 故に夏そ引と ついけたり ノ髪ニ似ダルヲモ申之っ言塵集日 ツ、クル也。麻ノウハ皮ラトリタルヲ引トハ云と。又ヒキタル麻ヲ白カケヲキタルハ、ウバ 奈都素 萬葉集卷第十四日、東歌。 奈都素妣久、 、夏麻の生たる所を生と云る夏そ引と讀つどけたり。麻は上皮を引捨る 京都蘇 姚久、宇奈比乎左之氐、等

しなあり。あさをばながゆふと云、ながきゆへなり。まをゝば、みじかゆふと云。筑紫風土記に、長木綿 ながゆふ、みじかゆふもあるべし。そのさまはことなれども、名をつくる事は、いづれもおなじ心也。白き り、いふばなと」よめるはこれなるべし。あるひは神にたてまつるゆふあり。いまのうたのごとくなるは、 短木綿といへるは是也ww。木綿をよめる哥に、あまたのしなあるべし。あるひは木のなかに木綿の木あ 東麻 陸與國風土記日、宮 城郡出東脈白綿 なかゆふ仙覧萬葉集註釋卷第二日、やまべまそゆふみじかゆふ といへるは、ふたつにはあらず。苧といふに、ふたつの

上云也 をゆふ 集註 延喜式卷第一日、四時祭上。二月祭。新年祭、神三千一百三十二座。云 兩云云。前一百六座、座別院五兩、云云社三百七十五所。座別縣五兩。鳴雷神一座、 OHI 座別脈五

ム本本本へな と一全/全と 一な集一書ム

云云城各一斤。回卷第二日、御 巫奉、篇神祭。云云藏各二斤。座摩/ 巫 奉、震神祭。云云城各二斤。同卷 第三日、霹靂神祭、寐四斤。御衞祭、寐六兩。同卷第四日、伊勢太神宮。六月月次祭、寐大十二斤。度會宮

H 云 口解除 卷第六日、薦院司。晦日解除 云麻大十斤。九月神管祭、麻十八斤。同卷第五日、齋宮。 料御麻料安藝木綿四兩、麻八兩。 料、脈 八兩。同卷第七日、踐祚大華祭。凡大稜使被訖即差。遇"供,幣吊"於 臨時被料、腕二斤。 裁料、云三膝大四斤。朔日庭火祭、麻一斤。 凡諸國送納調庸、云云麻四百斤、云 云日上下総。

上幣料,松尾社云云麻各大二斤、已上幣料。同卷第十五日、內藏窦。季料、麻大十斤。同卷第十七日、內匠 云云脉各大二斤。 天神地祗,使兮云云、其幣法大所各云云黥五兩、小所云云縣五兩。凡天皇十月下旬臨。幸,川,上,爲三觀。、料 ·凡繼·神服·著、麻三斤五兩。同卷第十三曰,中宮職。加茂上下、社"云 云脉各大二斤、已

作物、蘇一百五斤。下野國、中男作物、蘇一百五斤。越前國、中男作物、蘇。筑前國、中男作物、麻。 中男作物 賽。馬斯御腰帶 斤。上總國、中男作物、麻二百斤。下總國、中男作物、麻四百斤。 常陸國、中男作物、酥四百斤。 脈 日向國一中男作物、麻。 一條、料、脹、革網料練小七兩。同卷第二十四日、 同卷第三十二日、大膳上。 御腾神八座、云 x 麻各八雨。 同卷第三十八 主計上。 凡中男一人驗作物、 上野國、中男 麻云 云谷五 肥後國

衙卷第四十日、造濟司、祭神九磨、二縣云云並從五位上、磨別、云云脈各大八兩。四座、縮神、座別、云云縣二 日、掃部登 造,鋪設,功程神事、料願八兩 一分。 同卷第三十九日、內陸司。五位神一座料、云 云顾各八兩。

雷神一 枝、百姓之膏腴崗 酮 大和國風土記日、宇陀郡 **||一座祭、云云臓各三兩。氷池神十九座祭、膝二兩。於零 山背國風土記曰、久世郡西宇治庄橫蓬来脈築。三座、座別、云云鱵各大八兩。踐祚大管祭供神料、鱗六斤十兩二分、結二周 中取案高闊。料。主水司。鳴三座、座別、云云鱵各大八兩。踐祚大堂祭供神料、鱗六斤十兩二分、結二周 中取案高闊。料。主水司。鳴** 大原都高麻山。古老傳云、神須佐能袁命御子、青幡佐草貼 篠幡庄真 来城。出雲國風土記曰、川婁大川。 河之西邊、或土地豊饒土穀祭師、稔飲 命、 是山上脈蒔 初、 主水司。鳴 故云高疏

種、麻十六斤。次取二吉日、山 鳥護郡長次,賈五穀綿臟等。伊穗原郡紀弊、貢勵帛。續日本紀卷第二十七日、天平神護二年六月丁亥、日向 山。參河國風土記曰、形原郡篠塚鄉、出來棘絹等。八名郡賞來麻、服部庄貢來驗白綿等。駿河國風土記曰、 其日へ麻ノ中ニテ日ヲ暮シ 中二陰レ居タレ 大隅隆康三國大風、桑藤損盡、詔勿、収。榊戶調腈。皇太神宮儀式帳曰、蒭宮造奉時行事、幷用物事。用物九 バ云 云阿新 口神祭用物、麻二斤。太平記曰、身ヲ隱サントテ日ヲ暮シ、麻ヤ窓ノ生茂タル 形狀 延喜式卷第四日、伊勢太神宮。麻續等機般祭井維用料、麻三十憲等 閩二尺。為多數。常陸國國土記日、行方郡縣生日、古昔縣生三子猪沐

、聞如 大竹、 〇阿佐乃三 本草 和名 漢名 麻黄草 今名 プルミ 本草綱月日、 脈勃是化脈

是實中仁也 費是實际、仁 七 安佐乃美本草類編○本草和名日、 **麻**蕡。和名阿佐乃三 アサタネ 傍訓 延喜式 麻箕 厨曳

子八種、又龍寶 日、七月七日御菓 集註 造。御靴一料、腱子一斛二斗五升。諸國年料供進,臟子二斛,常陸國七斗、武駿 本草類編日、陳賁。和安佐乃美、七月七日採之。延喜式卷第十五日、內藏簽。

縣子。下野國、中男作物、縣子。 陸懷、練了七斗。下野國、蘇子三斗。同卷第二十四日、主計上。常陸懷、中男作物、麻子。信潑殿、中男作物、 國六斗、下総國七斗。同卷第二十三日、民部下。年料別貢雜物。武藏國、縣子六斗。下總國、縣子七斗。常 阿波國、中男作物、騷子。同卷第三十三日、大膳下。正月最勝王經齋會供卷

ヲガラ

二斗五升。伊豫國、麻子三斗 阿波國、脈子三斗。 潜岐國、脈子

樂製 頓医抄日、大麻子仁アサ ミノ皮ヲムキテ亦ヘシ 〇麻子油 延喜

) 通名也

今名アサノミノアブラ 天工開刊日、油品凡油供,體用,者、大麻仁為 下、粒如"胡麥子」剝。取其皮」為「律案用」者

名 麻油喜延

縫一作雜履一料、脈油一合 式卷第十五日、內藏簽。 集註

合。同卷第三十六日、主殿祭。諸司所請年料。內藏寮麻子油二升五 延喜式卷第二十四日、主計上。凡中男一人輸作物、麻子在縵椒油各五

合。 麻子油二升五合、造一年料御靴井縣鞋等一料。凡 量、收諸國、進、中男作物雜油、中男一人蹶子油三合

本草綱目日、大麻其務白而

集註

(麻树 拾遺

漢名 麻骨

今名

四季

有人稜、輕虚而可以爲、燭心 通考 授時 本草綱目日、大脈、葉狹而長、狀 如二盆母草葉、一枚七葉、或九葉 · 持持之乃以。其葉一掃、之 古語拾遺曰、宜以。麻柄、作。 集註 太神宮諸雜隻記日、可、奉 御衣織 ○あさのは

ねとてあさのはなどらたひて 四季物語日、みなづき ○熟麻 延喜

捡封一也。

漢名

大麻菜

延喜式卷第五日、齋宮。造備雜物。 厅八兩。凡諸國送納調庸、熟麻一百斤。 熟麻大

料乃御麻、乍」置於一秀延住宅一被

集註

I 已上下総。同卷第十五日、內藏錄。季料、玄云熟聽各大二十斤。同卷第十六日、陰陽錄。凡撞:漏刻鐘:料 云其綱料熟麻卅斤、隨、損申、省請言、大藏省一。同卷第十七日、內匠登。年料革笛廿合、云 云料熟師廿斤七

穀部 麻類

國、中男作物、熟願。下総國、中男作物、熟練。 輸作物、熟麻云云各二斤。中斐國、中男作物、熟麻。 114 張糰料。同卷第二十三日、民部下。 交易雞物、信濃國、熟麻十斤。同卷第二十四日、主計上。 常陸國、中男作物、熟練。 相模國、中男作物、熟版。 越前國、中男作物 武藏國 中男作物、熟願。 熟麻 凡中男一人 加賀國、中 上總

云 大賊省。 男作物、熟脲。肥後國、中男作物、熟麻。豊後國、中男物作、熟賦。目向國、中男作物、熟臟。 五其所須熟脈二斤 十七日大射、 〇白。據熟麻 名 白麻 我二十物、白脈衣。山密往來日、白脈東東集卷第七日、千名、人雖云、織文、萬葉集卷第七日、千名、人雖云、織文、

同卷第三十日、

脈二百斤。 師之衣、暗、自、春潔」於雪」 扶桑略記小七日、有三白 紙、熟麻、白。暴 サラゼルコ ヲ 熟師、京。常陸國 白妙乃麻 乃、麻衣著、垣安乃云 萬葉集卷第二 目 白妙 集註 延喜式卷第十七日、內匠祭。 計上。上総國 延喜式卷第二十四 一中男 作物、 日、主

中男作物、嚴四百斤、苧、紙、熟練。白。暴熟練 信濃脈 延喜 Ti 集註 延喜式卷第三十九日、 斗、料信濃麻百斤。 ()麻繩 造缶三十口 内膳 司。 造雜味塩魚二十石六 、云云信濃縣一百斤 集註 白銅酒魔 合云云料、 )紙麻 延

v廳、関入。以三敏行、北人。以三巻皮、粉美以、蕨、海人以、苦、断人以、麥錫稻稈、吳人以v蘭、 式。按一大明一 統志、廣東南維府土產事竹土人練賞、蘇可"以"為"布下云。正字通曰、蘇易簡紙譜云、蜀人、以" 整人以上格。 古

5

用一大皮一名。蒙桥一川。故魚綱 今原始日、霧倫與 一個方作と採用 121三時品 11/1 湖、洛湖沿 紙熟麻 主計上 延喜式 麻

集註

十三兩、截一斤一兩、奔二兩、成、紙一百二十五張。同卷第十六日、隂陽聚。凡造、曆用度者、麻紙四脹、褾紙 截一斤七兩、春二兩、成、紙一百七十五張。中功日擇一斤、截一斤四兩、春二兩、成、紙一百五十張。 延喜式卷第十三日、圖書祭。凡寫書云云、其麻紙、書各處、穀紙、一百言。。凡造、紙、長功日撰、麻 一厅三柄、 短功日擇

國、紙麟九十斤。參河國、紙麟十斤。近江國、紙麟一百十斤。美濃國、紙麟六百斤。下野國、凝紙 狹國、紙毓一百斤。越前國、紙麻一百斤。丹波國、紙麻七十斤。但馬國、紙麻七十斤。因蟠國、紙麻七十斤。 料、請"內藏錄"。同卷第二十三日、民部下。年料別貢雜物。伊賀國、紙麻五十斤。伊勢國、紙麻百十斤。 百張。若 尾張

備中製、紙麻九十斤。紀伊歐、紙麻七十斤。阿波國、紙麻七十斤。諮睦陵、紙麻百五十斤 伯耆國 、紙賦七十斤。播磨國、紙賦二百十斤。美作國、紙賦七十斤。備前國、紙陳五十斤。

介無之優名類 漢名

枲麻 草本

今名
ヲアサ

維治等等、雌者等人直 木草綱目曰、大麻有、雌有、雄、 一名 加良乎 雅注云、案肺。無、子名也。和名介無之。軍防令日、 新撰字鏡曰、葉案同。司里反、加良乎。倭名鈔曰、爾

司里、反、爾雅泰、麻也。野王按一、秀服傳「牡麻者枲也。則麻之無」子者爲、葉也 其讚。双。和。稱。肢脈之類。義解云、菜学之爲曰。弦脈一也。今集解曰、古記云、菜

集註

調副物、正丁 賦役今日、共

八兩。同卷第四日、伊勢太神宮。 人、菜十二兩。延喜式卷第一日、三月祭、云 惣所須菜一斤。同卷第五日、濟宮。祓料、菜一斤。野宮六月晦日大祓、菜。 · 京京大兩。三枝祭三座、京六兩。風神祭二座、 甌六斤九兩、余

穀部 麻如

輸作物、云云菜香二斤。武藏國、中男作物、菜。上総國、中男作物、菜。 八削、縣門戶。凡猶宮將入、太神宮、八月晦日朝廷大蔵、料菜一戶。同卷第二十四日、主計上。 同卷第二十六日、主稅上。造一月一

和泉陝風土記曰、大鳥郡穗椋鄉、布綿籬菜等多。日根郡安部野鄉、出布綿麻菜。鳥坂鄉實來麻 脹、料素量數象一兩二分。 同卷第四十九日、兵庫聚。凡御祥弓一張、其料菜三分四銖、絃、料

1

さくらあさ **仙覧萬葉集註釋○職人盪歌合日、をうり つしづのめがいとにするで** ふあさの亭のよると見ぬまですめる月哉つ

櫻あさの思ひおもはずい

者、今明而射法、得者難知。詞林朱葉抄曰、櫻神ノオフノ下草トヨメルモ、フトツェクル計也かにしてひとのこゝろをかなひきてみむ。 萬葉集卷第十一日、櫻麻乃、苧原之下。草、露。有 萬葉集卷第十一日、櫻椒乃、苧原之下。草、露下。有上 形狀

とは、麻の花はしろき中に、すこしらすすはら色あるあざのある也。 **仙覺萬葉集註釋卷第十一日、さくらあさとは、機いろなるあさのある也。** それを機脈とは云之。今家あさをの といへりの 袖中抄日、さくらあさ

作もしろし、すこしすはう色なるあるを、機あさとは云べきや 中に、さくらの色したるといへるは、しろきを云べきか。

加良無之樣名類

漢名 苧麻

間出。細穗: 花如,白楊,面長、每,一坐,凡十數穗、花青白色、子熟茶褐色、 其根黃白色如,手指麁、 缩根地中至 救荒本草口、学根、简高七八尺、一科十豐麼、葉如,棒葉,而不,花叉、商青背白上有,短毛、又似 蘇子葉、其葉

六四

一名 眞苧 仙覺萬葉集註釋卷第三日、麻眞学などの長木綿、短木綿等也。 是則あをにぎてなるべし。倭名鈔日、苧。和名加良無之 まを

日、本

皆苧の事と。きそのあさぎぬと云も、よき苧にてしたる布と そゆふとは、よきをにてしたるゆふへのまをとも、きそとも云への 加良无之類編 加良牟自

第十七日、內匠寮。 年料革筥廿合、云云料苧四斤九兩、絲料。 馬瑙御腰帶一條、料 苧 小一兩。 轅卉輪、料苧 集註 料所『須学二斤。同卷第十五日、內藏簽。季料、学 云云各大二十斤。同卷延喜式卷第五日、齋宮。造備雜物。苧小二斤二分。同卷第十二日、主鈴。年

厅。同卷第二十四日、主計上。凡中男一人輸作物、云云苧各一斤。常陸國、中男作物、苧。同卷第二十六日、 主稅上。造,革、短甲胄,一具料、苧二兩。諸國織,雜綻,機一具綜料、苧小二斤。同卷第二十八日、隼人司。 大五兩。翳柏形四枚五云亭小五斤。交易雞物、尾物國苧一百十斤。參河國、苧九十斤。遠江國、苧一百卅

日,左京職。凡踐祚大望大稜所入須、苧小九斤。同卷第四十八日、左馬袞。造御鞍一具料、苧、大二兩二分、苧二斤十三兩。同卷第三十八日、掃部琛。織席一枚料、苧十五兩。草墪一枚料、苧八兩云云。同卷第四十二

五一一五 廿日。東大寺作事繩料、苧、可¸充Ξ催諸國御家人¸之由、被¸下□院宜¸之間云云、東大寺苧繩事。 五畿七道、不 歷料。造,走馬鞍一具,料。苧二兩一分二銖、一兩韉料、一兩一分二銖脊經料。神廳抄日、伊賀國多良牟六箇 一兩四銖韉科、一兩二銖脊煙鞍棒料。浩,女鞍一具,料、苧二兩三分。四銖鞍棒料、一兩韉科、一兩二分二銖脊 云檐木、此外苧麻布紙等動、之。 穴太御厨、云云苧、外宮御簪苧菓子。 吾妻鏡卷第十日、 女治六年九月

六四六

>漏二一國、彼此催 被鯛仰 形狀 とかるに、夏のをといび、夏そひくとよみては、かならずうとつどけたり。そ 仙野萬葉集註釋卷第十四日、なつそひくとは、夏の一学也。一学をは、春夏秋

うといふ、つねの事なり。又日、まそむらとは、苧をかりて、ひといだきばかりづく、たばねをきたる也。そ いふなり。叉線をは、根ながらひくなり。古今にも、さくらあさの、をふのした草、とよめり。一学、畠をば、れを縁のおひたるところをば、うといふ故なり。一学をば、かりてのちに、うは皮をとりすつるを、ひくと れをとりはこぶには、おほきなれば、たやすくもえとらで、ふしてかきいだけば、よそへよめるなり。本草

乃跡二月八月探之、根白

類編日

、学根。

和加良无之

以知此本草

淡名 苘麻 草

今名 イチビ

有 薦 極 方 老黑、中子扁黑、狀如 \*\*草淵月日、苗麻。今之白麻也。人亦種、之。葉大如:桐薬、團而有、尖。六七月開,黃花,結、實、如。半豐形, 黄姿子。其整幹虚潔白。北人取、皮作、解、以、茎蘸。硫黄、作。粹燈、引、火

也。先辦二人、伊知比曆市、令養解曰:菓子之属甲弦籬也。〇係名鈔行旅具曰、行纏。本湖式云、膠巾、俗 御禊、前縣左衞門權佐爲房、八華劉代云と、伊知比遣繼。兵範記曰、嘉應元年二月十三日、皇太后宮日吉行啓 連 伊知此 本草旗編 嘉保二四十十御禊 護塩草目、梅質。いちひ。よ草和名曰、楢質。和名以知比。餝抄日、 右衛門權佐些範車、八葉網代、伊知比過繼。永保三四十三

和名以知此、今俗編商為一行總 云、波々岐。 新抄本草云、苗、領井反、

集註

部類記曰、玄云以上薬脛巾、御牛飼褐衣菜脛巾 本草類編日、苗寶。 和伊知比、九十月探齊除干。御幸始 、次下阿

上云云菜照巾 隨身六人云云以 形狀 〇大和本草日、茜麻、倭名コサイバト云 黄ナリ、實へ農家ノ唐日ノ半ノ如シ、変 ノ高五六尺 葉桐ニ似テ花

類聚 國史

漢名

草棉

今名

クサワタ

ン服、官未。行以 所。以、爲。衣渚、絲麻葛獨四者而已。漢唐之世遠夷雖以三木綿、入,實中國生未少有。其,種、民未。有。以。爲 名物放日、自、古中國有鍵之征惟絲桑二者而已、未、有"木綿"也。中國之有"其在"宋元之世"乎、自、古中國 「無記訓· 宋元之間始傳」其 種一人二中國 一國陝閩廣首 得一头 利。 盖此 /物來」自:外夷、閩

布皆分解、爲之之。祀。曰《治》其、棉絲。以爲。布帛,是也。木棉作之布、邱文莊、體元之時始。入心中國、而張七澤 種乃徧布三天下、共利視上絲枲」盖百倍焉。陔餘叢岩"曰、木棉"布"行"於宋 末元、初二、古時未入有"棉布"、凡, 廣海通。射雨、關陝攘三接。。西域一故也。然,是一時猶未心以爲。征賦、故。宋元史食貨志皆不ゝ職、至三我朝。其

熟。時一共皮四裂。,中。。從出如綿、二人以:鐵鎧。確。去:其、核。、取、棉以:小竹弓:彈、之、細。卷、爲:筒、、就 灣梧鄉佩引並鑑。梁武帝送。本品皂態一事4據一史炤釋文一、本棉以二二三月,下2種、至2夏生之實化7結、實、及7

4 >車"紡べ之自然抽、緒織以為布、謂可此 已有此 一布·矣。說者語漢書註盖康日、閩人以《棉花"爲·吉貝、而正字通及通雅俱"云、吉貝木棉樹也 物也 按史照釋文所之云正是。 今相花川、織之布、 則梁武

0 白豆、桂布、青藍桂管。所、出也。孫光靈。南越詩。、曉厨。烹意淡菜、春杼織釐花蔻棉亦。名。李琮。詩、、腥味魚吞此,物吾無之所。用。白樂天布裘詩云、桂布白。似、雪。又以「布裘、贈言驚殷二協,律詩云、吳綿細軟桂布白。 代、時已"有」之矣。其見以於記傳一者、南史"姚察有"門生送。南布一端了,察曰、吾所以衣,以者、止是。麻布、 樹也。但其化祇可以絮了两橋一、而不」可以織。布 具樹之化所、成、係。木本二而非。草本一、今奧中木棉樹其、花正紅、及"落、時,則白'如。麓毳、正南史所」云音具 棉,宋史崔與之傳瓊州以『吉貝『繼爲』衣衾,工作出、自,婦人,皆此物也。然則棉花布自、古有、之、何。以,邱文 ∠器衣"栽" 木上 棉。 東坡 "詩、東來,賈客木棉 裘、以 "及",五代史 "馬希範"作 "地衣春夏用,角蟹、 秋冬用,木 之技、故"註解益詳、"。以」此推」之、則梁武木棉皂帳即"是草木之棉"、所";成、而非..木棉樹,也。 更"進而推 書」時上、已一知「為爲一」。草木、故"不」日、木、而日、草耳。史炤、北宋、人、又在二子京之後、「丼智"知言其倔彈紡織 土一不。知。其、爲言。木本草本、以。南方。有一。木棉樹、淺。萬。其。即。此、樹之花。所一、心緩、、迨於宋子京修。唐 吉貝之樹、、即"唐書所謂古貝之草、其、初謂之,木棉、者、蓋以、片別、於醫爾之綿。" 而其,時棉花未入了中 草綠、花作、布、名曰当白氈。。新唐書林邑傳并不》曰:古貝、,而曰:古貝、謂:古貝、者、草也。然則南史。所謂 林邑傳亦云、吉貝者樹名也。其花如:醬霜、抽:其緒:紡之作、布、與:一幹布、不、殊、是六朝以前,木棉布、乃吉 莊謂。元/初始、入三中國一。蓋昔時棉花布惟。交廣有之之、其種其法俱。未之入。中土一類。姚祭。門生 一端、白樂天以、吐送、人丼形、之歌詠、則其"爲、罕、而珍重"。"可、知。 迨言宋之末元初言其種傳。入三江南一、而 『歐、篚、織貝、蔡九峯 計』、今南夷木棉之精好、"者謂」之。"吉貝、則夏之織貝亦、即、今、草棉布、是三三 按南史林邑傳。以二吉具一爲之樹、舊唐書南蠻傳則云、吉具、

吾、知 平均、所以了、木棉利不中中二江東人。據以此。則宋末棉花之利尚在。閱中一、 >祭、蠶事殊、艱辛、木棉收、子株、八口不、馒、貧、江東易、此種、亦可、致。富股、奈何、枣。瘴癘、或者畏。蒼安 布之。利、溪、衣、被天下一耳。謝枋得有。謝、劉純父。惠、木棉、詩、云嘉樹種、木棉、天何。厚、八閩、歐土不、宣 。 聞、隱月如,败郊、兒童皆衣帛、景但添。老親、婦女賤。殚裔、竇絲貨。 金銀、角齒不。兼與、天道斯 而江南無。此種」也。元人陳高

來、數以言紡織了人選大"獲」共利、未了幾道篡卒、乃立、祠祀」之、三十年祠殷、鄉人趙愚軒重立云、九成。元 末 於問置一、初無」踏車推弓之制、一个一个一件上手去一共一子了、線、核 而願地初學、種、之、則其來。「未。人可、知、陶九成 及。時以收斂、采采動為言筐、組治、入。機杼、裁尊、爲。衣裳:禦言塞。類:狹穩、老稚绝。淒凉。陳高、元末、人、 烈日、灑汗成。流漿、培根澆灌頻也、高"者三尺强、鮮鮮-、綠紫茂、、燦燦金英黃、結、實吐。 秋蘭、阪潔如。雪霜 有。種花詩、云炎方有。薛樹、衣狹代、讚桑一、舍西得。閒園、種、之漫、成、行、苗生、初夏時、料理最夕忙、揮鋤向 駿耕錄了記松江鳥泥徑土田礦瘠課食不,給,乃 竟:木棉種 一竹弧 .按掉、而成"其功, 甚艱、有"黃道婆, 自"崖州

又謂、棉花 乃,器使黃始 人、當時所記立、桐始末如、此、益可、見。黃道邊之事、未遠而松江之有。木棉布、實。自、元始也。瑯琊代醉編 高、傳、今廣東人立、嗣祀、之合、諸說。觀、之蓋其種本來。自。外番、先傳。於粤、繼

及於閩、元、初、始、至。江南、而江南文始、於松江、耳。元世祖本紀至元二十六年置 木棉提擧司、貴、民歲、輸。木棉布+萬疋、程鉅夫集、有「送」人、赴 浙東木棉提擧、詩、鉅夫、仕三元、初、而其時 三浙東江東江西湖 置

木棉特 設,專官、則其 初為一人見利可如如文莊所問元時始入,中國,非無稽 也。 明史食貨志、明大

穀部 麻類

集註 灣樂園更卷第百九十九日、延曆十八年秋七月、是。月有二一人、乘·小船一漂·着·参河 覆。背、有。精導一下、著:徐、左、眉、箸。新布、形似、袈裟。。年可三一十、身長、五尺五分、耳、長、三 國心以布

常。雖二一数學了歌聲哀楚多、閱言其資物了有"如是者言語之、綿種古。依其顯一、令是住,用原寺下即寶 隨 寸餘。言語不通。不如,何國人了。大唐人等見。之。、愈曰、崑崙人。。後。頗曆·中國語、自謂·天竺人十。

草子木増え

教、以上了籍之之。以上手。接之之、每旦永濟、常。令之潤澤、、待上生。今芸之。按品字等曰、棉花、種自。張騫 地。沃壤、加之。作以穴。深一寸、紫穴相去。。四尺、乃洗種。潰之之、令〕經二一宿,明且「殖」之,一穴。四 來、量帶入所上等。綿、種、、賜」和併、淡路、阿波、讚岐、伊豫、土左、及太宰府等、諸國一殖之。。其、法先簡:陽 身物。立一层。西鄉、外路邊、令:窮人?依息一焉。後:遷二任。近江國國分等。 延曆十九年夏四月庚辰、以、流

布。觀吐則唐士二章棉ラ種ルモ久シキ事也使,西域「攜米。又專有大樹、結子或綿 亦可作

和名沙 和名沙

漢名 胡麻草

今名ゴマ

期麻 延喜式卷第三十三日、大膳下。七寺盂蘭盆供養料云云、寺別餅漆料、期脈子六升〇延 [1] 喜武中、燗字用两、三十三大膳下三於燍藻二兩。三十九內膳司三於斯五斤上云此也

**普五萬、訛云、宇**古末 後名所聚沙門、胡麻 宇古末 見 宇古萬 天文写本和名鈔日 胡麻 本草類編日、 胡縣。和己末

集註 延喜式卷第五日、鷹宮。正月三節料,胡麻云云各六升。月料、胡麻子云云各三斗。 云胡藏子各二升。凡諸國送納調庸、云云胡麻子一石、已上伊勢。同卷第二十三曰、民部下。交易 新賞

大膳上。 園韓神祭難給料、胡願七升二合。平縣夏祭雜給料、胡願子二斗二升四合。 多加"七升六合。 子四石。 雜物。山城國、胡麻十四石。參河國、胡麻子三石。 胡麻子五石。 丹波國、胡麻子十五石。 阿波國、胡麻子四石。 播獎國、胡麻子三石。 同卷第二十四日、主計上。日向國、中男作物、胡麻子。 遠江國、胡麻子二石。近江國、胡麻子五石。 備前國、胡麻子三石。 備後國、胡麻子二合。紀伊國 同卷第三十二日、 美灣國 松尾神

備供書 料一合、好物料五勺。 答无合。 野國、訓練云云各一斗。 七日、與戀景。諸國進年料雜藥。攝津國、胡麻子四升五合。伊勢國、胡麻子二升。 祭雜給料、胡臟子一斗。 釋錢祭料、胡賦子云 m各二升。 同卷第三十三日、大膳下。 聖神寺李料、云 n 胡膩子 正月修。宣言法、黔、胡麻五斗七升五合。同月修,大元師法、所、料、胡麻一石三升五合。 正月最勝王經濟會供養料、僧別胡麻子三勺。 同卷第三十五日、大炊聚。正月最勝王經濟會、 讃岐國、胡麻子一斗。伊豫國、 仁王經濟會供養料、僧一口 云云胡麻各一斗。同卷第三十九日、內膳司 終日, 胡麻云 云各四 胡麻子一合五勺。 相摸國、胡麻子三斗。上 解 東西寺預 同卷第三十 九月九日 菓物餅 新當祭

**笠松鄉出職胡** 跡。和泉國風土記曰、大鳥郡土生鄉、良材脩竹木綿胡麻等民用多 脈。本條鄉出胡麻々紙。佐原鄉出胡麻。 竹箇鼻質胡 練胡麻 延喜式卷第三十七日 **典藝寮。遣諸番使、草** 

美濃國風土記日、渥美郡出

脈胡麻。

脈類

練胡麻一斗六升 藥九十九種、云 一胡麻油 延喜式、和

今名一ゴマノアブラ

集註

凡譜國送納調府、云云胡跡油三石、遠江。同卷第十七日、內匠姿。轅抖輪料、云云胡麻云云油各三合。牛車 一具、屋形、輪料云云胡麻油云云各四合。 同卷第二十四日、主計上。凡中男一人輸作物、胡願油七合。伊賀

國、中男作物、胡蘇油。伊勢國、中男作物、胡麻油。 尾張國、中男作物、胡麻油。 参河國、中男作物、胡麻油

油。越前國、中男作物、胡麻油。能登國、中男作物、胡蘇油。越中國、中男作物、胡麻油。丹波國、中男作物、 男作物、胡麻油、備發國、中男作物、胡麻油。安藝國、中男作物、胡麻油。周防國、中男作物、胡麻油。長門 朝鹹油。丹後國、中男作物、胡蘇油。但馬國、中男作物、胡蘇油。因幡國、中男作物、胡蘇油。出雲國、中男作 達江國、中男作物、胡麻油。伊豆國、中男作物、胡麻油。近江國、中男作物、胡麻油。美濃國、中男作物、胡麻 但灣國、中男作物、胡麻油。 土佐奧、中男作物、胡麻油。 筑前國、中男作物、胡麻油。 筑後國、中男作物、胡麻 國、中男作物、胡麻油。紀伊奧、中男作物、胡麻油。阿敍國、中男作物、胡麻油。證岐國、中男作物、 物、胡麻油。播磨圆、中男作物、胡麻油。美作國、中男作物、胡麻油。備前國、中男作物、胡麻油。備中國、中 胡麻油。

油。聽後懷、中男作物、胡騫油。聽頭懷、中男作物、胡騫油。聽後國、中男作物、胡騫油。同卷第三十二日、大 關聯神祭雖給料、湖隍油八升二合。平縣夏祭雖於料、胡鹹油二斗二升、冬加。一斗二升。 同卷第三十

三日、大職下。쿃軸寺季料、却產油二合。正月最勝王經鑑育供養料、僧別胡麻油二合五勺。七季盂蘭盆供養 料、崇別胡維油七升。周紫第三十六日、主殿寮。七箇、大毒盂洞瓮料、胡鄉油四斗九升、寺別七升。誘司所請

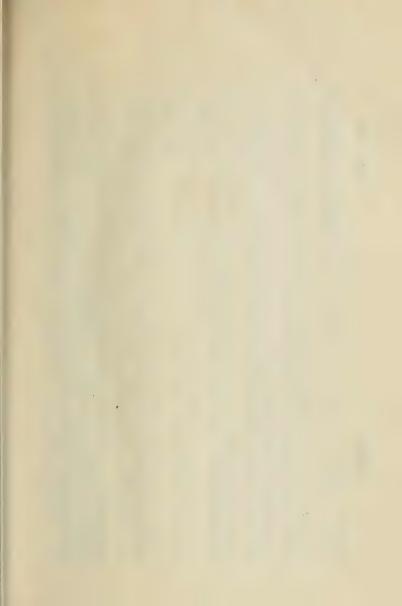
寮胡縣油二斗八升七合。兵庫寮胡縣油六合、五合、修":理甲一百領; 料、一合造"大皷,太刀、其伊勢神宮祭鞍 年料、與藥室胡麻油四升一合、煎、供御、地黃了料。大脏驗胡麻油一升二合、供御抖中宮、御索餅糖、料。內藏

餘、充"雞油,凡量"収謀國進中男作物雜油、中男一人"胡麻油七合。十二月晦夜供-零。"內裏幷大極嚴豐樂料。木工寮、胡麻油一升一合。左右馬嵾、季料胡麻油三斗二升、窒別一斗六升。凡供御料"用"胡麻油、自 日、凡二季大稜績刀八口、其料玄云胡麻油一合、洗刷、料。塵添壒囊抄日、若シ以ど油。常二食シ、身ニ蘪ズレ殿武德殿:儺料等、雜物、胡麻油四斗。同卷第三十九日、內脏司。供御月料、胡麻油一斗五升。同卷第四十九

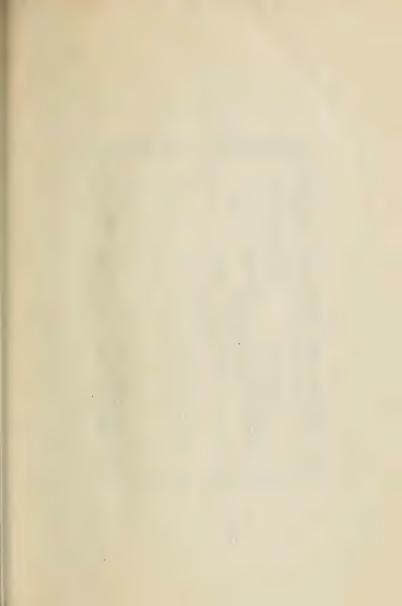
京用語願油

古名錄製部卷第四十七 終

穀部 脈類

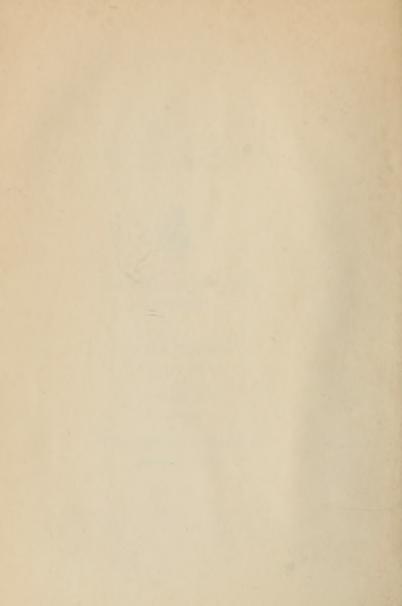
















## UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

## WILLIAM H. DONNER COLLECTION

purchased from a gift by

THE DONNER CANADIAN FOUNDATION

